

年報の発刊にあたって

平成30年度は、独立行政法人国立文化財機構の第4期5ヵ年中期計画（2016～2020年度）の中間年度にあたります。今期中期計画では、東京文化財研究所の社会的使命として、①我が国の文化財研究を、有形・無形文化財等を対象に、基礎的なものから先端的、実践的なものまで総合的にを行い、その成果を国内外に発信して、我が国の文化財研究の拠点としての役割を果たす。②文化財担当者の研修、地方公共団体への専門的な助言を行い文化財保護に貢献する。③保存科学・修復技術に関する我が国の中核としての役割を果たす。④世界の文化遺産保護に関する国際的な研究交流、保護事業への協力、専門家の養成、情報の収集と活用等を実施し、文化遺産保護における国際協力の拠点としての役割を担う、ことと定めています。

この使命を全うするため、当研究所に置かれた4研究部門のうち、文化財情報資料部では美術工芸品等に関する基礎的な研究業務に加え、有形・無形の文化財に関する様々な情報の収集と発信に関する調査研究に力点を置いて業務を推進しています。無形文化遺産部では、従来の伝統的な音楽や演劇、芸能、工芸技術といった無形文化財や民俗芸能、風俗・慣習等に加え、民俗技術などの無形民俗文化財の調査研究を進めるとともに、音声・映像による記録を作成し、文化財の保存に必要な用具や資材の生産技術等についても調査研究を進めています。また、保存科学研究センターでは、文化財の保存に関する科学的な調査研究、修復のための材料・技術に関する実践的な基礎研究を行うとともに、国立文化財機構における保存修復業務に関する一体的な研究環境の構築を推進しています。さらに、文化遺産国際協力センターでは、アジア諸国等からの要請に基づいて文化財専門家養成や保存修復に関する技術移転等、相手国の実情に応じた共同研究や研修事業を行うなど

文化の力による国際貢献に力を注いでいます。おかげ様で各部門の研究業務が順調に進展しているといえます。

さて、東日本大震災から早くも8年、熊本地震から3年が経ちました。平成26年度から国立文化財機構本部が中心となって開始した文化財防災ネットワークの構築のための検討が続いています。当研究所といたしましては近年の自然災害等の教訓を活かすべく、これまでの救援活動を分析し被災文化財の救援に関する技術や知識などの情報を取りまとめるとともに、無形文化遺産も含めて予防や減災の観点も取り入れた文化財の保存方法に関する研究も進めています。

ところで、世界各国から要請も強い国際的な文化遺産保護支援に関する調査研究活動を行うにあたっては、国内の関係機関や関連分野の専門家との協力体制を充実・発展させることが肝要です。その意味で、「文化遺産国際協力コンソーシアム」(平成18年創設)の存在は大きく、その活動がさらに広まることが囑望されており、事務局運営を任されている当研究所としてもその活動に積極的に関わっていきたいと考えています。

今後とも、より効率的かつ効果的な組織運営を心がけながら、当研究所が文化財保護に関する総合的な調査研究の拠点施設としてさらに発展するよう努力してまいりますので、皆様の御支援、御協力をお願い致します。

2019(令和元)年6月

独立行政法人国立文化財機構
東京文化財研究所
所長 齊藤孝正

1. 機構 5

1. 組織図	7
2. 組織の概要と職員	8
(1) 研究支援推進部	8
(2) 文化財情報資料部	9
(3) 無形文化遺産部	10
(4) 保存科学研究センター	11
(5) 文化遺産国際協力センター	13
(6) 特任研究員	13

2. 年度計画及びプロジェクト報告 15

1. 年度計画(平成30年度)とプロジェクトとの対応	17
2. プロジェクト報告	32
① 有形・無形の文化財に関する調査研究事業	35
② 保存修復に関する調査研究事業	41
③ 国際協力・交流等に関する事業	48
④ 情報収集・成果公開に関する事業	53
⑤ 刊行物に関する事業	63
⑥ 指導助言・研修等に関する事業	68

3. 外部資金等による研究活動 73

1. 科学研究費助成事業	75
2. 受託調査研究・外部機関との共同研究及び外部資金による研究	103
3. その他の調査研究	124
4. 成果公開	126

4. 個人の研究業績 133

5. 研究交流 165

1. 職員の海外渡航	167
2. 招へい研究員等	171
3. 海外研究者等の来訪	174
4. 主要来訪者、施設見学	175

6. 資料 177

1. 主な所蔵資料	179
1. 図書資料	179
2. その他	180
2. 研究所関係資料	181
1. 設立の経緯	181
2. 年代別重要事項	181
3. 歴代所長(昭和5年～平成30年度)	184
4. 名誉研究員	185
5. 平成30年度予算等	186
3. 東京文化財研究所関係事業索引	191

1. 機 構

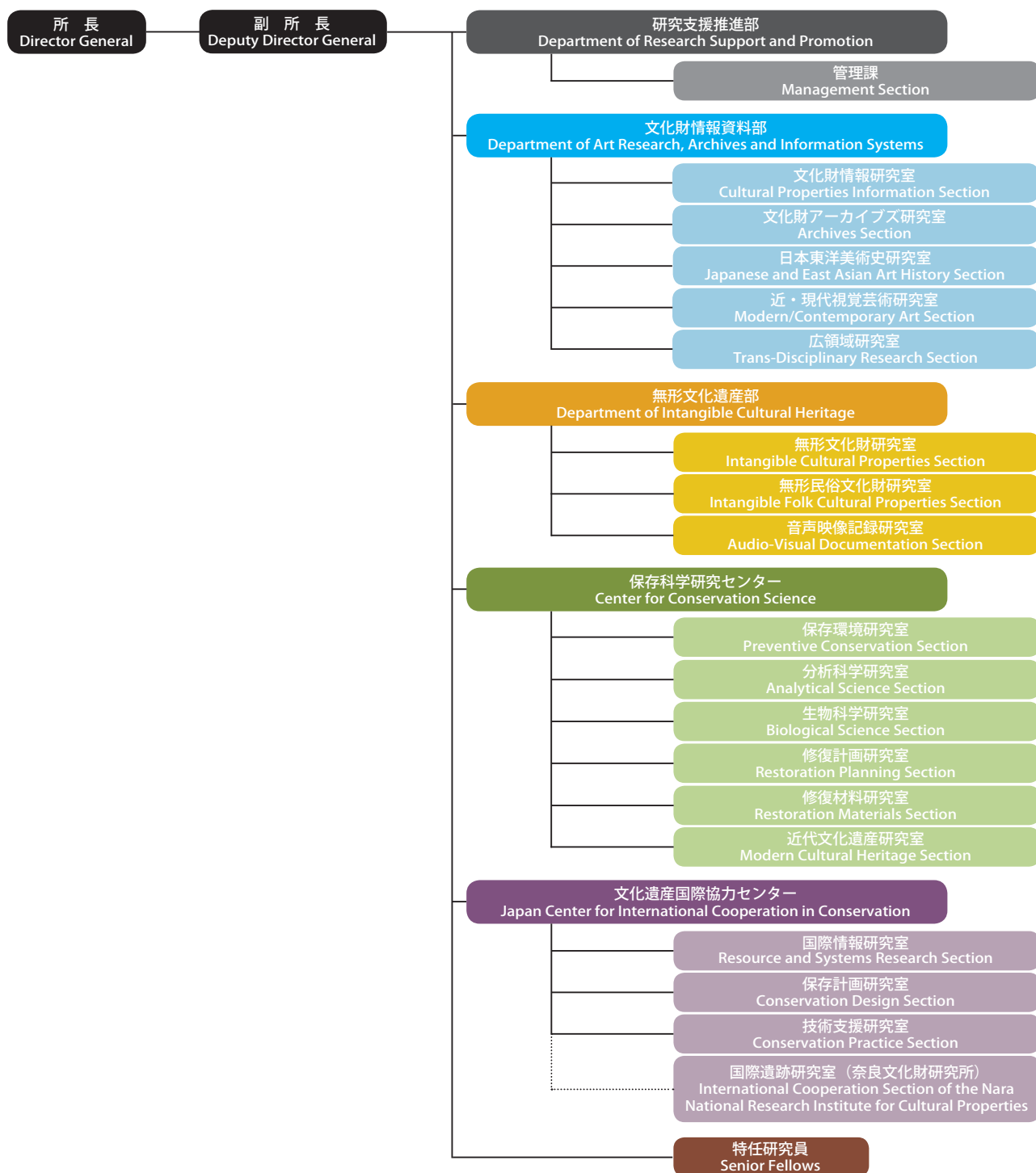
1. 組織図	7
2. 組織の概要と職員	8
(1) 研究支援推進部	8
(2) 文化財情報資料部	9
(3) 無形文化遺産部	10
(4) 保存科学研究センター	11
(5) 文化遺産国際協力センター	13
(6) 特任研究員	13

1. 組 織 図

独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所

Independent Administrative Institution National Institutes for Cultural Heritage

Tokyo National Research Institute for Cultural Properties



2. 組織の概要と職員

所長 亀井 伸雄（建築史）^{*1}、所長 齊藤 孝正（日本陶磁史）^{*2}、所長事務代理 山梨 絵美子（日本近代絵画史）^{*3}、
副所長 山梨 絵美子

* 1 平成 30 年 7 月 17 日逝去
* 2 平成 31 年 1 月 1 日付採用

* 3 平成 30 年 7 月 18 日付任命、平成 31 年 1 月 1 日付免除

（1）研究支援推進部

〈組織概要〉

研究支援推進部は、東京文化財研究所の事務部門として、管理課に総務係、企画渉外係、財務係、契約係を置き、総務、人事、他機関との渉外、国際交流、財務管理、会計、施設管理等の業務を通じ研究支援を行っている。

本年度も継続して、各係内の担当業務の整理を行うなど合理化を検討・実施し、各研究部門との連携を深め、研究所の円滑な運営に努めた。

総務係

東京文化財研究所における業務方法書の変更、中期計画及び年度計画の取りまとめ、事業年度の業務実績についての評価委員会の評価に関する事務を行っている。また、情報公開に関する事務、秘書業務に関する事務、文書の授受・発送に関する事務、文化庁等の他機関、法人本部及び各施設ならびに所内の連絡調整に関する事務、人事管理に関する事務（アソシエイトフェロー、有期雇用職員、客員研究員、調査・研究アシスタントの任免に関する事務を含む）、共済組合に関する事務、栄典及び叙勲に関する事務等を行っている。

企画渉外係

海外渡航に関する事務、研修及び国際研究集会等の実施に関する事務、国際交流等に係る政府機関及び関係団体との連絡調整に関する事務等を行っている。また、外部資金に関する事務、在外日本古美術品修復協力事業に関する事務、寄付金の受入、研究所視察及び見学の受入と対応、所蔵の写真、出版物等の使用許可に関する事務、規程の制定・改廃に関する事務等を行っている。

財務係

財務諸表の作成に関する事務、決算報告書の作成に関する事務、監事及び会計監査人の監査に関する事務、予算・決算に関する事務、資金管理及び出納に関する事務等を行っている。

契約係

物品及び役務の調達、契約の執行に関する事務、給与計算及び給与の支払いに関する事務、諸謝金及び旅費の執行に関する事務、物品、建物及び設備等の管理に関する事務等を行っている。

研究支援推進部長	外間尹隆	*1	事務補佐員	石川絵梨子
管理課長	安達佳弘	*2	財務係長	日高信二
室長	日高信二		事務補佐員	前田桐里
総務係長	安川政和		事務補佐員	町田沙織
事務補佐員	滝口麻理	*3	契約係長	大島大輔
事務補佐員	勝田こと		事務補佐員	小河みづほ
事務補佐員	並木沙保里		事務補佐員	木村諒子
事務補佐員	佐々木彩乃		事務補佐員	安藤 遥
事務補佐員	平井奈津子	*4	事務補佐員	坂田茉莉衣
事務補佐員	角谷 瞳	*5	事務補佐員	岡崎未来
企画渉外係長	三本松俊徳	*6	事務補佐員	福田里美
任期付専門職員	小田切真梨		事務補佐員	三宅真保

* 1 平成 31 年 3 月 31 日付退職
* 2 平成 30 年 4 月 1 日付筑波大学より異動
* 3 平成 30 年 6 月 15 日付退職
* 4 平成 30 年 8 月 1 日付採用、平成 30 年 8 月 31 日付退職

* 5 平成 30 年 11 月 1 日付採用、平成 31 年 3 月 31 日退職
* 6 平成 30 年 4 月 1 日付京都国立博物館より配置換
* 7 平成 30 年 11 月 1 日付採用

(2) 文化財情報資料部

〈組織概要〉

文化財情報資料部は、文化財に関する調査研究を実施するとともに、調査研究の成果・情報についてのアーカイブ化を進め、適したインフラストラクチャを整備し、研究の成果・情報の適宜公開を行う。また国内外の研究機関との研究交流を実施する。調査研究においては、1) 黒田清輝(1866-1924)の遺言により造られた黒田記念館に設置された美術研究所以来の黒田周辺の作家等との交流を中心とした近現代作品の研究を進めるとともに、2) 日本及び東アジアの美術に関する調査研究を行い、美術史研究に資する高質な資料や情報を作成・提供する。また、3) 時代や地域などにとらわれない横断的な広領域にわたるテーマを設定し、人文学のほか、自然科学的研究手法の応用を進め、多角的な視点から研究を進める。あわせて、黒田記念館における作品と研究成果の展示について当部が担当する。4) 研究情報のアーカイブ化においては、文献資料、過去の調査記録等のデジタル化を推進し、研究のための閲覧促進を目的とする画像データベースを作成・運用する。画像資料にとどまらず文献資料及び研究情報を付加した文化財の専門的アーカイブを構築する。5) 研究成果の公開の一環として、『美術研究』(年3冊)、『日本美術年鑑』(年1冊)ほかの公刊、オープンレクチャーを開催する。所内各部門の研究情報の共有化のために総合研究会を企画・開催し、各年度の研究や事業を総括した年報編集の事務を取り扱う。6) 研究情報発信のため、所内広報委員会の情報システム部会ならびにアーカイブ委員会下にあるアーカイブズ・ワーキンググループ協議会を運用・管理し、ウェブサイト及び外部公開データベースの充実を図る。さらに、資料閲覧室で架蔵図書等の諸資料の公開閲覧を担う。

文化財情報研究室

情報システムセキュリティの確保に留意しつつ、調査研究及びウェブを活用した成果公開のための情報基盤の整備を行うとともに、文化財情報データベースを拡充する。また、ウェブサイトの構築・運用を通じて研究成果公開を行う。さらに、文化財情報及び情報技術の文化財保護への活用について研究を行う。

画像情報室：光学理論やデジタル技術を応用した最先端の画像形成技術を開発・駆使し、視覚的な研究情報を提示する。

文化財アーカイブズ研究室

文化財に関する画像や図書等の情報・資料を収集・整理し、文化財情報統合アーカイブを作成し、全所的にとりまとめて公開する。

資料閲覧室：受け入れた文化財関連の図書や定期刊行物、展覧会カタログ、写真資料などを整理し、月・水・金曜日に一般の利用者に公開するほか、各種の書誌や研究情報のデータベースを作成する。また、所蔵資料のデジタル化と目録作成を進め、提供する。

日本東洋美術史研究室

江戸時代までの日本と東アジアの美術を研究する。また、美術の価値形成の多様性を解明するため、美術史研究のための資料学的な基盤を整備する。

近・現代視覚芸術研究室

明治以降の日本美術を研究する。近現代美術に関わる研究資料を収集・整理し、研究手法を開発するとともに、現代美術の動向を調査・研究する。

広領域研究室

美術のジャンルや時代、地域を横断する課題に取り組み、文化財に関わる諸分野と連携して、広い視野から文化財を研究し、その材料・技法・制作過程等を明らかにする。

文化財情報資料部長	山梨絵美子 (日本近代絵画史) *1
文化財情報研究室長	二神葉子 (考古科学)
文化財アーカイブズ研究室長	江村知子 (日本絵画史)
日本東洋美術史研究室長	小林達朗 (日本中世絵画史)
近・現代視覚芸術研究室長	塩谷 純 (日本近代絵画史)
広領域研究室長	小林公治 (物質文化史)
主任研究員	小野真由美 (日本近世絵画史)

研究補佐員	増田政史 (日本彫刻史) *6
研究補佐員	逢坂裕紀子 (都市社会学)
研究補佐員	安岡みのり (ウェブ作成)
研究補佐員	丸山 礼 (ウェブ作成)
研究補佐員	尾野田純衣 (美術資料) *8
客員研究員	三上 豊 (近現代美術)
客員研究員	丸川雄三 (情報学)

研 究 員	安永拓世	(日本近世絵画史)	客員研究員	中野照男	(東洋絵画史)
研 究 員	橘川英規	(美術資料)	客員研究員	近松鴻二	(近代史料) *9
研 究 員	小山田智寛	(美学・情報学)	客員研究員	片山まび	(東洋陶磁史)
研 究 員	米沢 玲	(仏教美術史) *2	客員研究員	田中 淳	(日本近代絵画史)
専 門 職 員	城野誠治	(画像情報・文化財写真)	客員研究員	齋藤達也	(フランス近代美術)
アソシエイトフェロー	田所 泰	(日本近代美術史) *3	客員研究員	永崎研宣	(人文情報学・仏教学)
アソシエイトフェロー	三島大暉	(図書館情報学)	客員研究員	津田徹英	(日本彫刻史) *10
アソシエイトフェロー	野城今日子	(日本近現代彫刻史) *4	客員研究員	田所 泰	(日本近代美術史) *11
研究補佐員	田中 潤	(近代美術史料) *5	兼務	久保田裕道	(無形文化遺産部)
研究補佐員	阿部朋絵	(美術資料) *6	兼務	吉田直人	(保存科学研究センター) *12
研究補佐員	細川民子	(美術資料)	兼務	加藤雅人	(文化遺産国際協力センター) *13
研究補佐員	谷口每子	(画像形成)	兼務	西 和彦	(文化遺産国際協力センター) *14
研究補佐員	大前美由希	(現代美術) *7	兼務	早川典子	(保存科学研究センター) *15
研究補佐員	寺崎直子	(日本絵画史)	併任	皿井 舞	(東京国立博物館)

* 1 平成 30 年 4 月 1 日付兼務
 * 2 平成 30 年 7 月 1 日付採用
 * 3 平成 30 年 11 月 30 日付退職
 * 4 平成 30 年 11 月 1 日付採用
 * 5 平成 30 年 7 月 31 日付退職
 * 6 平成 31 年 3 月 31 日付退職
 * 7 平成 30 年 9 月 30 日付退職
 * 8 平成 30 年 10 月 11 日付採用

* 9 平成 30 年 6 月 30 日付退職
 * 10 平成 30 年 4 月 1 日付採用
 * 11 平成 30 年 12 月 1 日付採用
 * 12 平成 30 年 7 月 1 日付兼務免除
 * 13 平成 30 年 5 月 1 日付兼務免除
 * 14 平成 30 年 5 月 1 日付兼務
 * 15 平成 30 年 7 月 1 日付兼務

(3) 無形文化遺産部

〈組織概要〉

無形文化遺産部は、無形文化財（伝統的工芸技術、古典芸能）、無形民俗文化財（風俗慣習、民俗芸能、民俗技術）及び文化財保存技術という、日本における無形文化遺産の全体を対象として、その保存継承に資する基礎的な調査研究を実施している。内容は多岐にわたっており、保護対象の確定や適切な保護手法の確立のためには、無形文化遺産を構成する諸要素の専門的な調査・研究が重要である。また、人によって伝承されるために、年代や社会情勢の変化に伴って変容する要素も大きい。このため、文献的研究の蓄積に加えて、伝承の実態に即した調査研究を実施している。

重要な保護手法である音声・映像による記録については、その作成の実施とともに新たな手法開発についての研究を行っている。無形文化遺産保護にとって、音声・映像記録は、記録保存的役割はもちろんのこと、その伝承ツールとしても重要な意味を持つ。このため、無形文化遺産部では、他機関では行うことのできない希少演目等の記録保存事業を実施すると同時に、既存の記録活用のために、デジタルアーカイブ構築に向けての研究を行っている。

このほかに、無形文化遺産分野についてアジアを中心に海外との研究交流も実施している。

無形文化財研究室

古典芸能、伝統的工芸技術などの無形文化財、及び文化財保存技術について、伝承実態の調査や技法技術の変遷の研究など、その保護に資するための基礎的調査研究を行っている。

無形民俗文化財研究室

風俗慣習、民俗芸能、及び民俗技術などの無形民俗文化財について、その保護に資するための基礎的調査研究を、現在における伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等の実地調査に基づいて行っている。また、映像記録作成、公開事業等、現実的な問題について全国の関係者との協議を実施し、その対策の検討も行っている。

音声・映像記録研究室

無形文化遺産に関する記録のアーカイブ化、記録作成手法について研究を行っている。また無形文化財、無形民俗文化財の現状を把握し、後世へ継承するために、それらの音声・映像記録を作成している。

無形文化遺産部長	飯島 満	(古典芸能) *1	客員研究員	原田一敏	(工芸技術)
無形文化財研究室長	前原恵美	(古典芸能)	客員研究員	荒川正明	(工芸技術)
無形民俗文化財研究室長	久保田裕道	(民俗芸能)	客員研究員	俵木 悟	(民俗芸能)
音声映像記録研究室長	石村 智	(文化遺産学)	客員研究員	松山直子	(工芸技術)
主任研究員	菊池理予	(工芸技術)	客員研究員	今岡謙太郎	(古典芸能)
主任研究員	今石みぎわ	(民俗学)	客員研究員	永井美和子	(修復技術)
		(文化財防災ネットワーク推進事業)	客員研究員	大西秀紀	(古典芸能)
アソシエイトフェロー	佐野真規	(映像アーカイブ) *2	客員研究員	鎌田紗弓	(古典芸能)
研究補佐員	半戸 文	(近代史)	客員研究員	菊池健策	(民俗学)
研究補佐員	牛村仁美	(工芸技術) *2	客員研究員	宮澤京子	(文化財映像学)
研究補佐員	金 昭賢	(古典芸能) *3	客員研究員	森下愛子	(工芸技術)
客員研究員	星野厚子	(古典芸能)	客員研究員	宮田繁幸	(民俗芸能)
客員研究員	齊藤裕嗣	(古典芸能・民俗芸能)	客員研究員	神野知恵	(民俗芸能)
客員研究員	山崎 剛	(工芸技術)	客員研究員	赤井紀美	(近代演劇) *2
客員研究員	谷垣内和子	(古典芸能) *2	客員研究員	橋本かおる	(古典芸能) *4
客員研究員	伊藤 純	(民俗学) *2			

* 1 平成 31 年 3 月 31 日付退職

* 2 平成 30 年 4 月 1 日付採用

* 3 平成 30 年 10 月 9 日付採用

* 4 平成 30 年 11 月 1 日付採用

(4) 保存科学研究センター

〈組織概要〉

保存科学研究センターは、文化財の保存科学・修復技術に関する調査・研究を行うナショナルセンターとしての役割を担っている。科学的な方法を用いて、文化財を取り巻く環境の調査や文化財の材料及び構造に関する調査を行い、文化財の保存や理解に役立つ知見の集積・発信を行っている。また、文化財の置かれた環境履歴を調査し、適切な修復材料・技術の改良・開発、評価及びメンテナンス手法に関する研究を行っている。得られた研究成果は紀要『保存科学』を通じて、すみやかに公開している（ウェブにてフリーアクセスコンテンツ）。これらの知見をもとに、「文化財の虫菌害に関する調査・助言」「文化財の材質・構造に関する調査・助言」「美術館・博物館等の環境調査と援助・助言」「文化財の修復及び整備に関する調査・研究」の4項目について、地方公共団体に対して協力を行い、地域の文化財保護の質的向上に寄与している。また、国立文化財機構内の2研究所・4博物館の保存修復担当の研究員を保存科学研究センターの併任とし、文化財の構造・材質調査や文化財の保存管理上の課題解決等について、相互に連携して、随時取り組む体制を構築している。

保存環境研究室

博物館・美術館など展示・収蔵施設における文化財の安全な保存環境の確立のため、温度湿度、光、空気汚染物質などが文化財に与える影響を調べ、劣化を予防する研究を行っている。劣化因子の測定方法の基準化を図るとともに、各施設の担当者と連携し、現場での環境モニタリングや、改善のための実証研究も行っている。LED・有機ELなどの新しい光源の展示・収蔵環境に及ぼす影響や照明効果などに関する研究に重点を置いている。

分析科学研究室

様々な科学的分析手法によって文化財の構造・材質を調査し、劣化状態を含む文化財の物理的・化学的な特徴を明らかにする研究を行っている。X線や光を使った非破壊的な手法を中心に、各種小型可搬型機器を用いた調査方法の開発とその応用によって、文化財の構造・制作技法のみならず美術史・工芸史・考古学等との連携により制作年代・生産地研究などへ視野を拡げ、文化財の総合研究を実現、牽引している。

生物科学研究室

昆虫やカビなど、生物による文化財の劣化機構の解明とその防除方法に関する調査研究を行っている。博物館や美術館などの展示・収蔵環境にある文化財、歴史的建造物や古墳などの屋外にある文化財の生物が原

因となる劣化現象の発生原因と解決方法について調査研究を行うとともに、生物が発生・繁殖することによる観覧者や作業員などの人体への影響も視野に入れた対策の開発に力を入れている。

修復計画研究室

文化財の持つ本質的な価値をできるだけ改変することなく次の世代へと伝えていくために、その文化財を構成する材料の特性を確認し、それが置かれている環境を調査し、適切な修復と保存の方針を策定していくための研究を行っている。

修復材料研究室

膠や漆などの伝統的材料、近代になり開発され使用されてきたものなど、従来文化財修復に使用されてきた修復材料の評価と改良を行うとともに、新しい修復材料の開発評価、及び修復への適用方法の検討を行っている。併せて、安全な文化財修復を実現するために、文化財の伝統的制作技法や材料製作に関する調査研究を行っている。

近代文化遺産研究室

工場・橋梁などの大型構造物、航空機、鉄道車両などの機械器具、フィルムや洋紙などの工業製品など、日本の近代化を担ってきた文化遺産に関して、保存修復のための情報収集、技術・材料の調査及び開発を行い、次世代に適切に伝えていくための保存手法・保存計画のあり方等を研究している。

保存科学研究センター長	佐野千絵	(保存環境学)	客員研究員	石崎武志	(保存科学)*6
保存科学研究センター副センター長	早川泰弘	(分析化学)	客員研究員	大場詩野子	(油画修復)
保存環境研究室長	吉田直人	(分光分析学)*1	客員研究員	吉澤 望	(建築環境工学)
	佐野千絵	(保存環境学)*2	客員研究員	山内泰樹	(視覚情報処理)
分析科学研究室長	犬塚将英	(物理計測)	客員研究員	山本記子	(装填修理技術)
生物科学研究室長	佐藤嘉則	(微生物生態学)	客員研究員	貴田啓子	(保存科学)
修復計画研究室長	朽津信明	(地質学)	客員研究員	岡田 健	(文化財学)
修復材料研究室長	早川典子	(高分子化学)	客員研究員	古田嶋智子	(保存科学)
近代文化遺産研究室長	北河大次郎	(土木史)*3	客員研究員	片山葉子	(環境微生物学)*5
研 究 員	倉島玲央	(有機化学)	客員研究員	宇高健太郎	(東洋絵画材料)*5
アソシエイトフェロー	石田真弥	(建築史)	客員研究員	苅田重賀	(航空史)*5
アソシエイトフェロー	小峰幸夫	(応用昆虫学)	客員研究員	簡 佑丞	(土木史)*5
アソシエイトフェロー	嶋原由美	(油彩画保存修復)	連携併任	富坂 賢	(東京国立博物館)
アソシエイトフェロー	藤井佑果	(東洋絵画修復)	連携併任	荒木臣紀	(東京国立博物館)
		(文化財防災ネットワーク推進事業)	連携併任	和田 浩	(東京国立博物館)
アソシエイトフェロー	内田優花	(保存科学)*4	連携併任	土屋裕子	(東京国立博物館)*6
		(文化財防災ネットワーク推進事業)	連携併任	瀬谷 愛	(東京国立博物館)
アソシエイトフェロー	林 美木子	(保存科学)*5	連携併任	横山 梓	(東京国立博物館)
研究補佐員	石井恭子	(保存修復)*6	連携併任	大原嘉豊	(京都国立博物館)
研究補佐員	柳沼由可子	(考古学)	連携併任	福士雄也	(京都国立博物館)
研究補佐員	山府木碧	(漆工品保存修復)	連携併任	降幡順子	(京都国立博物館)
研究補佐員	鳥海秀実	(絵画保存修復)*5	連携併任	鳥越俊行	(奈良国立博物館)
研究補佐員	岡部迪子	(保存科学)*7	連携併任	木川りか	(九州国立博物館)
事務補佐員	小安友利恵	*5	連携併任	志賀智史	(九州国立博物館)
客員研究員	酒井清文	(酵素工学)	連携併任	秋山純子	(九州国立博物館)
客員研究員	藤井義久	(木材科学)	連携併任	高妻洋成	(奈良文化財研究所)
客員研究員	間 渕 創	(保存環境学)*8	連携併任	脇谷草一郎	(奈良文化財研究所)
客員研究員	小堀信幸	(船舶)	連携併任	田村朋美	(奈良文化財研究所)
客員研究員	本多貴之	(高分子分析)	連携併任	松田和貴	(奈良文化財研究所)
客員研究員	堤 一郎	(産業技術史)	連携併任	間 渕 創	(保存環境学)*9
客員研究員	北原博幸	(建築環境学)			

*1 平成30年7月1日付文化財活用センターへ配置換

*2 平成30年7月1日付兼務

*3 平成31年3月31日付退職、文化庁へ異動

*4 平成30年6月30日付退職

*5 平成30年4月1日付採用

*6 平成31年3月31日付退職

*7 平成30年5月1日付採用

*8 平成30年12月31日付退職

*9 平成31年1月1日付併任

(5) 文化遺産国際協力センター

〈組織概要〉

文化遺産国際協力センターは、文化遺産の保存修復及び調査研究の分野においてわが国が国際協力を推進するためのナショナルセンターとしての役割を担っており、国内外の教育研究機関や民間団体等とも連携しながら、世界各地で積極的な協力活動を実施している。その活動内容は、文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信、文化遺産保護国際協力事業の実施、文化遺産の保存修復に関する技術移転・人材育成協力等、多岐にわたっている。

国際情報研究室

国際社会における文化遺産に関する理念や法制度等、文化遺産の保護制度や施策に関して、国際動向や国際協力等の情報を収集・分析している。また、研究協議会等を通じて情報発信している。

保存計画研究室

アジア諸国等の文化遺産の保存・管理・整備・活用に関し、現地政府機関等と協力しながら、調査研究及び計画立案、さらには事業実施にあたっての技術的助言等を行っている。また、紛争や自然災害時における被災文化遺産の救済や復興活動にも協力している。

技術支援研究室

文化遺産の修復手法や材料及び技術に関する調査研究や人材育成への協力など、技術移転を通じて諸外国への支援を行っている。

文化遺産国際協力センター長	中山俊介	(船舶工学) *1	アソシエイトフェロー	五木田まきは	(文化資源学)
国際情報研究室長	西 和彦	(建築学)	アソシエイトフェロー	五嶋千雪	(現代美術) *3
保存計画研究室長	友田正彦	(建築学)	アソシエイトフェロー	浅田なつみ	(建築学) *4
技術支援研究室長	加藤雅人	(製紙科学)	研究補佐員	橋本広美	(保存科学)
研 究 員	前川佳文	(壁画保存修復)	事務補佐員	石田智香子	
研 究 員	安倍雅史	(考古学)	事務補佐員	荒木 晶	*5
アソシエイトフェロー	山田大樹	(地域計画) *2	事務補佐員	杉田菜緒子	*6
アソシエイトフェロー	増渕麻里耶	(考古冶金学、分析化学) *1	客員研究員	石井美恵	(染織修復・染織品保存科学)
アソシエイトフェロー	小田桃子	(東洋絵画保存修復)	客員研究員	大河原典子	(日本画)
アソシエイトフェロー	元 喜載	(東洋絵画保存修復) *1	客員研究員	杉山恵助	(東洋絵画修復)
アソシエイトフェロー	マルティネス アレハンドロ	(建築学)	客員研究員	山田大樹	(地域計画) *7
アソシエイトフェロー	松保小夜子	(文化政策)	兼務	二神葉子	(文化財情報資料部)
アソシエイトフェロー	牧野真理子	(考古学)	兼務	石村 智	(無形文化遺産部)
アソシエイトフェロー	後藤里架	(保存修復)	・国際遺跡研究室(併任)		
アソシエイトフェロー	境野飛鳥	(保護制度)	部長	森本 晋	(奈良文化財研究所) *1
アソシエイトフェロー	間舎裕生	(考古学)	研 究 員	田村朋美	(奈良文化財研究所)

*1 平成31年3月31日付退職

*2 平成30年10月14日付退職

*3 平成30年4月1日付採用

*4 平成30年9月1日付採用

*5 平成31年1月31日付退職

*6 平成30年6月1日付採用、平成30年11月30日付退職

*7 平成30年10月15日付採用

(6) 特任研究員

川野邊渉 (高分子化学)

高桑いづみ (古典芸能)

2. 年度計画及びプロジェクト報告

1. 年度計画(平成30年度)とプロジェクトとの対応	17
2. プロジェクト報告	32
①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	35
②保存修復に関する調査研究事業	41
③国際協力・交流等に関する事業	48
④情報収集・成果公開に関する事業	53
⑤刊行物に関する事業	64
⑥指導助言・研修等に関する事業	68

1. 年度計画(平成30年度)とプロジェクトとの対応

凡 例

- (1) 本項では、「平成30年度独立行政法人国立文化財機構に係る年度計画」から、東京及び奈良文化財研究所に関連する「2. 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施」以下を掲載し、運営費交付金による各プロジェクトとの対応関係を表した。
- (2) 年度計画の各項目に対応するプロジェクトは、項目の文末に示した。なお、プロジェクトの略号については、第2章2. プロジェクト報告 32～33頁を参照されたい。

平成30年度独立行政法人国立文化財機構に係る年度計画

独立行政法人通則法(平成十一年法律第百三十三号)第三十一条の規定により、平成28年3月31日付け27受庁財第3634号で認可を受けた独立行政法人国立文化財機構中期計画に基づき、平成30年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。

I 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信(略)

2. 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究

① 有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究

1) 我が国の美術を中心とする有形文化財等に関する調査研究

ア 国内外の文化財に関する様々な情報について分析し、それらの情報を文化財保護に対して活用するための調査研究を実施する。また、イギリス・セインズベリー日本芸術研究所と研究会を開催する。その他機関との連携も図りつつ、文化財情報の公開・活用のための、より望ましい手法等の研究を行う。 [シ01](#)

イ 近世以前の日本を含む東アジア地域における美術作品を対象として、基礎的な調査研究及び光学調査を進め、研究の基盤となる資料情報の充実を図る。併せて、これにかかる国内外の研究交流を推進する。 [シ02](#)

ウ 近現代美術を対象として日本における展開を軸としつつ、その方向付けに大きく関わった欧米等の動向も視野に入れて分析・考察する。併せて、作家や関係者及び美術館等の諸機関が所蔵する資料の調査を行い、得られた情報を近・現代美術研究の基礎資料として整備する。その事業のひとつとして日本美術家人名データベースの作成を進める。 [シ03](#)

エ 美術作品を中心とする有形文化財についてのより深い理解を得ることを目的として、南蛮漆器等を対象として、その表現・技術・材料について自然科学や伝統技術、また歴史学等の隣接諸分野と連携した多角的調査研究を実施するとともに、新たな研究手法の検討・開発に取り組む。[シ04](#)

2) 建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究

法隆寺古材調査を中心とする古代建築の調査研究を推進する。また、近世・近代を中心とした我が国の文化財建造物の保存・修復・活用に関する基礎データの収集、未指定建造物の調査、歴史的建造物の今後の保存と復原に資するための調査・研究を行い、纏まったものより順次公表を行う。伝統的建造物群及びその保存・活用に関する調査研究を推進し、保存を行っている各自治体等への協力を行う。

3) 歴史資料・書跡資料に関する調査研究

近畿を中心とする古寺社や旧家等が所蔵してきた歴史資料・書跡資料等に関して、原本調査、記録作成を悉皆的に実施するとともに、薬師寺・仁和寺等の資料について公表に向けて整理研究を行う。

【中期目標・計画上の評価指標】

- ・評価軸による具体的な研究成果
- ・(関連指標) 論文等数
- ・(関連指標) 報告書等の刊行数

【評価軸】

- ・我が国の美術工芸品や建造物の価値形成の多様性及び歴史・文化の源流の究明等に寄与しているか。
- ・有形文化財の保存修復等に寄与しているか。

② 無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究

1) 重要無形文化財の保存・活用に関する調査研究等 [△01](#) [△03](#)

無形文化財等の伝承実態に関する基礎的な調査研究及び資料の収集を行うとともに、現状記録を要する対象を精査し、記録作成を実施する。記録作成に関しては、これまで継続してきた講談等の演芸に加え、邦楽分野についても範囲を広げ実施する。

調査研究等に基づく成果の一部については、一般向けの公開講座等を通して公表する。

また、これまでに研究所で収集・保管してきた記録・資料の整理を行い、必要に応じて媒体転換等の措置を講ずる。

2) 重要無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究等 [△02](#)

我が国の風俗慣習、民俗芸能、民俗技術等無形の民俗文化財、及び文化財の保存技術のうち、近年の変容の著しいものを中心に、現在における伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等を明らかにするとともに、各地の保存団体や保護行政担当者等とこれら研究成果及び問題意識の共有化を図る。特に災害下における伝承の復興や、後継者不足等により継承の危機にある伝承を重点的に調査研究の対象とする。

さらに、無形文化遺産の記録やその所在情報を継続的に収集し、その情報の整理・公開に努めるとともにネットワーク構築を図る。

3) 無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集等 [△05](#)

日本と関連の深いアジア諸国等との間において研究員の交流や無形文化遺産関連調査を行う等、無形文化遺産分野における研究交流事業を実施する。ユネスコ無形文化遺産保護条約に関する調査研究を進める。

【中期目標・計画上の評価指標】

- ・評価軸による具体的な研究成果
- ・(関連指標) 論文等数
- ・(関連指標) 報告書等の刊行数

【評価軸】

- ・無形文化財、無形民俗文化財等の伝承・公開に係る基盤の形成に寄与しているか。

③ 記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究

1) 史跡・名勝の保存・活用に関する調査研究

我が国の史跡・名勝に関し、以下の調査研究を行う。

ア 遺跡等の整備に関連する国際的な動向も踏まえた資料の収集・調査・整理等を行う。また、近世等の遺跡の保存・活用に関する研究集会を開催するとともに、過年度開催した研究集会の成果の取りまとめ及び公表を行う。

イ 近世庭園に関する研究集会「庭園の歴史に関する研究（仮称）」を開催する。また、近世庭園調査を行うとともに、庭園に関する基礎資料の収集・整理を進める。

2) 古代日本の都城遺跡に関する調査研究

国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び伝統的建造物に関する基礎的調査研究を行う。

ア 古代都城の解明のため、平城宮跡東院地区及び東区朝堂院地区、平城京跡、東大寺塔院地区、藤原宮大極殿院地区、藤原京跡、及び飛鳥地域等の発掘調査を行う。

イ 出土遺物及び遺構に関する調査、分析、復原的研究を総合的・多角的に行い、調査研究が纏まったものより順次公表する。

ウ 飛鳥時代の壁画古墳について東アジアを主とする古墳、壁画、天文図等の事例との比較研究を行うとともに、東アジアにおける工芸美術史・考古学研究の一環として、寺院出土の金属製遺物を中心とした資料の調査を行う。また、飛鳥時代木造建築遺物の研究として、藤原宮・京跡や飛鳥・藤原地域に所在する寺院の出土部材の研究を行う。

エ アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡及び陶磁器に関する調査研究並びに研究協力について、日本の古代都城及び北魏洛陽城等に関する中国社会科学院考古研究所との共同研究と学術交流の推進、中国の生産遺跡（鞏義市黄冶窯跡・白河窯跡及び生産品）に関する河南省文物考古研究院との共同研究、北票喇嘛洞墓地出土の陶器等の調査・分析を中心とする遼寧省文物考古研究所との共同研究、日韓古代文化の形成と発展過程に関する韓国国立文化財研究所との研究者の発掘現場交流を含む共同研究等を、協定に基づいて行う。また、調査研究が纏まったものより順次公表する。

3) 重要文化的景観等の保存・活用に関する調査研究

文化的景観及びその保護に関する景観の調査及び保護に関する調査研究の成果をまとめる。また、文化的景観の保存・活用に関する研究集会を開催するとともに、前年度に開催した研究集会の成果をまとめ、報告書を刊行する。

4) 全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究

我が国の埋蔵文化財及びその保存・活用に関し、以下の調査研究を行う。

ア 全国の遺跡のうち官衙・古代寺院を中心とした資料収集及び分析に有効な指標や手法についての研究を進め、その成果をデータベース化して順次公開する。

イ 古代官衙・集落遺跡に関する研究集会、古代瓦に関する研究集会を実施し、報告書を刊行する。

5) 水中文化遺産に関する調査研究

国内の水中文化遺産の調査に取り組むとともに、主に海外の水中文化遺産に関する調査研究及び保存活用の事例を調査し、今後の取組に資する。

【中期目標・計画上の評価指標】

- ・評価軸による具体的な研究成果
- ・（関連指標）論文等数
- ・（関連指標）報告書等の刊行数

【評価軸】

- ・記念物の保存・活用に寄与しているか。
- ・古代国家の形成過程や社会生活等の解明に寄与しているか。
- ・文化的景観に関する保存・活用並びに研究の進展に寄与しているか。
- ・埋蔵文化財に関する研究の深化に寄与しているか。

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究

① 文化財の調査手法に関する研究開発の推進

1) デジタル画像の形成方法等の研究開発 シ05

さまざまな光源を用いた高精細デジタル撮影により、文化財が本来有する情報を目的に応じて正確・詳細に視覚化するための調査・研究を行い、その成果を公開する。その一環として、ガラス乾板等の過去に撮影された写真原版からの画像の取得手法に関する調査研究を行う。

2) 埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発

埋蔵文化財の調査における新たな手法の開発・導入と応用に関する研究を行う。特に、情報取得手段としての遺跡探査、地質の検証、遺構・遺物の計測についての手法及び資料の製作技法や形態に基づく資料分析、一般にむけてのAR・VR、ゲーム等の利用を含めた成果を活用する方法について研究を進める。

3) 年輪年代学を応用した文化財の科学的分析方法の研究開発

出土遺物、建造物、美術工芸品等の木造文化財の年輪年代調査を実施し、考古学、建築史学、美術史学、歴史学等の研究に資するとともに、年輪データの蓄積を進める。また、マイクロフォーカスX線CTを用いた非破壊調査手法の活用や、年輪年代学的手法による同一材推定の応用等、分析方法の研究開発を進め、これらの研究成果を公表する。

4) 動植物遺存体の分析方法の研究開発

平城宮跡・藤原宮跡等から出土する動植物遺体の調査を実施して古環境や動植物資源利用の歴史を明らかにするとともに、多様な調査手法について基礎的な研究を行う。また、環境考古学研究の基礎となる現生標本を継続的に収集して、公開する。

【中期目標・計画上の評価指標】

- ・評価軸による具体的な研究成果
- ・(関連指標) 論文等数
- ・(関連指標) 報告書等の刊行数

【評価軸】

- ・科学技術を的確に応用し、文化財の保存・修復の調査手法の正確性、効率性等の向上に寄与しているか。

② 文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究

1) 生物被害の予防と対策に関する調査研究 ホ01

歴史的建造物、古墳環境等生物制御が困難な空間にある文化財を対象として、簡易・迅速な生物モニタリング手法を用いた実践的な応用研究を展開するとともに、虫菌害被害を受けた文化財に対する環境低負荷型の防除方法や生物被害痕跡のクリーニング技術の普及に向けた課題を整理する。

2) 文化財の保存環境と維持管理に関する調査研究 ホ02

白色LED照明下における展示物の視認性の特徴について科学的検証を進め、また温湿度環境への影響について調査を行う。さらに、展示ケース内汚染物質軽減方法の検討と清浄化マニュアルの普及を行う。

3) 可搬型分析機器を用いた文化財の材質・構造、及び保存状態に関する調査研究 ホ03

複数の可搬型機器を活用して、絵画・工芸品・建造物等に関する高精度な材質・構造・状態調査を行う。新規導入の高精度蛍光X線分析装置の立ち上げとその場分析への適用を行う。これまでに調査した絵画作品の調査報告書を刊行する。

4) 屋外文化財の劣化対策に関する調査研究 ホ04

屋外に所在する石造・木質文化財及び自然史資料を対象に、覆屋の機能・遺構の露出展示に関する課題として、周辺環境等の劣化要因の究明及び修復材料・技術に関する研究を行う。

5) 文化財の修復技法及び修復材料に関する調査研究 ホ05

美術工芸品及び建造物等の修復においてこれまでに使用されてきた伝統材料及び今後使用が想定さ

れる新しい修復材料について、調査研究と評価を行う。29年度までの成果を活かし、絹やセルロース等繊維を使用した文化財の保存修復方法の検討を行う。また、文化財クリーニング方法についても29年度までの成果をもとに、現場での処置方法を開発する。

6) 考古遺物の保存処理法に関する調査研究

種々の材料調査分析法を総合的に活用して出土遺物の材質、構造及び劣化状態に関する診断調査を行い、保存処理法の開発に資する基礎的なデータを収集する。特に、鉄製遺物の効果的な新規の脱塩法を確立するための基礎研究を行う。また、木製遺物の物性、化学組成及び組織構造に関する基礎データを集積し、システムティックな含浸処理法に関する基礎研究を行う。

7) 遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究

環境制御による劣化抑制の成否について検証するため、平城宮跡遺構展示館等をフィールドとして、遺構の劣化の進行速度と周辺の環境についてモニタリング調査を行う。石造文化財等の劣化要因である塩析出が材料の劣化に及ぼす影響に関する基礎研究を行う。さらに、埋蔵環境における金属製品の腐食プロセスを解明するため、金属腐食実験を行い、環境因子と劣化の関係を定量的に評価する。

8) 建造物の彩色に関する調査研究

建造物彩色等の材料調査を行い、使用されている材料の同定と彩色技法の調査研究を行う。復元された平城宮跡大極殿において、建造物塗装彩色の経年変化に関する研究を行うため、環境調査並びに大極殿塗装彩色及び暴露試験用塗装彩色手板の色彩測定を行う。

9) 近代文化遺産の保存・修復に関する調査研究 **ホ06**

近代文化遺産の特徴である煉瓦・石・コンクリート・各種金属・各種合成樹脂・各種繊維等の多種多様な材料の劣化や保存手法に関する基礎的調査研究を行う。特に30年度は、28・29年度に実施した煉瓦・鉄に関する研究を踏まえ、コンクリート造建造物の修復事例を調査し、保存科学的観点からその修復・保存の理念と手法を検証、評価する。

10) 高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究

ア 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画等の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。

ホ p.47

イ 壁画の安定した保存と公開活用を行うための適切な石室内の熱水分環境について調査研究を行う。

【中期目標・計画上の評価指標】

- ・評価軸による具体的な研究成果
- ・(関連指標) 論文等数
- ・(関連指標) 報告書等の刊行数

【評価軸】

- ・科学技術を的確に応用し、文化財の保存・修復の質的向上に寄与しているか。

(3) 文化遺産保護に関する国際協働

① 文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進

1) 文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信

海外、特に国際協力活動の対象となる地域の文化遺産に関する情報の収集、諸外国の文化遺産保護施策等に関する調査を行う。

ア 世界遺産委員会をはじめとするユネスコ等が行う主要な国際会合へ出席して情報の収集を行うとともに、国内外において文化遺産の保護をめぐる今日的課題等に関する調査研究を行う。また、収集した情報の整理・公開及び比較研究等を通じて、今後の我が国の文化遺産保護施策の検討の用に供する。**コ01**

イ 英国等の研究機関との間で文化遺産に関する研究交流を行う。

2) 文化遺産保護協力事業の推進

国際共同研究等の実施を通じて諸外国の保存修復及び管理活用に関する考え方や手法に関する研究

を進め、国際協力を推進するための基盤を強化するとともに、その成果をもとにアジア地域を主とする諸外国において文化遺産保護協力事業を推進する。

ア 文化遺産の保護協力事業及び国際共同研究事業を以下のように実施し、成果を広く公表する。

(ア) カンボジア・アンコール遺跡群（特に西トップ遺跡及びタ・ネイ遺跡）やミャンマーをはじめとする東南アジア地域等の文化遺産保護に関する調査研究及び保護協力事業を実施する。 **コ02**

(イ) 西アジア地域等の文化遺産保護に関する調査研究を実施する。特にイラン・アルメニア等において文化遺産保護協力事業を実施する。 **コ02**

(ウ) 上記各事業と連携しつつ、文化遺産の保護に関する研究会の開催等を通じて国内外の専門家との情報の共有化を図る。 **コ03**

3) 文化遺産の保存・修復に関する人材育成等

文化遺産保護の担当者や学芸員及び保存修復専門家を対象とした研修や専門家の派遣を通じて諸外国における文化遺産の保存・修復に関する人材育成と技術移転を積極的に進める。

ア 国内外の諸機関等と連携して人材育成や技術移転等の国際支援を実施する。また海外の文化遺産保存担当者を対象に、国内外において和紙及び紙・絹、漆及び漆文化遺産等についての保存修復の講義と実技を行い、基礎的な知識を教授する。在外の日本古美術品を対象に事前調査を行い、その結果をもとに修復を行う。 **コ04** **コ05**

イ ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）等が実施する研修への協力を行う。 **コ05**

【中期目標・計画上の評価指標】

- ・文化遺産保護の国際協働に関する取組状況

（文化遺産保護に関する国際情報の収集等事業の実施件数、諸外国における文化遺産の保存・修復に関する研修・ワークショップ等の参加者の満足度、諸外国の研究機関等との共同研究等の実施件数）

② アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究

アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、アジア太平洋地域における無形文化遺産の保護のための調査研究の推進拠点として、以下の事業を行う。

- ・同地域における無形文化遺産保護分野の研究についての総合的情報収集、及びその成果に基づく無形文化遺産保護調査研究データベースの充実
- ・同地域における無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究の実施
- ・同地域における無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する調査研究の実施
- ・国際会合等への出席やユネスコ及び関連機関との連携を通じた無形文化遺産保護関連の国際的動向の情報収集

【中期目標・計画上の評価指標】

- ・アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（国際協力事業の実施件数）

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

① 文化財情報基盤の整備・充実

文化財関係の情報を収集して発信するため、文化財情報の計画的収集、整理、保管、公開並びにそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースを充実させる。

- 1) 文化財に関するデータベースの充実並びにアーカイブ機能の更新及び拡張を行う。特に全国遺跡報告総覧を充実させる。 **シ06**
- 2) 被災文化財関連情報に関するデータベースの充実並びにアーカイブ機能の更新及び拡張を行う。 **シ06**
- 3) 文化財に係る図書、雑誌等の収集、整理、公開、提供を充実する。 **シ06**

【中期目標・計画上の評価指標】

- ・図書、雑誌等の公開に関する取組状況

（資料閲覧室・図書資料室の開室日数、利用者数、文化財に関する資料・図書等の総件数）

- ・文化財に関するデータベースの公開件数（前中期目標の期間の実績以上）
- ・（関連指標）データベースのデータ件数
- ・（関連指標）データベース等へのアクセス件数

② 調査研究成果の発信

文化財に関する調査研究成果について、定期的に刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等により、多角的に発信する。また、研究所の研究・業務等を広報するためウェブサイト充実させるとともに、日本語はもとより多言語でのページを充実させる。

1) 定期刊行物の刊行 シ07 ム04 ホ07

- ・『東京文化財研究所年報』
- ・『東京文化財研究所概要』
- ・『東文研ニュース』
- ・『美術研究』（年3冊）
- ・『日本美術年鑑』
- ・『無形文化遺産研究報告』
- ・『無形民俗文化財研究協議会報告書』
- ・『保存科学』
- ・『奈良文化財研究所紀要』
- ・『奈良文化財研究所概要』
- ・『奈文研ニュース』
- ・『埋蔵文化財ニュース』

2) 公開講演会、現地説明会、シンポジウムの開催等 シ08

- ・公開講座（オープンレクチャー）
- ・公開講演会
- ・現地説明会

3) ウェブサイトの充実 シ05

- ・東文研総合検索システム
- ・東京文化財研究所刊行物一覧
- ・学術情報リポジトリ
- ・なぶんけんブログ（探検！奈文研、コラム作寶樓等）

【中期目標・計画上の評価指標】

- ・定期刊行物等の刊行件数（前中期目標の期間の実績の年度平均以上）
- ・講演会等の開催回数（前中期目標の期間の実績の年度平均以上）
- ・（関連指標）講演会等の来場者数
- ・（関連指標）学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数

③ 展示公開施設の充実

平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館の展示等を充実させ、来館者の理解を促進する。

1) 特別展・企画展

（平城宮跡資料館）

- ・企画展「夏の子ども展示」(7月21日～9月2日)
- ・特別展「地下の正倉院展」(10月13日～11月25日)
- ・企画展「発掘速報展」(31年2月2日～3月31日)

（飛鳥資料館）

- ・特別展「なつかしの飛鳥(仮)」(4月27日～7月21日)
- ・企画展「第9回写真コンテスト作品展「あすかのいきもの」(仮)」(7月27日～9月2日)

- ・特別展「動物考古学(仮)」(10月5日～12月2日)
- ・企画展「飛鳥の考古学2018」(31年1月25日～3月17日)
- 2) 定期的に勉強会や研修を開催し、平城宮跡解説ボランティアを育成するとともに、解説ボランティアとの連絡会議等を通じて、より効果的かつ効率的な制度運用を行う。

(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等

① 文化財に関する研修の実施

- 1) 文化財の担当者研修、博物館・美術館等の保存担当学芸員研修を行う。**ホ08**
- 2) 研修受講生を対象としたアンケート及び派遣元自治体を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を引き続き行い、その結果を踏まえ、より充実した研修計画を策定する。

② 文化財に関する協力・助言等

国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。

- 1) 文化財活用センターを中心に地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・専門的知識の提供等を行う。**シ ム ホ**
- 2) 蓄積されている調査研究の成果を活かし、他機関等との共同研究及び受託研究を行う。
- 3) 地震・水害等により被災した地域の復旧・復興事業に伴い、地方公共団体等が行う文化財保護事業への支援・協力を行う。

③ 平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力

文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力する。また、NPO法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動に協力する。

- 1) 文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力
 - ・文化庁が行う平城宮跡、藤原宮跡の整備・公開、管理事業への協力
 - ・文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営と古墳壁画の公開事業への協力
 - ・国土交通省が行う平城宮跡第一次大極殿院の復原、朱雀大路周辺の整備等への協力
 - ・国土交通省の平城宮いざない館開館後の展示についての監修協力及び同館詳覧ゾーンに関する学芸業務・連絡調整への協力
- 2) NPO法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力

④ 連携大学院教育の推進

連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。

- 1) 東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育等の推進
 - ・東京藝術大学大学院：システム保存学（保存環境学、修復材料学）**ホ** p.72
 - ・京都大学大学院：共生文明学（文化・地域環境論）
 - ・奈良女子大学大学院：比較文化学（文化史論）

⑤ 文化財等の防災・救援等への寄与

1) 体制づくり

地域の多様な文化資源の保護を目的として、文化財等の防災・救援のための連携・協力体制づくりを行う。

- ・文化遺産防災ネットワーク推進会議や文化遺産防災ネットワーク有識者会議を開催する。
- ・機構各施設が地区分担を行い、自治体や博物館等施設、史料ネット等へのヒアリング、情報交換会

の開催、調査の実施及び会議への参加等を通じて地域文化財防災ネットワーク構築を促進する。また、災害発生時に迅速な救援活動を実施するため、地域間連携・組織間連携のガイドライン策定に向けた検討を行う。

2) 調査研究等の実施

ア 文化財等の防災・救援の技術的課題に関する調査研究を行い、情報の発信を行う。

- ・全国の文化財防災の先進事例の収集や、地方指定等文化財情報に関する収集・整理・共有化や、文化財防災体制にかかる調査研究に取り組む。
- ・国及び地方指定等文化財に関する全国文化財等データベース・全国文化財保護条例データベースを構築し、自然史標本リストの共有システムの確立、歴史災害痕跡のデータベース等の運用・活用、地域文化遺産リストに関する地図作成作業等を実施し、広く文化財全般の防災ネットワーク構築に寄与する。
- ・文化財が被災した自然災害に関する事例集を作成し、公開する。

イ 保存科学等に基づく被災文化財等の劣化診断、安定化処置及び修理、保存環境等に関する研究を実施し、指針の策定を目指す。

- ・けいはんなオープンイノベーションセンターの施設を利用し、収蔵庫機能の維持管理等を行いつつ関西地区における文化財防災の拠点としての活用について研究を行う。
- ・自然災害により被災した様々な状態の被災資料に関する劣化診断・応急処置等の方法に関する研究を行う。
- ・被災文化財等の安定的保管のための保存環境に関する研究を行う。

ウ 無形文化遺産の防災と被災後の継承等に関する研究を実施する。

- ・無形文化遺産総合データベースを構築し、これを活用して無形文化遺産の防災に寄与する。
- ・無形文化遺産の動態記録作成等を通じて、被災後の継承等に関する研究を実施する。

3) 人材育成・事業啓発活動等の実施

- ・本事業での取組についてウェブサイト・パンフレット等を更新して情報公開に努める。
- ・被災資料の応急処置等に関わる動画を作成し、公開する。
- ・文化財等の防災・救援に関する指導・助言、研修、啓発・普及活動として、シンポジウム、講演会、研究集会、地方公共団体担当者等への研修会、地域の防災体制構築のための人材育成等を実施する。
- ・国際研修・シンポジウム等の実施・参加を通して、諸外国の防災の取組や被災文化財の保全処置方法に関する新たな知見の入手に努めるとともに、我が国の経験を活かして諸外国の文化財防災に貢献する。

【中期目標・計画上の評価指標】

- ・研修の実施件数（前中期目標の期間の実績の年度平均以上）
- ・研修の受講者数（前中期目標の期間の実績の年度平均以上）
- ・研修成果の活用状況（中期目標期間にアンケートによる研修成果の活用実績が80%以上となることを目指す。）
- ・専門的・技術的な援助・助言の取組状況（行政、公私立博物館等の各種委員等への就任件数、依頼事項への対応件数等）

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1. 業務改善の取組

(1) 組織体制の見直し

- ・国際業務の推進体制の整備の一環として、2019年ICOM 京都大会に向けて、機構内における組織体制を整備する。
- ・情報セキュリティの確保・維持の重要性に鑑み、本部情報担当部門の検討を継続し、設置する。

- ・平成30年7月1日付本部に文化財活用センターを開設する。

(2) 人件費管理の適正化

国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数は国家公務員の水準を超えないよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。

(3) 契約・調達方法の適正化

- ・契約監視委員会を実施する。
- ・施設内店舗の貸付・業務委託について引き続き企画競争を実施する。

(4) 共同調達等の取組の推進

周辺その他機関を含めた共同調達について、有用性が確認された案件については引き続き実施するとともに、試行段階のものについては有用性の検証を続ける。

(5) 一般管理費等の削減

① 機構内の共通的な事務の一元化による業務の効率化

機構のネットワークの統合を検討し、業務の効率的な運用及び情報の共有化を推進する。

② 計画的なアウトソーシング

以下の業務の外部委託を継続して実施する。

(東京国立博物館)

- ・警備及び看視案内の一部並びに売札及び清掃業務
- ・資料館業務の一部
- ・施設内店舗業務

(京都国立博物館)

- ・警備業務、清掃業務、設備保全業務の一部
- ・会場運営業務
- ・代表電話対応及び受付業務

(奈良国立博物館)

- ・建物設備の運転・管理業務
- ・警備及び看視案内の一部並びに売札及び清掃業務

(九州国立博物館)

- ・建物設備の運転・管理業務等
- ・警備業務、看視案内業務及び清掃業務

(東京文化財研究所・奈良文化財研究所)

- ・警備業務、清掃業務及び建物設備の運転・管理業務等

③ 使用資源の減少

- ・省エネルギー

光熱水量の使用状況を把握し、管理部門を中心に引き続き節減に努める。

- ・廃棄物減量化

使用資源の節減に努め、廃棄物の減量化に引き続き努める。

- ・リサイクルの推進

廃棄物の分別収集を徹底し、リサイクルを引き続き推進する。

2. 業務の電子化

機構ウェブサイトにおいて、機構に関する情報の提供を引き続き行い、政府の方針に沿ってオープンデータを推進し、各事務システムの継続運用とバックアップ・インフラ増強に努める。

3. 予算執行の効率化

収益化単位の業務及び管理部門の活動と運営費交付金の対応関係を明確にし、引き続き効率的な予算執行に務める。

III 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

1. 自己収入拡大への取組

(1) 機構全体において、展示事業等収入額について前中期目標の期間の実績の年度平均を上回ることを目指す。

(2) 機構全体において、寄附金等の外部資金獲得により財源の多様化を図る。

(3) 保有資産の有効利用の推進

(博物館 4 施設)

- ① 講座・講演会等を開催する。
- ② 講堂等の利用案内を関係団体、学校等外部に対し積極的に行う。
- ③ 国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。

(文化財研究所 2 施設)

セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を引き続き図る。

【中期目標・計画上の評価指標】

- ・展示事業等収入額（前中期目標の期間の実績の年度平均以上）
- ・（関連指標）その他寄附金等収入額

2. 固定的経費の節減

固定的経費の節減のため、II 1.(5) 一般管理費等の削減に関する事項に取り組む。

3. 決算情報・セグメント情報の充実等

独立行政法人会計基準に従い、引き続き適切な決算情報・セグメント情報の開示を実施する。

IV 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

1. 予算

別紙のとおり

2. 収支計画

別紙のとおり

3. 資金計画

別紙のとおり

V その他業務運営に関する目標を達成するためにとるべき措置

1. 内部統制

内部統制委員会、リスク管理委員会を開催する。また、内部監査及び監事監査等のモニタリングを実施し、必要に応じて見直しを行うとともに、各種研修を実施し、職員の意識並びに資質の向上を図る。

2. その他

(1) 自己評価

運営委員会、外部評価委員会の開催等、外部有識者の意見を踏まえた客観的な自己評価を実施し、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させる。

(2) 情報セキュリティ対策

情報セキュリティ対策については、政府機関の統一基準群・ガイドライン等を踏まえ、情報セキュリティをとりまく環境の変化に応じて機構として必要な対応を検討し、規定等を適時適切に見直すとともに、これに基づき対策を講じ、不正アクセスや標的型攻撃等のリスクに対する対策、攻撃に対する組織的対応能力の強化に取り組む。

また、自己点検、監査を実施し、その結果に基づいて情報セキュリティ対策を改善する。

3. 施設設備に関する計画

別紙のとおり施設設備に関する計画に沿った整備を推進する。

4. 人事に関する計画

(1) 中長期的な人事計画の策定を検討する。その際、理事長の裁量によって、一定数の職員を配置できる仕組みを併せて検討する。

(2) 職員の能力向上と組織のパフォーマンス向上を目的とした評価制度を導入する。

(3) 性別、年齢、国籍、障がいの有無等にとらわれない、能力や適性に応じた採用・人事を引き続き行う。

(4) 女性の活躍を推進し、制度改正を含めた就業環境の整備及び教育・研修を引き続き実施する。

(5) 職員のキャリアパスの形成のため、職位に応じた研修の実施を企画・立案する。

平成30年度 予算

(単位：百万円)

区 分	国立博物館等	文化財研究所等	合 計
収 入			
運営費交付金	6,178	2,630	8,808
施設整備費補助金	289	116	405
展示事業等収入	1,610	67	1,677
受託収入	57	561	618
その他寄附金等	491	51	542
計	8,625	3,425	12,050
支 出			
管理経費	1,943	713	2,656
うち人件費	593	286	879
うち一般管理費	1,350	427	1,777
業務経費	5,845	1,984	7,829
うち人件費	1,532	1,088	2,620
うち収集保管事業費	1,813	0	1,813
うち展覧事業費	2,092	0	2,092
うち教育普及事業費	98	0	98
うち博物館研究事業費	258	0	258
うち博物館支援事業費	52	0	52
うち基礎研究事業費	0	359	359
うち応用研究事業費	0	110	110
うち国際遺産保護事業費	0	136	136
うち情報公開事業費	0	280	280
うち研修協力事業費	0	11	11
施設整備費	289	116	405
受託事業費	57	561	618
その他寄附金等	491	51	542
計	8,625	3,425	12,050

平成30年度 収支計画

(単位：百万円)

区 分	国立博物館等	文化財研究所等	合 計
費用の部	7,136	3,314	10,450
経常経費	7,128	3,276	10,404
管理経費	1,781	662	2,443
うち人件費	593	286	879
うち一般管理費	1,188	376	1,564
事業経費	4,825	2,489	7,314
うち人件費	1,532	1,088	2,620
うち収集保管事業費	546	0	546
うち展覧事業費	1,841	0	1,841
うち教育普及事業費	86	0	86
うち博物館研究事業費	227	0	227
うち博物館支援事業費	45	0	45
うち基礎研究事業費	0	316	316
うち応用研究事業費	0	97	97
うち国際遺産保護事業費	0	120	120
うち情報公開事業費	0	247	247
うち研修協力事業費	0	9	9
うち受託事業費	57	561	618
うちその他寄附金等	491	51	542
減価償却費	522	125	647
財務費用	0	1	1
臨時損失	8	37	45
収益の部	7,136	3,314	10,450
運営費交付金収益	4,448	2,473	6,921
展示事業等の収入	1,610	67	1,677
受託収入	57	561	618
その他寄附金等	491	51	542
資産見返負債戻入	522	125	647
財務収益	0	0	0
臨時利益	8	37	45
純利益	0	0	0
目的積立金取崩	0	0	0
総利益	0	0	0

平成30年度 資金計画

(単位：百万円)

区 分	国立博物館等	文化財研究所等	合 計
資金支出	8,625	3,425	12,050
業務活動による支出	6,221	2,911	9,132
投資活動による支出	2,404	513	2,917
財務活動による支出	0	1	1
資金収入	8,625	3,425	12,050
業務活動による収入	8,336	3,309	11,645
運営費交付金による収入	6,178	2,630	8,808
展示事業等による収入	1,610	67	1,677
受託収入	57	561	618
その他寄附金等	491	51	542
投資活動による収入	289	116	405
施設整備費補助金による収入	289	116	405
財務活動による収入	0	0	0
受取利息等による収入	0	0	0

施設整備に関する計画

(単位：百万円)

施 設 設 備 の 内 容	予 定 額	財 源
・ 東京国立博物館	289	施設整備費補助金
本館リニューアル工事 (収蔵庫工事費等)	289	
・ 奈良文化財研究所	89	施設整備費補助金
本庁舎建替工事	89	
・ 飛鳥資料館 煙突 (冷暖房機用) 取替工事	27	施設整備費補助金
	405	

2. プロジェクト報告

凡 例

- (1) プロジェクトは、年度計画との対応(17頁～31頁)に従って、以下の①～⑥の分類項目ごとに各部・センターごとに配列し、プロジェクトの略番と頁を記した。
略番で用いられている担当部門の略号は、シ：文化財情報資料部、ム：無形文化遺産部、ホ：保存科学研究センター、コ：文化遺産国際協力センター、広：広報委員会 である。
- (2) 各プロジェクト報告の掲載頁では、表題の右側に上記略番を記すとともに、頁左上にプロジェクトの担当部門を示した。
なお、ウェブ公開版では、担当部門をシンボルカラー（文化財情報資料部：青、無形文化遺産部：黄、保存科学研究センター：緑、文化遺産国際協力センター：紫）で色分けしている。
- (3) 年度計画との対応一覧への逆引きのため、右上に年度計画の記号を記した。
- (4) また、各プロジェクト報告の掲載頁では、プロジェクトの目的、成果とその公表（論文、報告、発表、刊行物）及び研究組織の各項目を立てて内容をまとめた。なお、研究組織で〇がついている職員はプロジェクトリーダーである。

① 有形・無形の文化財に関する調査研究事業

略番	プロジェクト名	(年度計画の記号)	頁
シ 01	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	2-(1)-①-1)-ア	35
シ 02	日本東洋美術史の資料学的研究	2-(1)-①-1)-イ	36
シ 03	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	2-(1)-①-1)-ウ	37
シ 04	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	2-(1)-①-1)-エ	38
ム 01	無形文化財の保存・継承に関する調査研究	2-(1)-②-1)	39
ム 02	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	2-(1)-②-2)	40

② 保存修復に関する調査研究事業

略番	プロジェクト名	(年度計画の記号)	頁
ホ 01	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	2-(2)-②-1)	41
ホ 02	保存と活用のための展示環境の研究	2-(2)-②-2)	42
ホ 03	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	2-(2)-②-3)	43
ホ 04	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	2-(2)-②-4)	44
ホ 05	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	2-(2)-②-5)	45
ホ 06	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	2-(2)-②-9)	46
ホ ー	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	2-(2)-②-10)	47

③ 国際協力・交流等に関する事業

略番	プロジェクト名	(年度計画の記号)	頁
ム 05	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	2-(1)-②-3)	48
コ 02	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	2-(3)-①-2)-アー(ア)(イ)	49
コ 03	保存修復技術の国際的応用に関する研究	2-(3)-①-2)-アー(ウ)	50
コ 04	在外日本古美術品保存修復協力事業	2-(3)-①-3)-ア	51
コ 05	国際研修	2-(3)-①-3)-ア、イ	52

④ 情報収集・成果公開に関する事業

略番	プロジェクト名	(年度計画の記号)	頁
シ 05	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	2-(2)-①-1)、2-(4)-②-3)	53
シ 06	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	2-(4)-①-1) 2) 3)	55
シ 08	平成30年度オープンレクチャー（調査・研究成果の公開）	2-(4)-②-2)	56
ム 03	無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	2-(1)-②-1)	57
コ 01	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	2-(3)-①-1)-ア	58
――	プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等		59

⑤ 刊行物に関する事業

略番	プロジェクト名	(年度計画の記号)	頁
シ 07	平成29年版『日本美術年鑑』刊行事業・出版事業『美術研究』	2-(4)-②-1)	63
ム 04	無形文化遺産部出版関係事業	2-(4)-②-1)	64
ホ 07	『保存科学』第58号の出版	2-(4)-②-1)	64
広 一	『東京文化財研究所概要』、『TOBUNKENNEWS』		64
――	プロジェクトの一環として刊行された刊行物		65

⑥ 指導助言・研修等に関する事業

略番	プロジェクト名	(年度計画の記号)	頁
ホ 08	博物館・美術館等保存担当学芸員研修	2-(5)-①-1)	68
シ 一	文化財の収集・保管に関する指導助言	2-(5)-②-1)	68
ム 一	無形文化遺産に関する助言	2-(5)-②-1)	69
ホ 一	文化財の虫菌害に関する調査・助言	2-(5)-②-1)	69
ホ 一	文化財の修復及び整備に関する調査・助言	2-(5)-②-1)	70
ホ 一	文化財の材質・構造に関する調査・助言	2-(5)-②-1)	71
ホ 一	美術館・博物館等の環境調査と援助・助言	2-(5)-②-1)	71
ホ 一	東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進	2-(5)-④-1)	72

文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究(シ01)

目 的 国内外の諸機関との連携を見据え、当研究所の文化財に関する調査研究の成果・データをより国際的標準に見合うかたちに整え、効果的に共有してゆくための研究を行う。併せて地方公共団体と文化財に関する情報の提供と共有を行うことを視野に入れる。

成 果 1. 調査研究の成果の公開と、研究情報の国際発信

- ・平成29年度に引き続き、当研究所刊行の論文等を Japanese Institutional Repositories Online (JAIRO) を通じて公開する作業を進め、『美術研究』、『無形文化遺産研究報告』、『保存科学』の3タイトル62件を今年度新たに追加し、合計7タイトル3,516件の論文・刊行物のフルテキストを掲載・公開した。
- ・アメリカ・ゲッティ研究所のゲッティ・リサーチポータルに『美術研究』、『日本美術年鑑』、『保存科学』の情報を提供し、掲載件数は636件となった。今後も提供データを増やしていくための調整・協議と作業を進めた。
- ・平成29年度に引き続き、展覧会カタログ所載記事・論文のデータを「東京文化財研究所美術文献目録」として、世界最大の共同書誌目録データベースである OCLC のセントラル・インデックスに情報を提供し、今年度は2014 (平成26) 年と2015 (平成27) 年の文献情報約6,000件を追加した。

2. 国内外の関連機関との協働研究・協議

- ・京都府所蔵資料の情報共有について協議し、昭和初期の資料のデジタル化を行った。
- ・ゲッティ研究所との共同研究事業によって各種の公開事業を進めたほか、国立歴史民俗博物館で開催された国際シンポジウム「アート・歴史分野における国際的な標準語彙の活用 — Getty Vocabulary Program の活動と日本」に参加し発表を行った。
- ・日本資料専門家欧州協会 (EAJRS)、国際美術図書館会議、アート・ドキュメンテーション学会などに参加し、口頭発表を行い、日本美術の国際情報発信に努めた。
- ・イギリス・セインズベリー日本藝術研究所と日本美術及び同研究に関する英語文献・記事情報の採録に関する運用面での協議を行い、講演を行った。

発 表・橘川英規：「明治期～昭和期刊行博覧会・展覧会資料のオープン・アクセス化事業」日本資料専門家欧州協会 (EAJRS) リトアニア大会 18.9.12

- ・Tomoko Emura, The Contribution of the Tokyo National Research Institute for Cultural Properties: Art Bibliography in Japan for OCLC Central Index (江村知子「東京文化財研究所の情報発信：OCLC セントラル・インデックスへの日本美術文献の情報提供」) 第8回国際美術図書館会議 18.10.5

- ・橘川英規：「日本の展覧会カタログ論文の国際的可視性を高めるための取り組み：「東京文化財研究所美術文献目録」のOCLCへの提供」アート・ドキュメンテーション学会第11回秋季研究集会 18.10.13

- ・安永拓世：「与謝蕪村筆「鳶・鴉図」に見るトリプルイメージ」セインズベリー日本藝術研究所 18.11.15



セインズベリー日本藝術研究所での講演会

研究組織 ○江村知子、橘川英規、安永拓世、米沢玲、二神葉子、小林公治、塩谷純、小林達朗、小野真由美、城野誠治 (以上、文化財情報資料部)、久保田裕道 (無形文化遺産部、文化財情報資料部兼務)、吉田直人、早川典子 (以上、保存科学研究センター、文化財情報資料部兼務)、加藤雅人、西和彦 (以上、文化遺産国際協力センター、文化財情報資料部兼務)、津田徹英、永崎研宣 (以上、客員研究員)

日本東洋美術史の資料学的研究(シ02)

目 的 近世以前の日本を含む東アジア地域における美術作品を対象として、基礎的な調査研究を行い、研究の基盤となる資料の整備を行う。併せて、これにかかる国内外の研究交流を推進する。

成 果

1. 美術史研究のためのコンテンツ(年紀資料集成)を作成するため1999(平成11)年以降の展覧会図録から年紀のある作品の資料を順次収集し、データベースソフトウェア FileMaker を使用して入力を行い、新たに400件を追加した。
2. 本プロジェクトにかかる研究会を外部の研究者を交え、行った。
3. 幕末期の日本製伏彩色螺鈿を対象に、2019(平成31)年1月27日～2月2日にタイ・バンコク都内のワット・ラーチャプラディット、ワット・ナーンチャー、タイ国立図書館等において作品の熟覧調査及び写真撮影を実施した。
4. 平成29年度に引き続き、仏教美術等の光学的手法による東京国立博物館との共同研究を実施した。同博物館所蔵の平安仏画につき、可視光のみならず、近赤外線、蛍光、蛍光X線、透過X線などによる多角的光学調査を行い、国宝の平安仏画の中でもことに著名な、普賢菩薩像、虚空蔵菩薩像、孔雀明王像、千手観音像について、報告書を刊行した。

論 文・小野真由美、恵美千鶴子：「研究ノート『銅御蔵御掛物御歌書極代付之帳』の翻刻と外題」『美術研究』425 pp.21-23 18.7

・小野真由美、恵美千鶴子：「研究ノート『銅御蔵御掛物御歌書極代付之帳』翻刻」『美術研究』425 pp.24-34 18.7

・増田政史：「中宮寺文殊菩薩立像について一戒律と春日信仰」『美術研究』426 pp.1-14 18.12

・稲葉(藤村) 真以：「韓国画壇の変遷」『美術研究』426 pp.75-92 18.12

・津田徹英：「研究資料 滋賀・浄厳院蔵 木造釈迦如来立像」『美術研究』426 pp.93-110 18.12

・勝盛典子：「伏彩色螺鈿再考」『美術研究』427 pp.85-108 19.3

発 表・小野真由美：「土佐光起著『本朝画法大伝』考―「画具製法并染法極秘伝」を端緒として―」第3回文化財情報資料部研究会 18.6.26

・二神葉子ほか10名：「ワット・ラーチャプラディットの日本製扉部材と伏彩色螺鈿に関する研究会」第4回文化財情報資料部研究会 18.7.30

・京都絵美：「絹本著色技法の史的展開について―仁和寺所蔵孔雀明王像をめぐる一考察」第6回文化財情報資料部研究会 18.11.27

・山本聡美：「病苦図像の源流―静嘉堂文庫蔵「妙法蓮華経变相図」について」第7回文化財情報資料部研究会 18.12.27

・相澤正彦：「静嘉堂文庫美術館本「春日曼荼羅」と高階画系」第7回文化財情報資料部研究会 18.12.27

・米沢玲：「二幅の不動明王画像」第9回文化財情報資料部研究会 19.2.28

刊行物・『東京国立博物館所蔵 国宝平安仏画 光学調査報告書』ライブアートブックス 19.3

研究組織 ○小林達朗、山梨絵美子、塩谷純、小野真由美、江村知子、二神葉子、小林公治、安永拓世、米沢玲、橘川英規、小山田智寛(以上、文化財情報資料部)、津田徹英(客員研究員)

近・現代美術に関する調査研究と資料集成(シ03)

目 的 近・現代美術を対象として日本における展開を軸としつつ、その方向づけに大きく関わった欧米の動向も視野に入れて分析・考察する。併せて、作家や関係者、及び美術館等の諸機関が所蔵する資料の調査を行い、得られた情報を近・現代美術研究の基礎資料として整備する。

- 成 果**
1. 黒田記念館の鑑賞の手引きとなる『黒田清輝 黒田記念館所蔵品より』を編集・刊行した。
 2. 当研究所が所蔵する黒田清輝宛書簡について、黒田家・樺山家・旧藩主島津家・杉家・橋口家・篠塚家から差し出された書簡の目録と一部の翻刻を『美術研究』426号・427号に掲載した。
 3. 明治期に活躍した女性日本画家、武村耕靄についての部内研究会を開催(18.4.24)、その成果を『美術研究』427号に掲載した。
 4. 明治～大正期に活躍した女性日本画家、栗原玉葉についての論考を『美術史』185冊(18.10)及び長崎歴史文化博物館で開催された展覧会「新章ジャパニビューティ」図録(18.12)に掲載、同展に際して催されたシンポジウム「栗原玉葉をめぐる物語」に田所・塩谷が講師として参加した(19.1.13)。
 5. カリフォルニア大学ロサンゼルス校東アジア図書館に開設した美術評論家のヨシダ・ヨシエ文庫についての部内研究会を開催した(18.5.23)。
 6. 久米美術館との共同研究として、既刊『久米桂一郎日記』中のフランス語部分の和訳に着手した。
 7. 第52回オープンレクチャーで、藤田嗣治・常玉・陳澄波の描いた裸婦についての研究発表を行った(18.10.27)。



ヨシダ・ヨシエ文庫についての部内研究会の様子

論 文・田所泰：「栗原玉葉の《朝妻桜》に関する一考察 その制作意図を中心に」『美術史』185 pp.117-137 18.10

・田所泰：「栗原玉葉筆《お夏の思い》考 その色彩表現に注目して」五味俊晶編『栗原玉葉』長崎文献社 pp.204-220 18.12

・田所泰：「武村耕靄と明治期の女性日本画家に関する研究」『美術研究』427 pp.15-78 19.3

発 表・田所泰：「武村耕靄と明治期の女性日本画家について」第1回文化財情報資料部研究会 18.4.24

・橘川英規：「カリフォルニア大学ロサンゼルス校におけるアーカイブズの収受・保存・提供—ヨシダ・ヨシエ文庫を例に—」第2回文化財情報資料部研究会 18.5.23

・山梨絵美子：「裸婦に表された地域性 フジタ・常玉・陳澄波を例に」第52回オープンレクチャー 18.10.27

・塩谷純：『黒田清輝 黒田記念館所蔵品より』印象社 19.1

刊行物

○塩谷純、山梨絵美子、橘川英規、城野誠治、野城今日子(以上、文化財情報資料部)、三上豊、丸川雄三、

研究組織 田中淳、齋藤達也、田所泰(以上、客員研究員)

美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開(シ04)

目 的 絵画や彫刻、工芸といった美術作品は、その表現のあり方、制作に用いられた技術、そして利用された素材などが複合し一体となって成立したものである。本プロジェクトでは、こうしたそれぞれの構成要素がどのような実態を持ち、またどのように関わりあっているのか、関連する諸分野を広く渉猟しつつ多視点的に分析し、その関係の解明を目指すものである。こうした研究の実施により、美術「作品」に対するより深い理解の醸成が期待される。

- 成 果**
1. 螺鈿及び漆器類に関わる調査研究等
 - ・ 4月26日と7月31日、日本民藝館において朝鮮製螺鈿漆器の調査を行った。
 - ・ 5月8日、川越市立博物館にて三芳野神社縁起絵巻調査及び同館学芸員との意見交換を実施した。
 - ・ 5月10日～12日に韓国国立中央博物館からの依頼により渡航し、同館所蔵高麗螺鈿香箱の復元に関する助言を行った。
 - ・ 6月28日に東京大学総合研究資料館小石川分館にて関野貞資料の調査を行った。
 - ・ 7月2～3日に韓国国立中央博物館保存科学部朴研究員の来日調査について助力した。
 - ・ 8月2日・23日、個人蔵琉球製箔絵簾盆2枚について、研究協議及び当研究所保存科学研究センターとの共同調査を実施した。また11月1日・3日及び2月26日に沖縄で関連作品調査を行った。
 - ・ 3月4～5日、南蛮文化館及び堺市博物館ほかにおいて漆器などの調査を実施した。
 - ・ 旧所員故柳澤孝氏寄贈写真類の整理作業及びそのデータベース化作業を行い今年度末までに約3,200件を終了した。
 2. 研究成果公開
 - ・ 7月7～8日、日本文化財科学会（奈良女子大学）において、奈良国立博物館ほかとの共同研究成果である「南蛮文化館所蔵南蛮漆器類のX線CT調査」のポスター発表を行った。
 - ・ 10月2日に開催した第5回文化財情報資料部研究会において、金沢大学の神谷嘉美氏より「平時絵技法で用いられる金属材料の形状について―南蛮漆器作例を中心に―」と題した発表を実施した。
 3. 研究データの整備と公開
 - ・ インターネットで公開している『美術研究』データについて、未公開であった英文要旨をpdf公開し、英語による研究情報検索の便宜を促進し拡充を図った。また、英文要旨のない155号以前を対象とした検索用キーワードの抽出作業を開始した。

論 文・高田知仁：「螺鈿と王権―近世近代タイ装飾美術の含意」『美術研究』426 pp.25-74 18.12

報 告・鳥越俊行ほか：「南蛮文化館所蔵南蛮漆器類のX線CT調査」『日本文化財科学会第35回大会研究発表要旨集』18.7

発 表・鳥越俊行ほか：「南蛮文化館所蔵南蛮漆器類のX線CT調査」日本文化財科学会第35回大会 18.7.6

・神谷嘉美：「平時絵技法で用いられる金属材料の形状について―南蛮漆器作例を中心に―」第5回文化財情報資料部研究会 18.10.2

研究組織 ○小林公治、山梨絵美子、小林達朗、二神葉子、塩谷純、江村知子、小野真由美、安永拓世、橘川英規、小山田智寛、米沢玲、野城今日子（以上、文化財情報資料部）、佐野千絵、早川泰弘（以上、保存科学研究センター）、田所泰、中野照男（以上、客員研究員）

無形文化財の保存・継承に関する調査研究(Δ01)

目 的 我が国の無形文化財、並びに文化財保存技術の伝承形態を把握し、その保護に資するため、伝承の基礎となる技法・技術の実態や変遷の調査研究、及び資料の収集を行い、現状記録の必要な対象を精査して記録作成を行う。

- 成 果**
1. 無形文化財に関する調査研究
 - ア) 芸能分野：古典芸能（歌舞伎・文楽・三味線音楽ほか）に関する調査研究・日本伝統楽器製作を中心とした文化財保存技術の調査研究
 - イ) 工芸分野：靱皮繊維の製作技術に関する調査（沖縄県立博物館、貝澤雪子氏工房）、及び絹糸製作技術調査（岡谷蚕糸博物館）



共催事業「伝統の音を支える技」の様子

2. 現状記録を要する無形文化遺産の記録作成
 - ア) 諸芸：講談及び落語（正本芝居噺）の実演記録を作成（一龍斎貞水師8席・神田松鯉師6席・林家正雀師4席）
 - イ) 古典芸能：平家（菊央雄司氏ほかによる復元曲1曲）及び宮園節（宮園千碌氏ほかによる古典曲1曲、新曲1曲）の実演記録を作成

3. 研究調査に基づく成果の公表
 - ア) 東京邦楽器商工業協同組合・東京文化財研究所共催事業「伝統の音を支える技―第24回東京三味線・東京琴 展示・製作実演会／第12回東京文化財研究所無形文化遺産部公開学術講座」(東京文化財研究所、8月3日)
 - イ) 総合研究会「東京文化財研究所無形文化遺産部所蔵音声資料のデジタルアーカイブ化に向けて」(東京文化財研究所、1月8日)



総合研究会の様子

論 文・前原恵美：「江島弁財天信仰と常磐節演奏家―浮世絵〈相州江之嶋弁才天開帳参詣群集の図〉を起点に」『桐朋学園大学研究紀要』2018年第44集 pp.81-102 18.10

・飯島満：「『故文耕堂之本作』訛伝考」『無形文化遺産研究報告』13、pp.70-86 19.3

報 告・前原恵美、橋本かおる：「楽器を中心とした文化財保存技術調査報告2」『無形文化遺産研究報告』13 pp.23-46 19.3

発 表・菊池理予：「無形文化財の視点からみる染織工芸技術について」共立女子大学博物館 19.1.26

刊行物・「共催事業『伝統の音を支える技―第24回東京三味線・東京琴 展示・製作実演会／第12回 東京文化財研究所無形文化遺産部公開学術講座』報告書」東京文化財研究所 19.3

・「日本の芸能を支える技」Ⅰ琵琶・Ⅱ三味線象牙駒 東京文化財研究所 18.7

・「日本の芸能を支える技」Ⅲ太棹三味線・Ⅳ雅楽管楽器 東京文化財研究所 19.3

研究組織 ○飯島満、前原恵美、石村智、菊池理予、佐野真規（以上、無形文化遺産部）、早川典子（保存科学研究センター）、橋本かおる（客員研究員）

無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究(Δ02)

目 的 風俗慣習、民俗芸能、民俗技術等無形民俗文化財のうち、近年の変容の著しいものを中心に、その実態を把握するために資料収集と現地調査を行う。また、無形民俗文化財研究協議会を実施し、その成果を報告書にまとめる。さらに、これまで東京文化財研究所で収集・保管している無形民俗文化財についての記録・資料の整理を行う。また選定保存技術については、国により選定された技術及び未選定の技術について情報を収集し、そのなかで重要なものについては現地調査・記録作成を行う。

成 果 1. 風俗慣習の調査として正月儀礼等について、民俗芸能の調査としてシシ系芸能や風流系芸能等について、民俗技術の調査として和船の製作技術や箕の製作技術等について、伝承や保護の実態についての現地調査や資料収集を行い、現状把握とともに現地関係者とのネットワークを構築した。



日置箕製作の様子

2. 災害被災地における民俗芸能、風俗慣習の調査として、福島県浪江町、宮城県女川町にて継続的調査を行い、資料収集・記録保存を行った。また無形文化遺産総合データベース・アーカイブスの構築とデータ収集を行った。
3. 第13回無形民俗文化財研究協議会を「いま危機にある無形文化遺産—無形民俗文化財の休止・廃絶・継承をめぐる」をテーマに東京文化財研究所において開催し、129名の参加を得た。4件の事例報告をもとにコメンテーター2名を含めた総合討議を行った。成果は『第13回無形民俗文化財研究協議会報告書』にまとめた。また民俗芸能の継承者を招いて「祭ネットワーク」を株式会社オマツリジャパンと共催で2度開催。継承の現状と課題の共有・討議を行った。成果は『祭ネットワーク報告 シシマイ×シシマイ』にまとめた。
4. 選定保存技術については、未選定の文化財の保存技術の調査として、友禅の下絵に用いる染料である青花紙の製作について滋賀県草津市と共同研究を実施し、その成果を報告書として刊行した。また滋賀県長浜市において滋賀県教育委員会の協力のもと、曳山金工品修理技術（滋賀県選定保存技術）の調査と映像による記録作成を行った。

論 文・今石みぎわ：「箕づくり技術の継承と変容を考える—「箕サミット—編み組み細工を語る」の試み」『月刊文化財』655 文化庁文化財部 pp.41-43 18.4

刊行物・『祭ネットワーク報告 シシマイ×シシマイ』 19.3

・『青花紙製作技術に関する共同調査報告書—染織技術を支える草津のわざ』 19.3

研究組織 ○飯島満、久保田裕道、前原恵美、石村智、今石みぎわ、菊池理予(以上、無形文化遺産部)、江村知子(文化財情報資料部)、早川典子(保存科学研究センター)、菊池健策、宮田繁幸、神野知恵(以上、客員研究員)

文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究(ホ01)

目 的 文化財の生物劣化現象は、自然災害あるいは日常の管理において生物の発育を促進する因子が存在すると起こるが、その因子の動態は文化財を取り巻く保存環境と複雑かつ密接に関連している。本研究では、この機序を理解するため保存環境と生物劣化現象について記述を重視した事例調査研究を行うとともに、適切で効果的な対処方法について検討することを目的としている。

成 果

1. 歴史的木造建造物における環境低負荷型の殺虫処置方法である湿度制御温風殺虫処理について、2018（平成30）年9月に日光山中禅寺鐘楼で国内2例目となる現地処理が実施され、当研究所が開発した殺虫処理効果判定システムを導入した。
2. 2018（平成30）年6月に湿度制御温風殺虫処理について、2017（平成29）年11月に実施した現地処理の成果と今後の課題を共有するために専門家を招聘して、加湿温風殺虫処理法に関する専門家研究集会を開催した。
3. 文化財害虫の早期検出に役立つ新しい技術として、遺伝子（DNA）解析を応用した害虫同定法に関する基礎研究を進めた。特に文化財害虫標本の収集とDNA塩基配列データベースの構築を進めた。
4. 津波で被災した文化財の微生物劣化機構解明に関する研究で、特に民俗資料と古文書について詳細に解析を行った研究成果をまとめ、国際会議で報告を行った。
5. 油彩画表面に発育したカビの分離同定及び顔料上での発育特性について調査研究を継続し、その成果を学会発表及び学術雑誌を通じて報告した。
6. 浮遊菌を簡易・迅速に測定できる新たな機器を用いて、実際にカビの被害がある博物館収蔵庫を調査地としてデータ収集の調査を継続して行った。

報 告・佐藤嘉則：「文化財の保存技術の概説とその事例～生物劣化とその対策～」『空気調和・衛生工学』92 pp.373-377 18.5

・小峰幸夫ほか：「湿度制御した温風処理における殺虫効果の検証」『保存科学』58 pp.21-28 19.3 ほか1件

発 表・佐藤嘉則ほか：「Culture-based and molecular-based analysis of the fungal community on tsunami disaster-affected cultural properties」The International Biodeterioration and Biodegradation Society 2018 meeting 18.9.5-7

・藤井義久、佐藤嘉則、小峰幸夫ほか：「湿度制御した温風処理による甲虫類の駆除—社寺建築における効果の検証—」文化財保存修復学会第40回大会 18.6.16

・小沼奈那美、佐藤嘉則ほか：「石人山古墳装飾石棺表面の微生物制御方法の検討」文化財保存修復学会第40回大会 18.6.16

・相馬静乃、佐藤嘉則ほか：「油彩画に発生したカビの各種顔料における抗カビ性評価」文化財保存修復学会第40回大会 18.6.16 ほか4件

研究組織 ○佐藤嘉則、小峰幸夫、犬塚将英、早川典子、朽津信明、北河大次郎、佐野千絵（以上、保存科学研究センター）、藤井義久、間渕創、片山葉子（以上、客員研究員）

保存と活用のための展示環境の研究(ホ02)

目 的 白色LED照明下における展示物の視認性の特徴について科学的検証を進め、また温湿度環境への影響について調査を行う。さらに、展示ケース内汚染物質軽減方法の検討と清浄化マニュアルの普及を行う。

成 果

1. 白色LEDの発光特性と彩色絵画の色彩の見えについて研究を進め、反射スペクトルは各LED照明の波長特性に依存し、色ずれが起こること、輝度分布はLED照明の直進性と表面の各色材の粗密などの影響を受けて見えが変わることなど、基本的な情報を数値化して得ることができた。
2. 白色LEDの美術館等への導入にあたり学芸員が参考にできる技術指針を、日本照明学会美術館・博物館照明技術指針作成委員会と協働して原案をまとめた(委員長:佐野千絵)。この活動の中で、白色LEDの光科学作用は美術館博物館用蛍光灯と同等で、色温度が小さいほど文化財への損傷度は小さくなることを導出した。また、放射による加熱の影響は使用電流量が小さいことから蛍光灯等の従来光源に比較して小さいことを明示した。以上から、文化財保護のためには白色LEDの利用は好ましいとの結論を提示した。
3. 空気清浄化マニュアルの普及を目的に、フォローアップ研修での講演、文化財保存修復学会大会でのポスター掲示を行い、今年度寄せられた学芸員からの意見を取り入れ、改訂版を作成した。
4. これまでの研究実績を生かし、文化遺産国際協力センターの事業に協力し、イラン国立博物館の館内環境に関して、窒素酸化物、硫黄酸化物、アンモニア、有機酸、揮発性有機化合物の調査を現地で実施し、外気流入の多い場所では大気汚染の影響が大きいこと、木製の展示ケース内は有機酸濃度が高いこと、展示室内はアンモニア濃度がやや高いことがわかった。改善の方向について検討中である。



調査の様子

報 告・吉田直人ほか:「History of Environmental Inspection of Museums When Borrowing Objects Designated as Important Cultural Properties of Japan」『Preprints of Turin Congress 2018』International Institute for Conservation of Historic and Artistic Works 18.9

発 表・吉田直人ほか:「白色LEDの発光特性と彩色絵画の色彩との関係について」文化財保存修復学会第40回大会 18.6.16 ほか1件

研究組織 ○*吉田直人、○**佐野千絵、石井恭子(以上、保存科学研究センター) *6月まで **7月から

文化財の材質・構造・状態調査に関する研究(ホ03)

目 的 各種の可搬型分析機器を用いた文化財の材質・構造に関する調査方法を確立し、日本絵画における顔料の変遷についての研究を進めるとともに、金工品等における黄銅(真鍮)材料の利用実態を明らかにする。新たに可搬型X線回折装置を導入し、各種文化財の保存状態等に関する調査研究を進める。

- 成 果**
1. 可搬型分析装置を用いたその場分析
 - ・可搬型蛍光X線分析装置による材料調査として、絵画、工芸品などの調査を実施した。平安～江戸期の日本絵画を集中的に調査し、彩色材料の変遷と多様性について検討を重ねた。
 - ・煉瓦造建造物に析出している塩類の可搬型X線回折分析装置を用いたその場分析の結果と、周辺の温湿度環境・レンガの含水量との比較により、劣化と保存環境に関する検討を行った結果を日本文化財科学会にて発表した。
 - ・可搬型X線回折分析装置を用いて、蒔絵硯箱の装飾に用いられている鉛材に発生した腐食生成物の分析を行った。また、腐食の原因を解明するために、資料を保管していた桐箱から放散される物質の分析も行った。それらの分析結果と金属試験片を用いた暴露試験の結果から、桐箱から放散される有機酸が腐食の原因である可能性を確認した。
 2. 据置型蛍光X線分析装置を用いた元素マッピング分析
 - ・平成29年度末に新規導入した据置型蛍光X線分析装置を用いて、青銅試料、典籍などの元素マッピングを実施し、材料の分布に関する調査を行った。
 3. 研究成果発表
 - ・これまでに得られた調査結果などをまとめて、論文2件、学会発表2件の研究成果発表を行った。また、これまでに調査を実施した絵画作品に関する光学調査報告書を刊行した。

- 論 文**・早川泰弘ほか：「国宝日月四季山水図の蛍光X線分析」『保存科学』58 pp.83-93 19.3
 ・古田嶋智子ほか：「桐箱、キリ材から放散する有機酸と鉛金属への影響」『保存科学』58 pp.41-53 19.3
- 発 表**・早川泰弘ほか：「国宝信貴山縁起絵巻の彩色材料調査」日本文化財科学会第35回大会 18.7.7-8
 ・犬塚将英ほか：「INAXライブミュージアム「窯のある資料館」における保存環境と塩類析出に関する調査(2)」日本文化財科学会第35回大会 18.7.7-8
- 刊行物**・『国宝 信貴山縁起絵巻 蛍光エックス線分析結果』18.7
 ・『カトリック長崎大司教区所蔵 無原罪の聖母図(聖母マリアの御絵) 光学調査報告書』19.1

研究組織 ○犬塚将英、早川泰弘、佐藤嘉則、小峰幸夫(以上、保存科学研究センター)、城野誠治(文化財情報資料部)、岡田健、古田嶋智子(以上、客員研究員)

屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究(ホ04)

目 的 屋外に所在する石造・木質文化財を対象に、覆屋の機能・遺構の露出展示に関する課題として、周辺環境等の劣化要因の究明及び修復材料・技術に関する研究を行う。また、石塔など石造文化財の災害事例及び災害対策に関する基礎的調査を行う。また、現在一時保管場所での長期的な保管を余儀なくされている被災文化財に関して、その保存・修復方法に関する研究を進める。

成 果 屋外に位置する各種の文化財の劣化状況、保存環境、保存対策について、以下の通り調査研究を進めた。

1. 新宮市の一遍上人名号碑や安来市の塩津神社古墳などでSfMによる三次元計測を試み、現在の劣化状況を記載し、それと環境との関係から望まれる保存対策を検討した。
2. 熊本地震で被災した古墳や、豪雨災害で被災した山都町の通潤橋など、被災文化財において被災状況の調査を行い、適切な修復方針の策定に寄与した。
3. 牧島アンモナイト館において化石産出露頭に着生する藻類について、過去に古墳などで行ってきた対処を応用してそれを軽減させる試みを実施した。
4. あきる野市の大岳鍾乳洞、臼杵市の風連鍾乳洞、美祢市の秋芳洞など、各地の鍾乳洞で起きている、「照明をLEDに替えたら緑色生物が目立つようになった」という問題について調査を開始し、照度や照明の波長特性などのデータを蓄積し始めた。



アンモナイト館における藻類軽減対策の「蓋」

- 論 文**・朽津信明：「日本における石碑保存の歴史的事例とその考え方」『保存科学』58 pp.55-71 19.3
 ・Simple Evaluation of the Degradation State of Cultural Heritage Based on Multi-view Stereo. (Nobuaki Kuchitsu, Masayuki Morii, Shuji Sakai, and Hiroki Unten) 『Progress in Earth and Planetary Science』2019.6.12 pp.1-9 19.2
- 発 表**・朽津信明、森井順之、柳沼由可子：「ウトグチ瓦窯跡における着生生物繁茂を与える光環境」第40回文化財保存修復学会大会 18.6.16
 ・朽津信明、森井順之、犬塚将英：「覆屋の藻類繁茂軽減効果に関する研究」日本文化財科学会第35回大会 18.7.7-8
 ・朽津信明、森井順之、柳沼由可子、酒井修二、運天弘樹：「過去に造られたレプリカを利用した露頭の風化速度の検証」日本応用地質学会平成30年度研究発表会 18.10.16-17

研究組織 ○朽津信明、柳沼由可子(以上、保存科学研究センター)、前川佳文(文化遺産国際協力センター)

文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究(ホ05)

目 的 美術工芸品や建造物等の修復に貢献するため、伝統的な修復材料・技法についての科学的調査を行い、その安定性についての評価を行う。伝統的に使用されており、科学的な解明が必要とされる材料についての化学的調査を行い、修復現場での明確な適用を検討する。伝統的な技法についての記録やその効果についての科学的解明を行う。また旧来の材料・技法では施工が困難とされてきたものについて、新規の材料・技法の開発に関する調査研究を行う。

成 果 1. 文化財の伝統材料と修復材料に関する調査

- ・古典的製法で作製された膠に関する研究

古典的製法で作製された膠の基本物性の測定と現場での使用条件の確立を行った。これらの成果を東京藝術大学陳列館において「膠と修理 ―『序の舞』を守る―」として10月14～19日に展示発表した。

- ・絵画の基底材に関する調査

平成30年度は絵画の基底材の調査を行った。特に、絹糸の断面形状により絵画の彩色効果が異なること、その断面形状が時代によって異なる可能性があることに着目し、非破壊のデジタルマイクロスコプ調査を用いて絵画に使用されている絹の現地調査、及び参照資料の測定や分析を行った。併せて自然布の基底材に関する調査も行った。

- ・漆に関する調査

日本産の漆と東南アジアの漆の塗膜の硬度比較を行った。また、適切な保存環境についての条件確立を目的としてこれらの劣化試験を行い、物性の差異を数値化した。

2. 文化財の修復技法に関する研究

- ・ジェルクリーニング方法に関する検討

油污損の文化財クリーニングへの適用などを目的に、ゲルを使用した場合の現場適用方法を検討した。汚れの除去効果に加え、作業環境の評価も行い、安全な有機溶媒の使用方法を調査した。

- ・11月22日に「文化財修復の現状と諸問題に関する研究会」を開催した。参加者は104人であった。



東京藝術大学陳列館における「膠と修理」展示風景

論 文・早川典子ほか：「画絹の物性に及ぼす断面形状・殺蟬方法の影響 ―大和文華館所蔵作品調査データを含めて―」『保存科学』58 pp.1-20 19.3

- ・倉島玲央ほか：「ミャンマー漆と日本漆の塗膜硬さに関する定量的評価」『保存科学』58 pp.95-106 19.3 ほか2件

発 表・藤井佑果ほか：「Pemulen® TR-2ゲルを利用した液体汚損クリーニングー油除去作業を例にして―」文化財保存修復学会第40回大会 18.6.17

- ・内田優花ほか：「接着剤およびアーカイバルテープの劣化」文化財保存修復学会第40回大会 18.6.17 ほか8件

研究組織 ○早川典子、佐藤嘉則、倉島玲央、藤井佑果、岡部迪子、山府木碧（以上、保存科学研究センター）、安永拓世（文化財情報資料部）、菊池理予（無形文化遺産部）、本多貴之、酒井清文、貴田啓子（以上、客員研究員）

近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究(ホ06)

目 的 近代の文化遺産は、絵画、彫刻、木造建造物等従来の文化財とは、規模、材質、製造方法等に大きな違いがあるため、その保存修復方法や材料にも大きな違いがある。本研究では、近代の文化遺産の保存修復を行う上で必要とされる材料と技術について調査研究を行う。具体的には、大型構造物の劣化機構の解明とその修復方法の究明、航空機、船舶、鉄道車両等の保存修復上の問題点とその解決方法の究明を目指している。

成 果

1. コンクリート造建造物の保存と修復に関する研究
歴史的コンクリート造建造物の保存と修復に関する現状の課題を踏まえ、国内外に所在する約40件(世界平和記念聖堂、サルギナトーベル橋(スイス)等)の現地調査を行い、実態把握と事例収集等を行った。令和元年度に報告書の刊行を予定している。
2. 近代文化遺産の活用に関する研究
全国近代化遺産活用連絡協議会協力者会議委員等として、近代文化遺産の活用に関する包括的な検討を行った。また台湾における近代化遺産活用の事例を実査し、その概要を冊子にまとめると共に、台湾の政府機関・大学と協力して、近代文化遺産に関するシンポジウムを東京、大阪、台北で計3回行った。
3. 国際基督教大学所蔵ジェットエンジン部品に関するシンポジウム
平成29年度に調査報告書を刊行した、国際基督教大学所蔵ジェットエンジンをテーマとするシンポジウムを6月に開催した。
4. 報告書の刊行
平成29年度に実施した鉄構造物の保存と修復に関する研究内容を報告書にとりまとめた。また、同年に刊行した和文報告書「煉瓦造建造物の保存と修復」の英語版を刊行した。

報 告・石田真弥：「旧安田銀行担保倉庫の保存・活用に関する取り組み：煉瓦建造物の保存活用に関する研究－16」『第89回 日本建築学会関東支部研究報告集Ⅱ』 pp.73-112 19.3

・石田真弥、関崇夫：「煉瓦寸法の変遷と組積技術の関連性に関する研究：群馬県内の煉瓦造建造物を対象として」『前橋工科大学研究紀要』22号 pp.13-22 19.3

発 表・北河大次郎：「“ここ”の歴史へー幻のジェットエンジン、語るー」 国際基督教大学アジア文化研究所・平和研究所／東京文化財研究所 18.6

・北河大次郎：「砂防施設と文化財について」 国土交通省北陸地方整備局 18.6

・北河大次郎：「日本における近代化遺産に関する文化財保護行政の展開について」 台湾文化部文化資産局 18.8

・北河大次郎：「わが国防災遺産の系譜と立山砂防」 富山県世界遺産登録推進事業実行委員会 18.9

・北河大次郎：「20世紀遺産と立山砂防」 土木学会 18.10

・北河大次郎：「台湾における近代化遺産活用の最前線、趣旨説明および討議」 東京文化財研究所 19.3

刊行物・『鉄構造物の保存と修復』 東京文化財研究所 18.8

・『Conservation and Restoration of Brick Masonry Structures』 東京文化財研究所 19.3

研究組織 ○北河大次郎、石田真弥、鳥海秀実(以上、保存科学研究センター)、中山俊介(文化遺産国際協力センター)、簡佑丞、荻田重賀、小堀信幸、堤一郎(以上、客員研究員)

文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力(ホ)

目 的 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。また、キトラ古墳壁画の彩色及び漆喰の状態調査並びに展示環境の制御とモニタリング方法の調査研究を行う。

成 果 高松塚古墳壁画に関しては、平成30年度も修理施設内での害虫等生息調査、浮遊菌・付着菌量調査、温湿度推移のモニタリングを継続し、安全な保存空間の維持に努めた。また、空調制御プロセスの解析を、構築した計測システムによって行った。

修復作業に関連する調査研究としては、粗鬆化した漆喰部分への強化方法の検討を行い、材料を確定した上、実作業を行った。加えて、今後の保存修復方法についての現場協議を重ねた。また、関連する国内外の古墳の視察と調査を行った。

キトラ古墳壁画に関しては、「四神の館」における保管及び公開の環境について調査協力し、年間5回の集中メンテナンスに立会い、状況の改善を検討した。さらに、今までの修理記録についてデータベースの作成を行った。また、現状は泥に覆われている、「辰」「巳」「申」に該当すると推定される漆喰片について、X線透過撮影による顔料の可視化を検討した。泥の厚み、漆喰の厚み、顔料の濃度の条件を変化させて試料を作成して撮影条件の検討を行い、その上で実際の撮影を行った。



修復前



酵素処置後（2018年度現状）

発 表・早川典子ほか：「高松塚古墳壁画の修復報告 一国宝絵画としての保存修復処置一」 文化財保存修復学会第40回大会 18.6.17

・Masahide Inuzuka, et.al：「Investigation of thermal environment inside the shelter for decorated tumulus in Japan」 International Institute for Conservation 18.9.14 ほか2件

研究組織 ○佐野千絵、早川泰弘、吉田直人、佐藤嘉則、朽津信明、犬塚将英、早川典子、倉島玲央、小峰幸夫、嶋原由美、藤井佑果(以上、保存科学研究センター)、前川佳文(文化遺産国際協力センター)、川野邊渉(特任研究員)、大場詩野子(客員研究員)

無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集(Δ05)

目 的 無形文化遺産保護に関わる国際的動向の情報収集を図り、アジアを中心とする海外の研究機関等との研究交流を実施し、国内外の無形文化遺産保護に貢献する。

成 果 1. 韓国との交流事業では、韓国国立無形遺産院との研究交流の一環として、無形文化遺産部の石村智を派遣し、2018(平成30)年4月23日～5月7日の間、済州島で人類学者・泉靖一(元京城帝国大学助教授・文化人類学者)の調査の来歴について研究した。また10月15日～11月2日の間、韓国文化財庁国立無形遺産院学芸研究士の尹秀京氏を受け入れ、民俗技術に関する共同調査を実施した。主に製塩技術(石川県珠洲市)、製茶技術(静岡県静岡市・京都府宇治市)を中心に現地調査を実施した。その成果は11月2日の成果発表会(於:本研究所)において発表された。



韓国国立無形遺産院との交流事業における民俗技術の調査の様子(宇治市)

2. 無形文化遺産分野の国際的情報収集では、ユネスコ無形文化遺産条約第13回政府間委員会(開催国モーリシャス:2018(平成30)年11月26日～12月1日)に2名のスタッフ(石村・二神)を派遣し、ユネスコ無形文化遺産条約に関する情報収集を行った。特に日本国政府代表団の発言に際し、「無形文化遺産と防災」に関連した助言を行い、本研究所の研究成果の発信につながった。なお本調査の成果は『無形文化遺産研究報告』第13号において「無形文化遺産の保護に関する第12回政府間委員会における議論の概要と今後の課題」として報告した。
3. アジア太平洋無形文化遺産研究センター(IRCI)が実施する事業「アジア太平洋地域における無形文化遺産の防災」に協力し、2018(平成30)年12月7日～9日に仙台市で開催された「Asia-Pacific Regional Workshop on Intangible Cultural Heritage and Natural Disasters」でIRCIと共に無形文化遺産部が共同議長をつとめた。

- 論 文**・Tomo Ishimura, Yoko Nojima, Iaitia Senikuraciri Loloma, and Elizabeth F. D. Edwards: The ICH situation during the aftermath of tropical cyclone Winston: Results of the preliminary field survey in Ra Province, Fiji. Preliminary Research on ICH Safeguarding and Disaster Risk Management in the Asia-Pacific Region, pp. 115-131. International Research Centre for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (IRCI) 19.3
- ・Yoko Nojima, Tomo Ishimura, Cecilia V. Picache, and Norma A. Respicio: Intangible Cultural Heritage and natural hazards in the Philippine Cordilleras: Preliminary report of the field research in Abra and Ifgao. Preliminary Research on ICH Safeguarding and Disaster Risk Management in the Asia-Pacific Region, pp. 132-137. International Research Centre for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (IRCI) 19.3
 - ・二神葉子:「無形文化遺産の保護に関する第13回政府間委員会における議論の概要と今後の課題」『無形文化遺産研究報告』13 pp.1-21 19.3

- 発 表**・Tomo Ishimura: Safeguarding Cultural Heritage in the Pacific: Current Issues and Perspectives. World Social Science Forum 2018, Fukuoka. 18.10.26

研究組織 ○飯島満、久保田裕道、前原恵美、石村智、今石みぎわ、菊池理予(以上、無形文化遺産部)、二神葉子(文化財情報資料部)、宮田繁幸、松山直子、神野知恵(以上、客員研究員)

アジア諸国等文化遺産保存修復協力 (コ02)

目 的 東南アジア、西アジアやその周辺地域における文化遺産保存修復事業等への協力及びこれに関する調査研究の実施を通じて、文化遺産の保存修復及び管理活用に関する技術移転を図るとともに、この分野での国際協力を推進する。

- 成 果**
1. 研究会「大陸部東南アジアにおける木造建築技術の発達と相互関係」の開催（2018（平成30）年12月16日）。タイとミャンマーより建築遺産専門家各1名を招聘（2018（平成30）年12月14日～19日）
 2. カンボジア・アンコール・タネイ寺院保存整備計画策定支援等
 - ア) 考古発掘（東参道及びテラス遺構の継続調査、外周壁東門周囲）、外周壁東門建造物修復に向けた支保工置換及び3Dスキャニングによる現状記録、寺域東方の地形測量等の作業を実施（2018（平成30）年6月3日～9日、8月18日～10月8日、2019（平成31）年1月19日～26日、3月7日～18日）
 - イ) アンコール遺跡保存国際調整委員会技術会合への参加及び報告（2018（平成30）年6月5日～6日）
 - ウ) 東南アジア考古学会例会（於奈良文化財研究所）における報告（2018（平成30）年10月15日）
 3. イラン文化遺産手工芸観光庁及び文化遺産観光研究所との協力事業
 - 同国国立博物館における「博物館の環境管理に関するイラン人専門家研修」及び関連調査の実施（2018（平成30）年10月18日～26日）
 4. アルメニア・エチミアジン大聖堂博物館及び同国歴史文化遺産科学研究センターにおける「染織文化遺産に関する保存修復研修」の実施、ジョージアにおける協力可能性調査（2018（平成30）年6月19日～7月12日）
 5. ブータンにおける歴史的民家保存に関する調査実施及び関係機関打合せ（2019（平成31）年1月13日～19日）
 6. 韓国・平昌で開催された第12回アジアの建築交流国際シンポジウム（ISAIA2018）に参加し、ブータンの伝統的民家建築について発表（2018（平成30）年10月23日～26日）

発 表・Masahiko TOMODA et al.: “Conservation and Sustainable Development Plan of Ta Nei Temple and Progress of the Archaeological Investigation” The 30th Technical Session of ICC-Angkor, 18.6.5

・Alejandro Martinez, Masashi Abe: “Conservation and Archaeological Investigation at Ta Nei Temple, Angkor”, 第262回東南アジア考古学会例会 18.10.15

・Masahiko TOMODA et al.: “Architectural features of traditional houses in Bhutan” ISAIA 2018 The 12th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia, 18.10.24

刊行物・“Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor -Progress Report of 2017 and 2018-” APSARA/ TNIRICP, 19.3

・『東南アジア古代都市・建築研究会：東南アジアの古代都市を考える』東京文化財研究所 19.3

・『アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成30年度成果報告書』東京文化財研究所 19.3

研究組織 ○友田正彦、安倍雅史、山田大樹、マルティネス・アレハンドロ、間舎裕生、浅田なつみ、荒木晶（以上、文化遺産国際協力センター）、佐野千絵、小峰幸夫（以上、保存科学研究センター）、石井美恵、古田嶋智子（以上、客員研究員）、呂俊民（前客員研究員）、大石岳史（東京大学）、内田賢二（測量専門家）

保存修復技術の国際的応用に関する研究 (コ03)

目 的 文化遺産保護に関して諸外国が有する問題は、それぞれの地域、環境に応じて多種多様であり、それらへの対応には他国で実績のある既存の手法をそのまま適用することが必ずしもできない。そこで、本プロジェクトでは文化遺産の現地における持続可能な保存・修復・活用のための維持管理を目標に、各国における問題を分析し、現地の実情に即した修復技法、材料を研究するとともに、当研究所を中心に諸外国の専門家ネットワークを構築し、意見交換、技術移転をすることで、現地担当者の育成を図る。

- 成 果**
1. サザンスイス応用科学大学との共同研究に関する打ち合わせ (2018(平成30)年4月19日～29日)
 2. ミャンマー・バガン遺跡における寺院壁画の保存に向けた外壁調査と保存修復方法の研究
 - ア) 煉瓦造寺院 (Me-taw-ya 寺院) の外壁調査と保存修復方法の研究 (2018(平成30)年7月11日～8月5日) (2019(平成31)年1月14日～2月3日)
 - イ) 考古国立博物館局バガン支局職員を対象にしたワークショップの実施
- ◆ワークショップテーマ
- A: 煉瓦造寺院外壁の保存修復 (2018(平成30)年7月16日～31日) (2019(平成31)年1月18日～30日)
 - B: 地震被災箇所の応急処置 (2019(平成31)年1月18日～25日)
 - C: 壁画保存修復 (2018(平成30)年7月16日～31日) (2019(平成31)年1月18日～30日)
3. バガン王朝期における壁画技法と図像学に関する調査 (2018(平成30)年7月14日～23日) (2019(平成31)年1月16日～23日)



地震被災箇所の保存修復



壁画技法と図像学に関する調査風景

論 文・Maria Letizia Amadori, Paola Fermo, Valentina Raspugli, Valeria Comite, Francesco Maria Mini, Yoshifumi Maekawa, Mauro La Russa: "Integrated scientific investigations on the constitutive materials from Me-taw-ya Temple, Pagán Valley, Burma (Myanmar)" Journal of the International Measurement Confederation Volume 131, 19.1

発 表・Yoshifumi Maekawa: "Il progetto in corso di Tokyo National Research Institute for Cultural Properties" University of Applied Sciences and Arts of Italian Switzerland 18.4.26

・鳴原由美、前川佳文「ミャンマー・バガン考古遺跡群における壁画保存修復に向けた調査研究—美術史的・技法的視点による壁画調査—」文化財保存修復学会第40回大会 18.6.17

・鳴原由美、前川佳文「ミャンマー・バガン考古遺跡群における壁画の保存管理に関する調査」日本文化財科学会第35回大会 18.7.7-8

刊行物・『ミャンマー・バガン遺跡における煉瓦造寺院外壁の保存修復および壁画調査 平成30年度成果報告書』東京文化財研究所 19.3

研究組織 ○加藤雅人、前川佳文、増淵麻里耶(以上、文化遺産国際協力センター)、鳴原由美(保存科学研究センター)

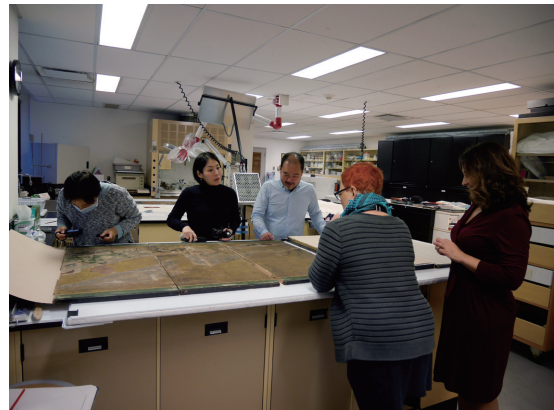
在外日本古美術品保存修復協力事業 (コ04)

目 的 日本の文化財は欧米を中心に海外でも多く所蔵されている。しかし、日本の文化財の保存修復専門家は海外にほとんどおらず、多くの博物館などで適切な処置に窮している。そこで、本事業では海外で所蔵されている日本の文化財のうち絵画作品及び漆工芸品の保存修復に関する助言等の協力を行う。また本格的な修復が必要な作品に関しては日本で修復して返還する。さらに、作品の性状に応じて保存修復方法に関する研究を行い、結果を公開、共有する。

- 成 果**
1. 作品修復を行った。
 - ア) ナショナル・ギャラリー・オブ・ビクトリア (オーストラリア) 所蔵 佐々木泉玄筆「般若図」1幅
以上、修復完了
 - イ) ナショナル・ギャラリー・オブ・ビクトリア (オーストラリア) 所蔵 「親鸞聖人絵伝」4幅
 - ウ) インディアナポリス美術館 (アメリカ) 所蔵 鈴木其一筆「八橋図・檜図」6曲1双
 - エ) インディアナポリス美術館 (アメリカ) 所蔵 曾我蕭白筆「太公望図・林和靖図」2幅
 - オ) インディアナポリス美術館 (アメリカ) 所蔵 雲谷等顔筆「煙寺晚鐘図・平沙落雁図」2幅
以上4件、修復中
 2. 調査を行った。
モントリオール美術館 (カナダ)、日本絵画の調査 (2018 (平成30) 年11月26日～28日)
 3. 研究を行った。
上記作品修復のための修復技法及び材料に関する基礎研究



絵画作品修復



調査風景 (カナダ)

- 発 表**・小田桃子ほか：「クラクフ国立博物館所蔵 狩野董川中信筆『月下秋景図』(絹本着色 掛軸装) 修復事例報告」 文化財保存修復学会第40回大会 18.6.17
- ・元喜載ほか：「日本絵画の裏彩色に対する剥落止めに用いる膠水溶液濃度の検討」 文化財保存修復学会第40回大会 18.6.17
- 刊行物**・『在外日本古美術品保存修復協力事業 遊女と禿図 No.2015-1 修復報告』東京文化財研究所 19.3
- ・『在外日本古美術品保存修復協力事業 瀑布溪流図 No.2015-3 修復報告』東京文化財研究所 19.3 ほか2件

研究組織 ○加藤雅人、中山俊介、元喜載、小田桃子(以上、文化遺産国際協力センター)、江村知子、安永拓世、米沢玲(以上、文化財情報資料部)、三本松俊徳、小田切真梨(以上、研究支援推進部)、藤井佑果(保存科学センター)、杉山恵助(客員研究員)

国際研修(コ05)

目 的 近年日本の材料や道具、保存修復の理念が諸外国の文化財修復に応用されるようになってきた。このような状況において、海外の保存修復関係者に直接日本の技術や知識を伝える場が求められている。本事業で国内外において研修を、政府間機関ICCROMや各国機関と共催、あるいは各国の関連機関の協力を得て開催することで、保存修復関係者への技術移転、情報共有を行う。

- 成 果**
1. 国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復 (Curso Internacional de Conservación de Papel en América Latina)」を開催した。(2018 (平成30) 年5月28日～6月13日)
主催：東京文化財研究所・ICCROM・INAH、会場：CNCPC-INAH (メキシコ・メキシコシティ)、参加者：11名 (アルゼンチン、ブラジル、コロンビア、キューバ、スペイン、パラグアイ、ペルー、メキシコ)、その他オブザーバー4名
 2. ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復 (Workshops on the Conservation of Japanese Art Objects on Paper and Silk)」を開催した。
主催：東京文化財研究所、会場：ベルリン国立博物館アジア美術館 (ドイツ・ベルリン)
ア) 基礎編「日本の紙本・絹本文化財」(2018 (平成30) 年7月4日～6日)
参加者：12名 (アメリカ、イギリス、イタリア、スペイン、ドイツ、ハンガリー、ベルギー、ポーランド、リトアニア)、その他オブザーバー1名
イ) 応用編「掛軸の修復」(2018 (平成30) 年7月9日～13日)
参加者：9名 (アメリカ、イタリア、中国、ドイツ、フィンランド、ポーランド)、その他オブザーバー1名
 3. ワークショップ「染織品の保存と修復 (Workshops on Conservation of Japanese Textile)」を開催した。
主催：東京文化財研究所・国立台湾師範大学、会場：国立台湾師範大学 (台湾・台北)
ア) 基礎編「日本の染織品文化財」(2018 (平成30) 年8月8日～10日)
参加者：9名 (アメリカ、スウェーデン、台湾、日本、フィリピン、ベルギー)
イ) 応用編「日本の染織品の保存修復」(2018 (平成30) 年8月13日～17日)
参加者：6名 (アメリカ、スウェーデン、台湾、日本、フィリピン)
 4. 国際研修「紙の保存と修復 (International Course on Conservation of Japanese Paper)」を開催した。(2018 (平成30) 年8月27日～9月14日)
主催：東京文化財研究所・ICCROM、会場：東京文化財研究所他
参加者：10名 (アルゼンチン、イギリス、オーストラリア、カナダ、ザンビア、デンマーク、フィジー、フランス、ブータン、ポーランド)
 5. ワークショップ「漆工品の保存と修復 (Workshop on Conservation and Restoration of Urushi Objects)」を開催した。(2018 (平成30) 年11月26日～30日)
主催：東京文化財研究所、会場：ケルン市博物館東洋美術館 (ドイツ・ケルン)
参加者：6名 (アメリカ、イギリス、カナダ、ドイツ、ノルウェー、フランス)

刊行物・『国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」2018』東京文化財研究所 18.12
・『ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」2018』東京文化財研究所 19.1
・『ワークショップ「染織品の保存と修復」2018』東京文化財研究所 19.2
・『ワークショップ「漆工品の保存と修復」2018』東京文化財研究所 19.3

研究組織 ○加藤雅人、中山俊介、後藤里架、五木田まきは、元喜載、小田桃子 (以上、文化遺産国際協力センター)、早川典子 (保存科学研究センター)、菊池理予 (無形文化遺産部)、三本松俊徳、小田切真梨、石川絵梨子 (以上、研究支援推進部)、石井美恵、大河原典子、杉山恵助 (以上、客員研究員)

文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究 (シ05)

目 的 東京文化財研究所で行われている調査研究に関する情報及び国内外の文化財に関するさまざまな情報について分析し、それらの情報を文化財保護に対して活用するための調査研究を実施する。また、それらの情報の効果的な公開の手法に関する調査研究を行う。

- 成 果**
1. デジタル画像の形成方法の研究開発
 - ア) 運営費交付金や外部資金による他プロジェクトの一環として、東京文化財研究所内外において、東京国立博物館所蔵の平安仏画など、多数の文化財の光学的調査やガラス乾板からの画像取得を実施、一部については成果報告書を編纂した。また、調査研究の成果を論文や研究会等で発表した。
 - イ) 文化財アーカイブズ研究室と連携し光学調査に関するデジタルコンテンツ作成を実施した。また、『春日権現験記巻十九・巻二十 光学調査報告書』を2018(平成30)年12月14日付で刊行した。
 2. 文化財情報に関する調査研究

文化財情報研究室で構築したウェブデータベースとその構築過程、及び運用についてまとめ、成果を論文や学会等で発表した。
 3. 東京文化財研究所が行う調査研究成果の発信
 - ア) 研究情報の発信の一環としてウェブサイトの運用を実施した。平成30年度は、2件のウェブデータベースの新規公開、既存データベースへのデータ追加や機能改善、ウェブサイトの適宜更新を実施した。また、メールマガジン、SNS (Facebook及びTwitter) を通じて、国内外の文化財関係者に対し活動報告や催事などウェブサイトの更新情報を中心に提供した。
 - イ) 2018(平成30)年6月30日付で『東京文化財研究所年報2017』を刊行した。編集にあたっては、各部・センターの年報部会員の協力を得た。
 - ウ) 研究成果を紹介するパネルをエントランスロビーにおいて展示した。平成30年度は文化財情報資料部による「文化財の光学的調査と記録の継承」と題した展示を実施した。
 4. 調査研究及び研究成果発信のための文化財情報基盤の整備・充実
 - ア) ネットワーク機器及びソフトウェアの保守・監視を実施、国立文化財機構内他施設の担当者との情報交換を行いセキュリティ水準の維持・向上に努めた。また、職員の情報セキュリティへの意識向上を目的に、2回の「情報システム部会研修会」を開催した。なお、所内の情報基盤整備及びセキュリティ関連業務は、各部・センターの情報システム部会員と連携して実施している。
 - イ) 所内一所外間の情報の出入を制御するファイアウォール及びプロキシの機能を統合したセキュリティシステム、ネットワーク機器の動作記録(ログ)を管理するログサーバーを導入、無線LANアクセスポイント及びコントローラーを更新した。

ウェブサイトアクセスランキング

1	東京文化財研究所トップ	6	『保存科学』
2	ガラス乾板データベース	7	黒田清輝日記トップページ
3	『日本美術年鑑』所載物故者記事	8	黒田清輝日記(日付別)
4	書画家人名データベース	9	『美術画報』所載図版データベース
5	『日本美術年鑑』所載美術界年史彙報	10	年記資料集成

(平成30年度 上位10位まで)

ウェブサイトの主な更新履歴

年月日	更 新 内 容	関 係 部 局
18.4.5	デジタルブック版『未来につなぐ人類の技 16 近代文化遺産の保存理念と修復理念』、『未来につなぐ人類の技 17 煉瓦造建造物の保存と修復』公開	保存科学研究センター
18.4.10	Workshop on Conservation and Restoration of Urushi Objects 2018 参加者募集	文化遺産国際協力センター
18.4.16	シンポジウム「“ここ”の歴史へー幻のジェットエンジン、語るー」開催	保存科学研究センター
18.4.27	記録された日本美術史ー相見香雨、田中一松、土居次義の調査ノート展ー開催	文化財情報資料部
18.5.8	ゲッティ研究所副所長 キャスリーン・サロモン氏講演会報告書 公開	文化財情報資料部
18.5.15	明治大正期書画家番付データベース 及び 書画家人名データベース（明治大正期書画家番付による）公開	文化財情報資料部
18.6.6	エントランスロビーパネル展示「文化財の光学的調査と記録の継承」	文化財情報資料部
18.6.7	第12回公開学術講座・第24回東京三味線・東京琴 展示・製作実演会 開催	無形文化遺産部
18.7.27	東京文化財研究所長の逝去	東京文化財研究所
18.9.14	デジタルブック版『未来につなぐ人類の技 18 鉄建造物の保存と修復』公開	保存科学研究センター
18.9.27	第52回オープンレクチャー かたちからの道、かたちへの道 開催	文化財情報資料部
18.9.27	平成30年度 文化財修復の現状と諸問題に関する研究会 開催	保存科学研究センター
18.10.15	イタリアの「1972年修復憲章」(論文・翻訳) ウェブ公開	保存科学研究センター
18.11.16	研究会「大陸部東南アジアにおける木造建築技術の発達と相互関係」開催	文化遺産国際協力センター
18.12.20	国際研修「紙の保存と修復」2019 参加者募集	文化遺産国際協力センター
19.1.8	東京文化財研究所 新所長就任	東京文化財研究所
19.1.16	第二回無形文化遺産映像記録作成研究会 開催	無形文化遺産部
19.1.25	国際シンポジウム「台湾における近代化遺産活用の最前線」開催	保存科学研究センター

(定期刊行物の公開、活動報告、公募情報を除く)

論文・早川泰弘ほか：「春日権現験記絵の彩色材料調査（巻十九・巻二十）〈巻十九〉」『春日権現験記絵 巻十九・巻二十 光学調査報告書』東京文化財研究所 pp.XRF28-30 18.12 ほかに4件

発表・城野誠治：「光学的調査の方法と成果ー科学写真からわかること」那智参宮曼荼羅絵巻本の仕立てを語る 18.12.8

・小山田智寛ほか：「文化財情報の総合データベースシステムの構築と運用」デジタルアーカイブ学会第3回研究大会 19.3.15-16 ほかに5件

刊行物・『春日権現験記絵巻十九・巻二十 光学調査報告書』東京文化財研究所 18.12

研究組織 ○二神葉子、山梨絵美子、江村知子、塩谷純、小林公治、小林達朗、小野真由美、安永拓世、橘川英規、小山田智寛、米沢玲、城野誠治、三島大暉、逢坂裕紀子、谷口每子、安岡みのり、丸山礼（以上、文化財情報資料部）

広報委員（情報システム部会）：佐野千絵（保存科学研究センター長）

各部署情報システム部会員：安達佳弘、大島大輔（以上、研究支援推進部）、小野真由美（文化財情報資料部）、石村智（無形文化遺産部）、吉田直人、倉島玲央（以上、保存科学研究センター）、加藤雅人（文化遺産国際協力センター）

広報委員（年報部会）：山梨絵美子（副所長）

各部署年報部会員：安川政和、三本松俊徳（以上、研究支援推進部）、小林公治（文化財情報資料部）、久保田裕道（無形文化遺産部）、倉島玲央（保存科学研究センター）、友田正彦（文化遺産国際協力センター）

専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充(シ06)

目 的 当研究所が行う文化財の調査・研究の成果を集約するとともに、専門性の高い資料や情報を蓄積・整理する。併せてデータベースの継続的拡充を行い、資料閲覧室を窓口にして文化財に関する総合的レファレンスを充実させる。

成 果 1. アーカイブズ・ワーキンググループ協議会の開催

全所的に文化財情報を発信するため、4半期ごとにアーカイブズ・ワーキンググループ協議会を開催した(2018(平成30)年5月11日、6月14日、9月25日、2019(平成31)年3月19日)。成果公開のための情報の標準化・規格化を進めた。

2. 刊行物アーカイブズ・システムを運用・評価し、継続的・安定的な研究情報の蓄積・公開を推進し、さらに所蔵資料の管理の効率化と情報発信力強化のため、新たに図書館システムを導入した。

3. 明治・大正期刊行の貴重書、写真資料のデジタル化推進

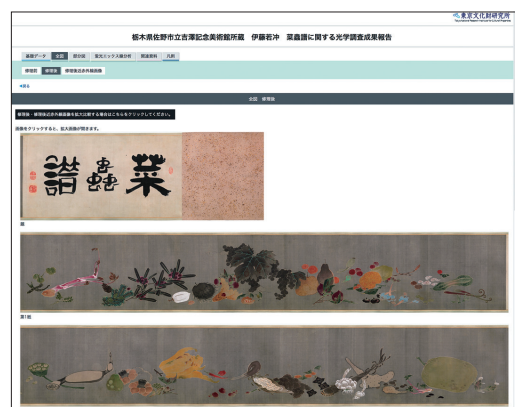
- ・当研究所及び東京美術倶楽部所蔵の売立目録について、データ入力とシステム改良を行い、売立目録デジタルアーカイブを完成させ、公開の準備を進めた。
- ・当研究所の所蔵する写真資料、近現代の美術作品カード(絵葉書資料)等のデータ入力を進め、公開のための準備を行った。

4. 美術資料のデータ化と成果公開

薬師寺所蔵「国宝 吉祥天画像」および栃木県佐野市吉澤記念美術館所蔵「伊藤若冲筆 菜蟲譜」に関するデジタルコンテンツを作成し、所内公開を行った。

5. 所蔵資料の保存と活用(田中一松資料の公開)

実践女子大学香雪記念資料館・京都工芸繊維大学美術工芸資料館「記録された日本美術史―相見香雨・田中一松・土居次義の調査ノート展」に協力し、田中一松資料を初公開したほか、口頭発表を行った。



佐野市吉澤記念美術館所蔵「伊藤若冲筆 菜蟲譜」のデジタルコンテンツ トップ画面

閲覧室事業の運営

1. 年度内資料受け入れ数

和漢書3,833件、洋書70件、展覧会図録・報告書等7,092件、雑誌1,647件(合計12,165件)

2. 年度内閲覧室利用状況

公開日総数137日・年間利用者合計1,070人

論 文・江村知子：「田中一松資料について」「記録された日本美術史―相見香雨・田中一松・土居次義の調査ノート展」シンポジウム 18.7.7

・江村知子：「田中一松の眼と手―田中一松資料、鶴岡在住期の資料および絵画作品調書を中心に」第8回文化財情報資料部研究会 19.1.29

研究組織 ○江村知子、橘川英規、安永拓世、米沢玲、二神葉子、小山田智寛、小林公治、塩谷純、小林達朗、小野真由美、城野誠治(以上、文化財情報資料部)、久保田裕道(無形文化遺産部、文化財情報資料部兼務)、吉田直人、早川典子(以上、保存科学研究センター、文化財情報資料部兼務)、加藤雅人、西和彦(以上、文化遺産国際協力センター、文化財情報資料部兼務)、永崎研宣、片山まび(以上、客員研究員)

平成30年度オープンレクチャー（調査・研究成果の公開）(シ08)

目 的 文化財情報資料部の研究成果の一部を外部講師を交えて広く一般に公開する。

- 成 果**
1. 2018(平成30)年10月26日、27日の2日間にわたり、専門家はもとより広く一般からも聴講者を募集し、オープンレクチャー「かたちからの道、かたちへの道」を開催した。研究所内部より2名、外部より2名の講演を行った。それぞれの講演テーマは次の通りである。
 - ・小山田智寛（文化財情報資料部研究員）「文化財データベースの作成とその意義について」
 - ・水野裕史（筑波大学助教）「雪村周継と臨済宗幻住派一大雄山法雲寺を起点に一」
 - ・山梨絵美子（副所長）「裸婦に表わされた地域性—フジタ・常玉・陳澄波を例に」
 - ・呉孟晋（京都国立博物館主任研究員）「伝統を現代につなぐ：齊白石が描いた花鳥のかたち」
 2. 外部からの聴講者は10月26日66名、27日68名の参加を得た。
 参加者からのアンケート結果では、10月26日の56名の回答者数のうち、「大変満足した」と「おおむね満足だった」を合わせ76.8%、10月27日の54名の回答者のうち「大変満足した」、「おおむね満足だった」を合わせ94.5%の回答を得ることができた。



オープンレクチャーの様子

研究組織 ○小林達朗、山梨絵美子、二神葉子、小林公治、塩谷純、小野真由美、安永拓世、米沢玲、橘川英規、小山田智寛、三島大暉、野城今日子（以上、文化財情報資料部）

無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化 (ム03)

目 的 無形文化遺産部が所蔵する音声・画像・映像資料のデジタル化。無形文化遺産部所蔵のアナログ資料を中心に、これまでに収集蓄積してきた分野を補完する資料の媒体転換を重点的に実施する。併せて、デジタル化を済ませた音声資料は、インデックス付与を含む整理を推進する。この事業は、将来的には資料のデータベース公開と音声・画像等の配信を目指すものである。

成 果 1. 音声記録のデジタル化は、前年度に引き続き、1960年代に放送された純邦楽関連のテープ録音を中心に収録内容を確認した。また民謡のテープ録音についてもデジタル化を実施し、収録内容の確認を行った。
2. カセットテープに関しては、旧芸能部所蔵テープのうち、寺事の現地録音を中心に内容確認を行った。
3. 無形文化遺産関連の音声資料9枚、映像資料78枚を所蔵資料として新たに登録した。

研究組織 ○飯島満、久保田裕道、前原恵美、石村智、今石みぎわ、菊池理予、佐野真規、金昭賢、半戸文、牛村仁美(以上、無形文化遺産部)

文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信 (コ01)

目 的 文化遺産の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存修復事業を実施するために必要な研究基盤整備を行う。また、研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワーク構築を推進する。

成 果 1. 文化遺産保護に関する情報収集のため、以下の国際会議やシンポジウム等に出席した。収集した情報は整理して蓄積するとともに、下記の世界遺産研究協議会開催をはじめとして、様々な機会を捉えて関係自治体等関係者に対して情報の周知を図った。



第42回世界遺産委員会（マナーマ）

- ・ 2018(平成30)年6月23日～7月5日 第42回世界遺産委員会(マナーマ)
- ・ 2018(平成30)年11月13日～17日 第91回国際文化財保存修復研究センター理事会(ローマ)
- 2. 文化遺産保護に関する情報収集のため、以下の調査を行った。収集した情報はデータベース等に蓄積するとともに、情報共有を行った。
 - ・ 2018(平成30)年5月30日 新潟県・佐渡市(世界遺産推薦準備状況にかかる調査)
 - ・ 2018(平成30)年7月12日 福岡県・福岡市(文化遺産保護にかかる海外での制度の調査)
- 3. 文化遺産保護関連の法令の収集・分析及び翻訳作業を実施し、『各国の文化財保護法令シリーズ [23] ポーランド』を刊行した。
- 4. 上記の成果について広く共有を図るため、「世界遺産研究協議会」を開催し、関係自治体等に対して得られた情報・知見の周知を図った。

発 表・二神葉子：「OUV にまつわる課題－世界遺産委員会での議論を中心に－」世界遺産研究協議会 18.9.28

・ 境野飛鳥：「第42回世界遺産委員会の報告」世界遺産研究協議会 18.9.28

刊行物・『各国の文化財保護法令シリーズ [23] ポーランド』東京文化財研究所 19.3

・『世界遺産研究協議会「戦略的 OUV 選択論」』東京文化財研究所 19.3

研究組織 ○西和彦、中山俊介、境野飛鳥、増渕麻里耶、橋本広美、石田智香子(以上、文化遺産国際協力センター)、二神葉子(文化財情報資料部)、石村智(無形文化遺産部)

プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

無形文化遺産部

第12回無形文化遺産部公開学術講座（M01の一部として実施）

無形文化遺産部では、無形文化財ならびに文化財保存技術の伝承形態を把握し、その保護に資するため、毎年、公開学術講座を行っている。今年は「伝統の音を支える技」の一環として「第12回東京文化財研究所無形文化遺産部 公開学術講座」を2018（平成30）年8月3日に東京文化財研究所にて開催した。本事業は、公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団及び文化庁の助成、東京都・公益社団法人日本三曲協会・一般社団法人長唄協会・公益財団法人日本伝統文化振興財団及び東京都伝統工芸士会の後援を受けて開催し、その成果は報告書として刊行した。

日 時：2018（平成30）年8月3日（金） 13：30～16：45

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

参加者：148名

テーマ：「伝統の音を支える技」

内 容：【講演】司会：石村智（無形文化遺産部）

前原恵美（無形文化遺産部）

「楽器製作・修理技術の調査から見えてくること」

橋本英宗（丸三ハシモト株式会社）

「邦楽器系から世界への挑戦—日本の音色を世界の音色へ—」

田村民子（伝統芸能の道具ラボ）

「伝統芸能の道具の課題を社会にひらく」

【総括】「伝統の音を支える技の今とこれから」

上記報告者と下記コメンテーターで総括を行った。

コメンテーター：谷垣内和子（公益社団法人日本芸能実演家団体協議会）

【長唄演奏】《多摩川》

唄：三井千絵・大島早智 三味線：鈴木雄司・都築明斗



保存科学研究センター

加湿温風殺虫処理に関する専門家研究集会（ホ01の一部として実施）

歴史的木造建造物の木材害虫による被害は、貴重なオリジナルの木材を損失させるだけでなく、虫害によって空洞化した木材は知らない間に構造材としての強度を損なうリスクもあり深刻な問題のひとつである。本専門家会合は、このような虫害のある歴史的木造建造物の殺虫処理方法として国内でも初となった日光中禅寺愛染堂での現地処理試験の成果を報告したうえで、関連分野の専門家のご意見をいただきながら、本法の今後の課題や展望について議論した。

日時：2018（平成30）年6月21日（木） 15：00～17：00

会場：東京文化財研究所 地下会議室

講演：木川りか（九州国立博物館）「大規模ガス燻蒸から加湿温風殺虫処理へ」

藤井義久（京都大学、客員研究員）「日光中禅寺愛染堂での湿度制御温風殺虫処理」

討議：梅津章子、番光、小澤栄一（以上、文化庁）、小暮道樹、長修、原田正彦（以上、（公財）日光社寺文化財保存会）、福岡憲（（公財）文化財建造物保存技術協会）、北原博幸（トータルシステム研究所、客員研究員）、佐野千絵、北河大次郎、犬塚将英、小峰幸夫、佐藤嘉則（以上、東京文化財研究所）

文化財修復の現状と諸問題に関する研究会 (ホ05の一部として実施)

運営費交付金事業「文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究」の一環として、文化財の現状と問題点に関しての情報共有を目的として研究会を開催した。近年、文化財に対する活用が積極的に推進されているが、それに伴い、修復対象とされる文化財も増加している。その中で、従来の修復方法や修復に対する概念では対応できなくなってきた事例も増加している。

この研究会では、今までの修理の概況に関して共有した上で、現在の修復の際に認識される問題点を分野横断的にご発表いただいた。

日 時：平成30年11月22日(木) 13:30～17:00

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

主 催：東京文化財研究所

参加者：104名

開会挨拶：佐野千絵(東京文化財研究所保存科学研究センター)

趣旨説明：早川典子(東京文化財研究所保存科学研究センター)

【総 論】美術工芸品修理への思い：佐々木利和(北海道大学)

【各 論】近年の歴史資料修理の成果と課題：地主 智彦(文化庁)

文化財修復の現状と近年の問題点～「十二の鷹」を中心に～：北村仁美(東京国立近代美術館)

平成30年における絵画修理：中野慎之(京都府)

【質疑応答】総合討議(司会：早川典子)

文化遺産国際協力センター

世界遺産研究協議会「戦略的 OUV 選択論」(④コ01の一部として実施)

コ01プロジェクトで行っている諸研究のうち、世界遺産に関する制度と最新の動向についての情報を提供するため、平成29年度に引き続き研究協議会を開催し、外部研究者を含む5名の発表を行った。本年度は、世界遺産委員会で行われた議論等についての報告に加え、世界遺産の推薦書作成にあたって顕著な普遍的価値(OUV)をどのように考えるかについて、様々な立場からの報告を通じて、その実際について知る機会を提供した。

日 時：2018(平成30)年9月28日(金) 13:00～20:00

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

参加者：71名

発表者及び題名：境野飛鳥(東京文化財研究所)「第42回世界遺産委員会の報告」

二神葉子(東京文化財研究所)「OUVにまつわる課題ー世界遺産委員会での議論を中心にー」

川口洋平(長崎県)「推薦書作成物語-地元の思いと登録基準の狭間で-」

松浦利隆(群馬県立女子大学)「OUVをどう「物語る」か」

平田賢明(小値賀町教育委員会)「OUVと資産保全の課題-長崎県野崎島の事例-」

質疑応答

懇談会・ミニプレゼンテーション：

下村優理(堺市)「推薦書作成にかかる英訳業務」

松岡明子(香川県)「四国八十八箇所霊場と遍路道」

研究会「大陸部東南アジアにおける木造建築技術の発達と相互関係」(③コ02の一部として実施)

東南アジアの木造建築文化をテーマとする研究会を平成28年度よりシリーズ開催している。本年度は、現存する木造建築遺構から読み取れる技術的な特徴や、その発達過程における域内相互、さらには域外との関係性をテーマに、カンボジア・タイ・ミャンマーの3か国に主に焦点を当てて、報告・討議を行った。

日 時：2018(平成30)年12月16日(日) 10:30～17:00

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

参加者：52名

講 演：フランソワ・タンチュリエ(インヤー・ミャンマー学研究所理事)

「長期持続」にみる木造建築伝統とその発展に関するカンボジアとミャンマーの比較検討

ポントーン・ヒエンケオ(タイ王国文化省芸術局建造物課主任建築家)

「タイにおける木造建築技術の発展および近隣地域との相互関係」

討 議：モデレーター：友田正彦(文化遺産国際協力センター保存計画研究室長)

パネリスト：大田省一(京都工芸繊維大学准教授)

フランソワ・タンチュリエ

ポントーン・ヒエンケオ

文化財情報資料部

総合研究会(④シ)

総合研究会は、各研究部・センターの研究員がプロジェクトの成果や経過を発表し、その内容に関して所内の研究者間で自由に討論する場である。平成30年度は下記のスケジュールで開催した。

- ・第1回 2018(平成30)年6月5日(火)
発表者：小山田智寛(文化財情報資料部)「文化財情報のデータベース化：その公開と課題」
- ・第2回 2018(平成30)年10月2日(火)
発表者：西和彦(文化遺産国際協力センター)「文化財保護法改正をどう考えるか」
- ・第3回 2018(平成30)年11月6日(火)
発表者：無形文化遺産部「無形文化遺産と災害」
- ・第4回 2018(平成30)年12月4日(火)
発表者：倉島玲央(保存科学研究センター)「漆の科学分析」
- ・第5回 2019(平成31)年1月8日(火)
発表者：飯島満(無形文化遺産部)
「東京文化財研究所無形文化遺産部所蔵音声資料のデジタルアーカイブ化に向けて」
- ・第6回 2019(平成31)年2月5日(火)
発表者：中山俊介(文化遺産国際協力センター)「近代文化遺産の保存に関わって」

文化財情報資料部

文化財情報資料部研究会(④シ)

文化財情報資料部では、ほぼ月に1回のペースで美術史研究者を中心とする研究会を開催して、それぞれの研究やプロジェクトの成果を発表し、さらに討議によって充実を図っている。平成30年度の開催内容は

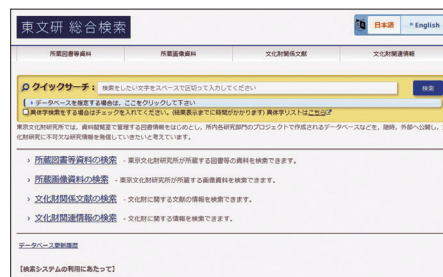
下記の通り。

- 4月24日(火) 田所泰(文化財情報資料部)「武村耕靄と明治期の女性日本画家について」
- 5月23日(水) 橘川英規(文化財情報資料部)「カリフォルニア大学ロサンゼルス校におけるアーカイブズの収受・保存・提供—ヨシダ・ヨシエ文庫を例に—」
- 6月26日(火) 小野真由美(文化財情報資料部)「土佐光起著『本朝画法大伝』考—「画具製法并染法極秘伝」を端緒として—」コメンテーター：下原美保(鹿児島大学)
- 7月30日(月)「ワット・ラーチャプラディットの日本製扉部材と伏彩色螺鈿に関する研究会」
二神葉子(文化財情報資料部)「ワット・ラーチャプラディットの日本製扉部材と伏彩色螺鈿に関する調査研究の概要」
高桑いづみ(特任研究員)・長井尚子(中央大学)「ワット・ラーチャプラディットの漆絵に見られる楽器等のモチーフ」
薬師寺君子(昭和薬科大学)「ワット・ラーチャプラディットの漆絵に見る故事人物図について」
城野誠治(文化財情報資料部)「ワット・ラーチャプラディットの扉部材の撮影」
犬塚将英(保存科学研究センター)「X線透過撮影によるワット・ラーチャプラディットの扉部材の構造調査」
本多貴之(明治大学)「ワット・ラーチャプラディットの扉部材の分析」
早川泰弘(保存科学研究センター)「ワット・ラーチャプラディット漆絵・螺鈿扉の蛍光X線分析結果」
増渕麻里耶(文化遺産国際協力センター)「ワット・ナーンチー及びワット・ラーチャプラディットの漆絵・螺鈿扉の蛍光X線分析結果」
山下好彦(漆工品保存修復専門家)「江戸時代後期の薄貝螺鈿技法に関する考察—ワット・ラーチャプラディット寺院螺鈿扉と輸出漆器」
勝盛典子(中之島香雪美術館)「伏彩色螺鈿再考—技法と史的資料から」
討議 コメンテーター：永島明子(京都国立博物館)
- 10月2日(火) 神谷嘉美(金沢大学)「平時絵技法で用いられる金属材料の形状について—南蛮漆器作例を中心に—」コメンテーター：室瀬和美(漆工家)
- 11月27日(火) 京都絵美(東京藝術大学)「絹本着色技法の史的展開について—仁和寺所蔵孔雀明王像をめぐる一考察—」
- 12月26日(水) 山本聡美(共立女子大学)「病苦図像の源流—静嘉堂文庫蔵「妙法蓮華経变相図」について」
相澤正彦(成城大学文学部)「静嘉堂文庫美術館本「春日曼荼羅」と高階画系」
- 1月29日(火) 江村知子(文化財情報資料部)「田中一松の眼と手—田中一松資料、鶴岡在住期の資料および絵画作品調書を中心に」
多田羅多起子(京都造形芸術大学)「近代京都画壇における世代交代のきざし—土居次義氏旧蔵資料を起点に—」
- 2月28日(木) 米沢玲(文化財情報資料部)「二幅の不動明王画像」
- 3月26日(火) 谷古宇尚(北海道大学)「サハリンと千島列島の美術」

文化財情報資料部

東文研 総合検索(シ05の一環として実施)

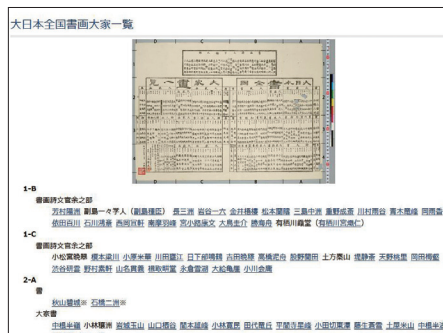
東京文化財研究所が所蔵する図書や雑誌、展覧会カタログ、画像等の資料、東京文化財研究所の定期刊行物、国内外の美術関係文献等について、メタデータを横断的に検索することが可能なウェブデータベースで、デジタルデータを公開する「研究資料データベース」も含め、28件のデータベース、約126万件のデータを検索対象とする。検索画面は日英両言語に対応している。当研究所の定期刊行物については、本文のPDFデータを閲覧することも可能である。なお、日本国外における美術展覧会・映画祭開催情報、及び日本国外で出版された書籍情報に関しては、英国セインズベリー日本藝術研究所が採録した情報を受け入れている。



文化財情報資料部

研究資料データベース(シ05の一環として実施)

東京文化財研究所が作成、収集した研究資料の画像データやテキストデータを検索・閲覧することができるウェブデータベース。現在、18件のデータベース、9万件弱のデータを公開しており、すべてのデータベースを横断的に検索可能で、一部を除き「東文研 総合検索」からの横断検索にも対応している。平成30年度には、明治大正期に刊行された書画家番付61点を対象に、そのデジタル画像を取得し、番付の名称及び所載の人名による検索を可能とした「明治大正期書画家番付データベース」、及び同データベース所載の人名を一覧化し、各番付での分類を示した「書画家人名データベース(明治大正期書画家番付による)」の2件を追加した。www.tobunken.go.jp/materials/



文化財情報資料部

2-(4)-②-1)

平成29年版『日本美術年鑑』刊行事業・出版事業『美術研究』(シ07)

日本美術年鑑

2017

東京文化財研究所

『日本美術年鑑』

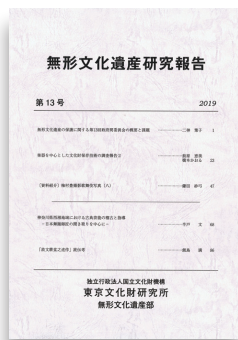
日本美術年鑑は、我が国の各年の美術活動と美術研究・批評の状況を記録した刊行物である。文化財情報資料部では当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所が1936(昭和11)年から始めた『日本美術年鑑』の編集を引き継ぎ、刊行を継続してきた。平成29年版は、B5判、566ページとなった。出版に際し、東京美術商協同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。

『美術研究』

1932(昭和7)年1月、当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所の初代所長・矢代幸雄の提唱により第1号を刊行。以来、80年以上にわたり、日本・東洋の古美術ならびに日本の近代・現代美術とこれらに関する西洋美術についての論文、研究ノート、書評、展覧会評、研究資料・図版解説等を掲載している。本年度は425号、426号、427号を刊行した。出版に際して、東京美術商協同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。

美術研究

無形文化遺産部出版関係事業(Δ04)

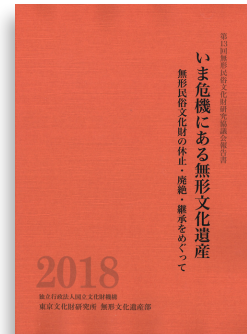


『無形文化遺産研究報告』

無形文化財や無形民俗文化財、文化財保存技術に関する研究論文、調査報告、資料紹介等を掲載している。

『無形民俗文化財研究協議会報告書』

無形文化遺産部では毎年テーマを定め、保存会関係者・行政担当者・研究者などが一堂に会して無形の民俗文化財の保護と継承について研究協議する会を開催している。第13回にあたる本年度は、「いま危機にある無形文化遺産—無形民俗文化財の休止・廃絶・継承をめぐる—」をテーマとして開催し、その報告・総合討議の内容などをまとめて報告書として刊行した。



保存科学研究センター

2-(4)-②-1)

『保存科学』第58号の出版(ホ07)



『保存科学』第58号

佐野千絵、稲葉政満（東京藝術大学大学院美術研究科教授）、和田浩（東京国立博物館）、中山俊介、早川泰弘の5名からなる編集委員会を編成、投稿された15件全ての原稿に対して、査読委員による査読を実施、報文2件、報告11件、計13件の掲載を決定した。

ウェブページURL

<https://www.tobunken.go.jp/~ccr/pdf/58/MOKUZI158.html>

広報委員会

『東京文化財研究所概要』、『TOBUNKENNEWS』

『東京文化財研究所概要』は当研究所の組織や活動内容を、写真を多用して日英2ヶ国語により簡潔に紹介している。平成30年度の概要はA4判37ページ。

『TOBUNKENNEWS』はウェブサイト公開した毎月の「活動報告」から、紙媒体に適した記事を精選し、文化財保存に関するコラム、刊行物紹介等とともに掲載している。A4判。平成30年度はNo.67（7月刊、52ページ）、68（11月刊、48ページ）、69（2019年3月刊、48ページ）を刊行した。

『東京文化財研究所概要』、『TOBUNKENNEWS』はそれぞれ、各部・センターからの部会員で構成される東京文化財研究所広報委員会の概要部会、ニュース部会が作成し、編集事務はいずれも研究支援推進部企画渉外係が担当している。



プロジェクトの一環として刊行された刊行物



『東京国立博物館所蔵 国宝平安仏画—光学調査報告書』

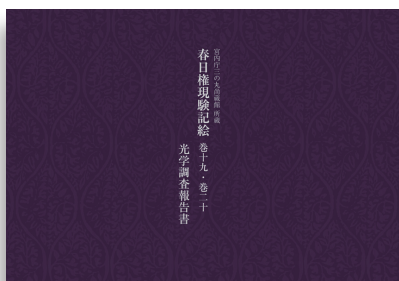
東京国立博物館が所蔵する国宝平安仏画「普賢菩薩像」「虚空蔵菩薩像」「千手観音像」「孔雀明王像」について同館と共同で行った光学調査報告書。高精細写真、近赤外線写真、蛍光写真、透過X線写真及び蛍光X線分析結果とそれによって得られた知見を収録した。2019年3月刊行、263ページ。<https://live-art-books.jp/topics/detail/post-820>より購入可。

(①シ02の一環として実施)

『黒田清輝 黒田記念館所蔵品より』

東京国立博物館と東京文化財研究所の編集で、黒田記念館への来館者の鑑賞の手引きとなる冊子を作成。《湖畔》や《智・感・情》を含む黒田記念館の主要作品46点をカラー図版で紹介しながら、“日本近代洋画の父”黒田清輝の代表作や画業についてわかりやすく解説。2019年1月刊行、40ページ。

(①シ03の一環として実施)



『宮内庁三の丸尚蔵館所蔵 春日権現験記絵

巻十九・巻二十 光学調査報告書』

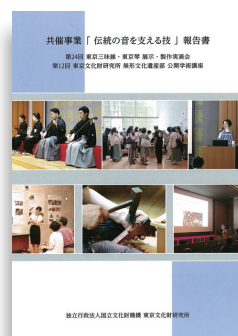
東京文化財研究所が宮内庁三の丸尚蔵館と共同で2003(平成15)年から実施してきた、鎌倉時代を代表する絵巻物「春日権現験記絵」全20巻のうち、巻十九・巻二十を対象とした光学調査報告書である。高精細画像と蛍光X線分析による彩色材料調査結果を併せて収録した。2018年12月刊行、143ページ(縦組)+XFR95ページ(横組)。

(④シ05の一環として実施)

共催事業『日本の音を支える技』報告書

2018(平成30)年8月3日、東京文化財研究所で行われた東京邦楽器商工業協同組合との共催事業「伝統の音を支える技」の成果報告書である。本事業の一環として行われた「第12回 東京文化財研究所 無形文化遺産部 公開学術講座」をはじめ、「楽器製作実演」、「パネルトーク」、「長唄演奏《多摩川》」を通して、実演家、楽器製作者、研究者、愛好家、教育者など様々な立場の参加者が一堂に会し、芸能を支える楽器製作技術やその現場が抱える課題を共有し、課題解決にむけた議論を行った。本報告書には全内容とパネル、配布資料、アンケート結果等を収めた。PDF版は無形文化遺産部のウェブサイトでも公開。2019年3月刊行、58ページ。

(①ム04の一環として実施)

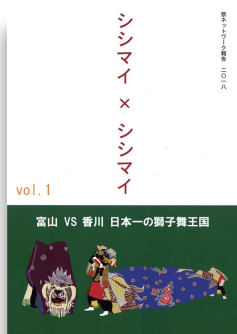


パンフレット『日本の芸能を支える技』Ⅰ—Ⅳ

2017(平成29)年より継続的に行っている、楽器を中心とした文化財保存技術の調査と並行して、楽器製作者とその技術に焦点を当てたパンフレットを順次刊行している。今年度は4冊を刊行した。Ⅰ琵琶：石田克佳、Ⅱ三味線象牙駒製作：大河内正信(以上2018年7月刊行)、Ⅲ太棹三味線：井坂重男、Ⅳ雅楽管楽器：山田全一(以上2019年3月刊行)。各8ページ。

(①ム01の一環として実施)





『祭ネットワーク報告 シシマイ×シシマイ vol.1』

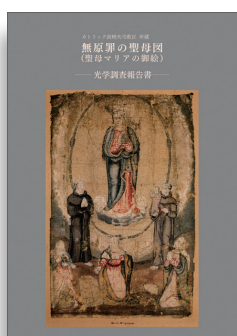
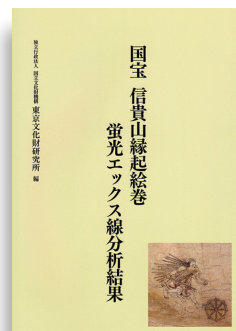
2018（平成30）年4月14日に開催した第2回「祭ネットワーク」での内容をまとめた報告書。富山県と香川県の獅子舞についての、獅子絵田獅子方衆の勝山理氏、射水町獅子舞保存会の勝山久美子氏、讃岐獅子舞保存会の十川みつる氏、東京讃岐獅子舞の中川あゆみ氏4名からのレクチャーと、その後の質疑応答の模様を採録したもの。2019年3月刊行、44ページ。

（①ム02の一環として実施）

『国宝信貴山縁起絵巻 蛍光エックス線分析結果』

東京文化財研究所が奈良国立博物館と共同で2011（平成23）～2012（平成24）年に実施した、信貴山朝護孫子寺所蔵国宝「信貴山縁起絵巻」に関する調査結果である。全三巻に対して実施した700以上の分析ポイントと分析結果をすべて収録した。これまでに国宝「源氏物語絵巻」、国宝「伴大納言絵巻」の蛍光エックス線分析結果が既に発行されており、本書の発行によって平安時代を代表する三大絵巻の分析結果を直接的に比較できる状況が実現した。2018年7月刊行、82ページ。

（②ホ03の一環として実施）



『カトリック長崎大司教区所蔵

無原罪の聖母図（聖母マリアの御絵） 光学調査報告書』

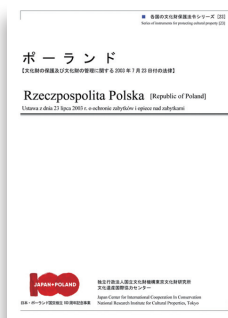
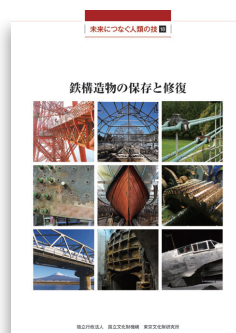
本作品は17世紀初期の制作と考えられているが、近年までその所在が不明であった。2009（平成21）年にフランスで発見され、2014（平成26）年5月にカトリック長崎大司教区に寄贈され、2017（平成29）年10月に長崎県指定有形文化財に指定された。フランススコ会系のキリシタン絵画として貴重な作例であり、東京文化財研究所では2015（平成27）年に光学調査を実施した。本書では、カラー・近赤外・蛍光写真及び蛍光エックス線分析結果を収録した。2019年1月刊行、80ページ。

（②ホ03の一環として実施）

『未来につなぐ人類の技18—鉄構造物の保存と修復』

本書は、近代文化遺産研究室が平成29年度に実施した「鉄構造物の保存と修復に関する研究」の成果をとりまとめた報告書である。文化財所有者・修理技術者等が、保存と修復の実務で利用することを念頭において、国内の学識経験者と行政担当者の論考を加え、同室が実施した事例調査の分析結果をまとめた事例集を収めている。2018年8月刊行、114ページ。

（②ホ06の一環として実施）



『各国の文化財保護法令シリーズ[23] ポーランド【文化財の保護及び文化財の管理に関する2003年7月23日付の法律】』

本冊子は、第二次世界大戦の後、社会主義体制から大きな変革を経て今日に至っているポーランドの文化遺産に関する法令を和訳したものである。法律の背景等についてカミル・ゼイドレル教授の序論を含めるとともに、巻末に原文も掲載している。日本語・ポーランド語、2019年3月刊行、210ページ。

（④コ01の一環として実施）

『世界遺産研究協議会「戦略的OUV選択論」』

本冊子は、2018(平成30)年9月28日に開催された『世界遺産研究協議会「戦略的OUV選択論」』の講演内容を書き起こしたものである。巻末に講演内容に関連した世界遺産関連用語を掲載している。日本語、2019年3月刊行、95ページ。

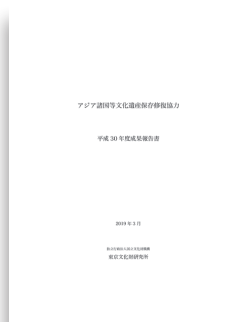
(④コ01の一環として実施)



『アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成30年度成果報告書』

平成30年度に運営費交付金事業「アジア諸国等文化遺産保存修復協力」として、カンボジア、アルメニア、イラン、ブータンの各国を対象に実施した協力事業ならびに主催研究会の概要と事業成果、関連資料・報告等を収録。日本語、2019年3月刊行、72ページ。

(③コ02の一環として実施)



Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor -Progress Report of 2017 and 2018-

本書は、2017年、2018年に東京文化財研究所がアンコール・シエムレアプ地域保存整備機構（APSARA）と共同で実施した、カンボジアのタネイ寺院遺跡における保存整備事業に関する英文報告書である。内容は同寺院の概要、事業概要、各ミッション概要、建造物の保存、発掘調査、史跡整備の6章から構成され、巻末に出土土器に関する補遺1篇を掲載した。2019年3月刊行、69ページ、APSARA機構との連名にて刊行。

(③コ02の一環として実施)

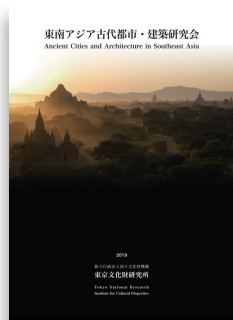


『東南アジア古代都市・建築研究会

Ancient Cities and Architecture in Southeast Asia』

2018（平成30）年1月に東京文化財研究所において開催した同研究会の議事録。ミャンマー及びカンボジアを研究対象とする豪仏の考古学専門家各1名を本邦に招聘し、また関係する日本人専門家の参加も得て、バガンとアンコールに焦点を当て、都市としての実像の解明、さらには各王宮の建築に関する調査研究の現状などに関する講演の内容、会場からの質疑応答及び総合討論の内容を収録。日本語・英語併記、2019年3月刊行、183ページ。

(③コ02の一環として実施)



『ミャンマー・バガン遺跡における煉瓦造寺院外壁の保存修復および壁画調査 平成30年度成果報告書』

本書は、平成28年度より継続するMe-taw-ya寺院（バガン、ミャンマー）での複合文化財として捉えた保存修復活動に関する報告、及びミャンマー国内における壁画調査結果を掲載している。日本語、2019年3月刊行、127ページ。

(③コ03の一環として実施)



博物館・美術館等保存担当学芸員研修(ホ08)

1. 文化財の担当者研修、博物館・美術館等の保存担当学芸員研修を行う。
2. 研修の体系を完成させるとともに、研修受講生を対象としたアンケート及び派遣元自治体を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を行い、その結果を踏まえ研修計画を策定する。

○第35回博物館・美術館等保存担当学芸員研修を実施した(7月9～20日、受講者30名)。

・研修終了後にカリキュラム各項目の理解度や有用度、また今後の要望等に関するアンケート調査を行った。

○平成29年度に実施した第33回博物館・美術館等保存担当学芸員研修受講者の所属長あてに、研修成果の活用実績やカリキュラム、応募手続き等に関する要望を問うアンケート調査を行った。

○平成30年度保存担当学芸員フォローアップ研修－展示・収蔵環境の正確な把握のために－を実施した(6月25日、参加者102名)。

○研修受講生を対象としたアンケート及び派遣元自治体を対象とした研修成果の活用状況に関するアンケート調査を行い、当研修が有意義であるとの回答が100%であったことから、業務に活用されていることが確認できた。



ケーススタディの様子

○*吉田直人、○**佐野千絵、倉島玲央、小峰幸夫、早川泰弘、犬塚将英、佐藤嘉則、朽津信明、早川典子、北河大次郎、石田真弥(以上、保存科学研究センター) *6月まで **7月から

文化財の収集・保管に関する指導助言(シ)

平成30年度は以下の組織等において指導助言を行った(28件)。

1. 実践女子大学香雪記念資料館・京都工芸繊維大学美術工芸資料館「記録された日本美術史—相見香雨・田中一松・土居次義の調査ノート展」開催に関する協力・助言
2. 静岡県立美術館の特別展「幕末狩野派展」の事前調査に関する協力・助言
3. 山口県立美術館の特別展「雲谷等顔展」の事前調査に関する協力・助言
4. 鳥取県立博物館の特別展「土方稲嶺展」の事前調査に関する協力・助言
5. 東京藝術大学大学美術館の購入資料選定に関する協力・助言
6. 岩手県宮古市文化財調査に関する協力・助言
7. 八尾市史編纂のための文化財調査に関する協力・助言
8. 韓国国立中央博物館所蔵作品復元計画に対する協力・助言
9. 日本民藝館所蔵作品修復に対する協力・助言
10. 南蛮文化館所蔵作品の維持管理に関する協力・助言
11. 日本二十六聖人記念館所蔵作品の維持管理に関する協力・助言

以下、所蔵作品調査に関する協力・助言

イギリス・イーストアングリア大学セインズベリー視覚芸術センター、同・大英博物館、同・オックスフォード大学アシュモリアン美術館、同・ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館、同・王立コレクショントラスト、シンガポール・アジア文明博物館、同・国立遺産保護センター(HCC)、静岡県立美術館、神奈川県立歴史博物館、仙台市博物館、逸翁美術館、鳥取県立博物館、神田日勝記念美術館、和歌山県立博物館、和歌山市立博物館、川越市立博物館、東京大学総合研究資料館、浦添市美術館、長崎歴史文化博物館

無形文化遺産に関する助言(ム)

- 無形文化遺産の保存・伝承・活用に関する各種委員会等へ出席し、以下の指導・助言を実施した。
- ・文化庁への助言(国指定等文化財の保存及び活用に関する調査 6/25・28・29・30・9/10・11 千葉県・熊本県・福岡県・京都府・滋賀県、文化庁伝統工芸用具・原材料調査委員会 10/10・3/15 文化庁、文化審議会文化財分科会 6/27・3/19、文化審議会無形文化遺産部会 5/25・12/6、無形文化遺産に係る会議 9/7、新進芸術家育成事業に関する会議 2/4 文化庁、伝統文化親子に関する会議 3/6 文化庁地域文化創生本部)
 - ・神奈川県への助言(1/30 神奈川県民センター)
 - ・滋賀県への助言(1/31 大津市立市民文化会館)
 - ・鳥取県への助言(2/23 鳥取市人権交流プラザ)
 - ・島根県への助言(2/7 博物館)
 - ・愛媛県への助言(4/26 愛媛県庁)
 - ・京都府京都市への助言(4/5・7/4・8/6・9/17・2/3・4 京都芸術センター)
 - ・東京都武蔵野市への助言(武蔵野市文化財保護委員会 4/17・5/22・7/10 武蔵野公会堂・武蔵野ふるさと歴史館)
 - ・神奈川県箱根町への助言(6/15・26・7/15-16・23・10/1・11/21・2/28・3/27 箱根町)
 - ・独立行政法人日本芸術文化振興会への助言(国立劇場文楽専門委員会 6/12・3/15 国立劇場、国立劇場文楽賞選考会議 3/6 国立文楽劇場、民俗芸能公演及び琉球芸能公演専門委員会 6/5・16・11/10・1/26・3/2・3/9・3/22 国立劇場)
 - ・公益財団法人東京都歴史文化財団への助言(第50回東京都民俗芸能大会 3/23・24 東京芸術劇場)
 - ・公益社団法人全日本郷土芸能協会への助言(5/19・6/6・7/2・8/20・11/1)
 - ・一般財団法人日本青年館への助言(第67回全国民俗芸能大会企画委員会 4/9・9/3・11/23・24・2/12 日本青年館)
 - ・さぬき(2/10 香川県社会福祉センター)

文化財の虫菌害に関する調査・助言(ホ)

目 的 これまでに蓄積された文化財の生物被害対策に関する調査・研究の成果を活かし、国や地方公共団体等からの要請に応じて専門的な見地から生物被害対策の技術的な協力・助言を行うことにより、文化財の保存に関する質的向上に貢献する。

成 果 主な虫菌害問題の相談元は、国や地方公共団体の博物館、美術館、図書館、教育委員会や社寺等の文化財保存担当あるいは文化財修復工房等であった。平成30年度の対応件数は、合計で44件であり、その中には派遣依頼等を受けて現地に調査を実施したものや当研究所にて分析試験等を実施したものなど、より詳細な調査が必要な事案もあった。

虫菌害の相談内容は、保存公開施設内における害虫やカビの発生に関する事、殺虫・殺菌処理で使用する薬剤に関する事などが多かった。また、熊本地震に起因する石室内への漏水の対策から石室内に大量にカビが発生した事案もあり、詳細な微生物解析を継続している。あるいは社寺で空調機器がない収蔵空間で保存されている文化財が高湿によりカビが発生するといった事案もあり、現地で取り得る対策を継続して模索している。被害の規模は文化財展示収蔵施設全体に関する事柄から、個別の作品に対する事柄まで多岐にわたった。そして、災害に起因する文化財の水損被害とその初期対応など緊急性を伴う事案にも対応した。

現場の対応と併せて、啓発・普及活動の一環で生物被害に関する研修講師を担当した。その際

にこれまでに作成した啓発普及ポスターの配布を行った。

研究組織 ○佐藤嘉則、小峰幸夫、佐野千絵（以上、保存科学研究センター）

保存科学研究センター

2-(5)-②-1)

文化財の修復及び整備に関する調査・助言(ホ)

目的 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。

1) 地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・専門的知識の提供等を行う。

成果 1. 平成30年度に実施した各地の国宝、史跡や重要文化財等の保存や修復に関する指導助言は以下のとおりである。

国宝高松塚古墳壁画、特別史跡キトラ古墳壁画、国宝臼杵磨崖仏、国宝銅造阿弥陀如来坐像(鎌倉大仏)、国宝平等院鳳凰堂、国宝東寺五重塔、国宝普濟寺六面石幢、史跡端島炭鉱跡、史跡竹原古墳、史跡石人山古墳、史跡桜京古墳、史跡薬師堂石仏附阿弥陀堂石仏、史跡観音堂石仏、史跡原城跡、史跡土佐藩主山内家墓所、史跡清戸迫横穴、史跡吉見百穴、史跡佐渡金銀山遺跡、史跡足尾銅山、史跡葦山反射炉、史跡萩反射炉、史跡原爆ドーム、史跡東京湾要塞跡、史跡出島和蘭商館跡、史跡下藤キリシタン墓地、史跡長崎原爆遺跡、重要文化財通潤橋、重要文化財本河内水源地水道施設、重要文化財旧佐世保無線電信所(針尾送信所)施設、重要文化財氷川丸、重要文化財日本丸、重要文化財常願寺川砂防施設、重要文化財東慶寺文書、重要文化財末広橋梁、重要文化財厳島神社大鳥居、重要文化財旧鶴岡警察署、重要文化財近代教科書関係資料、重要文化財法隆寺金堂外陣旧壁画(土壁)、重要文化財細川家舟屋形天井画、重要文化財鎌倉芳太郎資料、重要文化財鷹見泉石関連資料、重要文化財旧木下家住宅、名勝錦帯橋、東山ひがし重要伝統的建造物群保存地区、特別天然記念物秋芳洞、天然記念物風連鍾乳洞、天然記念物郷村断層、熊本県内被災古墳。

2. 地方自治体指定その他の文化財の保存と修復に関する指導助言は以下のとおりである。

登録有形文化財森村橋、日本航空協会所蔵「飛燕」、根津美術館蔵石造浮屠、慶応義塾大学蔵計算機、東京国立近代美術館所蔵近代絵画、富山市大山恐竜足跡化石群、大阪新美術館準備室所蔵関根正二作品、高島市指定絹本著色釈迦十六善神像、岡山県高野神社神紋、長崎市指定史跡ド・口神父大平作業場跡、「高風居」泰山荘。



熊本地震で被災した井寺古墳内部

研究組織 ○朽津信明、北河大次郎、早川典子、倉島玲央、佐野千絵（以上、保存科学研究センター）

文化財の材質・構造に関する調査・助言(ホ)

目的 様々な文化財資料について、その材質や構造を明らかにするために、科学的調査を実施する。可搬型の機器を用いて、文化財資料が置かれている場所での現地調査も実施する。

成果 平成30年度は、蛍光X線分析、X線回折分析による材質調査、及びX線透過撮影による構造調査などの調査・助言を実施した。調査終了後には報告書を作成し、分析依頼元へ提出した。調査を行った作品、所蔵先、調査月は以下の通りである。

1. 材質調査

- ・建造物彩色・付着物(平等院、2018(平成30)年5月)
- ・装飾経(根津美術館、2018(平成30)年5月)
- ・典籍(書道博物館、2018(平成30)年5月)
- ・屏風(明治神宮、2018(平成30)年6月)
- ・屏風(仁和寺、2018(平成30)年6月)
- ・漆工品(畠山記念館、2018(平成30)年8月)
- ・漆工品(徳川美術館、2018(平成30)年8月)
- ・典籍、金工品(個人蔵、2018(平成30)年8月)
- ・金箔・時絵粉(中尊寺、2018(平成30)年12月)
- ・歴史資料(文化庁、2019(平成31)年2月)
- ・工芸品(2019(平成31)年2月)

2. 構造調査

- ・絵画(ポーラ美術館、2019(平成31)年2月)

3. 指導・助言

- ・絵画の光学調査(ポーラ美術館、2018(平成30)年4月)

以上、調査・助言件数 13件

研究組織 ○犬塚将英、早川泰弘(以上、保存科学研究センター)

美術館・博物館等の環境調査と援助・助言(ホ)

目的 国・地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が所有・管理する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本機構が行った調査研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言を行う。

1) 地方公共団体等からの要請に応じ、文化財及びその保存・活用に関する協力・助言・専門的知識の提供等を行う。

成果 1. 国指定品の所有者以外による公開、また公開承認施設申請に関わる資料保存環境調査を37館に対して行い、計39通の報告書を作成・提出した。

秋田市立千秋美術館、熊本県立美術館、群馬県立歴史博物館、樂美術館、京都国立近代美術館、笠岡市立竹喬美術館、鹿児島市立美術館、大分市美術館、碧南市藤井達吉現代美術館、和歌山県立近代美術館、一般財団法人筆の里振興事業団、公益財団法人泉屋博古館、松戸市立博物館、

公益財団法人阪急文化財団 逸翁美術館、新居浜市教育委員会、一般財団法人林美術財団名都美術館、田部美術館、堺市博物館、都留市博物館〔ミュージアム都留〕、くまもと文学・歴史館、フォッサマグナミュージアム、長崎県美術館、国文学研究資料館、刀剣博物館、北海道立帯広美術館、中之島香雪美術館、三内丸山遺跡縄文時遊館、書道博物館、徳川ミュージアム、神奈川県立歴史博物館、福島県立美術館、熊本博物館、浜松市美術館、東京都美術館、東京富士美術館、高知城歴史博物館

2. 全国の文化財施設等からの保存環境、また新築・施設改修・増築などの相談に対して助言を行い、改善に資した。必要に応じて、現地調査を行った。

研究組織 ○*吉田直人、○**佐野千絵、石井恭子、小安友里恵（以上、保存科学研究センター） *6月まで **7月から

保存科学研究センター

2-(5)-④-1)

東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進(ホ)

目的 連携大学院教育の推進

連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成する。

1) 東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育等の推進

・東京藝術大学大学院：システム保存学(保存環境学、修復材料学)

成果 ○平成30年度開講した授業及び担当教員、受講者数

保存環境計画論（前期、火曜1限） 2単位 吉田直人・佐藤嘉則・朽津信明 19名（聴講1名）

修復計画論（前期、木曜1限） 2単位 朽津信明 8名

修復材料学特論（前期、木曜2限） 2単位 早川泰弘・早川典子 12名

保存環境学特論（後期、火曜1限） 2単位 犬塚将英・佐藤嘉則 6名（聴講1名）

文化財保存学演習

テーマ：「色を測る」、講師：朽津信明 日時：6月5日(火) 13～17時 21名



保存環境計画論の授業風景

○入学試験

平成30年度東京藝術大学大学院美術研究科（修士課程）入学試験を実施し、9月19～21日に入学試験及び面接を実施して、合格者1名を決定した。

○成績評価等、文化財保存学専攻運営への協力

教室会議（11回）、入試合同判定会議（2回）、博士・修士学位審査会への協力

研究組織 ○朽津信明、早川泰弘、吉田直人、犬塚将英、佐藤嘉則、早川典子（以上、保存科学研究センター）、安倍雅史（文化遺産国際協力センター）、貴田啓子（東京藝術大学教育研究助手・客員研究員）

3. 外部資金等による研究活動

1. 科学研究費助成事業	75
2. 受託調査研究・外部機関との共同研究及び外部資金による研究	103
3. その他の調査研究	124
4. 成果公開	126

1. 科学研究費助成事業

研究種目	研究課題	研究代表者	頁
基盤研究(B)	対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究—大航海時代を中心に—	小林公治	77
基盤研究(B)	酵素を利用した文化財の新規クリーニング方法の開発 —旧修理材料や微生物痕の除去—	早川典子	78
基盤研究(B)海外	ポンペイ及びエルコラーノ遺跡壁画保存修復新技法開発と遺跡保存管理体制の確立	前川佳文	79
〃	ブータンの版築造建造物の類型と編年に関する研究	亀井伸雄	80
基盤研究(C)	虎塚古墳壁画の材質と保存環境に関する研究	犬塚将英	81
〃	黒髪白肌の系譜—上村松園の技法と表現—	大河原典子	82
〃	徳川將軍家の御物形成と御用絵師の役割に関する研究	小野真由美	83
〃	ザグロス地域における農耕・牧畜の起源に関する考古学的研究	安倍雅史	84
〃	常磐津節の音楽分析のための基盤研究	前原恵美	85
〃	江戸時代の絵画における基底材に関する基礎的研究	安永拓世	86
〃	ポスト1968年表現共同体の研究：松澤有アーカイブズを基軸として	橘川英規	87
〃	DNA 塩基配列情報に基づく文化財害虫の新規データベース構築	佐藤嘉則	88
〃	博物館 IPM への ATP 拭き取り検査活用に向けた基礎的な研究	間瀬創	89
〃	白色 LED 光照射に伴う蛍光性有機染料の変退色挙動とその抑制	吉田直人	90
若手研究(A)	染織技術の伝承に関する研究—材料・道具に焦点をあてて—	菊池理予	91
〃	墨、煤、膠の製法と性状の体系化 —伝統的製法の再現—	宇高健太郎	92
若手研究(B)	紙質文化財にみられる緑青焼けに対する修復処置方法の開発	貴田啓子	93
〃	アイヌと和人の文化交渉史に関する研究 —明治期の和人によるイナウ奉納習俗を中心に	今石みぎわ	94
〃	イラン歴史的都市景観保護のための計画指標に関する研究	山田大樹	95
若手研究	マヤ地域の博物館における文化遺産保全と地域発展に向けた文化資源マネジメントの研究	五木田まきは	96
〃	伝統的木造建築技術の保存継承に関する日欧比較研究	マルティネス アレハンドロ	97
挑戦的研究(萌芽)	紙本屏風の規格と表現・技法の研究	江村知子	98
研究成果公開促進費	SAT 大正新脩大藏經 圖像データベース	津田徹英	99
〃	木造建築遺産保存論	マルティネス アレハンドロ	100
研究活動スタート支援	伝統木造建築技術の保存継承に関する日英比較研究	マルティネス アレハンドロ	101

対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究—大航海時代を中心に—

目 的 「アジアの特産物」である「螺鈿」は、多源独立的に発生発展したのではなく、中心的・先進的地域の影響や技術・工人の移動を伴いながら消長を繰り返してきたとみられる。本研究ではこの問題を具体的に跡付けることを目的とし、人類が地球的規模で移動を開始した15～17世紀（大航海時代）を中心として、日本本土や朝鮮半島、また沖縄や中国の螺鈿を取り上げ、人文学及び自然科学的方法により、螺鈿器に内包される交流の実態を明らかにしようとするものである。

成 果

- ・2018(平成30)年8月に、シンガポール国立アジア文明博物館(ACM)・国立遺産保護修復センター(HCC)にて調査及び研究協議を行った。また同年同月にジャカルタ歴史博物館、インドネシア国立博物館ほかにて調査を、その後マニラにて、セント・アウグスティン教会博物館、カーサ・マニラ博物館、フィリピン国立博物館、同国立自然史博物館、同国立人類学博物館、アヤラ博物館、メトロポリタン・マニラ博物館ほかにて調査を実施した。
- ・2018(平成30)年8月に、甲賀市藤栄神社所蔵十字形洋剣を奈良国立博物館に移送し柄部のCT調査及び研究協議を行い、また2019(平成31)年2月にはSpring-8にて剣身の放射光調査を行った。
- ・2018(平成30)年8月に岐阜市歴史博物館にて同館所蔵南蛮漆器類の調査を行った。
- ・2018(平成30)年9月に、長崎歴史文化博物館にて同館所蔵南蛮漆器の調査を行った。
- ・2018(平成30)年11月に、浦添市美術館で開催された「琉球の漆文化と科学2018」に参加、また研究協議を行い、その後イギリスにてサザビーズ作品調査、V&A Museumにて調査及び研究協議、またウィンザー城にて作品調査を実施した。
- ・2018(平成30)年11月に、中国揚州市内漆器工房・古琴工房・揚州博物館ほかにて調査を実施、また2019(平成31)年3月にも、中国国家博物館、故宮博物院、社会科学院考古研究所、山西博物院・山西省考古研究所、温州博物館、浙江省博物館、洞頭貝雕芸術博物館等で作品調査及び研究協議を実施した。



アジア文明博物館での調査風景



Spring-8での調査風景

論 文・小林公治「中国における漆地螺鈿の成立と発展—螺鈿史上の古代・中世とその画期」(附中国語要旨)『中国古代漆器国際学術研討会 論文稿』 pp.138-155 上海博物館 18.11

発 表・小林公治「中国における漆地螺鈿の成立と発展—螺鈿史上の古代・中世とその画期」 中国古代漆器国際学術研討会 18.11.16

研究組織 ○小林公治、城野誠治(以上、文化財情報資料部)、吉田邦夫(東京大学総合研究博物館)、能城修一(明治大学)、末兼俊彦(京都国立博物館)、鳥越俊行(奈良国立博物館)、早川典子(保存科学研究センター)

酵素を利用した文化財の新規クリーニング方法の開発―旧修理材料や微生物痕の除去―

目 的 本研究では、酵素を利用した文化財上の汚れ除去に関する基礎的な研究を行い、実際の修復現場における適用を目指す。文化財上の汚れの除去は保存修復において重要な作業の一つである。しかし作品本体を汚損するリスクを避けるため、安全に行える限定的な処置しかなされない側面もあり、十分な効果のあるクリーニングができずに終わる事例も多い。本研究では、酵素というきわめて選択的な化学反応をする生体触媒を用いることにより、喫緊の課題である安全で効果的な除去方法の開発を行う。酵素は反応選択性が高いため、汚れの種類を分析し、それぞれに効果のある酵素を探索した上、それらの文化財材料への影響まで含めて評価する必要がある。本研究ではこれらを包括的に研究し、文化財の保存修復への貢献を目的とする。

成 果 本研究は三つの調査研究から成り立つ。一つは材料化学的調査であり、除去対象とする汚れの化学構造の把握を目的とする。二つ目は微生物酵素学的調査であり、材料の分析をもとに酵素の選定やその機能の評価を行う。三点目は現場での適用である。

1. 材料化学的調査

本年度はアクリル樹脂の物性について化学分析を行った。文化財修復に多く使用されるアクリル樹脂のうちエマルション系の接着剤に関し強制劣化試験を行い、得られた試料をGC-MS等の分析手法を用いて分析した。

2. 微生物酵素学的調査

本年度は、比較的失活しやすいと想定される α アミラーゼに対し、溶媒や温度条件を探索した。澱粉糊は日本で古くから使用されている接着剤であり、文化財の修復で非常に多く使用されている。これらを安全に除去した上で、次の段階で修理する際に接着の阻害にならないような酵素の探索を行った。これらは主に大阪産業技術研究所において行われた。

3. 現場での適用

海外の染織品に使用されたポリビニルアルコールの除去に、ポリビニルアルコール分解酵素を適用するために、種々の条件検討を行った。

4. 総括

文化財修理における酵素の適用について総括した。

研究組織 ○早川典子、佐藤嘉則、酒井清文、本多貴之（以上、保存科学研究センター）、川野邊渉（特任研究員）、山中勇人（大阪市立工業研究所）

ポンペイ及びエルコラーノ遺跡壁画保存修復新技法開発と遺跡保存管理体制の確立

目 的 両遺跡では近年、古代ローマ時代の壁画の特徴のひとつである多層塗り漆喰構造に起因して、複数層間での剥離が発生し、剥落損失の危機を迎えている。しかしながら、これまでに繰り返して行われてきた保存修復の結果、様々な修復材料が表層面を中心に堆積していることにより、従来の壁画保存修復技術では対処できない難しい状況にある。本研究では、当該遺跡に関する先行研究をもとに、作品への負担を最小限に抑えた形での堆積物除去方法の開発と、遺跡保存管理体制の確立を目指す。

成 果 4 年計画の第 3 年次にあたる本年度は、ポンペイ及びエルコラーノ遺跡内の特定の壁画を対象としてさらに詳細な研究調査を実施するため、本研究に適した壁画を有する「アポロの家」(Casa di Apollo) にて下記の実験を実施した。

1. クリーニング方法に関する実験調査

ポンペイ及びエルコラーノ遺跡の壁画の多くは、過去の修復時に塗布された合成樹脂や蜜蝋に覆われており、これが漆喰層の吸放湿性能を著しく低下させる原因となり、塩の析出に伴う彩色層の破壊や漆喰層の剥離に繋がっている。クリーニング方法を検証するうえでは、彩色層を傷めず安全に壁画表面の付着物を除去することに留意し、様々な修復材料を用いて検証した。

2. アポロの家の壁画保全状態に関連する調査

前年度に引き続き、目視による観察で得られる情報を収集した。この調査では、アポロの家のみならずポンペイ遺跡内の他の壁画も対象とし、技法材料や損傷傾向に注目しながら検証した。その結果、長らくポンペイの壁画はエンカウスト技法で描かれているとされてきたが、2 種類のフレスコ画技法を用いた混合技法である可能性が高まった。これを検証すべくサンプルを採取し、次年度に科学分析調査を実施する予定である。

3. 覆屋がもたらす効果・機能に関する調査

日本国内を中心に、文化財や史跡等を保護する目的で建設された覆屋を調査し、その効果や機能について検証した。



クリーニング実験風景



保全状態関連調査時の記録資料画像

報 告・Yoshifumi Maekawa, Guido Botticelli, Stefania Franceschini, Monica Martelli Castaldi: Relazione della missione, Parco Archeologico di Pompei 18.9

発 表・前川佳文、Guido Botticelli、Stefania Franceschini、Monica Martelli Castaldi: 「ポンペイ遺跡「アポロの家」における壁画の保存状況調査」日本文化財科学会第35回大会 18.7.7-8

研究組織 ○前川佳文(文化遺産国際協力センター)、朽津信明(保存科学研究センター)

ブータンの版築造建造物の類型と編年に関する研究

目 的 本研究は、ブータン王国の伝統的版築造民家建造物を対象に、平面・立面・断面形式及び各部様式等を調査し、間取り・意匠・構造について類型化及び編年を試みるとともに、構造技法の年代的特徴を明らかにすることで、その相対的年代観の判定指標を確立することを目的とする。

成 果 研究第3年次である本年度は、ブータン西部地域所在の版築造古民家の類型や形式編年に関する考察を取りまとめることを目指した。カウンターパートである同国内務文化省文化局遺産保存課(DCHS)と共同で以下の現地調査を実施した。

1. 第5回現地調査(2018(平成30)年7月15日～25日)

同年3月に実施した前回調査の補足としてパロ県ウォチュ村内の古民家2棟を実測調査したほか、同県ワントンカ村にて新たに発見した古民家1棟を実測調査した。さらに、3月にティンプーで開催したワークショップにて保存の重要性を訴えたティンプー県カベサ村所在の古民家1棟について、倒壊して建物内部に折り重なった状態の木部材を搬出し、個々の材の使用位置を特定しながら整理して仮保存小屋に格納する作業を実施した。

上記調査期間中に研究代表者である亀井前所長急逝の報に接し、後発の海野分担者が調査に参加できなかったこと等から、上記の部材調査については一部の作業が完了できなかった。現地にてDCHSとも今後の対応を協議した結果、本年度に予定していた報告書刊行は断念せざるを得ないが、調査成果の取りまとめ作業は双方にて継続しつつ他日を期することとなった。

ここまでの研究により、対象地域の古民家の変遷過程について概ね把握することができ、古形式をよく留める重要物件数棟も発見することができた。他方、建築・改造年代の特定や形式変化の背景要因に関する考察など、引き続き検討すべきいくつかの課題点も明らかになっている。

なお、本科研の調査成果を含む、ブータンの版築造古民家に関する既往調査の概要については、後日、下記の通り報告した。

論 文・Masahiko TOMODA et al.: "Architectural features of traditional houses in Bhutan" PROCEEDINGS ISAIA 2018 The 12th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia, pp.29-33, 大韓建築学会・中国建築学会・日本建築学会

研究組織 ○亀井伸雄(前所長)、友田正彦、マルティネス・アレハンドロ(以上、文化遺産国際協力センター)、江面嗣人、福本雅美(以上、岡山理科大学)、海野聡、前川歩(以上、奈良文化財研究所)

虎塚古墳壁画の材質と保存環境に関する研究

目 的 茨城県ひたちなか市の虎塚古墳では、近年、壁画の一部に劣化現象が進行している可能性が示唆されてきた。これまでの先行研究により、壁画の構造と材料に関する知見は得られたが、劣化のメカニズムについては十分に解明されているとは言えない。本研究の目的は、虎塚古墳壁画のよりよい保存環境の設定を検討するために、壁画の劣化のメカニズムを明らかにすることである。

成 果

1. 虎塚古墳石室内で採取された落下物の調査
 - ・虎塚古墳では石室内の側壁近傍の床面にポリカーボネート製のシートを設置して、落下物の採取を継続的に行っている。これらの資料の顕微鏡観察、重量測定を行った。資料の一部を採取し、微生物の分析も行った。また、石室内における落下物の分布や季節変動についての検討も行った。
2. 虎塚古墳壁画を模した試験片の作成と基礎実験
 - ・劣化のメカニズムを調べるために、虎塚古墳壁画を模した試験片の作成を行った。
 - ・虎塚古墳の石室内の環境を想定し、高湿度条件下に試験片を設置し冷却して、強制的に結露を発生させて、壁面表面に生じる劣化現象の有無の検証実験を行った。
 - ・強制的に結露を発生させた試験片の表面の状態を実験前後で比較したが、今回行った実験条件においては、虎塚古墳壁画に見られるような劣化現象が起こらないことを確認した。
3. 壁面水分量の測定手法の開発
 - ・壁面の水分量を非接触な手法を用いて自動計測を行うための小型計測器の開発を進めた。
 - ・上述の基礎実験において、開発した非接触型計測器の性能評価を行った。
4. 報告書作成
 - ・3年間の研究成果をまとめて、報告書を作成した。

論 文・犬塚将英ほか：「結露が古墳壁画に及ぼす影響に関する基礎実験」『保存科学』58 pp.73-82 19.3

発 表・犬塚将英ほか：「結露が古墳壁画に及ぼす影響に関する基礎実験」文化財保存修復学会第40回大会 19.6.16

刊行物・研究成果報告書

研究組織 ○犬塚将英、佐藤嘉則(以上、保存科学研究センター)、谷口陽子(筑波大学)、矢島國雄(明治大学)

黒髪白肌の系譜—上村松園の技法と表現—

目 的 上村松園が活躍した近代日本画壇では、西洋絵画の影響と大会場での公募展覧会を発表の場とする新潮流が興り、近世までの絵画と比較して作品が巨大化した。巨大化した画面に対応するように新しい材料、技法、表現が生まれたと考えられる。しかしこれまで、その新しい技法表現に関する学術的な研究はほとんどされてこなかった。

明治から大正期の日本画材について少しずつ新知見が蓄積される中で、同時代の中核となる画家、上村松園の技法材料とその表現を調査分析し、芸術性を技術面から解明する必要性を大きく感じるようになった。また、上村松園作品の多くが制作されてから100年前後を経過し、平成28年度から東京藝術大学大学美術館所蔵「序の舞」(国指定重要文化財)が修復されるなど、作品群が修復時期を迎えつつある。この現状を踏まえ、松園の技法を分析することは作品をよりよいコンディションで修復するために必要不可欠となっている。また、技法や表現を解明するには、画材の科学的な分析に加えて、日本画実技に立脚した技法の実証実験による結果を集積することが重要であると考えます。

本研究では、スケッチ、模写、下絵、本画作品を調査し、上村松園の使っていた技法とその表現の種類について分析する。それを日本画実技による再現実験によって検証し、松園の技法と表現の特徴を明らかにしたい。さらに、技法材料の同定、絵画構造、表現効果の研究成果は所蔵先の博物館及び美術館と共有して、作品展示や修復に活用できることを期待している。

成 果 本年度は前年度に調査した「焰」(1918(大正7)年制作、東京国立博物館所蔵)と「花嫁」(1935(昭和10)年頃制作、JR西日本奈良ホテル所蔵)の調査結果のまとめと発表、及び縮図帖分析結果の電子化準備を行った。

「焰」の調査結果は第40回文化財保存修復学会にて発表した。科学調査結果を提示するとともに、顕微鏡写真から観察されたぼかしや塗重ねなどについて考察を述べた。また、制作年である1918(大正7)年の文展図録掲載画像との比較から、現状では黒色を呈している打掛の蜘蛛の巣模様が本来は銀色だったことが判明した。これによって、本作を現在見て感じる重さや精神的な暗さが、作家の意図したものより強く出てしまっていることが明らかになった。また、制作からかなり後年になって発行された作家のエッセイには裏彩色を行ったという言葉があったが、顕微鏡による観察から、すべて表から彩色されていることが確認された。

「花嫁」の調査結果はJR西日本奈良ホテルへの報告書としてまとめた。調査時に額を外したことで、素絹と思われていた背景の絹地にうっすらと薄墨と思われる下色が塗られていたことが分かった。本作にも裏彩色はなく、表からの重ね塗りであった。これら2点の調査結果と、他の松園作品の修復に携わった修復者の証言を根拠にすると、40歳ごろ以降の松園作品では裏彩色は用いられていないことになる。ほとんどの絵絹作品に裏彩色が使われていると従来考えられてきたことについて、再検証しなくてはならないことが分かった。

縮図帖全7冊については、調査分析が完了した。すべての文字を書き起こし、描かれたモチーフを分類し、模写については原本の特定をできる範囲で行った。描き込まれた色名には頻度にはばらつきがみられ、作家の感度が高い色相は赤、白、黒であることがうかがえた。目下、PDF化してPC、タブレット上で画像の拡大縮小やキーワード検索による選択表示閲覧ができる方法を試験しており、これらは所蔵美術館での活用を目指している。デジタル上での表示手法検討については未完了のため、研究期間を来年度まで延長して使いやすいものを完成させる予定である。

発 表・大河原典子、高林弘実、紀芝蓮：「上村松園筆「焰」(東京国立博物館所蔵)の技法と表現」文化財保存修復学会第40回大会 18.6.16

研究組織 ○大河原典子(客員研究員)、高林弘実(京都市立芸術大学)、宮廻正明(東京藝術大学)

徳川将軍家の御物形成と御用絵師の役割に関する研究

目 的 古来、由緒ある優れた文物を「名物」と称し、その伝来や格付けを記した「名物記」などが編まれてきた。なかでも朝廷、将軍家の有する名物は、「御物」として特別視され、今日、それらの目録「御物集」は、権力と文物の関わりを知るうえで欠くことのできないものとなっている。慶長8年(1603)に徳川家康が征夷大将軍に任ぜられたことは、徳川将軍家が新たな「御物」を形成することをも意味した。徳川将軍家が所持する名物・道具類は、近代以降「柳営御物」と称されるが、その全貌はいまだ不明なところが多い。

本研究は、柳営御物が形づくられるなかで、「御絵師」すなわち御用絵師の役割がいかなるものであったかを、「柳営御物集」諸本や、現存する鑑定控「探幽縮図」「常信縮図」などから明らかにしようとするものである。献上・下賜という幕府の贈与システムのなかで、「鑑定」及び「下賜品の制作」を行った御用絵師の役割は看過できない。とくに柳営御物のほとんどを焼失することとなった明暦の大火後、献上品によって再構築されていた柳営御物の様相を探ることで、幕府の贈与システムと御用絵師の役割という江戸文化の重要な一側面を明らかにする。

成 果 本年度は、昨年度の調査及びデジタルデータ化をふまえ、貴重資料の翻刻を行った。

1. 「柳営御物集」諸本のひとつで、東京文化財研究所所蔵の貴重書である『銅御蔵御掛物御歌書極代付之帳』の翻刻を行い、解題を付して発表した。
2. 土佐光起が土佐家の画法の秘伝を記した『本朝画法大伝』(東京藝術大学所蔵)について、狩野派の画法書と比較するなど、成立当時の画壇の状況などをふまえた研究発表を行った。
3. 狩野探幽・常信の鑑定の事例について調査した。とくにホノルル美術館にて、かつて探幽の極書のあった伝土佐光信筆「鳥獣人物戯画模本」、常信の極札が附属する「融通念仏縁起絵巻」などを実見し、御用絵師による鑑定の事例について知見を深めた。

論 文・小野真由美、恵美千鶴子：「研究資料『銅御蔵御掛物御歌書極代付之帳』の翻刻と解題」『美術研究』425 pp.21-34 18.8

発 表・小野真由美：「土佐光起著『本朝画法大伝』考一「画具製法并染法極秘伝」を端緒として一」文化財情報資料部第3回研究会 18.6.26

研究組織 ○小野真由美(文化財情報資料部)、恵美千鶴子、横山梓(以上、東京国立博物館)

ザグロス地域における農耕・牧畜の起源に関する考古学的研究

目 的 西アジアの肥沃な三日月地帯は、地中海式農耕の起源地として知られている。1990年代には、肥沃な三日月地帯のなかでも、とくに西側のレヴァント地域（シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、パレスチナ）で最初に農耕・牧畜が開始されたと考古学界では考えられていた。

しかし、今世紀に入り急速に発展を遂げた遺伝子研究は、対照的に東側のザグロス地域（イラン、イラク）でも独自に農耕・牧畜が誕生した可能性を示している。これまで研究の空白地域であったザグロス地域における農耕・牧畜の起源及び同地域からの農耕・牧畜の拡散の具体的なプロセスを解明するため、イラン・ザグロス地域に入り考古学調査を実施している。

成 果 ザグロスで誕生したザグロス型農耕文化がどのように東方に拡散していったのか、そのプロセスを研究するため、イラン東部の南ホラーサーン州をフィールドに調査を開始した。同州の州都ビールジャンドから北西140kmに所在するカレ・クブ遺跡では、新石器時代の古い時期に特徴的な石器が表採されていた。そのため、この遺跡に古い新石器時代の層があることを予想して発掘調査を実施した。しかし、発掘の結果、この遺跡の最下層からは新石器時代から銅石器時代への移行期に相当するチャシュメ・アリ文化の土器片が出土し、農耕の拡散プロセスを研究できるような古い新石器時代の層は同遺跡には存在しないことが明らかになった。

一方、この調査では、地表下1mの厚さ50cmほどの礫層から、大量のベベルド・リム・ボウルと呼ばれる鉢が粗製盆や四耳壺とともに出土した。これらの土器はいずれも、南メソポタミアのウルク文化（前4000～前3100年）を代表する遺物として知られている。ウルク期には現在のイラク南部に世界最古の文明であるメソポタミア文明が誕生したことが知られているが、その後半期にはウルク文化の物質文化が南メソポタミアを超えて、南東アナトリアやシリア、北メソポタミア、イラン高原などの周辺地域へと広がっていった。これまでウルク文化の物質文化が確認された最も北東の地点は、イラン高原のタペ・シアルク遺跡やアリスマン遺跡であった。今回のカレ・クブ遺跡におけるウルク文化の土器群の発見は最北東の出土例となり、これによってウルク文化の広がりがさらに東へ600km拡大することとなった。このように、カレ・クブ遺跡はイランの文明形成期を考えるうえで極めて重要な遺跡であることが判明した。

論 文・Abe, M. and M.H. Azizi Kharanaghi: "Studies on the Neolithic Flint Stone Assemblage of Rahamat Abad" *Pasargadae* 1, pp.19-31, 18.5 (ペルシア語).

・P. Goodarzi, M. H. Azizi Kharanaghi, M. Abe and A. Sottysiak: "Human Remains from Kaleh Kub, Iran, 2018" *Bioarchaeology of the Near East* 12, pp.76-80, 18.12

・Abe, M. and M. Khanipour: "The 8.2 ka Event and Re-microlithization during the Late Mlefaatian in the Zagros Mountains: Analysis of the Flaked Stone Artefacts Excavated from Hormangan in North-eastern Fars, South-west Iran" in S. Nakamura, T. Adachi and M. Abe (eds.), *Decades in Deserts: Essays on Near Eastern Archaeology in Honour of Sumio Fujii*, pp.305-317, Rokuichi Syobo, Tokyo, 19.2

・安倍雅史、ホセイン・アジジ・ハラナギ：「イラン南ホラーサーン州、カレ・クブ遺跡の第1次調査—イラン東部最古の農耕村落を求めて—」『第26回西アジア発掘調査報告会報告集』pp.62-65 日本西アジア考古学会 19.3

報 告・M. H. Azizi Kharanaghi, M. Abe, S. J. Yeganeh, B. Anani, A. A. Z. Qabaei, and P. Godarzi: "Excavation Report of Kale Kub, Ayask, South Khorasan Province" (ペルシア語), Report submitted to ICAR, 18.6.

発 表・安倍雅史、ホセイン・アジジ・ハラナギ：「イラン南ホラーサーン州、カレ・クブ遺跡の第1次調査—イラン東部最古の農耕村落を求めて—」第26回西アジア発掘調査報告会 19.3.23-24

刊行物・S. Nakamura, T. Adachi and M. Abe: *Decades in Deserts: Essays on Near Eastern Archaeology in Honour of Sumio Fujii*, Rokuichi Syobo, Tokyo, 19.2

研究組織 ○安倍雅史（文化遺産国際協力センター）

常磐津節の音楽分析のための基盤研究

目 的 常磐津節は素浄瑠璃（演奏会形式）のほか、歌舞伎や日本舞踊とも緊密に関連してきた代表的な三味線音楽であるが、音楽そのものの研究は進んでいない。その原因の一つは、公刊譜がほとんどないことにありと考える。そこで本研究では、①常磐津節音楽分析の基礎となる「譜」を五線譜及び文化譜（三味線音楽で最も汎用性のある記譜法）で提示し、②「譜」を用いた音楽分析によって音楽構造を明らかにする手法を確立すること、を目的とする。

成 果 研究では以下の4つのステップを計画している。第一に視聴覚資料からの採譜をし、第二に音楽の骨格となる部分と細部の多様性を整理し、第三に第二を受けて、音楽の骨格部分を「譜」として提示すると同時に、演奏の多様性を分類し、第四に「譜」を用いた音楽分析により常磐津節の音楽構造を明らかにする。

今年度は、大きく分けて以下の二点の調査研究を進めた。

第一に、常磐津節音楽分析の基礎となる「譜」を五線譜及び文化譜（三味線音楽で最も汎用性のある記譜法）で提示するための資料収集とデータ分類である。まず対象を「常磐津節の視聴覚資料」とし、市販されているもの、テレビ・ラジオ番組等の録音・録画資料、所属研究機関に個人から寄贈された視聴覚資料を中心とし、データ整理・入力を行った。対象となる常磐津節関係視聴覚資料は、現段階で当研究所作成DVD及びBD144作品、市販DVD5作品、市販CD50作品である。第二に、これらの演奏情報から「演奏形態」を以下の9つに分類・入力した。すなわち、①素（スタジオ録音）、②素（スタジオ録画）、③素（ライブ）、④歌舞伎（常磐津節のみ・スタジオ録音）、⑤歌舞伎（常磐津節のみ・スタジオ録画）、⑥歌舞伎（常磐津節のみ・ライブ）、⑦歌舞伎（掛け合い・スタジオ録音）、⑧歌舞伎（掛け合い・スタジオ録画）、⑨歌舞伎（掛け合い・ライブ）である。

これらの対象視聴覚資料を、演奏形態別、作品分類別にデータベース化し、演奏形態により採譜の優先度を整理した。さらに同一作品につき複数演奏の視聴覚資料があるものは、その最大公約数である音楽の骨格部分を精査して、五線譜及び文化譜の「譜」として整理する予定である。採譜にあたっては、東京藝術大学附属図書館に東京音楽学校時代に五線譜化を試みた手稿が残っており、一部常磐津節の作品も含まれるので参照する。

研究組織 ○前原恵美（無形文化遺産部）

江戸時代の絵画における基底材に関する基礎的研究

目 的 日本の絵画の基底材(下地になる素材)には、麻や絹、紙をはじめ、金や銀、雲母など、さまざまな素材が用いられている。従来は、主に仏画や中世の屏風を中心に、基底材と表現の関わりが論じられてきたが、江戸時代以降、中国の書画の影響を受け、絛や金箋などの特殊な素材も用いられた。日本の文人画(南画)において、絛を使用した早い例としては、与謝蕪村がよく知られるものの、蕪村に師事した呉春が描いた「白梅図屏風」(逸翁美術館蔵)には、より特殊な基底材が用いられている。国の重要文化財指定では同図の基底材を絹とみなしているが、明らかに絹とは異なる靱皮繊維が確認でき、葛布との指摘もある。

本研究の目的は、呉春筆「白梅図屏風」に使用されている特殊な基底材を解明し、同種の基底材が使用された他の作例との比較のうえで、時代性や地域性を検討するとともに、江戸時代中期以降に流行するマチエール表現との関わりを考察することにある。

成 果 1. 呉春筆「白梅図屏風」の基底材の材質の分析

呉春筆「白梅図屏風」の基底材は、国の重要文化財指定によると、「絹本墨画淡彩」として絹とみなされているが、基底材の組織や繊維を詳細に観察すると、明らかに絹とは異なる靱皮繊維を織った布が用いられている。それを確認するために、保存科学研究センターの協力を仰ぎ、FT-IR(赤外分光分析)の測定器で分析を行ったところ、そのスペクトルが絹とは異なったため、絹ではない靱皮繊維が使われているのが事実であることが判明した。ただし、同測定器では、靱皮繊維が類似したスペクトルを示すため、靱皮繊維の同定までには至っていない。

2. 葛布との比較検討

呉春筆「白梅図屏風」に用いられている基底材については、すでに葛布との指摘があることから、まずは、葛布に描かれた作例を広く探し出した。とりわけ、静岡の掛川は、江戸時代から葛布の産地であったため、同地出身の画家である村松以弘(1772~1839)の作例には、葛布に描いた絵画がいくつか確認され、また、同じく静岡出身の画家である福田半香(1804~64)についても、葛布に描いた大作が知られることから、静岡ゆかりの画家を中心に、葛布に描かれた作例の搜索を進めた。その結果、静岡ゆかりの葛布と想定される作品を6点確認することができ、そのうち4点について調査を行った。

また、静岡県では現在も葛布が制作されており、葛布を制作している大井川葛布という葛布制作工房で実際に葛布の制作工程を体験し、その制作工程や質感の確認作業を行った。

3. 葛布以外の可能性の検討

一方、呉春筆「白梅図屏風」も、国の重要文化財指定では「絹本墨画淡彩」とされているように、絹とみなされている作例の中にも、特殊な基底材を用いているものがかかなり含まれていると想定されるため、葛布とされるものに限らず、特殊な基底材を用いているとみられる作例について広く情報収集を図り、麻布や芭蕉布など葛布以外の可能性についても検討した。その際、絵画の基底材に限らず、葛布や芭蕉布が用いられている染織資料も比較対象に含めた。その結果、呉春筆「白梅図屏風」の基底材に類似した絵画・書跡の基底材として9点の作例を、染織資料としては3点の作例を確認した。

これらの事例を検討してみると、12点のうち5点が芭蕉布とされており、葛布と芭蕉布が組織や繊維のうえでは、かなり類似しており、両者の同定に混乱がみられることが確認された。

とりわけ、沖探容筆「四季山水図屏風」(鳥取県立博物館蔵)、鄭嘉訓筆「七言絶句書」(沖縄県立博物館・美術館蔵)、後藤敬臣筆「七言絶句書」(沖縄県立博物館・美術館蔵)は、いずれも芭蕉布を基底材とすることが事実とみられ、かつ、呉春筆「白梅図屏風」の基底材ときわめて類似することから、今後は、芭蕉布の可能性を視野に、検討を進めていく必要がある。

研究組織 ○安永拓世(文化財情報資料部)

ポスト 1968年表現共同体の研究：松澤宥アーカイブズを基軸として

目 的 ベトナム反戦運動が世界的に広がり、アメリカではキング牧師暗殺、フランスでは「五月革命」、社会主義圏では「プラハの春」が起こり《20世紀の転換点》と称される1968年、日本では戦後日本の政治的・経済的枠組みを問う声が高まり、全国で様々な社会運動が広がり、美術では関根伸夫《位相・大地》によって「もの派」が誕生し、写真では思想状況を色濃く反映した『プロヴォーク』が創刊されるなど表現活動においても大きな分岐点であった。ただ、1960年代末から70年代の日本地域特有の表現活動に関する研究は、個人作家やグループの個別研究が多く、表現者たちの緩やかな人的ネットワーク「表現共同体」を主眼においた研究はまだ少ない。本研究では、国際的なコンセプチュアル・アートの先駆者で、東洋的な宗教観、宇宙観、現代数学、宇宙物理学等を組み入れ、かつ同時代の人物(美術、建築、音楽、文学、舞踏)との交渉も多岐にわたる作家・松澤宥(1922-2006)のアーカイブズから見出せる「表現共同体」を検証することで、1968(昭和43)年以後を中心とした時代における表現者たちの相互関連性、表現活動のジャンル越境性を明らかにする。

成 果 初年度である本年度は、松澤宥アーカイブズを管轄する一般財団法人松澤宥プサイの部屋と連携し、本研究を効果的に実施するための枠組みを構築した。また研究対象年代の前史として1950年代に生成された資料体を中心にデータベース化・デジタル化を行うとともに、松澤の活動地域や関係者の調査・取材を行った。詳細は、以下の通り。

◎5/23 第1回研究協議会 於：東京文化財研究所

- ・一般財団法人松澤宥プサイの部屋での資料整理状況についての情報共有を行った。
- ・本研究での成果物(データベース、デジタルデータ)の取り扱いに関する取り決め、また本研究におけるアーカイブズの東京文化財研究所への貸出に関する取り決めを行った。

◎6/13 藤原和通氏への調査 於：東京文化財研究所

- ・藤原氏は1971(昭和46)年に松澤を中心とする表現共同体が行った「音会(おんえ)」への参加者、音源記録者であり、音会の音源を借用し、デジタル化した。デジタル化した音源は、展覧会「アジアがめざめたら：アートが変わる、世界が変わる 1960-1990年代」(2018.10.10から、東京国立近代美術館、韓国国立現代美術館、ナショナル・ギャラリー・シンガポール)に出品した。

◎7/16,17 第2回研究協議会 於：下諏訪町、松澤宥旧宅

- ・資料調査を実施した。また、松澤宥アーカイブズのうち、以下の資料体を東京文化財研究所へ搬送した。美術文化協会、RATI、α芸術陣、読売アンデパンダン展、アートクラブ。

◎2019.2.16 発表 於：下諏訪町立諏訪湖博物館・赤彦記念館

- ・平成30年度文化庁地域と共同した美術館・歴史博物館創造活動支援事業「松澤宥アーカイブ活用プロジェクト」によるシンポジウム「松澤宥アーカイブの現状と活用」に橘川が参加し、1950年代の松澤宥とその周辺の分野横断的表現活動について報告を行った。

発 表・橘川英規：「松澤宥アーカイブの芸術史研究への活用—1951年に諏訪市で開催されたふたつの前衛芸術イベントを例に」シンポジウム「松澤宥アーカイブの現状と活用」19.2.16

研究組織 ○橘川英規、塩谷純(以上、文化財情報資料部)、三上豊(和光大学)、河合大介(岡山県立大学)

DNA塩基配列情報に基づく文化財害虫の新規データベース構築

目 的 文化財の虫害を未然に防ぐ予防的保存の実践において、文化財害虫の発生を早期に把握することは重要である。本研究は、文化財害虫について形態的特徴による同定法では分類が困難な幼虫や脱皮殻あるいは排泄物から遺伝子(DNA)を抽出し、DNA情報に基づき文化財害虫を同定する手法を確立することを目的とする。

成 果

1. 文化財害虫の標本コレクションの整備：日本国内で文化財への加害事例の多い昆虫の中から8目20科52種を主要な文化財害虫として選定した。該当する52種の文化財害虫を網羅的に収集し、DNA塩基配列解析に供するためのDNA情報証拠標本の作製・整備を進めた。また、国内の美術館、博物館の学芸員との連絡網を活用し文化財害虫の収集を行った。さらに過去に収集し、未整理の状態にある文化財害虫の乾燥標本の整備を進めた。
2. 標本コレクションの形態同定：収集した文化財害虫（DNA情報証拠標本）について、それぞれの文化財害虫が属する分類群ごとに特有の形態学的な特徴を記載し、種の同定を行った。同定の正確さは本研究にとって非常に重要な要素であるため、文化財害虫の分類同定に長く携わっている2名の研究者が担当した。種の同定と併せて害虫の形態写真及び生態学的情報（生息地、食性など）を記録・記載し、データベース構築を進めた。
3. 標本コレクションのDNA塩基配列解析：形態同定を終えた文化財害虫（DNA情報証拠標本）の同一試料から、形態分類の指標とならない体節の一部を採取しDNA抽出に供する。文化財害虫のDNAバーコーディングに用いる対象領域は、動物の標準的なバーコード領域であるミトコンドリアシトクロームCオキシダーゼサブユニットI (COI) 遺伝子の5'末端側の約650塩基対とし、ポリメラーゼ連鎖反応に用いる酵素や反応条件についての条件検討を行い、標準法を確立した。
4. DNA塩基配列情報の登録とデータベース構築：本研究で得られたDNA塩基配列情報は、国立遺伝学研究所（DDBJ）に登録するとともに、日本バーコードオブラيف・イニシアチブが推奨する情報：採集データ（採集地、採集年月日、採集者名）、同定データ（分類群名、同定者名、同定年）、DDBJ登録番号、各保管機関の証拠標本番号を基礎情報とした独自のデータベースを構築する。そのため、得られた形態写真の情報も付随させ、DNA塩基配列情報から文化財害虫の形態写真、生態情報、防除対策についての情報を整理した。
5. 脱皮殻・排泄物からのDNA解析手法の確立：幼虫や歩脚や翅といった体節の一部及び脱皮殻からのDNA抽出は、試料が微量であるため、常法を小スケールに改良した手法で検討を進めた。排泄物からのDNA抽出については、今後、文化財害虫の食性ごとに最適な手法の検討を進める予定である。文化財害虫ごとの各種のDNA抽出標準法を確立させた後、抽出手法も適宜データベースとともに開示する。

研究組織 ○佐藤嘉則、小峰幸夫（以上、保存科学研究センター）、二神葉子、小山田智寛（以上、文化財情報資料部）、斉藤明子（千葉県立中央博物館）、Ubaldo Cesareo（Central Institute for the restoration/conservation of archival and library heritage）

博物館IPMへのATP拭き取り検査活用に向けた基礎的な研究

目 的 近年、博物館施設や資料に発生している汚損がカビによるものかの判定や、カビであった場合の活性調査、表面汚染度評価等にATP拭き取り検査が導入されはじめている。

博物館IPMでは、このATP拭き取り検査の結果をもとに、その後の処理や管理の方針を決定する。しかし現状では、博物館IPMにおけるATP拭き取り検査についての合理的なATP発光量の基準はなく、測定者の経験によって判断されている。

本研究では、博物館IPMにおけるATP拭き取り検査での合理的な基準を、保存環境や資料表面で許容されうる単位面積当たりのATP発光量の範囲と設定し、この範囲について生理学的、光学的なアプローチによる基礎的な知見を得ることを目的とする。

本研究では、今後博物館IPMにおけるATP拭き取り検査における合理的なATP発光量の基準を設定していくための基礎的な知見として、博物館の保存環境という特殊な環境に限定したうえで、測定対象となる1. カビについての生理学的特徴の把握と、検出側となる2. 測定機器の光学的特性の比較を行うことで、3. 保存環境や資料表面で許容されうる単位面積当たりのATP発光量の範囲を検討する。

成 果 3年計画の第1年次にあたる平成30年度は、博物館の保存環境におけるカビの生理学的特性についての研究を行った。

博物館の保存環境におけるカビのATP発光量の範囲を設定するにあたり、カビの菌種によってATPの含有量が異なることから、博物館の保存環境に存在する種々のカビを採取し供試する必要がある。実際の博物館の収蔵庫で保管されている資料や、博物館外部からの借用資料のカビ跡等について採集し単離培養を行った。また博物館IPMとしてATPふき取り検査が活用される場面には、保存環境や展示環境だけでなく、災害時の水損資料も含まれる。このことから当初想定していなかった水損紙資料に発生したカビについても採集した。博物館IPMに関わる環境におけるカビの採集については今後も引き続き行っていく。ここで単離培養されたカビについては、今後同定を行ったうえで、培地上での単位面積当たりのATP発光量を測定していく予定である。また単位面積当たりに含まれる生細胞の割合は、カビの増殖期によって異なるため、今後はこれらのカビの増殖期による培地上での単位面積当たりの発光量の変化についても検証を行っていく。

次年度は引き続き博物館の保存環境におけるカビの生理学的特性について研究を行うとともに、測定機器間の光学的特性の比較も行う予定である。

研究組織 ○間渕創(客員研究員)

白色LED光照射に伴う蛍光性有機染料の変退色挙動とその抑制

目 的 本研究は、蛍光性有機染料は、従来の展示照明であるハロゲンランプや蛍光灯と比較して短波長成分が多い白色LED 光照射下では蛍光強度が高くなるため、変退色速度にも相違が生じる可能性があるという仮定を前提としたものである。これを詳細に検討するため、蛍光性有機染料によって染色したサンプルの長期照射試験を行い、白色LED 光のもとでの色差の推移、変退色速度を実測し、同照度のハロゲンランプ、蛍光灯での結果と比較を行うものである。そして、結果をもとに、蛍光性有機染料が使用された展示品保護を主眼として照度基準、積算照度基準の再考や、より変退色を抑制するための白色LED 照明の選択条件等を提示することを目指すものである。

成 果 平成30年度は本研究の初年度として、蛍光性有機染料の白色LED光を照射した際の発光、発光による視覚への影響について、黄色染料である黄檗等による染織布による検証を行った。その結果として、(1) 同じ白色LEDでも、色温度が高いほど、つまり青色光の寄与が大きいほど、反射光に対する蛍光の量が大きい。これは、染料が青色光により励起されることから、予想されたことであるが、反射スペクトル測定によって実証できた。(2) また、励起波長帯に相当する光をカットしたうえで、染織布を照射した場合の反射スペクトルを比較することによって、蛍光を発する場合とそうではない場合との色差を求めたところ、数値としては小さいものの、蛍光の発生は、視覚による色彩への影響となって表れることを示唆する結果を得た。また、白色LED光の色温度、照度による色彩への影響に関しては、実資料（浮世絵）による実験を行った。その結果、単に反射光のみではなく、色温度、照度に依存していると考えられる、表面での拡散反射の状態が視覚的な色彩に何らかの影響を与えていることも示唆された。

発 表・吉田直人、石井恭子：「白色LEDの発光特性と彩色絵画の色彩との関係について」 文化財保存修復学会第40回大会 18.6.16

研究組織 ○吉田直人（保存科学研究センター）

染織技術の伝承に関する研究―材料・道具に焦点をあてて―

目 的 本研究は染織品の様式変遷や模様の流行に関する従来の染織史研究を踏まえ、中世以降、日本各地に見られる染織技術がどのような伝播経路を辿りそれぞれの産地にもたらされたのか、そして産地に根付いた技法にはいかなる材料や道具が用いられてきたのか、工程はどのように分業され継承されていったのかに着目し研究を行うものである。本研究では特に染織技術をとりにくく材料や道具に着目し、産地間の比較検討や交流の情報を整理することで、染織技術の伝承について検証する。さらに研究対象を現在にも受け継がれる技術を主な対象に据えることで、染織技術を後世に受け継ぐ最善の方策を提示することを目指す。

成 果 本研究は、江戸時代の藩政資料及び地方史、鎌倉時代以降の染織技法書と絵画資料の調査研究、それらの技術に対応する染織品の調査、さらに染織技術の現地調査を基盤に推進した。前年度は、1.日本における染織技法の分布(平成30年度版)の整理と実地調査、及び2.中世以降の日本における染織技法の分布の整理を行った。本年度は昨年度に引き続き2を中心に分析を行った。

1. 現在の日本における染織技法の分布(平成30年度版)の整理と実地調査：

昨年度整理した染織技法の分布に今年度の指定情報・解除情報等の確認を行い更新した。さらに、昨年度までに調査を行った友禅染の道具や材料に関する調査(技術者への聞き取り調査及び友禅染の工程映像)を報告書にまとめた。また、葛布・芭蕉布等の靱皮繊維の工程調査、昨年度、調査・撮影した岡谷蚕糸博物館所蔵の9種の繰糸器(機)について映像の編集作業に着手した。来年度以降、これらの動画は岡谷蚕糸博物館の展示に活用される予定である。

2. 中世・近世・近代の日本における染織技法の分布の整理(染織技法書及び藩政史料等)：

本研究に先立ち、申請者は科学研究費補助金若手研究(B)「染織技法の分業化の展開に関する基礎的研究―技法書・絵画資料・実作品の分析を通して」(平成21年度採択、平成25年度終了)を通じて、室町時代以降の文献資料(227件)に見られる染織技法や、技術の担い手、用いられた道具等に関する情報を整理してきた。その中で、指導を目的として技術者を招く事例等、技術の伝播を考える上でも重要な背景が確認された。そこで、本研究では新たに情報を補完すべく都道府県史を中心に染織技術の関連項目についての情報整理を行ってきた。

本年度は、全都道府県史(約250冊)から染織関連の技術交流の記述について、抽出及び整理を進めた。抽出された情報には、江戸時代における岐阜縮緬等の西陣の火災による職工の移転や長井紬のように藩主が特産品となるように職工を招いた事例、明治時代以降の京都府・大阪府ではイギリス・フランスなどの国外ヘジャガード織や綿紡績等を学びに行く事例が見られた。また、山形県や新潟県等の原材料の生産地では、丹後縮緬の生産地へ出荷したというような原材料の出荷先の情報も多くみられた。一方、諏訪の座繰機は上州より購入した、広瀬紬の高機は久留米に寸法を計測に行き作成したなど道具を介しての技術交流も確認できた。

本研究は本年度が最終年度であるが、膨大な情報の精査はまだ不十分な状態であり、多くの課題が残っている。しかしながら、本研究により抽出された情報は、我が国の染織技術の伝承を考える上では重要な基礎情報である。今後も、当該地域によって担っていた職掌なども考慮しながら残された課題を検討していく。

報 告・菊池理予、半戸文：「青花紙の染織技術への利用」『青花紙制作技術に関する共同調査報告書―染織技術を支える草津のわざ―』 pp.79-106 東京文化財研究所 18.10

発 表・菊池理予：太田記念美術館江戸文化講座「現代に生きる江戸のファッション」 18.12.1, 8, 15

刊行物・科学研究費補助金報告書「資料 染織技術の伝承に関する研究―材料・道具に焦点をあてて―」 19.6

研究組織 ○菊池理予(無形文化遺産部)

墨、煤、膠の製法と性状の体系化—伝統的製法の再現—

- 目 的**
- ・墨、煤、膠の製造技術は、製品の性状と、それが使用された各時代の書画文化財の表現や芸術性に大きく影響している。本研究ではこれらの関連について実践的に体系化する。製膠技術史、製墨技術史を踏まえた新しい知見に基づく書画研究の可能性を拓き、さらに文化財修復への応用展開を目指す。
 - ・膠については、過年度研究を踏まえてさらに広範な製造条件下での試作を行い、製造条件と物理化学的特性、用途適性の関係について体系化を進める。また再現製造した松煙煤の性状を明らかにし、既報で扱った各試料との性状の相違を、墨として使用した際の表現効果への影響を含め実践的に明らかにする。

成 果 1. 中国式松煙煤の伝統的製法再現と製品性状検証

過年度該研究において製造した中国式松煙煤試料群の凝集体規模について粒度分布測定を行い、下掲の知見を得た。該試料群は『天工開物』(宋応星、明代)「朱墨」項記載方法の推定近似復元により得たものである。なお同書には、松煙煤は等級を区別して扱われていた旨の記述があった。往古の松煙煤製造において採取位置を分けたのは粒子径の異なる煤を得るためであったと屢々仄聞したが、凝集体規模について実験結果は該巷説を支持しなかった。ただし製墨時の混練処理等を経て維持されるアグリゲート規模との関連については検証余地が残されるものであることを注記する。

炉が小径で低断熱性、かつ時間毎原料投入量の多い条件において、設備集塵部分から得られた試料群はいずれも他試料と比して特に大きい凝集体規模を示した(平均径 $30\mu\text{m}$ 以上)。一方、一次粒子径が総じて大きい($0.2\mu\text{m}$ 内外)ことが過年度に確認された、炉が小径で高断熱性、かつ時間毎原料投入量の多い条件で得られた試料群は、凝集体規模については他試料と比して特に大きな値を示さなかった(平均径数 μm 程度)。また炉が大径の試料群は総じて凝集体規模が小さく、平均径が $1\mu\text{m}$ を下回るものが多く認められた。

2. 膠の製造条件と製品性状の関連体系化

膠試料の試作と分析を過年度研究から継続して進めた。『墨譜』(李孝美、宋代)、『墨經』(伝晁貫之、宋代)等に略記される製造方法をより多角的に試行し、該材料の学術的体系化を進めた。またこれらと過年度に得られた各知見を元に、書画等文化財剥落止め処置に使用される膠の選定ならびに製造提供等を行った。

論 文・宇高健太郎ほか：「膠の性状と湿熱劣化処理の影響に関する研究—表面観察による検証—」『保存科学』58 pp.107-117 19.3

発 表・宇高健太郎：「松煙煤に関する研究」第40回文化財保存修復学会大会 18.6.17

・宇高健太郎：「膠の性状と装演における適性」膠文化研究会第11回公開研究会(講演) 18.10.14

・宇高健太郎ほか：「膠と修理—《序の舞》を守る—」東京藝術大学大学美術館陳列館(発表展示) 18.10.14-19

研究組織 ○宇高健太郎(客員研究員)

紙質文化財にみられる緑青焼けに対する修復処置方法の開発

目 的 日本画などにみられる「緑青焼け」は、銅を含む顔料により基底材の劣化が著しく促進され、変色、脆弱化を伴う深刻な問題である。本研究では、日本の書画における修復処置として、現行の裏打紙取り替え工程、及び水洗工程に着目し、「緑青焼け」に対する処置としての効果を評価する。一方、「緑青焼け」劣化現象の主要因である銅イオンの拡散の影響を検討するため、緑青のみならず銅含有の顔料の焼けについても緑青と比較し調査した。

成 果 紙の色変化

顔料を塗布したろ紙試料において、湿熱加速劣化後、試料裏面は、顔料塗布部分のみ茶褐色化が濃くなる経時変化、「焼け」が、緑青、群青ともにみられ、図1に示すように、顔料無し対照に比べ、顔料塗布2種の試料で ΔE^* が大きく増加し、変色が大きかった。加速劣化4週までは、両顔料塗布試料の変色は同程度であったが、8週では群青試料が緑青試料の変色よりも小さかった。

紙のセルロース分子量の変化

上記試料について、セルロース分子量を測定し、紙の劣化を評価した。図2に示すように、対照試料に比較し、群青または緑青顔料塗布ろ紙のMwは、低下が早いことがわかる。また、加速劣化初期より、群青塗布試料は、緑青塗布試料よりもセルロース分子量の低下は小さい。その後、加速劣化8週まで、同傾向を示した。

まとめ

群青による「群青焼け」の劣化現象は、「緑青焼け」と類似の様子が見られた。しかし、両者の劣化現象について、変色及びセルロース分子量低下の速度を比較した結果、いずれの劣化現象も、群青の方が緩やかに進行することがわかった。また、2種の顔料による変色の経時変化と、セルロースの分子量経時変化では、挙動が異なることを示し、変色の劣化機構とセルロースの分子量低下を伴う劣化は、異なる機構で進行することが示唆された。

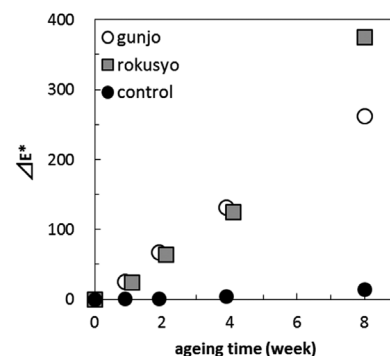


図1 顔料塗布ろ紙（裏面）の色の経時変化 (80°C、65% rh、8週間)

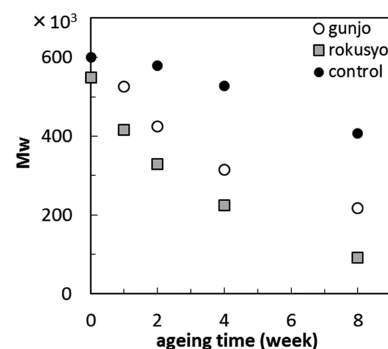


図2 顔料塗布ろ紙の質量平均分子量 (Mw) 経時変化 (80°C、65% rh、8週間)

報 告・Keiko Kida, Angela Han, Mari Kurashina, Masamitsu Inaba, Characterization of Asian Paper using Py-GC/MS: Application of the Method at Tokyo University of the Arts in “Development of a new analytical method using pyrolysis and comprehensive two-dimensional gas chromatograph mass spectroscopy (Py-GCxGC/MS) for the characterization of Japanese paper, washi”

発 表・貴田啓子、柏谷明美、稲葉政満、早川典子：「ドウサによる和紙の劣化抑制について」第85回紙パルプ研究発表会 18.6.21

・貴田啓子、柏谷明美、稲葉政満、早川典子：「群青顔料が紙の劣化に及ぼす影響」文化財保存修復学会第40回大会 18.6.17

・Keiko KIDA, Akemi Kashiwaya, Masamitsu Inaba, Noriko Hayakawa: “Retardation effect in the Copper Corrosion damage to Japanese paper by Dosa” 18.11.1

研究組織 ○貴田啓子 (客員研究員)

アイヌと和人の文化交渉史に関する研究—明治期の和人によるイナウ奉納習俗を中心に

目 的 本研究は、石川県で発見された明治期の奉納イナウ及び国内の類似資料の調査研究を核に、近世後期から近代における、アイヌ民族と和人（本州以南の人々）の文化交渉史を再考することを目的とする。イナウはアイヌが最も重要視する祭具である。それがなぜ和人によって本州の社寺に奉納されたのか、その経緯・背景を現地調査や関連資料の分析によって解明することにより、日本列島におけるイナウ関連習俗の全体像を追究する。さらには、その過程を通して、北前船交易等を介したアイヌと和人の文化交渉や、和人によるアイヌ文化受容の実態を検証・考察することで、従来の研究では見落とされてきた「北からの文化の道」を実証的に提示することを目指す。

成 果 本州の社寺に奉納されたイナウは、これまでに石川県で9点、青森県で27点、岩手県で1点が確認されている。最終年度である本年は、現地での追加調査及び研究会を行い、年度末には3年間の成果を報告書にまとめた。

4月には追加調査として、戸潤幹夫氏（石川県立歴史博物館）、堀井美里氏（合同会社AMANE）とともに奉納イナウが見つかった石川県輪島市で現地調査を行い、イナウを奉納した角海家の船頭を務めた家のご子孫への聞き取り調査や、関連資料の調査を行った。

また、成果と課題の共有のため、5月に東京文化財研究所で研究会を開催したほか、6月には樺太アイヌ史の専門家である田村将人氏（国立アイヌ博物館準備室）と研究課題について話し合う機会を得た。

以上をふまえ、年度末には研究代表者と研究協力者6名による報告書『海を渡ったイナウ—アイヌと和人の文化交渉史の研究』を刊行し、関係各所に配布した。

報告書の内容は以下のとおり。

- ・「本州の社寺に奉納された明治期のイナウ—石川県の奉納イナウを中心に」 今石みぎわ
- ・「奉納イナウの形態と特徴」 北原モコトウナシ（北海道大学アイヌ・先住民族研究センター）
- ・「石川県輪島市門前町黒島の廻船船主と北方進出」 堀井美里（合同会社AMANE）
- ・「加賀藩産物方御用船 威徳丸の「航跡」」 濱岡伸也（石川県立歴史博物館）
- ・「近世文書の中のイナウ—アイヌと和人の交渉史から考える」 谷本晃久（北海道大学）
- ・「イナウ奉納額の周辺と絵馬文化—輪島市若宮八幡神社の遺例を中心に—」 戸潤幹夫（石川県立歴史博物館）
- ・「海上信仰における幣、削りかけ、イナウをめぐる」 今石みぎわ
- ・「イナウ奉納額の保存修復について」 大井理恵（石川県立歴史博物館）

論 文 今石みぎわ：「本州の社寺に奉納された明治期のイナウ—石川県の奉納イナウを中心に」「海上信仰における幣、削りかけ、イナウをめぐる」『海を渡ったイナウ—アイヌと和人の文化交渉史の研究』 東京文化財研究所 19.3

刊行物 今石みぎわ編：『海を渡ったイナウ—アイヌと和人の文化交渉史の研究』 東京文化財研究所 19.3

研究組織 ○今石みぎわ（無形文化遺産部）

イラン歴史的都市景観保護のための計画指標に関する研究

目 的 近年、大きく変容しつつあるイランの歴史的都市景観を適切に制御するため、文化遺産としての「真正性」及び「住民意向」を尊重した歴史的市街区における都市再興プロジェクトのあり方を検討し、おもに世界遺産バッファゾーン内の歴史的都市景観を継承するための計画指標を考察することを目的とする。

成 果 3年計画の第3年次にあたる本年度は、2018(平成30)年5月16日から26日にかけて現地調査を行うとともに、第2年次の調査結果について論文を作成し学会にて発表した。

①2018(平成30)年5月18日から21日にかけて、エスファハーンにて現地調査を行った。イラン文化遺産・手工芸・観光庁(以下ICHHTO)エスファハーン支部の説明を受けつつ、歴史的市街区内の歴史的住宅(国文化財)の保全状況について8軒を現地調査した。それに併せて、修復時に作成される図面や計画図書事例の提供を得た。

また、第2年次末にキュレーターとして関与した日本建築学会及び日本建築文化保存協会主催(東京文化財研究所協力)の展覧会『変容する「都」〈4+2〉～古代ペルシャから現代東京まで～』で使用したエスファハーンの模型をICHHTOに返却し、その成果について報告した。

②2018(平成30)年5月22日から23日にかけて、シラーズにて歴史的市街区の開発状況についての現地調査を行った。特に、サンゲ・シア地区内の歴史的建造物の保全と同地区の再生計画についてシラーズ大学カベフェ・ファッター准教授、及びシラーズ市歴史文化地区再生局のファルザード・ゴヴァヒ氏にインタビュー調査を行った。

③第2年次の調査内容をまとめた論文を投稿し、2018(平成30)年9月6日に2018年度日本建築学会大会(東北)において発表した。

なお、本年度に実施した調査の報告を適切に行うため、研究計画をさらに1年間延長する予定である。

論 文・山田大樹：「アティーク広場(エスファハーン)再興計画の評価～地区内店舗店主へのインタビュー調査に立脚して～」『2018年度大会学術講演梗概集』都市計画 pp.241-242 日本建築学会 18.8

発 表・山田大樹：「アティーク広場(エスファハーン)再興計画の評価～地区内店舗店主へのインタビュー調査に立脚して～」2018年度日本建築学会大会(東北)学術講演会 18.9.6

研究組織 ○山田大樹(文化遺産国際協力センター)

マヤ地域の博物館における文化遺産保全と地域発展に向けた文化資源マネジメントの研究

目 的 本研究は、ホンジュラス共和国コパンレイナス市を対象とし、地域住民と共に実践する博物館を拠点とした活動を通じて地域社会の新たな価値を活用して地域の課題に対峙する文化資源マネジメントのあり方を実践的に検証することを目的とする。

成 果 研究第1年次である本年度は、文化遺産保全と地域開発の歴史や目指すべき文化資源マネジメントの枠組みを明らかにするため、国内外の研究会での情報収集と研究発表、及び現地調査として対象地における関係者への聞き取り、文化遺産保護関連法規・文化遺産保全や活用に関する新聞記事等の資料収集を行った。

情報収集：2018（平成30）年9月30日に京都市で開催された国際シンポジウム「ICOM舞鶴ミーティング2018」へ参加し、国際的課題に対し独自に向き合う博物館の取り組み事例や、地域コミュニティに根差した博物館活動の実践事例について情報収集を行った。

研究発表：2018（平成30）年10月24日から26日にかけて、エルサルバドル共和国サンサルバドルにて開催されたI Simposio de Arqueología Pública en El Salvador（第1回エルサルバドルパブリック考古学シンポジウム）において研究発表を行った。また、近隣諸国における類似事例について情報収集を行い、現地研究者と意見交換を行った。エルサルバドルではタクスカルコ遺跡の破壊を契機に地域住民による文化遺産保護を訴える運動が起こっており、国民意識や今後の同国での考古学遺跡・文化遺産保護における大きな契機となる可能性があることが確認された。

現地調査：2018（平成30）年11月8日から9日にかけて、ホンジュラス共和国の首都テグシガルパにある国立人類学歴史学研究所を訪問し、同国における文化遺産保護体制について確認するため、文化遺産保護法文化観光広報担当者への聞き取り調査を行った。また、1984年に成立し、1997年に改正された国家文化遺産保護法の成立背景と当時の国民の反応を知るため、国立新聞図書館において当時の報道記事の収集を行った。成立前後半年を目安に主要4紙を調査したが、同法について触れた記事は僅かであった。今後調査期間を拡大するなど、さらなる検証を行う予定である。

論 文・Makiha GOKITA: “LOS MUSEOS Y LA COMUNIDAD LOCAL EN COPÁN RUINAS, HONDURAS” I Simposio de Arqueología Pública en El Salvador (in press) (「ホンジュラス共和国コパンレイナス市における博物館と地域コミュニティ」『第1回エルサルバドルパブリック考古学シンポジウム』) 2019年秋頃刊行予定
 ・五木田まきは：「マヤ地域の博物館と地域コミュニティに関する研究」『月刊考古学ジャーナル』722 pp.30-32

発 表・Makiha GOKITA: “LOS MUSEOS Y LA COMUNIDAD LOCAL EN COPÁN RUINAS, HONDURAS” I Simposio de Arqueología Pública en El Salvador (「ホンジュラス共和国コパンレイナス市における博物館と地域コミュニティ」 第1回エルサルバドルパブリック考古学シンポジウム) 18.10.25
 ・五木田まきは：「マヤ地域における文化遺産の持続的活用と地域コミュニティ」2018年度第2回日本ラテンアメリカ学会東日本研究部会 19.3.23

研究組織 ○五木田まきは（文化遺産国際協力センター）

伝統的木造建築技術の保存継承に関する日欧比較研究

目 的 日本及び西欧には、高度な伝統的木造建築技術が存在し、木工技能者養成研修などの取り組みによって、その保存と次世代への継承が図られてきた。しかし、このような技術の無形文化遺産としての価値は学術的に明確にされておらず、国際的な認証も得られていない。

本研究では、日本と西欧の伝統的木造建築技術の保護対策に注目し、保護されている技術の範囲、保護対策の内容、その導入の背景、変遷と現在の課題を検討する。西欧については、体系的な保護対策が講じられているイギリス、フランス、ドイツ及びノルウェーを対象国とする。その上で、比較検討を行うことによって、各国の保護対策の特徴とその理念的背景を浮き彫りにするとともに、各国の伝統的木造建築技術そのものの特質及び無形文化遺産としての価値を明らかにすることを最終目的とする。

成 果 本年度はイギリスを対象とし、木造建築遺産保存に関する現地調査を行うとともに、ヨークで開催されたイコモス木の委員会第21回国際シンポジウムに参加し、現時点までの研究成果について発表を行った。また、日本の木造建築技術に関しては、文化財建造物保存技術協会が開催する木工技能者研修についての現地調査を行った。

1. イギリスにおける木造建築遺産保存に関する現地調査及びイコモス木の委員会第21回国際シンポジウムへの参加(2018(平成30)年9月7日～19日)

イングランド中部・北部(ヨークシャー・アンド・ザ・ハンバー地域、イースト・ミッドランズ地域、ウェスト・ミッドランズ地域)を中心に、木造建築遺産の残存状況、その保存の方法及び修理履歴に関して調査を行った。また、2018(平成30)年9月12日～15日にヨークで開催されたイコモス木の委員会第21回国際シンポジウムに参加し、下記の通り研究発表を行った。

2. 日本の木造建築技術に関する調査

文化財建造物保存技術協会が開催する木工技能者研修のうち、2018(平成30)年6月25日～30日に富士宮で開催された「第23回普通コース」及び2019(平成31)年2月4日～9日に東京で開催された「第19回上級コース」を対象に、研修の内容と体制、講師と研修生の経歴について調査を行った。

なお、本研究は「伝統木造建築技術の保存継承に関する日英比較研究」(研究スタート支援)(平成29年度～平成30年度)から発展させたものである。

論 文・Martínez, Alejandro: "The Handing Down of Traditional Carpentry Techniques in Japan" Proceedings of the 21st IWC Symposium 2018, York, UK (in press)

発 表・Martínez, Alejandro: "The Handing Down of Traditional Carpentry Techniques In Japan" 21st IWC Symposium 2018, York, UK (「日本の伝統的大工技術の保存継承」第21回イコモス木の委員会シンポジウム、18.9.14、ヨーク、イギリス)

刊行物・マルティネス アレハンドロ:『木造建築遺産保存論』398p 中央公論美術出版 19.2

研究組織 ○マルティネス アレハンドロ(文化遺産国際協力センター)

紙本屏風の規格と表現・技法の研究

目 的 本研究では日本の屏風絵について、従来の研究では着目されることが殆どなかった、「紙の規格」という観点からその表現・技法についての考察を行う。国内外の中・近世屏風絵作品約500点についての本紙の情報を含むデータベースを作成し、従来の美術史研究の手法では踏み込めなかった問題や包括的研究における新機軸を打ち出すことを目的とする。絵に何が、どのように描かれているかはもちろん重要なテーマであるが、どのような本紙の上に描かれているのか、という着眼点は従来の研究では看過されることが多かった。しかしながら、本紙はその作品の真正性、制作当初の姿を伝える可能性の高い重要な材料と言える。長い時間を経過した古美術作品の、現在見えている表面には、修理や保存のため、また作品鑑賞上の改変等によって、制作当初からのこの時代に載せられたものが少なからず存在している。制作されてから全く何も手を加えられることがなく現存している古美術作品は存在しない、と言っても過言ではない。

本研究では屏風の用紙の大きさと紙継ぎの方法、また可能な範囲で、紙の材料(雁皮・竹・楮など)、修理の際に得られる情報などを収集する。素材としての情報を蓄積・整理・分析した上で、狩野派・土佐派・琳派などの流派による屏風絵作品を横断的に、紙の規格という観点から概観し、絵画としての表現と技法についての問題を考察する。

本研究の成果は襖や掛軸といった紙本絵画全体の研究にも発展的に応用できると同時に、実技の美術、文化財科学、保存修復、製紙技術史など、より広範な学問領域においての研究の発展にも貢献できるように、情報の蓄積と公開を行う。

成 果 本年度は昨年度に引き続き、国立博物館等、公立の美術館・博物館に所蔵されている近世の屏風絵作品についてリスト化し、データの取りまとめを行った。また効率よく研究を推進するため、過去の調査研究報告書やインターネットの高精細画像公開のコンテンツ等も参照し、データの拡充に努めた。

さらに研究遂行上、必要な作品について実見調査を行うとともに、作品所蔵館の学芸員に作品情報の管理についての聞き取り調査及び今後の有効な情報共有についての研究協議を行った。本年度は下記の作品の調査を実施した。

- ・神奈川県立歴史博物館所蔵の屏風絵作品：「山水花鳥図屏風」、「四季耕作図屏風」、「商山四皓図屏風」、「源平合戦図屏風」ほか、全18点。
- ・イースト・アングリア大学セインズベリー視覚芸術センター所蔵・渡辺始興「桜に雉子図屏風」
- ・大英博物館所蔵の屏風絵作品：「四季日月山水図屏風」、「高館物語図屏風」、「柳橋図屏風」、「許由巢父図屏風」、「鶴図屏風」ほか、全14点。
- ・シアトル美術館所蔵の屏風絵作品：狩野重信「芥子に竹図屏風」、雲谷等顔「山水図屏風」、尾形光琳「山水図屏風」ほか、全6点。
- ・ハーバード大学美術館所蔵の屏風絵作品：渡辺始興筆「山水図屏風」、宗達派「草花図屏風」ほか、全6点。
- ・山口県立美術館所蔵の屏風絵作品：雲谷等顔筆「山水図屏風」ほか、展覧会出陳作品も含めて全30点。

展覧会評・江村知子：「没後400年雲谷等顔展」『美術研究』427 pp.79-84 19.3

研究組織 ○江村知子(文化財情報資料部)

SAT大正新脩大藏經 画像データベース

目 的 『大正新脩大藏經』図像編(全12巻)は、平安・鎌倉時代のさまざまな密教関係を中心とした仏尊の情報をはじめとした関係情報を収載する。しかし、公刊以来、紙媒体で大部に及ぶため、デジタル時代に対応した画像検索、情報検索が要請されてきた。そこで収載の諸尊画像の属性情報(頭髮・面数、臂数、持物、印相〈左右真手各指の屈曲の有無で対応〉、装身具・光背・台座)の入力・集積を行い、尊名の特定や類似尊容の類聚の便をはかる検索システムの構築・公開を目指す。併せて、現在、主要な国際的デジタルアーカイブ公開機関の間で採用が広がりつつある、極めて相互運用性の高い高解像度画像の共有規格であるIIIF (International Image Interoperability Framework) に準拠して公開することで国際的な次元での利用性を高めることを目指したい。

成 果 『大正新脩大藏經』図像編の絵引き検索を行うための入力ソフトの運用評価を行い、尊別マークシート入力項目改良を行うとともに、平成30年度は、第6～12巻収載の諸尊の図像類についての絵引き検索を行うための基盤となる、所載図像の一尊ずつの抽出(枠囲み)と名称のタグ付けを優先的に行うとともに、逐次、各尊画像の基礎情報(頭髮・面数、臂数、持物、第一手の印相、装身具、光背・台座)について、マークシート入力を行った。

The screenshot displays the SAT database interface. On the left, a search bar and navigation controls are visible. The main area shows a selected image of a Buddhist figure, identified as '御筆' (Imperial Brush). To the right, a '追記・変更' (Add/Edit) form is open, containing various input fields for metadata. The form includes sections for '尊名' (Name), '尊像' (Image), '面数' (Number of Faces), '臂数' (Number of Arms), '持物' (Held Objects), '印相' (Mudra), '装身具' (Ornaments), '光背' (Aureole), and '台座' (Base). Each section contains checkboxes and dropdown menus for selecting specific attributes. For example, the '面数' section has options for '二目' (Two Eyes) or '三目' (Three Eyes). The '印相' section has a table for selecting the position and state of fingers. The '装身具' section has a list of items with checkboxes for their presence or absence.

図1 一尊ずつの抽出(枠囲み)と尊名のタグ付け、ならびに、その尊に関する画像情報を入力・蓄積するためのマークシート

報 告・『大正新脩大藏經』図像部画像データベース <https://dzkimgs.lu-tokyo.ac.jp/SATi/images.php>

研究組織 ○津田徹英、永崎研宣(以上、客員研究員)、下田正弘(東京大学)

木造建築遺産保存論

目 的 本書は、木造建築遺産保存の理念と技法についての日本とヨーロッパの比較研究であり、日本の木造建築遺産保存の特質を明確にすることを目的とする。

日本とヨーロッパにおける建築遺産保存は、「木造建築」対「石造建築」の二項対立の中で理解されてきた。その結果、日本とヨーロッパの違いは、単純に材料特質の違いの結果として説明されることが多く、建築遺産に対する価値観や評価基準という理念上の違いについては十分に説明されることはなかった。本書は、従来の「木」対「石」の二項対立の枠組みを乗り越えるために、日本とヨーロッパの木造建築遺産保存を対象に、理念から具体的な修理事例までを包含した本格的な比較研究である。

成 果 『木造建築遺産保存論』（マルティネス アレハンドロ著 A5 判、横 1 段、9 ポ、398 頁、発行部数 250 部、口絵 8 頁、中央公論美術出版 ISBN 978-4-8055-0861-9）を 2019 年 2 月 25 日に刊行した。目次は以下の通り。

序章

第Ⅰ部 木造建築遺産保存の理念の検討

第 1 章 建築遺産保存原則の形成過程

第 2 章 木造建築遺産への保存原則の適応

第 3 章 建築遺産における「文化的意義」、「真正性」および「完全性」の概念の変遷と特質

第Ⅰ部小結

第Ⅱ部 木造建築遺産保存の方法における日本とヨーロッパの比較検討

第 4 章 ヨーロッパの木造建築遺産保存における基本方針の検討

第 5 章 日本の木造建築遺産保存における基本方針の検討

第 6 章 保存原則の観点から見た木造建築遺産の修理技法の比較検討

結章

参考文献

巻末資料

研究組織 ○マルティネス アレハンドロ（文化遺産国際協力センター）

伝統木造建築技術の保存継承に関する日英比較研究

目 的 日本及び英国では、高度な伝統木造建築技術が存在し、木工技能者研修などの取り組みによって、その保存と次世代への継承が図られてきた。しかし、両国では、このような技術の無形文化遺産としての価値の所在が学術的に明確にされておらず、国際的な認証も得られていない。

本研究では、日本と英国の伝統木造建築技術の保護対策に注目し、保護されている技術の範囲、保護対策の内容、その導入の背景、変遷と現在の課題を検討する。そのうえで、両国の比較を行うことによって、各国の保護対策の特徴とその理念的背景を浮き彫りにするとともに、各国の伝統木造建築技術そのものの特質及び無形文化遺産としての価値の所在を明らかにすることを最終目的とする。

成 果 本年度は、英国における伝統木造建築技術の保存状況及びその継承のための取り組みを確認する目的で、下記の通り現地調査を実施した。また、日本の木造建築技術について、資料調査を通してその保護制度に関する情報収集を行った。

1. 英国における伝統木造建築技術に関する現地調査 (2018 (平成30) 年4月23日～27日)
ウェスト・サセックス州のウェールド・アンド・ダウンランド野外博物館 (Weald & Downland Open Air Museum) において実施された木工技術研修を対象とし、研修の内容となる伝統木工技術の特徴、研修の体制及び研修が開催されるようになった経緯、講師と研修生の経歴について調査を行った。
2. 英国における木造建築遺産保存に関する現地調査 (2018 (平成30) 年4月28日～5月3日)
イングランド南東部・東部 (ウェスト・サセックス州、イースト・サセックス州、ケント州、オックスフォードシャー州、エセックス州) を中心に、木造建築遺産の残存状況、その保存の方法及び修理履歴に関して調査を行った。
3. 選定保存技術制度の背景と成立過程、国庫の支援による技術研修の体制、及び近世規範術の保存継承の現状を中心に調査を行った。

なお、2018 (平成30) 年6月以降は、本研究課題を「伝統的木造建築技術の保存継承に関する日欧比較研究」(若手研究) に発展させて研究を継続した。

論 文・MARTINEZ Alejandro: "日本建成遗产保护方法的发展 (The Development of the Japanese Approach to the Conservation of Built Heritage)" **建筑师** (The Architect) 194, pp.34-44 18.8

研究組織 ○マルティネス アレハンドロ (文化遺産国際協力センター)

2. 受託調査研究・外部機関との共同研究及び外部資金による研究

(1) 受託調査研究

研 究 課 題	研究担当者	依 頼 元	頁
国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務	佐野千絵	文化庁	105
特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務	佐野千絵	文化庁	106
文化遺産国際協力コンソーシアム事業	中山俊介	文化庁	107
文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」	友田正彦	文化庁	108
文化遺産国際協力拠点交流事業「トルコ共和国における壁画の保存管理体制改善に向けた人材育成事業」	中山俊介	文化庁	109
シルクロードが結ぶ友情プロジェクト「シリア人専門家研修」	友田正彦	奈良県立橿原考古学研究所	110
被災資料有害物質発生状況調査業務	佐野千絵	陸前高田市立博物館	111
文化遺産国際協力拠点交流事業「ミャンマーの考古・建築遺産の調査・保護に関する技術移転を目的とした拠点交流事業・建築分野」	友田正彦	奈良文化財研究所	112
世界文化遺産の遺産影響評価に関する調査研究事業	西和彦	文化庁	113
美術工芸品保存修理用具・原材料調査事業	早川典子	文化庁	114
文化財の英語表記に関する調査研究事業	西和彦	文化庁	115

(2) 共同研究

研 究 課 題	研究担当者	相 手 先	頁
ゲッティ・リサーチポータルへの明治期～昭和期（戦前）の展覧会資料（デジタル）の提供・公開	山梨絵美子	ゲッティ研究所	116
航空資料保存の研究	北河大次郎	一般財団法人日本航空協会	117
文化財修理に使用する膠の製造に関する技術開発、研究	早川典子	一般社団法人 国宝修理装演師連盟	118

(3) 助成金による研究

研 究 課 題	研究代表者	助 成 元	頁
平成30年度二国間交流事業共同研究・セミナー「浮世絵版画の染料同定と摺り技術解明」	貴田啓子	独立行政法人日本学術振興会	119
バガン遺跡群（ミャンマー）寺院祠堂壁画の保存修復	前川佳文	公益財団法人住友財団	120
共催事業「伝統の音を支える技—第24回東京三味線・東京琴展示・製作実演会／第12回東京文化財研究所無形文化遺産部公開学術講座」	前原恵美	公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団	121
中米、ホンジュラス共和国コパン遺跡における文化遺産の地域社会還元に関するパブリック考古学的研究	五木田まきは	公益財団法人 高梨学術奨励基金	122
放射光を利用した古代鉄製品の製作地推定法開発のための研究	増淵麻里耶	公益信託吉田学記念文化財科学研究助成基金	123

3. その他の調査研究

研 究 課 題	研究担当者	頁
文化財防災ネットワーク推進事業	佐野千絵	124

4. 成果公開

事業の一部として実施した研究集会・講座等		頁
文化遺産国際協力コンソーシアム第23回研究会「諸外国における文化遺産保護の支援と協力を知る・語る」		126
文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム「文化遺産国際協力のかたち—世界遺産を未来に伝える日本の貢献—」		126
文化遺産国際協力コンソーシアム第24回研究会「文化遺産とSDGs」		127
文化遺産国際協力コンソーシアム特別講演会「文化遺産とSDGsを考える」		127
研究会「ネパールにおける無形文化遺産の現状と課題」		128
The 2nd Mayors' Forum on the Conservation of Historic Settlements in Kathmandu and Kavre Valley (カトマンズ及びカブレ盆地の歴史的集落保全に関する第2回市長フォーラム)		128
Workshop on the Conservation of Historical Brick Buildings in Bagan (バガンの歴史的煉瓦造建造物の保存修復に関するワークショップ)		129
インターネット公開		頁
コミュニティサイト、データベース		130
受託調査研究の一環として刊行された刊行物		頁
文化遺産国際協力コンソーシアム第23回研究会「諸外国における文化遺産保護の支援と協力を知る・語る」報告書		130
文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム「文化遺産国際協力のかたち—世界遺産を未来に伝える日本の貢献—」報告書		130
第24回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「文化遺産とSDGs」報告書		131
文化遺産国際協力コンソーシアム平成30年度協力相手国調査 モンゴル国調査報告書		131
Rehabilitation Plan for the Southwest Corner of the Mohan Chok, Hanumandhoka Durbar Square, Kathmandu		131
ハヌマンドカ王宮内アガンチェン寺周辺建造物調査中間報告書		131
The First Mayors' Forum on Conservation of Historic Settlements in Kathmandu and Kavre Valley on 26 Dec. 2017 at Panauti Municipality, <i>Proceedings</i>		131
平成30年度文化遺産国際協力拠点交流事業 トルコ共和国における壁画の保存管理体制改善に向けた人材育成事業報告書		132
Report of the Survey on Historic Brick Buildings at Bagan Archaeological Zone		132
平成30年度文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業 ミャンマーにおける考古・建築遺産の調査・保護に関する技術移転を目的とした拠点交流事業—建築分野—		132
世界文化遺産の遺産影響評価に関する調査研究事業報告書		132

国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務

- 目 的** 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。
- 成 果** 国宝高松塚古墳壁画の恒久的な保存方針に基づき、壁画の修理、修理環境の保全及び壁画の保存・活用に係る調査・研究業務を実施した。
- 壁画の修理内容及び修理環境の保全に関連する事項
- ・壁画の修理方針や内容に関する科学的・学術的助言

壁画表面のクリーニングを行うため、粗鬆化した漆喰部分の強化方法を検討した。古墳壁画の保存活用に関する検討会で膠の使用が確定したため、その事前試験、現場での協議をし実施した。また、今後の保存方法についての協議を重ねた。
 - ・高松塚古墳壁画恒久保存対策調査事業の生物調査報告書の出版に向けた編集作業を行った。
 - ・修理施設内の温湿度・生物等の調査

高松塚古墳壁画修理施設 修理作業室の温湿度モニタリングを実施した。温度は20～22℃で推移、相対湿度は夏季に若干高めであったが、期間を通じて概ね50%台を維持した。また、施設の空調制御運用法について検討した。

高松塚古墳壁画仮設修理施設の歩行性昆虫調査及び除塵清掃を、第1回目の調査（5月10日）、第2回目（8月18日）、第3回目（11月16日）、第4回目及び除塵清掃（2月1日）で実施した（委託先：イカリ消毒株式会社）。

高松塚古墳壁画仮設修理施設の浮遊菌等調査を、第1回目（9月14日）、第2回目（1月11日）で実施した（委託先：NPO法人カビ相談センター）。
- 壁画の保存・活用に関連する事項
- ・壁画面の状態調査及び状態図の作成について

修理施設に定期的に修理施設で文化庁・国宝修理装演師連盟と研究協議を行った。また修理材料についての調査研究を実施した。これらに資するため、高句麗古墳の視察を行った。（10月27日～11月1日）
 - ・他の古墳壁画にかかる事項の調査研究

史跡屋形古墳群、史跡日岡古墳において保存環境に関する助言を行った。

また、他の装飾古墳の微生物と藻類の遺伝子解析研究を進めた。
- その他
- ・奈良文化財研究所と共同して、高松塚古墳壁画の材料に関する分析調査を継続的に実施した。またテラヘルツ分光分析により、下地を形成している漆喰層の状態の調査を行った。
 - ・平成29年度に4回行われた国宝高松塚古墳壁画仮設修理施設（国営飛鳥歴史公園内）の一般公開に際して、延べ18名を派遣し、立会い説明等を行った（5月19日～25日、7月21日～27日、9月22日～28日、2019（平成31）年1月19日～25日）。
 - ・古墳壁画保存関連の事業全般について情報共有を行い、効率的で正確な作業を行うために、2018（平成30）年6月1日、2019（平成31）年2月6日の2回にわたり、奈良文化財研究所と古墳壁画保存対策プロジェクトチーム会議を開催した。
 - ・2018（平成30）年7月17日、2019（平成31）年3月22日に開催された文化庁の「古墳壁画の保存活用に関する検討会」（第24回、25回）に、奈良文化財研究所とともに事務局として出席した。
- 研究組織** ○佐野千絵、早川泰弘、吉田直人、朽津信明、佐藤嘉則、犬塚将英、早川典子、倉島玲央、小峰幸夫、嶋原由美、藤井佑果（以上、保存科学研究センター）、前川佳文（文化遺産国際協力センター）、川野邊渉（特任研究員）、大場詩野子（客員研究員）
- 備 考** 本事業は、文化庁より委託された。

特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務

目 的 キトラ古墳壁画の彩色及び漆喰の状態調査並びに展示環境の制御とモニタリング方法の調査研究を行う。

成 果 特別史跡キトラ古墳の取り外した壁画の保存修復措置に係る資料整備、古墳・壁画の保存・活用に係る調査・研究の業務を実施した。

○壁画の保存修復措置に関する事項

・最適な保存処置方法の検討

壁画の集中メンテナンスを四神の館で4回行った(6月25～29日、7月9～13日、8月27日～31日、10月29日～11月2日、2019(平成31)年3月25日～29日)。壁画は概ね安定していたが、再構成を行っていた高松塚古墳壁画修理施設との環境設定の差異が若干あるため、装演師連盟と協力し、適宜剥落どめ及びクリーニングを行い、安定化をはかった。

・保存管理に最適な設備環境の検討

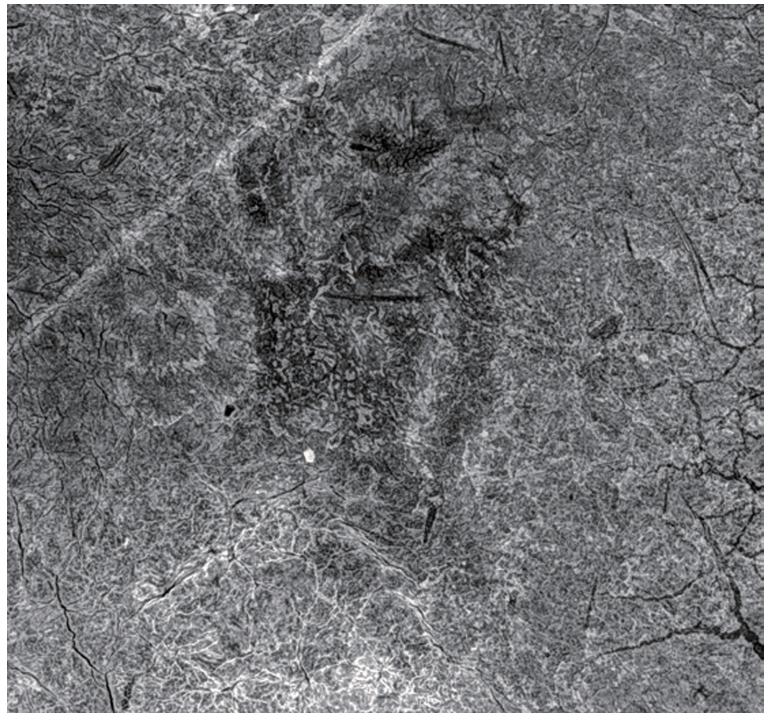
壁画の保管及び展示公開を行っている「四神の館」において、環境調査及び改善に協力した。

・材料調査と保存収縮処置方法の検討

奈良文化財研究所との共同により、キトラ古墳の材料に関する分析調査を継続的に実施している。30年度は泥に覆われた部分の下にあると推定される画像についてX線による撮影検討を行い、「辰」「巳」「申」の撮影を行った。

・他の古墳壁画にかかる事項の調査研究

高松塚古墳壁画の調査と連携して、効率的に実施した。



泥で覆われた辰該当部分の漆喰 X 線撮影画像

研究組織 ○佐野千絵、早川泰弘、吉田直人、朽津信明、佐藤嘉則、犬塚将英、早川典子、倉島玲央、小峰幸夫、嶋原由美、藤井佑果(以上、保存科学研究センター)、前川佳文(文化遺産国際協力センター)、川野邊渉(特任研究員)、大場詩野子(客員研究員)

備 考 本事業は、文化庁より委託された。

文化遺産国際協力コンソーシアム事業

目 的 文化遺産国際協力コンソーシアム（以下、コンソーシアム）が掲げる、「海外の文化遺産保護に関する国内の連携・協力を推進する」という目標のもと、事務局として各種分科会活動や情報データベースの構築、シンポジウム・研究会の開催等を行うことによって日本の文化遺産国際協力を支援・促進する役割を担う。

成 果 (1) コンソーシアムの会議の開催
 ア) 運営委員会を2回開催し、活動方針を協議したほか、活動報告として総会1回を開催した。
 イ) 企画分科会、東南アジア・南アジア分科会、西アジア分科会、東アジア・中央アジア分科会、欧州分科会、アフリカ分科会、中南米分科会を計16回開催した。
 (2) 情報収集と情報発信
 ア) 文化遺産国際協力事業の基礎情報データベースに新たな情報を追補し、データベースの充実を図った。
 イ) 文化庁と協力し、文化遺産の不法輸出入等防止のための情報収集を行った。
 ウ) コンソーシアム紹介パンフレットとコンソーシアム事業紹介冊子の配布を通して、コンソーシアム活動のPRを行った。
 エ) 研究会「諸外国における文化遺産保護の支援と協力を知る・語る（ワークショップ）」、「文化遺産とSDGs」を開催した。
 オ) シンポジウム「文化遺産国際協力のかたち—世界遺産を未来に伝える日本の貢献」を開催した。（文化庁と共催）
 カ) 特別講演会「文化遺産とSDGsを考える」を開催した。
 キ) 一部の地域分科会（第10回アフリカ分科会、第11回中南米分科会）を一般公開とし、会員以外にも情報を共有した。
 ク) 会員向けのメールニュース（コンソーシアムイベント告知、国内外文化遺産関連イベントの案内等）を配信した。
 ケ) 会員向けウェブサイトに分科会議事録・配布資料などを掲載し会員との情報共有を図った。
 (3) 文化遺産国際協力の推進に資する調査
 モンゴル国の文化遺産を巡る現状と、過去の調査時からの変化を把握し、モンゴル国における日本と他国（ドイツ、韓国、中国等）の国際協力事業を比較した上で、新しい協力のモデルを考察することを目的とした現地調査を行った。

刊行物・パンフレット『文化遺産国際協力コンソーシアム』 18.10

- ・小冊子『文化遺産の国際協力2019』 19.3
- ・『文化遺産国際協力コンソーシアム第23回研究会（ワークショップ）「諸外国における文化遺産保護の支援と協力を知る・語る」報告書』 19.3
- ・『第24回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「文化遺産とSDGs」報告書』 19.3
- ・『シンポジウム「文化遺産国際協力のかたち—世界遺産を未来に伝える日本の貢献—」報告書』 19.3
- ・『文化遺産国際協力コンソーシアム平成30年度協力相手国調査 モンゴル国調査報告書』 19.3

研究組織 ○中山俊介、西和彦、松保小夜子、牧野真理子、五嶋千雪、杉田菜緒子（以上、文化遺産国際協力センター）、中野照男（客員研究員）

備 考 本事業は、文化庁より委託された。

文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」

目 的 2015（平成27）年4月のゴルカ地震で被災したネパールの文化遺産復興を支援するため、同国文化観光民間航空省考古局をはじめとする関係機関との協働のもと、建築史・建築構造・都市計画・修復技術・無形文化遺産等の各分野において専門的調査を実施するとともに、ワークショップ開催、研修実施等を通じて技術移転を促進するなど、同国内の文化遺産保護体制整備に貢献する。

成 果

- ・ハヌマンドカ王宮内アガンチェン寺ほか建物群修復事業に係る運営委員会参加、ゴピナート寺修復事業委員会参加、考古局とのMOU更新、上記建物群修復施工計画検討、改造痕跡調査及び変遷履歴検討作業（2018（平成30）年4月8日～19日）
- ・同建物群実測調査、煉瓦壁面破損調査、煉瓦目地材調査、内壁面仕上層調査、記録画像作成、歴史的集落保全に関する行政担当者ワークショップ開催（2018（平成30）年4月25日～5月11日）
- ・同建物群実測調査、内壁面仕上層調査、修復事業関係者打合せ、カトマンズ盆地内歴史的集落保全に関する行政担当者との打合せ等（2018（平成30）年7月7日～18日）
- ・ネワール集落における新築デザインガイドライン策定に向けた調査及び現地専門家とのワークショップ、ネワール集落における空間構造把握調査（2018（平成30）年8月12日～28日）
- ・コカナ集落における無形文化遺産調査（2018（平成30）年8月21日～30日）
- ・同建物群実測調査、内壁面仕上層調査、仕上層サンプル整理、修復事業関係者との打合せ、カトマンズ盆地内歴史的集落現状調査及び現地担当者打合せ等（2018（平成30）年9月16日～28日）
- ・パナウティ集落・コカナ集落における伝統民家の構造調査、コカナ集落における新築デザインガイドライン策定に向けた現地打合せ（平成30）年11月22日～28日）
- ・コカナ集落における新築デザインガイドライン策定・リーフレット作成に向けた現地打合せ、伝統民家の保全手法に関する現地専門家へのヒアリング（2019（平成31）年1月30日～2月4日）
- ・同建物群の内壁面仕上層成分分析調査（2019（平成31）年2月22日～28日）
- ・歴史的集落保全に関する第2回市長フォーラム開催、カトマンズ盆地内歴史的集落調査ほか（2019（平成31）年3月10日～17日）
- ・同建物群修復事業関連協議、分解範囲事前調査ほか（2019（平成31）年2月26日～3月14日）
- ・無形文化遺産保護担当官の本邦招聘及び研究会開催（2018（平成30）年12月4日～12日）

論 文・間舎裕生：「カトマンズ・ハヌマンドカ王宮内シヴァ寺院の歴史的変遷」『日本建築学会大会学術講演梗概集 建築歴史・意匠』 pp.7-8 18.9ほか3件

発 表・森朋子、西村幸夫：「コカナにおける伝統的建造物の復興の実態（震災後2年半）－2015年ネパール地震後の世界遺産暫定リスト・コカナにおける震災状況調査報告 その8－」 日本建築学会2018年大会（東北） 18.9.4 ほか4件

刊行物・“Rehabilitation Plan for the Southwest Corner of the Mohan Chok, Hanumandhoka Durbar Square, Kathmandu” TNRICP, 19.3

- ・「ハヌマンドカ王宮内アガンチェン寺周辺建造物調査中間報告書」東京文化財研究所 19.3
- ・“The First Mayors’ Forum on Conservation of Historic Settlements in Kathmandu and Kavre Valley on 26 Dec. 2017 at Panauti Municipality, Proceedings” Panauti Municipality / TNRICP, 19.3

研究組織 ○友田正彦、山田大樹、間舎裕生、浅田なつみ、増渕麻里耶（以上、文化遺産国際協力センター）、久保田裕道、石村智（以上、無形文化遺産部）、黒津高行（日本工業大学）、腰原幹雄（東京大学）、多幾山法子（首都大学東京）、宮本慎宏（香川大学）、金善旭（八戸工業高等専門学校）、西村幸夫（神戸芸術工科大学）、森朋子（札幌市立大学）、一柳智子（郡山女子大学）、多井忠嗣、平井奈美（以上、ネパール考古局/JICA派遣専門家）、奥村俊道（文化財建造物保存技術協会）、ビジャヤ・K・シュレスタ（クオパ工科大学）

備 考 本事業は文化庁より委託され、構造学的調査は東京大学生産技術研究所腰原幹雄研究室、歴史的集落の保全と復興に関する調査は神戸芸術工科大学芸術工学研究科西村幸夫研究室にそれぞれ再委託して実施した。

文化遺産国際協力拠点交流事業「トルコ共和国における壁画の保存管理体制改善に向けた人材育成事業」

目 的 本事業では、カッパドキア地域を中心にトルコ共和国国内の壁画の保存状況を専門的視点から調査するとともに、その管理体制の見直しを行う。また、これに応じて必要と考えられる専門的知識・技術力の強化を目的としたワークショップを現地専門家及び文化財保存・修復学を専攻する学生を対象に実施し、同国における保存修復水準の向上を図る。

成 果 ■研修事業の実施

調査結果をもとに、トルコ共和国の壁画を保存していくうえで重要となる応急処置のあり方を見直し、そのプロトコルを確立させていくことを目標とする第1回研修を前年度に実施した。本年度もこれに引き続き現場実地研修と座学で構成された研修を2度にわたり開催した。

◇第2回研修：2018(平成30)年6月25日～29日

◇第3回研修：2018(平成30)年10月15日～20日

現場実地研修場所は前年度までに実施した調査で選定し、トルコ共和国内に10箇所設置されている各国立保存修復センターより専属の専門家3名ずつ、計30名が参加した。

■研修内容

・現場実地作業

事前調査(損傷マッピング、文献調査)

応急処置の実践(部分固定法、エッジング)

応急処置用材料の実験(流動性調査、含浸率調査、収縮率調査等)

・座学

トルコ共和国における保存修復活動の事例報告

日本の壁画保存に係る研究発表

研修内容に係る意見交換

■南イタリア調査

研修事業に反映させることを目的に、カッパドキア地域に類似する様式で描かれた壁画が残る南イタリアにおいて、技法及び保存状況に焦点をあてた調査を実施した。

■大学教育機関における調査

現行の文化財関連教育制度についての理解を深めることを目的に、トルコ共和国内で文化財保存・修復学科を有する複数の大学を訪問して聞き取り調査を実施した。

報 告・Yoshifumi Maekawa ほか：Conservation of Turkish Wall Paintings: a guideline for emergency treatments 2017-2019, Ministry of Culture and Tourism, Republic of Turkey 18.10

発 表・犬塚将英：Investigation of Layer Structure of Wall Paintings by Terahertz Imaging Technique, 18.10.19

・前川佳文：「トルコ共和国における壁画の保存管理体制改善に向けた人材育成事業」文化遺産国際協力コンソーシアム第11回欧州分科会 19.1.10 ほか3件

刊行物・『平成30年度文化遺産国際協力拠点交流事業 トルコ共和国における壁画の保存管理体制改善に向けた人材育成事業 成果報告書』東京文化財研究所 19.3

研究組織 ○中山俊介、前川佳文、増渕麻里耶(以上、文化遺産国際協力センター)、嶋原由美(保存科学研究センター)、ガイド・ボッチチェッリ、ファブリツィオ・バンディーニ、アルベルト・フェリーチ(以上、国立フィレンツェ修復研究所)、ダニエラ・マリア・マーフィー(文化協会バステオーニ)、ステファニア・フランチェスキーニ(壁画保存修復士)

備 考 本事業は、文化庁より委託された。

シルクロードが結ぶ友情プロジェクト「シリア人専門家研修」

目 的 シリアでは2011（平成23）年3月に内戦が始まって以来、すでに8年の月日が経過している。内戦下では人的被害が生じているだけでなく、その被害は文化財にも及んでいる。

文化財の被害としては、パルミラなどの考古遺跡が取り上げられることが多いが、古文書や図書資料といった紙文化財にも大きな被害が生じている。たとえば、アレppoにあったシリア最大級の図書館は爆撃を受け、モスルではISが図書館や大学に侵入して彼らの思想に合わない本に灯油をかけ燃やしている。

このような状況に鑑み、奈良県立橿原考古学研究所が中心となって実施する「シルクロードが結ぶ友情プロジェクトーシリア人専門家研修」の一環として、シリアから専門家2名を招聘し、紙文化財の保存修復に関する研修を実施した。

成 果 日本政府とUNDP（国連開発計画）は、2017（平成29）年に文化遺産分野におけるシリア支援を開始し、2018（平成30）年2月からは、奈良県立橿原考古学研究所を中心に、筑波大学や帝京大学、早稲田大学、中部大学、古代オリエント博物館などの学術機関がシリア人専門家を受け入れ、考古学や保存修復分野に関するさまざまな研修事業を始めている。

東京文化財研究所も、2018（平成30）年5月15日から30日までの2週間にわたり、シリア人専門家2名を日本に招聘して紙文化財の保存修復に関する研修を実施した。国立国会図書館及び国立公文書館の協力のもと行った本研修では、文書資料や書籍などの基本的な修復方法や保存方法を学んでもらった。

一方、2018（平成30）年1月には、シリア北西部に所在するシロ・ヒッタイト時代の神殿址アイン・ダーラ遺跡が空爆されて深刻な被害が生じたというニュースが報道された。この遺跡では、1994（平成6）年から1996（平成8）年にかけて、東京文化財研究所が保存修復事業を実施した。そこで、この事業を率いた西浦忠輝名誉研究員から当時の関係資料を提供いただき、今後の同遺跡の修復に役立ててもらうべく、上記研修に招聘したシリア人専門家を通じてシリア古物博物館総局に提供した。また、東京文化財研究所が所蔵する、和田新が1929（昭和4）年から翌年にかけてアレppoやダマスカス、パルミラなどを撮影した貴重な古写真のデータも併せて提供した。



国立国会図書館におけるシリア人専門家研修風景

報 告・『The Silk Road Friendship Project: The Training Workshop for the Preservation of Paper Cultural Heritage, 2018』UNDP 提出報告書

研究組織 ○友田正彦、安倍雅史、間舎裕生（以上、文化遺産国際協力センター）

備 考 本事業は、奈良県立橿原考古学研究所より委託された。

被災資料有害物質発生状況調査業務

目 的 陸前高田市立博物館において、これまでに安定化処理を終えた資料、修理した資料に残存する異臭、保管中の諸問題を対象に、作業員や管理者に有害な化学物質の有無や濃度について調査し、今後の保管及び安定化処理等の進め方について、改善方法を提案することを目的とする。

成 果 1. 保管環境の調査

- ・温湿度調査 各作業室、資料収蔵室に温湿度測定機器を設置し、管理者である学芸の執務室に温湿度情報を集約して監視できる端末を設置した。
- ・空気質調査

文化財の保管環境としては問題ないことを確認した。

労働環境の観点から昨年来問題となっていたナフタレンについては、改善状況について継続観察中である。昨年の換気促進、薬剤除去、ガスバリア袋による封鎖、吸着剤・吸着シート設置により、室内大気中濃度は一昨年の10分の1まで下がったが、WHOの推奨する濃度の10倍にとどまっている。2Fは収納スペースであり、1Fの作業場所の濃度はWHOの基準を満たし、作業員の健康被害のおそれはなくなったが、より改善できるよう、活性炭シートを追加設置した。

新たな問題として、外部委託で平成29年度に修理した民俗資料について異臭があり、ガスクロマトグラフ質量分析計で定性分析したところ、外構で使用するべき木材防腐処理薬剤によって防腐処理されていることがわかった。中の収蔵庫から外のプレハブ倉庫に移し、室内濃度を定量分析したところ、揮発性有機化合物総量（TVOC）が厚生労働省の作業環境の基準より1桁高いことが明らかになった。現在、VOCを換気扇で外部に排気し、その効果を来年度に把握し、追加の改善措置を検討することとなった。また、労働安全衛生上の配慮から、室内に入る際には有機化合物除去フィルターを装着した小型保護具（マスク）をつけるよう助言した。

- ・生物生息状況調査

保存環境における生物被害のリスクを緩和するために、害虫及び微生物についての調査を行った。目視による調査では、9月27日の調査時点で、保管してある文化財や資料などに害虫が発生していることはなく整理されているのが確認できた。

2. 処置作業の改善

水彩など水による洗浄・脱塩が困難な資料への処置方法について検討を始めた。ジェランガムの利用について、攪拌が難しく、一般作業員での利用にあまり適していない例が散見され、改善が必要な状況である。

論 文・佐野千絵ほか：「津波被災資料に付着した汚れの成分分析とその由来」『保存科学』58 pp.139-148 19.3

報 告・被災資料有害物質発生状況調査業務報告書 1件

発 表・内田優花ほか：「陸前高田市立博物館津波被災文書類の安定化処置における微生物制御の課題」防菌防黴学会大会 18.11.13

研究組織 ○佐野千絵、吉田直人、林美木子、佐藤嘉則、小峰幸夫、早川典子、藤井佑果（以上、保存科学研究所センター）、古田嶋智子（客員研究員）、黄川田翔（文化財防災ネットワーク推進室、東京国立博物館）

備 考 本事業は、陸前高田市立博物館より依頼された。

文化遺産国際協力拠点交流事業

「ミャンマーにおける考古・建築遺産の調査・保護に関する技術移転を目的とした拠点交流事業・建築分野」

目 的 2016 (平成28) 年8月に発生した地震により大きな被害を受けた、ミャンマー中部所在のバガン遺跡群について、その適切な保存・修復対策を検討すると同時に、同国宗教文化省考古国立博物館局 (DOA) をはじめとする現地当局が目下実施中の修復事業の質的向上に向けた情報提供や技術的助言等を行う。

成 果 バガンへの専門家派遣を下記の計3回にわたり実施した。

2018 (平成30) 年5月23日～29日、2名／2018 (平成30) 年8月21日～26日、3名／2018 (平成30) 年11月12日～16・19日、4名。また、関連する室内分析作業等を行った。

1. 煉瓦造歴史的建造物における構法調査：歴史的建造物における煉瓦壁の構法に関する調査を引き続き実施した。歴史的建造物36棟を対象として、煉瓦の寸法・積み方・加工、目地の作り方、煉瓦壁の構造、アーチ・ヴォールトの構法等に関して調査を行った。また、Carleton大学のMario Santana Quintero教授と協力して、SfM写真測量技術によるヴォールトの記録作成方法について現地で検討を行った。
2. 構造調査及びモニタリング：歴史的煉瓦造建造物の構造上の特性に関する調査を行った。特に1,249寺院に関しては、緊急的な補強方法を検討・提案し、これに基づいてDOAが行った設置作業に対しても現場で技術的な助言を提供した。また、典型的な亀裂と変形のパターンがみられる3棟の歴史的建造物を対象に、クラックゲージやトータルステーションによる挙動モニタリングをDOA現地スタッフとの協働により継続した。
3. 歴史的建造物に使用されるモルタル材に関する成分分析調査：前年度に被災建造物から採取した煉瓦目地のモルタル片試料及び現地で土モルタルへの添加物として伝統的に用いられている各種天然材料につき、ガスクロマトグラフィー質量分析法 (GC/MS) による成分分析を実施した。この結果、バガン時代においても樹皮等の植物由来の有機化合物がモルタル中に添加されていることが初めて科学的に立証された。
4. 現地ワークショップ、技術的助言ほか：ミャンマー技術者協会 (MES) 及びDOAバガン支局においてそれぞれ、「歴史的煉瓦造建造物の保存修復に関するワークショップ」を開催した (11月13・14日)。また、バガンで開催された第3回技術調整フォーラム (同17日) 及び第1回国際調整委員会 (同18日) において事業の概要と成果について報告した。このほか、DOAスタッフからの要請に応じて適宜、修理現場での助言等を行った。

論 文・Noriko Takiyama et al.: "Seismic Damage and Vibration Properties of Cultural Heritage Buildings in Bagan Archaeological Zone, Myanmar" Proceeding of 6th International Conference on Heritage and Sustainable Development, pp.1575-1582, 18.6 ほか5件

発 表・金善旭ほか：「2016 年ミャンマー・チャウ地震で被災したバガン遺跡群の地震被害及び構造的特徴 (その1) バガン遺跡群の文化遺産建造物における地震被害の概要」日本建築学会2018年大会 (東北) 18.9.6 ほか9件

刊行物・『平成30年度文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業 ミャンマーにおける考古・建築遺産の調査・保護に関する技術移転を目的とした拠点交流事業—建築分野—』東京文化財研究所 19.3
・"Report of the Survey on Historic Brick Buildings at Bagan Archaeological Zone" TNRICP, 19.2

研究組織 ○友田正彦、マルティネス・アレハンドロ (以上、文化遺産国際協力センター)、腰原幹雄 (東京大学)、多幾山法子 (首都大学東京)、金善旭 (八戸工業高等専門学校)、渡邊緩子、滝川健次 (以上、日鉄住金テクノロジー (株))

備 考 本事業は、奈良文化財研究所が文化庁より受託した事業の一部を東京文化財研究所に再委託された。

世界文化遺産の遺産影響評価に関する調査研究事業

目 的 本事業は、国内外の世界遺産における遺産影響評価の取組の現状について情報収集・分析し、日本国内における世界文化遺産や暫定一覧表に記載されている文化遺産に適用可能な遺産影響評価の方法とその評価書の内容について研究し、参考指針を作成することを目的とする。

成 果

1. 遺産影響評価に関連する必要情報の収集・整理
 - ・イコモスによる「世界遺産の遺産影響評価に関するガイダンス」の分析を行った。
 - ・我が国の世界遺産における遺産影響評価等の実施状況、内容、課題等に関する情報の収集、分析を行った。
 - ・関係する世界遺産委員会における保全状況審査にかかる資料等の収集、分析を行った。
2. 専門家会合の実施
 - ・2018（平成30）年10月23日から25日にかけて、国内外の専門家を招聘し、遺産影響評価についての考え方、実施状況の報告及び参考指針（案）についての議論を行った。
3. 参考指針（案）の作成
 - ・我が国において事業者、自治体等が遺産影響評価を実施する際に参照するための参考指針の案を作成した。

発 表・境野飛鳥「遺産影響評価にかかるアンケート結果の報告」上記専門家会合 18.10.24

刊行物・「世界文化遺産の遺産影響評価に関する調査研究事業報告書」東京文化財研究所 19.3

研究組織 ○西和彦、中山俊介、境野飛鳥、橋本広美、石田智香子（以上、文化遺産国際協力センター）、二神葉子（文化財情報資料部）

備 考 本事業は文化庁より委託された。

美術工芸品保存修理用具・原材料調査事業

目 的 本事業では美術工芸品の修理材料及びその生産・製造に用いる用具の原材料について、それらを安定的に供給し続ける上で見られる現況の課題（生産量・流通体制・品質など）の調査を行い、調査結果に基づき具体的な支援策を実施するための枠組み作成を検討する。

成 果 本年度は、研究組織の立ち上げのための打ち合わせを行った上で、美術工芸品の修理に使用する原材料・用具のうち、冬季に作業を行う楮、トロロアオイ、なめし革について調査を行った。

- ・楮 高知県立追手前高等学校吾北分校（高知県吾川郡いの町）
（高知県産業振興推進部・種田氏、いの町吾北総合支所・田岡氏らより聞き取り調査）
- ・楮 尾崎製紙所（高知県吾川郡仁淀川町）
- ・楮 純信和紙工房（高知県土佐市）
- ・楮 高知県立紙産業技術センター（高知県吾川郡いの町）

以上、3月4日～6日

調査担当者：岡岩太郎、江淵栄貴、福西正行（以上、伝統技術伝承者協会）、山本記子（国宝修理装演師連盟）、地主智彦、佐藤健治、伊藤久美（以上、文化庁）

- ・楮 那須楮生産者・相馬氏（茨城県久慈郡太子町）
- ・楮 東秩父村和紙の里（埼玉県秩父郡東秩父村御堂）
- ・トロロアオイ 新ひたち野農協（茨城県小美玉市）

以上、3月10日～11日

調査担当者：江淵栄貴、福西正行、大菅直（以上、伝統技術伝承者協会）、宇都宮正紀、藤井良昭（以上、国宝修理装演師連盟）、地主智彦、藤田励夫、高梨真行、平出真宣、伊藤久美、高橋詩織（以上、文化庁）

- ・なめし革 新敏製革所・新田氏（兵庫県姫路市）
- ・なめし革 皮革史研究家・林氏（兵庫県姫路市）

以上、3月20日

調査担当者：西岡文夫（日本甲冑武具研究保存会）、地主智彦、伊東哲夫、多比羅菜美子、小林彩子、伊藤久美（以上、文化庁文化財第一課）、前原恵美（無形文化遺産部）、宇高健太郎（客員研究員）

研究組織 ○早川典子、岡部迪子（以上、保存科学研究センター）、菊池理予（無形文化遺産部）、江村知子（文化財情報資料部）

備 考 本事業は文化庁より依頼された。

文化財の英語表記に関する調査研究事業

目 的 本調査研究は、増大する観光インバウンドに対応した英語表記等を整備し、国内外の旅行者に対して文化財の理解を促進するため、文化財の類型、指定登録等の手法との関連に留意して調査研究を行うものであり、今後の文化財の発信・活用方策を戦略的に企画・立案するための基礎資料を整理することを目的とする。

成 果 1. WEB サイト等を通じて8カ国の文化遺産保護にかかる法令等を入手し、諸外国における文化財類型ごとの名称表記、名称に含まれるニュアンス及びその英語表記等を調査。
2. 上記と併せ、各国の文化遺産保護の体系等について、最新状況を確認。
3. 英仏2カ国について、上記の成果をもとに、具体的な運用状況等についてヒアリング調査を実施。

報 告・「文化財の英語表記に関する調査研究事業」東京文化財研究所 19.3

研究組織 ○西和彦、境野飛鳥（以上、文化遺産国際協力センター）、二神葉子（文化財情報資料部）

備 考 本事業は文化庁より依頼された。

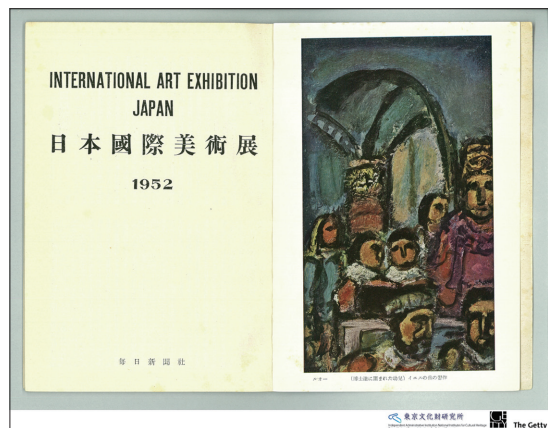
Getty・リサーチポータルへの明治期～昭和期(戦前)の展覧会資料(デジタル)の提供・公開

目 的 本事業はGetty研究所との共同研究によって、東京文化財研究所が所蔵する749件の展覧会目録のデジタル化とウェブ公開を行うものである。これらの目録は明治大正昭和前期の内国勸業博覧会、万国博覧会、主要美術団体を記録する日本で稀有な目録のコレクションである。これらをGetty・リサーチポータルに掲載し、ウェブ公開することで、日本近代美術に関する情報を国内外に発信することを目的とする。

成 果 2016(平成28)年2月に締結したGetty研究所と日本美術の共同研究に関する協定書に基づき、2017(平成29)年2月に当研究所からGetty研究所を訪問し、共同研究の内容について協議して、東京文化財研究所が所蔵する明治・大正・昭和戦前期の美術展覧会目録のデジタル化とメタデータ付与を共同事業として行い、Getty・リサーチポータルに掲載する方針を定めた。今年度は、これまでに選定したデジタル化作業対象資料749件に加えて、27種類・団体の展覧会カタログ229件についてのデジタル化を進めた。作業を進める際にGetty研究所副所長のKathleen Salomon氏、プロジェクト責任者のAnne Rana氏とメタデータの形式について協議し、Getty・リサーチポータルに掲載可能なデータ形式についての情報共有を行った。また今後の共同事業についての研究協議を行った。



スキャニング資料の搬出



東京文化財研究所所蔵『日本国際美術展』(1952年)表紙のデジタルコンテンツ画面

研究組織 ○山梨絵美子(副所長)、江村知子、橘川英規(以上、文化財情報資料部)

備 考 本研究は、Getty研究所と共同で実施した。

航空資料保存の研究

目 的 航空に関する資料は多様な材料が使用され、活用に重点が置かれてきたこともあり保存状態が悪いものが多く、このままでは貴重な資料の散逸を免れない状況にある。したがって、原資料を損なわずに有効に活用するために、平成29年度に引き続き資料の種類や劣化の状態を調査し保存方法・修復方法の開発を行った。

成 果 1. 膨大な個人資料の記録・保存

平成24年度に寄贈を受けた以下の資料に関して引き続き整理、記録、デジタル化、保存処置を実施した。

ア) 旧文部省奉職時にグライダーの開発に携わった山崎好雄氏が遺した、日本で開発・設計された各種グライダーの図面や文献等各種一式。日本におけるグライダーの歴史を知る上で非常に貴重な紙資料群である。平成30年度は継続して整理、選別、保存処置を行い、整理の終わった資料の中から「DFSオリンピア」型グライダーの青焼図面43枚のデジタル化を行った。

イ) 日本の民間航空史をライフワークとした作家・平木國夫氏が遺した資料一式。残された資料は主として執筆の際に調査、収集した戦前の民間航空の資料からなり、写真や聞き取りの記録など多岐にわたる貴重な資料群である。平成30年度は継続して整理、選別を行った。

ウ) これらの資料のうち、ア) については、選別終了後は保存環境の改善を図り、さらに長く保存する処置をとるとともにデジタル化を行い、貴重な資料として公開するべく、日本航空協会とも相談の上、今後も作業を行う。また、イ) については、整理、選別を継続して行う。

2. 国際基督教大学で発見されたジェットエンジンの部品についての調査結果の活用

2018（平成30）年6月2日、国際基督教大学（ICU）アジア文化研究所・平和研究所と東京文化財研究所の共催で同大学においてシンポジウム「“ここ”の歴史へー 幻のジェットエンジン、語るー」を開催した。平成29年度に実施した第2次世界大戦中のジェットエンジン部品ネ230の調査結果とその文化財として活用方法、歴史的視点などが紹介された。北河が高澤ICU教授とともに司会をつとめ、荻田も講演者の一人として発表を行った。

3. 資料のデジタル化

日本航空協会に寄贈された資料のうち、青焼き資料『キ84取扱参考ノ附図』を保存処置の一環としてデジタル化を行った。なお、キ84は陸軍四式戦闘機「疾風」の別名称である。



シンポジウム「“ここ”の歴史へー 幻のジェットエンジン、語るー」

研究組織 ○北河大次郎、石田真弥、鳥海秀実(以上、保存科学研究センター)、荻田重賀(一般財団法人日本航空協会)

備 考 本研究は、一般財団法人日本航空協会と共同で実施した。

文化財修理に使用する膠の製造に関する技術開発、研究

目 的 文化財修理に使用する膠について調査研究を実施し、その古典的製造方法についての技術開発を目的とした。文化財修理においてより好適な古典的膠の利用と、その製造及び利用の継続性安定化を目指し、国宝修理装飾師連盟への製造技術供与を行った。

成 果 牛生皮由来の古典的膠の製造実験を、国宝修理装飾師連盟の複数の修復技術者と共に行った。該実験は『墨譜』（李孝美、宋代）、『墨經』（伝 晁貫之、宋代）等に略記される近代以前の方法を近似再現したものである。書画彩色層の剥落止め処置においては、その発色や質感等鑑賞性を維持するうえで淡色不光沢な膠が有用である状況が多く、この方法によりそうした特性を備えた膠が製造可能となった。

国産黒毛種成牛の生皮を用意し、所定の下処理等を経て、恒温抽出装置を用いてパッチ式で3番まで抽出を行った。その後、濾過、冷却凝固、裁断、乾燥等を経て試料を得た。

各試料は国宝修理装飾師連盟各工房の修復技術者による装飾用途適試用評価に供した。

古典的膠製造工程について一部画像を以下に示す。



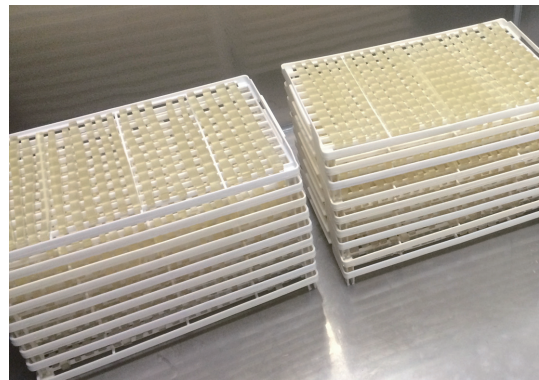
原料下処理



抽出



抽出後冷却凝固



裁断後乾燥

研究組織 ○早川典子（保存科学研究センター）、宇高健太郎（客員研究員）

備 考 本研究は、一般社団法人国宝修理装飾師連盟と共同で実施した。

二国間交流事業共同研究・セミナー「浮世絵版画の染料同定と摺り技術解明」

目 的 “浮世絵”の板木及びプリントを研究素材として、18世紀～19世紀の日本と西洋の交流がもたらした材料や技術の変遷について、高精度分光スペクトル及び高精細画像データ処理技術を中心とした科学的手法を用いて解明する。スペイン・サラゴザ美術館所蔵のフェデリコ・トラルバ浮世絵板木コレクション(50枚)(18～19世紀)を研究対象とし、一連の浮世絵の材料同定(主に染料)及びパターン分類の結果と、浮世絵及び板木の高精細デジタル化データをあわせた処理を行う。従って、局所材料分析とは異なり、高精細データに基づく総合的な判断を可能にし、材料や技術について詳細な情報を得ることを目的とする。

成 果 ・日本の伝統的な植物染料調査(日本とフランスの情報共有)(東京、京都)

菊池理予研究員による、青花の製造についてのプレゼンテーションをいただき、青花の種類、青花製造工程、製造現場の現状等多くの青花についての情報を、フランスチームと共有し、また、データベースのサンプルとして、製造年、製造元の確かな青花資料を提供いただいた。大和あすか氏による錦絵色材についてのプレゼンテーションをいただき、時代の変遷を含めた浮世絵の材料、及び材料調査についての近年の情報について、フランスチームと共有した。

・フェデリコトラルバコレクション調査(サラゴザ美術館)

時代または作者の変遷により材料が異なることが予想される観点から、浮世絵版画を選択した。各種の高精細分光スペクトル分析により、青色着色部分の分析を行った。

分析手法は、高精細マルチスペクトル画像撮影、蛍光分光分析、携帯型FTIR (Fourier Transform Infrared Spectroscopy) である。これらの分析手法のうち、携帯型FTIRの分析手法に、ポータブル反射型FTIR(Bruker)、ポータブルFT-NIR (AR coptix)、赤外線カメラ撮影の3種の測定機器を用いた。これらの測定波数領域は、それぞれ、7,500–400cm⁻¹、11,000–4000cm⁻¹、maru 以上であり、得られる情報が異なることが予想された。現段階では、これらのデータに着目し、比較検討中である。



携帯型 FT-IR による分析



赤外線カメラによる撮影

報 告 ・C. Biron and F. Daniel: “Project report of SAKURA – Dayflower- ”

研究組織 ○ 貴田啓子(客員研究員)、安藤真理子(奈良国立博物館)、今津節生(奈良大学)、井出亜里(京都大学)、Daniel Floréal, Biron Carole (Bordeaux Montaigne University)、Servant Laurent (University of Bordeaux)

備 考 本研究は、日本学術振興会二国間交流事業(日仏交流促進事業・SAKURA プログラム)の助成を得た。

バガン遺跡群（ミャンマー）寺院祠堂壁画の保存修復

目 的 ミャンマーのバガン遺跡は、11世紀から13世紀にかけて栄えたビルマで初めての統一王朝バガン朝の時代に建てられた仏教遺跡群である。遺跡内には煉瓦造の仏塔や寺院が約3000基建ち並んでおり、その中のひとつであるローカテイパン（Loka-Hteik-Pan）寺院の内壁は12世紀前半に描かれた仏教壁画で埋め尽くされている。本研究では、このうち南壁に描かれた壁画を対象にその技法材料や損傷傾向の調査を行い、適切な保存修復方法を確立することを目的とする。

成 果 1. 保存修復計画作成のための事前調査

①クリーニング

壁画の保存状態と、過去に使用された修復材料との関係性に留意しながら、壁画表面の堆積物及び付着物の除去を目的とするクリーニングを実施した。これまでバガンではICCROM (International Centre for the Study of the Preservation and Restoration of Cultural Property) の指導のもと合成樹脂による壁画表面の補強が繰り返し行われてきたが、これが壁画損傷の主な原因となっていることが前年度の調査で明らかになっている。今回のクリーニングでは、このような過去に塗布された合成樹脂の安全な除去と、無機修復材料を用いた表面補強を実施した。

②デジタルカメラによる写真記録

デジタルカメラによる高細密な写真記録撮影（通常光／斜光）を行った。

③保存修復報告書の作成

目的：保存修復手順の記録

2. 現地専門家の育成

考古国立博物館局バガン支局より若手専門家を現場に受け入れ、壁画保存修復に関する技術指導を行った。また、使用する修復材料についても、その目的や効果への理解を深めるための講義を実施した。



若手専門家のトレーニング風景



無機修復材料を用いた漆喰及び彩色層の補強

研究組織 ○前川佳文（文化遺産国際協力センター）、ダニエラ・マリア・マーフィー（文化協会バスティオーニ）、ステファニア・フランチェスキーニ（壁画保存修復士）、マリア・レディッツィア・アマドーリ（ウルビーノ大学）

備 考 本研究は、公益財団法人住友財団の助成を得て実施した。

共催事業「伝統の音を支える技—第24回東京三味線・東京琴 展示・製作実演会／第12回東京文化財研究所無形文化遺産部公開学術講座」

目 的 東京邦楽器商工業協同組合が毎年行ってきた楽器の展示・製作実演会と、東京文化財研究所無形文化遺産部が行ってきた楽器製作・修理技術の調査研究を踏まえた講演・シンポジウムを共催で行い、無形文化財を支える技術についての問題意識を共有し、ネットワーク作りの第一歩とする。

成 果 本事業は以下の4部構成で成り、「伝統の音を支える技」をテーマに、実演家、楽器製作者、研究者、愛好家、教育者など様々な立場の参加者が一同に会し、芸能を支える楽器製作技術やその現場が抱える課題を共有し、課題解決にむけた議論を行った。

【楽器製作実演】

開会挨拶 河野公昭（東京邦楽器商工業協同組合）

司会：戸澤一也（三味線のとざわ）

箏：三田村考尚（三田村楽器店）

三味線：高橋定裕（株式会社柏屋楽器店）

【パネルトーク】

橋本かおる（東京藝術大学）

前原恵美（無形文化遺産部）

【講演】

司会：石村智（無形文化遺産部）

前原恵美（無形文化遺産部）「楽器製作・修理技術の調査から見えてくること」

橋本英宗（丸三ハシモト株式会社）

「邦楽器系から世界への挑戦—日本の音色を世界の音色へ—」

田村民子（伝統芸能の道具ラボ）「伝統芸能の道具の課題を社会にひらく」

【総括】「伝統の音を支える技の今とこれから」

上記講演者と下記コメンテーターで総括を行った。

コメンテーター：谷垣内和子（公益社団法人日本芸能実演家団体協議会）

【長唄演奏】《多摩川》

唄：三井千絵・大島早智 三味線：鈴木雄司・都築明斗

発表・前原恵美：「楽器製作・修理技術の調査から見えてくること」

・橋本英宗：「邦楽器系から世界への挑戦—日本の音色を世界の音色へ—」

・田村民子：「伝統芸能の道具の課題を社会にひらく」

刊行物・「共催事業『伝統の音を支える技』報告書」、58p、東京文化財研究所、19.3

研究組織 ○前原恵美（無形文化遺産部）

備考 本事業は、公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団の助成を得て実施した。

中米、ホンジュラス共和国コパン遺跡における文化遺産の地域社会還元に関するパブリック考古学的研究

目 的 文化遺産の持続的な保全に向けた地域コミュニティとの関係構築には、地域住民と文化遺産の関係、及び文化遺産に対する地域住民の認識を把握することが不可欠である。本研究は、コパン遺跡を対象に、来訪頻度や目的といった地域住民による遺跡の利用実態、及びそこから浮かび上がる住民が持つ遺跡へのイメージを明らかにし、地域コミュニティを巻き込んだ今後の文化遺産保全活動の策定に向けた基礎情報を提供すると共に、持続的な関係構築のための視座を得ることを目的とする。

成 果 ホンジュラス共和国コパンルイナス市における文化遺産に対する地域住民の認識を把握するため、2018（平成30）年10月28日から11月7日にかけて、コパン考古学公園の訪問者、及び学校教員を対象とするアンケート調査を行った。

1. コパン遺跡の訪問者に対する調査

遺跡公園を訪れたホンジュラス国民を対象に、遺跡・博物館の利用の実態と遺跡に対する認識を把握するための調査を実施した。遺跡公園出口において協力を呼びかけ、130名より回答を得た。年齢層分布、男女比率、居住地といった国内訪問者の基礎的情報に加え、訪問動機や印象に残ったこと、遺跡のイメージといった文化遺産に対する認識の傾向を把握した。

2. 学校教員に対する調査

コパンルイナス市都市部に所在する、公立2校・私立3校の小・中・高等学校の教員に対して、地域の文化遺産とのかかわり方を把握するための調査を実施した。5校に所属する総勢97名の教員に各校の校長を通じて質問紙を配布し、56名より回答を得た。遺跡・博物館への訪問経験、及び学校教育の枠組みの中での利用経験、今後の訪問・利用予定、非訪問の理由についての傾向を把握した。

論 文・五木田まきは：「マヤ地域の博物館と地域コミュニティに関する研究」『月刊考古学ジャーナル』722 pp.30-32 19.2

報 告・Makiha Gokita : Preparado para los motivos de los visitantes a los sitios y los museos en Copán : el resultado de las encuesta de los visitantes y los maestros, Informe para Instituto Hondureño de Antropología e Historia, 18.11（「コパンの遺跡と博物館に対する訪問者の動機：訪問者と教師へのアンケート結果」ホンジュラス国立人類学歴史学研究所提出報告書）

発 表・五木田まきは：「マヤ地域における文化遺産の持続的活用と地域コミュニティ」2018年度第2回日本ラテンアメリカ学会東日本研究部会 19.3.23

研究組織 ○五木田まきは（文化遺産国際協力センター）

備 考 本研究は、公益財団法人高梨学術奨励基金の助成を得て実施した。

放射光を利用した古代鉄製品の製作地推定法開発のための研究

目 的 本研究の目的は、遺跡から出土した鉄製品の製作地同定の新しい方法として、製品に含まれる希土類元素組成に基づく在地品／外来品判別の可能性を検証することである。本研究期間内には、放射光高エネルギー蛍光X線分析による①鉄製品、炉壁片、鉄鉱石の微量重元素組成による特性化の検証、②岩石標準試料を用いた検量線法による定量化の検討と測定精度の精査の2点に的を絞り、その達成を目指した。

成 果 2018（平成30）年12月14日～15日、国立研究開発法人理化学研究所大型放射光施設SPring-8のビームラインBL08Wにて以下のような放射光高エネルギー蛍光X線分析を実施した。

①実試料（考古遺物）の測定の前に、最適な測定時間を決定するため、産総研地質学標準物質JR-2を100、300、600、900、1200秒測定し各スペクトルを比較した（図1）。測定時間が長くなればバックグラウンドの強度も上がるが、Er、Yb、Hfなども明瞭に識別できる1200秒を本実験の測定時間として採用することにした。

②微量重元素の定量化の検討のため、JR-2を含む全18試料の標準物質を測定し検量線を作成した。検量線の例として、ランタンの結果を図2に示す。ランタン以外の希土類元素も同様に直線性の良い検量線が得られ、定量化の可能性が示せた。

③標準物質と同条件で実試料の測定を行った。岩石標準物質と比べると金属製品の測定ではやはりデッドタイムに20%近い差が出てしまったが、鉄鉱石、土砂についてはデッドタイムが同程度の範囲に収まった。従って、鉄鉱石と土砂については検量線法を用いた希土類元素の定量に基づく特性化が可能であることがわかった。鉄製品については、まずは元素比を用いた特性化を進めるとともに、鉄鉱石や土砂との比較を行う必要があることがわかった。

論 文・増渕麻里耶：「放射光を用いた西アジアの古代鉄製品に対する考古冶金学研究」『考古学ジャーナル』717 pp.36-38 18.9

報 告・増渕麻里耶ほか：「高エネルギー放射光蛍光X線分析を用いた中央アナトリア出土古代鉄製品の生産地推定」『SPring-8 利用課題実験報告書』2018A（Web データベース）

・増渕麻里耶ほか：「高エネルギー放射光蛍光X線分析を用いた中央アナトリア出土古代鉄製品の生産地推定」『SPring-8 利用課題実験報告書』2018B（Web データベース）

発 表・増渕麻里耶ほか：「放射光高エネルギー蛍光X線分析を用いた鉄製埋蔵文化財の製作地推定のための新手法の開発」日本分析化学会第67年会 18.9.12-14

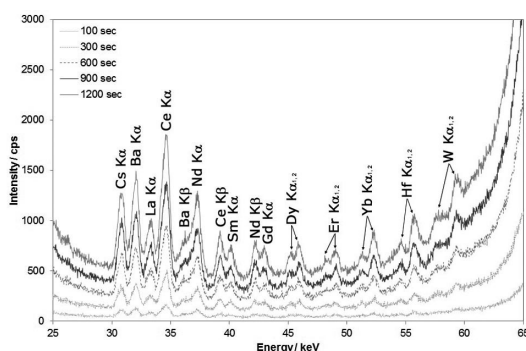


図1 測定時間ごとのXRFスペクトル

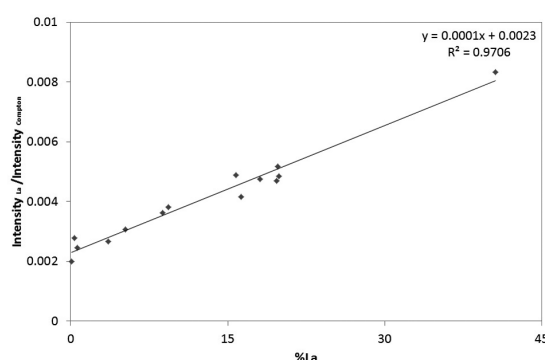


図2 ランタン (La) の検量線

研究組織 ○増渕麻里耶（文化遺産国際協力センター）

備 考 本研究は公益信託吉田学記念文化財科学研究助成基金の助成を得て実施した。

文化財防災ネットワーク推進事業

目 的 2011（平成23）年3月に発生した東日本大震災における被災文化財等救援委員会の活動を基盤に、災害時の文化財等の防災に関するネットワークの構築を目的とする。(1) 体制づくり、(2) 調査研究、(3) 人材育成と情報発信の観点から、事業を進める。

成 果 ○地域防災ネットワークの確立促進（北海道・東北地方）

以下の各施設を訪問し、ヒアリングや情報収集を実施した。

2018（平成30）年4月19日 岩手県立博物館、4月23日 熊本県通潤橋、5月24日 陸前高田市立博物館、6月15～17日 高知市文化プラザ（文化財保存修復学会大会）、9月11日 青森県立美術館、10月10日 山形県教育庁文化財・生涯学習課、10月17日 宮城県教育庁文化財課、10月30日 秋田県立近代美術館、11月15日 福島県庁企画調整部文化スポーツ局生涯学習課、2019（平成31）年1月18-19日 福島県双葉町、2月6日 北海道立旭川美術館、2月7日 北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課文化財保護グループ

○無形文化財の防災のための動態記録作成に関する調査研究

動態記録による防災のためのモデルケースとして、文化財保存に関わる楽器製作技術、徳島県の阿波晩茶製造技術の記録撮影を行った。また映像だけでなく、鵜飼船製造技術調査においては、使用される道具や工房などの実測調査も行い、映像を補うための情報を補足する試みも併せて行った。

○文化財総合データベースの構築とネットワークの確立

下記の6項目に取り組んだ。

①全国文化財等データベースの確立

国（文化庁）及び都道府県の情報提供による全ジャンルにわたる文化財等の総合的なデータベース作成を継続した。

②全国文化財保護条例データベースの運用

製作を継続してきた全国都道府県・市町村の文化財関連条例データベースを完成させた。

③無形文化遺産総合データベースの確立

国（文化庁）及び都道府県の情報提供による無形文化遺産の総合データベースの作成を継続した。

④アーカイブスの作成

データベースに連動したアーカイブスに動画・報告書等各種データを収集した。併せて地域資料の収集とデジタル化を推進した。さらに、モデルケースとして京都府所蔵の文化財資料のデジタル化を行った。

⑤都道府県の民俗文化財担当者による連絡会議

上記の連絡会議を2回開催し、15府県及び1市からの参加があった。また、メーリングリスト等を用いた担当者間ネットワークを継続運用した。

⑥無形文化遺産情報収集ウェブサイトの構築・運用

防災に資する無形文化遺産の情報収集と発信を目的としたウェブサイトを継続的に運用した。

○阪神・淡路、東日本両大震災の救援委員会記録の整理・分析研究

災害時に必要な手続きや資材、人材について把握し、将来、地震の規模や立地、被害の性格によって初動体制をシミュレートするために、性格の異なる震災の初動体制の記録を整理し、基礎

情報を収集して解析を進めた。

○水損資料の処置方法と臭気発生の関係に関する研究

津波被災紙資料の処置法の改善を目的に、岩手県立博物館仮設陸前高田市立博物館被災文化財等保存修復施設における安定化処置の処置水の生菌数を計数した。また安定化処置に必要な日数を最適化することを目的に、様々な種類の紙の水ポテンシャルを計測した。

○文化財防災に関する研修(博物館・美術館学芸員等)

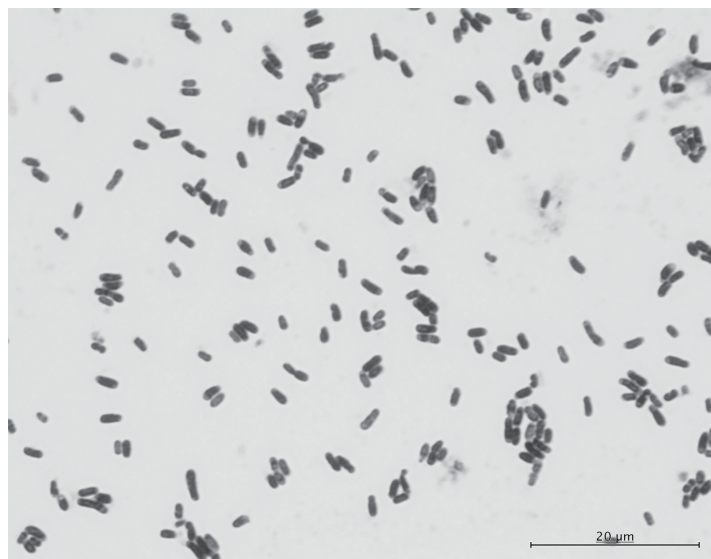
博物館・美術館における災害時の被災資料保全のための情報提供を目的に研修会を開催した。

日 時：2019(平成31)年2月27日(水) 13:00~17:00

テーマ：水害に備える 参加者：26名

共 催：京都国立博物館

後 援：京都府教育庁指導部文化財保護課、京都市文化市民局文化芸術祭推進室、京都市内博物館施設連絡協議会



安定化処置の処置水に存在する生菌

発 表・古田嶋智子、呂俊民、内田優花、森井順之、吉田直人、熊谷賢、浅川崇典、本多文人、佐野千絵：「被災資料の保存空間におけるナフタレン濃度の調査について」文化財保存修復学会第40回大会 18.6.16

・内田優花、林美木子、佐野千絵：「陸前高田市立博物館津波被災文書類の安定化処置における微生物制御の課題」日本防菌防黴学会 18.11.13

刊行物・『文化財保護のための動態記録作成に関する調査研究事業—民俗技術の記録制作事業報告書—』東京文化財研究所 19.3

・『平成28年度「無形文化遺産の防災」連絡会議報告書』東京文化財研究所 19.3

映 像・映像記録『長板中形—松原伸生の技』東京文化財研究所 18.7

研究組織 ○佐野千絵、吉田直人、内田優花、林美木子、佐藤嘉則、小峰幸夫、早川典子、藤井佑果、間瀬創(以上、保存科学研究センター)、山梨絵美子、二神葉子(以上、文化財情報資料部)、飯島満、久保田裕道、前原恵美、石村智、今石みぎわ、菊池理予、佐野真規(以上、無形文化遺産部)、大原嘉豊、近藤無滴、降幡順子、松沼穂積(以上、京都国立博物館)、黄川田翔(東京国立博物館)

文化遺産国際協力コンソーシアム第23回研究会「諸外国における文化遺産保護の支援と協力を知る・語る」

本ワークショップでは、文化遺産国際協力コンソーシアムが平成27～29年度に行った、支援実施国8か国（韓国、ベルギー、フランス、ドイツ、イタリア、オランダ、スペイン、英国）を対象とする「国際協力体制調査」のうち7か国についての結果を共有するとともに、文化遺産国際協力のあり方や、今後日本がどのような文化遺産国際協力を行っていくべきかについてグループに分かれて意見交換を行った。

主 催：文化遺産国際協力コンソーシアム

日 時：2018（平成30）年7月24日（火） 13：30～17：30

会 場：赤坂インターシティコンファレンス 401

参加者：39名

ファシリテーター：【韓 国】青木繁夫（東京文化財研究所 名誉研究員）

【ベルギー】井内千紗（国際短期大学 専任講師）

【フランス】羽生修二（東海大学 名誉教授）

【ド イ ツ】海老澤模奈人（東京工芸大学 教授）

【イタリア】松田陽（東京大学大学院 准教授）

【オランダ】藤岡麻理子（横浜市立大学 特任助教）

【英 国】岡村勝行（大阪文化財研究所 東淀川調査事務所長）

（受託「文化遺産国際協力コンソーシアム事業」の一部として実施）

文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム「文化遺産国際協力のかたち—世界遺産を未来に伝える日本の貢献」

アンコール・ワット、ナスカの地上絵、バーミヤーン大仏といった文化遺産の調査研究・保護活動の第一線で活躍する専門家や、大エジプト博物館の建設プロジェクトに携わる実務者の視点から、文化遺産国際協力の最新の取組みを紹介し、ディスカッションでは文化遺産分野における日本の国際協力の性格や特色、現在直面している課題を明らかにするとともに、今後の国際協力のあり方について議論した。

主 催：文化遺産国際協力コンソーシアム、文化庁

日 時：2018（平成30）年10月8日（月・祝） 13：00～17：00

会 場：日経ホール

参加者：204名

講 演：・青柳正規（文化遺産国際協力コンソーシアム会長、東京大学 名誉教授）

基調講演「国際社会における文化遺産の保護と活用」

・丸井雅子（上智大学総合グローバル学部総合グローバル学科 教授）

講演1「カンボジア和平と世界遺産アンコールの25年—人材養成のあゆみ—」

・坂井正人（山形大学学術研究院 教授／山形大学ナスカ研究所 副所長）

講演2「世界遺産ナスカの地上絵に関する保護活動と学術研究」

・荒仁（国際協力機構 社会基盤・平和構築部 都市・地域開発グループ長）

講演3「エジプトでの文化遺産の有効活用に向けて—大エジプト博物館への国際協力の現場から—」

・山内和也（帝京大学文化財研究所 教授）

講演4「岐路に立つバーミヤーン文化遺産の保護—未来へ伝えるために—」

パネルディスカッション「日本の国際協力の課題と展望」

司会：松田陽（東京大学大学院人文社会系研究科 准教授）
パネリスト：丸井雅子、坂井正人、荒仁、山内和也

（受託「文化遺産国際協力コンソーシアム事業」の一部として実施）

事業の一部として実施した研究集会・講座等

文化遺産国際協力コンソーシアム第24回研究会「文化遺産とSDGs」

2015（平成27）年に国連総会で採択された「持続可能な開発目標（SDGs: Sustainable Development Goals）」に関する基本的な理解を深めるとともに、文化遺産国際協力を行う立場からどのようにSDGsを捉えるべきか考察することを目的に、講演とパネルディスカッションを行った。

主 催：文化遺産国際協力コンソーシアム

日 時：2019（平成31）年1月11日（金） 13：30～17：00

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

参加者：129名

講 演：

- ・佐藤寛（アジア経済研究所 上席主任調査研究員）「SDGs時代における、『文化』と『遺産』と『国際協力』」
 - ・浦野義人（国際協力機構 産業開発・公共政策部 特別嘱託）「SDGsと観光開発協力」
 - ・關雄二（国立民族学博物館 副館長／人類文明誌研究部 教授）「文化遺産の持続的活用—南米アンデスの事例から」
- ディスカッション「文化遺産の国際協力とSDGs」（モデレーター：關雄二）

パネリスト：青木繁夫（東京文化財研究所 名誉研究員）、佐藤寛、浦野義人、竹本和彦（国連大学サステナビリティ高等研究所 所長）

（受託「文化遺産国際協力コンソーシアム事業」の一部として実施）

事業の一部として実施した研究集会・講座等

文化遺産国際協力コンソーシアム特別講演会「文化遺産とSDGsを考える」

2019（平成31）年1月11日に開催された文化遺産国際協力コンソーシアム第24回研究会「文化遺産とSDGs」に関連して、海外での取組みや、どのような議論がなされているのかを紹介する目的で、オーストラリアの専門家を招へいして講演会を行った。

主 催：文化遺産国際協力コンソーシアム

日 時：2019（平成31）年3月19日（火） 16：30～17：30

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

参加者：48名

講 演：

- ・ルース・レッドデン（Ruth Redden）（RR Conservation & Design代表、建築家・ヘリテージコンサルタント、オーストラリアICOMOS 国内学術委員会 Energy, Sustainability and Climate Change 会員）
- 「文化遺産とユネスコの持続可能な開発目標：歴史的建造物はどのように環境的に持続可能な開発に役立つことができるか（Cultural Heritage and UNESCO's Sustainable Development Goals; How Historic Buildings can be a Resource for Ecologically Sustainable Development）」

（受託「文化遺産国際協力コンソーシアム事業」の一部として実施）

研究会「ネパールにおける無形文化遺産の現状と課題」

ネパール国立博物館のJaya Ram Shrestha館長とYamuna Maharjan学芸員を招へいし、標記の研究会においてネパールの無形文化遺産の現状と課題について情報提供をいただいた。また国内の専門家と意見交換し、ネパールの文化遺産保護に資する交流を行った。

日 時：2018（平成30）年12月10日（月） 15：00～17：00

会 場：東京文化財研究所 地下会議室

参加者：24名

講 演：Jaya Ram Shrestha, Yamuna Maharjan（ネパール国立博物館）「ネパールにおける無形文化遺産の現状と課題」

報 告：石村智・久保田裕道（東京文化財研究所）「東京文化財研究所によるネパール無形文化遺産の調査」

コメント：森朋子（札幌市立大学）

（文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」の一部として実施）

The 2nd Mayors' Forum on the Conservation of Historic Settlements in Kathmandu and Kavre Valley （カトマンズ及びカブレ盆地の歴史的集落保全に関する第2回市長フォーラム）

カトマンズ盆地とその周辺には数多くの歴史的集落が存在し、有形無形の文化遺産に彩られた町並みで人々の生活が営まれてきたが、2015（平成27）年のゴルカ地震による甚大な被害とその後の復興過程の中で建て替えの進行等によって、伝統的景観が急激に失われつつある。一方で、歴史的集落保全に関する法制度等の枠組みは依然未整備である。このような状況に対応するため、関係自治体が各々の課題や経験を共有し、連携して問題解決に向けた声を国に届けることを目的に、担当者レベルの技術者ワークショップと市長フォーラムの2階層からなる協議スキームが東京文化財研究所の協力のもと設立された。2017（平成29）年12月の第1回（パナウティ市主催）に続き、今回は古都パタンなどを有するラリトプル市の主催にて、4市からの事例報告と共に、東文研チームの専門家からも調査成果に関する報告等を行った。

主 催：ラリトプル市

協 力：日本国文化庁、東京文化財研究所、クオパ工科大学

日 時：2019（平成31）年3月12日（火） 9：00～13：40

会 場：Ageo Restaurant（ネパール・ラリトプル市）

参加者：81名（うち市長11名、副市長8名、参加自治体14市）

講 演：（下線が発表者）

- ・ Chandra Shova Shakya “Protection of Intangible Cultural Heritage in Lalitpur Metropolitan City”
チャンドラ・ショバ・サキヤ（ラリトプル市）「ラリトプル市における無形文化遺産保護」
- ・ Ram Govind Shrestha “Best Practice on the Protection of Intangible Cultural Heritage of Bhaktapur”
ラム・ゴビンド・シュレスタ（バクタプル市）「バクタプルにおける無形文化遺産保護の実践」
- ・ Krishna Bhola Maharjan “Intangible Heritage in Kirtipur”
クリシュナ・ボラ・マハルジャン（キルティプル市）「キルティプルの無形遺産」
- ・ Indra Prasad Adhikari “Best Practice on the Protection of Intangible Cultural Heritage Panauti Municipality”
インドラ・プラサド・アディカリ（パナウティ市）「パナウティ市における無形文化遺産保護の実践」
- ・ Hiromichi Kubota “Rehabilitation of Intangible Cultural Heritage in Japan and Festival of Khokana – Urban Planning and Intangible Cultural Heritage in the Reconstruction after Disaster”
久保田裕道（東京文化財研究所）「日本における無形文化遺産復興とコカナの祭礼－災害復興における都市計画と無形文化遺産－」

- ・ Tomoko Mori “Relation between Structure and Intangible Heritage in Historical Settlements of Kathmandu Valley”
森朋子 (札幌市立大学)「カトマンズ盆地内の歴史的集落における都市構造と無形遺産の関係性について」
- ・ Bijaya Krishna Shrestha “Combined Cultural Heritage of Historic Settlements of Kathmandu Valley”
ビジャヤ・クリシュナ・シュレスト (クオパエ科大学)「カトマンズ盆地の歴史的集落の複合文化遺産」
- ・ Rajesh Prasad Singh, Amy Faust “Sewer Work in Patan Core Area”
ラジェシュ・プラサド・シン (コンサルタント)、アミイ・ファウスト (アジア開発銀行)「パタン中心域の下水設備」

(文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」の一部として実施)

事業の一部として実施した研究集会・講座等

Workshop on the Conservation of Historical Brick Buildings in Bagan (バガンの歴史的煉瓦造建造物の保存修復に関するワークショップ)

バガン遺跡群には、3000件を超える遺構が存在し、その圧倒的多数を11～13世紀に建造された煉瓦造建造物が占めている。一方で、それらの建設に用いられた技術に関しては研究調査が乏しく、未解明の点が多い。2016(平成28)年の震災を受けて損傷した歴史的建造物の修復が目下進められている中、技法に関するオーセンティシティや耐震性能を含めた構造特性を考慮することがますます重要となっている。

本ワークショップでは、東京文化財研究所がミャンマー宗教文化省考古国立博物館局(DOA)やミャンマー技術者協会(MES)とも協働しながら実施してきたバガンの煉瓦造建造物に関する調査の成果や、ミャンマー側機関の取り組み状況等について情報共有するとともに、両国専門家間での意見交換を行った。

主 催：東京文化財研究所、ミャンマー技術者協会

日 時：2018(平成30)年11月13日(火) 10:00～14:30

会 場：ミャンマー技術者協会講堂(ミャンマー・ヤンゴン)

参加者：14名

講 演：(下線が発表者)

- ① Masahiko Tomoda “Brick masonry construction in Bagan –technical features and some consideration for their restoration”
友田正彦 (東京文化財研究所)「バガンの煉瓦建築—技術的特徴とその修復に向けた考察—」
- ② Mikio Koshihara, Noriko Takiyama “Bagan from structural view”
腰原幹雄 (東京大学)、多幾山法子 (首都大学東京)「構造学的視点から見たバガン」
- ③ Hiroko Watanabe, Kenji Takigawa “Organic analysis of historical mortar in Bagan”
渡邊緩子、滝川健次 (日鉄住金テクノロジー (株))「バガンの歴史的モルタルの有機分析」
- ④ U Saw Htwe Zaw “Ancient Bagan brick works”
ソー・トゥエ・ゾー (ミャンマー技術者協会)「古代バガンの煉瓦工法」

主 催：東京文化財研究所、DOAバガン支局

日 時：2018(平成30)年11月14日(水) 10:00～16:20

会 場：バガン考古博物館別館会議室(ミャンマー・バガン)

参加者：14名

講 演：

①～③は上記と同じ

④ U Soe Soe Lin “Conservation of monuments in Bagan”

ソー・ソー・リン (DOAバガン支局)「バガン遺跡群の保存修復」

(文化遺産国際協力拠点交流事業「ミャンマーにおける考古・建築遺産の調査・保護に関する技術移転を目的とした拠点交流事業・建築分野」の一部として実施)

インターネット公開



「無形文化遺産総合データベース」

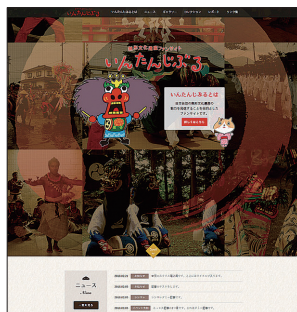
文化庁及び都道府県からの提供を受け、文化財防災を目的とした「全国文化財等データベース」(非公開)の作成を継続中。「無形文化遺産総合データベース」は、その中から無形文化遺産に関わるデータを抽出し、公開を前提に構築したもの。無形文化遺産に関する基礎情報に加え、画像・映像・音声・文書など関連メディアのアーカイブを併設している。平成30年度は27都県分のデータを入力。

(文化財防災ネットワーク推進事業の一環として実施)

「全国文化財保護条例データベース」

全国の都道府県・市区町村の文化財保護条例を収集し、地域・対象・保持者・保持団体等による検索を可能とした。条例本文をはじめ交付年・施行年・改定履歴、文化財種別等を閲覧することができる。平成30年度は、西日本エリアの入力を完了し、全国のデータが揃った。

(文化財防災ネットワーク推進事業の一環として実施)



「いんたんじぶる」

防災をはじめとする無形文化遺産の情報収集・情報発信を目的として作成した、一般向けサイト。無形文化遺産総合データベースへの導入的な役割を果たすとともに、無形文化遺産関連ニュース等、様々な情報を発信する。無形文化遺産の伝承者や研究者、行政と愛好者を結ぶツールとしての機能を目指す。平成30年度は無形文化遺産に関するニュースの更新、獅子頭コレクションの更新などを中心に行った。

(文化財防災ネットワーク推進事業の一環として実施)

受託調査研究の一環として刊行された刊行物

『文化遺産国際協力コンソーシアム第23回研究会「諸外国における文化遺産保護の支援と協力を知る・語る」報告書』

本冊子は、2018(平成30)年7月24日に開催された同名のワークショップの内容をまとめたものである。ワークショップの概要や手順、参加者の感想などを掲載している。日本語、2019年3月刊行、15ページ。

(文化遺産国際協力コンソーシアム事業の一環として実施)



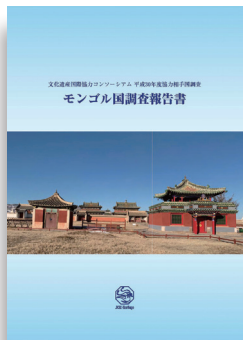
文化遺産国際協力コンソーシアム『シンポジウム「文化遺産国際協力のかたち—世界遺産を未来に伝える日本の貢献」報告書』

本冊子は、2018(平成30)年10月8日に開催された同名

のシンポジウムの内容を書き起こしたものである。日本語、2019年3月刊行、58ページ。
(文化遺産国際協力コンソーシアム事業の一環として実施)

『第24回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「文化遺産とSDGs」報告書』

本冊子は、2019(平成31)年1月11日に開催された同名の研究会の内容を書き起こしたものである。巻末にSDGsの概要を掲載している。日本語、2019年3月刊行、48ページ。
(文化遺産国際協力コンソーシアム事業の一環として実施)



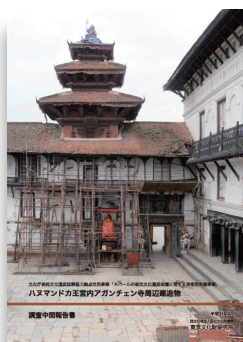
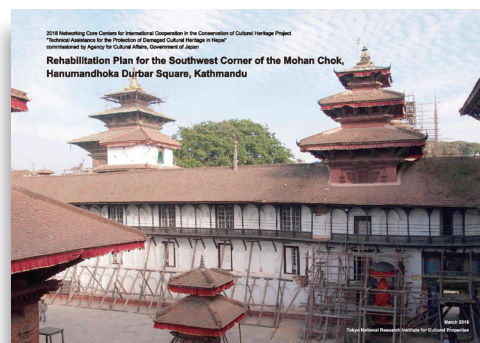
『文化遺産国際協力コンソーシアム平成30年度協力相手国調査 モンゴル国調査報告書』

本冊子は、文化遺産国際協力コンソーシアムが平成30年度に行った、モンゴル国を対象とした国際協力相手国調査の報告書である。訪問した機関の概要や聞き取り調査の結果などを掲載している。日本語、2019年3月刊行、64ページ。
(文化遺産国際協力コンソーシアム事業の一環として実施)

『Rehabilitation Plan for the Southwest Corner of the Mohan Chok, Hanumandhoka Durbar Square, Kathmandu』

2015(平成27)年のゴルカ地震で被災したハヌマンドカ王宮内アガンチェン寺周辺建造物について、平成28~30年度文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」にて実施した調査成果を踏まえて、その修復計画の提案内容をまとめた報告書。建築構法・破損状況・構造解析・歴史資料等の調査成果の概要、及び当該建造物の修復方針・基本計画案等を収録。英語、2019年3月刊行、24ページ。

(本年度上記受託事業の一環として実施)



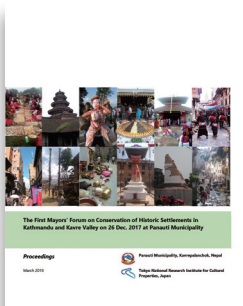
『ハヌマンドカ王宮内アガンチェン寺周辺建造物調査中間報告書』

平成28~30年度に文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」において実施した、同建造物群に関する調査の概要及び現時点までの成果をまとめた報告書。2015年のゴルカ地震で被災した当該建造物群に関する価値評価、ならびに構造形式・技法仕様・改造変遷・破損状況・構造解析・歴史資料等の調査成果を収録。日本語、2019年3月刊行、152ページ。

(本年度上記受託事業の一環として実施)

『The First Mayors' Forum on Conservation of Historic Settlements in Kathmandu and Katre Valley on 26 Dec. 2017 at Panauti Municipality, Proceedings』

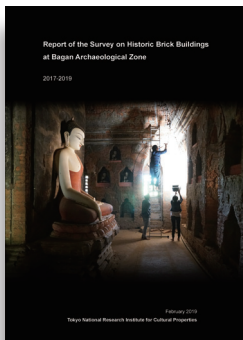
2017(平成29)年12月にネパール・パナウティ市で開催した歴史的集落保全に関する第1回市長会議の議事録。カトマンズ盆地内とその周辺に所在する関係自治



体のうち16市より13名の市長または副市長を含む約100名の参加を得て開催した会議における、ネパール・日本両国の専門家による講演及び参加者からのコメント内容等を収録。英語、2019年3月、73ページ、パナウティ市との連名で刊行。
(本年度上記受託事業の一環として実施)

『平成30年度文化遺産国際協力拠点交流事業 トルコ共和国における壁画の保存管理体制改善に向けた人材育成事業報告書』

平成30年度文化遺産国際協力拠点交流事業として実施した「トルコ共和国における壁画の保存管理体制改善に向けた人材育成事業」の成果報告書。研修事業の内容や関連調査の結果報告を掲載している。日本語、2019年3月刊行、132ページ。
(上記受託事業の一環として実施)

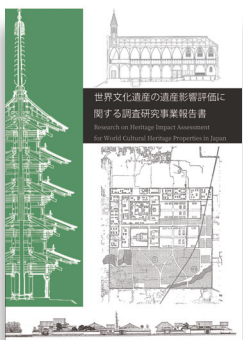
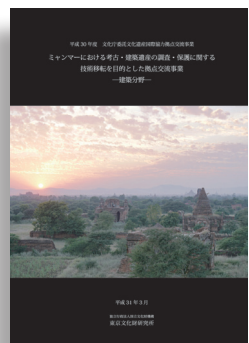


『Report of the Survey on Historic Brick Buildings at Bagan Archaeological Zone』

平成29年度及び平成30年度に文化庁委託事業（奈良文化財研究所より建築分野を再委託）として行った調査研究の成果をまとめた報告書。2016（平成28）年8月に発生したチャウ地震によって被災したバガン遺跡群の歴史的煉瓦造建造物を対象に行った建築構法・技術に関する調査、構造的特性に関する調査及び構造挙動モニタリングの結果を中心に収録。英語、2019年2月刊行、119ページ。
(本年度上記受託事業の一環として実施)

『平成30年度文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業 ミャンマーにおける考古・建築遺産の調査・保護に関する技術移転を目的とした拠点交流事業—建築分野—』

平成30年度に文化庁委託事業（奈良文化財研究所より建築分野を再委託）として行った調査研究の成果をまとめた報告書。2016（平成28）年8月に発生したチャウ地震によって被災したバガン遺跡群の歴史的煉瓦造建造物を対象に行った建築構法・技術に関する調査、構造的特性に関する調査、モルタル材料の成分分析及び建築生産技術に関する調査の結果を中心に収録。日本語・英語、2019年3月刊行、86ページ。
(上記受託事業の一環として実施)



『世界文化遺産の遺産影響評価に関する調査研究事業報告書』

本冊子は、文化庁からの委託事業として行われた世界文化遺産の遺産影響評価に関する調査研究事業を取りまとめたものであり、我が国の文化遺産にかかる遺産影響評価についての参考指針（案）を含んでいる。日本語、2019年3月刊行、330ページ。

4. 個人の研究業績

凡 例

氏 名

- (1 公刊図書等)
- (2 報告)
- (3 論文)
- (4 解説、翻訳等)
- (5 学会発表)
- (6 講演会、研究会発表等)
- (7 所属学会、委員等)
- (8 教育等)

浅田 なつみ ASADA Natsumi (アソシエイトフェロー)

(4 編集) (Masahiko TOMODA, Hiroki YAMADA, Hiroo KANSHA, Natsumi ASADA) *Rehabilitation Plan for the Southwest Corner of the Mohan Chok, Hanumandhoka Durbar Square, Kathmandu* 24p TNRICP 19.3

(4 編集) (友田正彦、山田大樹、浅田なつみ、間舎裕生) 『ハヌマンドカ王宮内アガンチェン寺周辺建造物調査中間報告書』 152p 東京文化財研究所 19.3

(4 編集) (Bijaya K. Shrestha, Masahiko TOMODA, Hiroki YAMADA, Natsumi ASADA) The First Mayors' Forum on Conservation of Historic Settlements in Kathmandu and Kavre Valley on 26 Dec. 2017 at Panauti Municipality *Proceedings* 73p Panauti Municipality/TNRICP 19.3

安倍 雅史 ABE Masashi (文化遺産国際協力センター)

(1 公刊図書) (Shin-ichi Nakamura, Takuro Adachi, Masashi Abe) *Decades in Deserts: Essays on Near Eastern Archaeology in Honour of Sumio Fujii* Rokuichi Syobo 19.2

(2 報告) (Mohammad Hossein Azizi Kharanaghi, Masashi Abe, Sepideh Jamshidi Yeganeh, Bahram Anani, Afshin Akbari Zarin Qabaei, Pegah Goodarzi) *Excavation Report of Kale Kub, Ayask, South Khorasan Province* (ペルシア語) ICAR 18.6

(2 報告) Archaeological Investigation (Masashi Abe, Hiroo Kansha, An Sopheap, San Kosal, Sea Sophearun) *Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor-Progress Report of 2017 and 2018-* pp.25-60 APSARA/TNRICP 19.3

(2 報告) (佐野千絵、小峰幸夫、古田嶋智子、安倍雅史、呂俊民) 『イラン国立博物館空気環境調査報告書』東京文化財研究所 19.3

(3 論文) Studies on the Neolithic Flaked Stone Assemblage of Rahamat Abad (ペルシア語) (Masashi Abe, Mohammad Hossein Azizi Kharanaghi) *Pasargadae*, 1 pp.19-31 18.5

(3 論文) Human Remains from Kaleh Kub, Iran, 2018 (Pegah Goodarzi, Mohammad Hossein Azizi Kharanaghi, Masashi Abe, Arkadiusz Soltysiak) *Bioarchaeology of the Near East*, 12 pp.76-80 18.12

(3 論文) The 8.2 ka Event and Re-microlithization during the Late Mlefaatian in the Zagros Mountains: Analysis of the Flaked Stone Artefacts Excavated from Hormangan in North-eastern Fars, South-west Iran (Masashi Abe, Morteza Khanipour) *Decades in Deserts: Essays on Near Eastern Archaeology in Honour of Sumio Fujii* pp.305-317 Rokuichi Syobo 19.2

(3 論文) Decades in Deserts : A brief review of Research Trajectory of Sumio Fujii (Shin-ichi Nakamura, Takuro Adachi, Masashi Abe) *Decades in Deserts: Essays on Near Eastern Archaeology in Honour of Sumio Fujii* pp.1-21

Rokuichi Syobo 19.2

(3 論文) イラン南ホラーサーン州、カレ・クブ遺跡の第1次調査—イラン東部最古の農耕村落を求めて—(安倍雅史、ホセイン・アジジ・ハラナギ) 第26回西アジア発掘調査報告会報告集 pp.62-65 日本西アジア考古学会 19.3

(3 論文) 古代ディルムン王国の起源を求めて—バハレーン、ワーディー・アッ＝サイル考古学プロジェクト2018—(後藤健、西藤清秀、安倍雅史、上杉彰紀、岡崎健治、堀岡晴美、原田怜、間舎裕生、山口莉歩) 第26回西アジア発掘調査報告会報告集 pp.71-75 日本西アジア考古学会 19.3

(4 書評) 岡田真弓著『イスラエルの文化遺産マネジメント：遺跡の保護と活用』慶應義塾大学出版会『オリエント』61(1) pp.69-73 日本オリエント学会 18.5

(4 記事)「物故者」三笠宮崇仁親王『日本美術年鑑』平成29年版 p.560 東京文化財研究所 19.3

(5 学会発表) 8.2ka イベントと後期ムレファート文化に見られる再細石器化現象：ホルマンガン遺跡の分析から(安倍雅史、モルテザ・ハニプール) 日本西アジア考古学会第23回大会 金沢歌劇座 18.6.17

(5 学会発表) バハレーン、ワーディー・アッ＝サイル考古学プロジェクト2018 (後藤健、西藤清秀、安倍雅史、上杉彰紀、渡部展也、岡崎健治、堀岡晴美、原田怜、間舎裕生、山口莉歩) 日本西アジア考古学会第23回大会 金沢歌劇座 18.6.17

(5 学会発表) バハレーン、ワーディー・アッ＝サイル考古学プロジェクト第4次調査の報告(安倍雅史、後藤健、西藤清秀、上杉彰紀、堀岡晴美、原田怜、間舎裕生) 日本オリエント学会第60回大会 京都大学 18.10.14

(5 学会発表) Conservation and Archaeological Investigation at Ta Nei Temple, Angkor (Alejandro Martinez, Masashi Abe) 第262回東南アジア考古学会例会「カンボジア考古学の最新調査」奈良文化財研究所 18.10.15

(6 発表) Conservation and Sustainable Development Plan of Ta Nei and Progress of the Archaeological Investigation (Ly Vanna, Masahiko Tomoda, An Sopheap, Masashi Abe) The 30th Technical Session of ICC-Angkor APSARA Conference Hall, Siem Reap, Cambodia 18.6.5

(6 発表) 中東湾岸諸国の文化遺産をめぐる現状 文化遺産国際協力コンソーシアム第31回西アジア分科会 東京文化財研究所 18.6.20

(6 発表) イラン南ホラーサーン州、カレ・クブ遺跡の第1次調査—イラン東部最古の農耕村落を求めて—第26回西アジア発掘調査報告会 池袋サンシャインシティ文化会館7階会議室705 19.3.24

(6 発表) 古代ディルムン王国の起源を求めて—バハレーン、ワーディー・アッ＝サイル考古学プロジェクト2018—第26回西アジア発掘調査報告会 池袋サンシャインシティ文化会館7階会議室705 19.3.24

(6 講演) 中東における文化遺産の危機と保護に向けた国際的な動向 2018年度海外学術調査フォーラム 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 18.6.16

(6 講演) 世界の古墳と日本の古墳 バハレーン日本人学校 19.2.11

(6 講演) デイルムンメソポタミアとインダスを結んだ海洋文明ー 第3回西アジア考古学トップランナーズセミナー 池袋サンシャインシティ文化会館7階会議室704/705 19.2.17

(6 講演) 失われた文化遺産ーシリア紛争下の文化遺産を中心にー 伝塾セミナー 2019 (3月) JICA地球ひろば 19.3.23

(7 所属学会) 日本西アジア考古学会、日本オリエント学会

(7 委員会等) 日本西アジア考古学会企画委員会役員、文化遺産国際協力コンソーシアム西アジア分科会委員

(8 教育) 金沢大学国際文化資源学研究センター非常勤講師、東京藝術大学大学院文化財保存学専攻連携准教授

飯島 満 IJIMA Mitsuru (無形文化遺産部)

(3 論文) 「故文耕堂之述作」訛伝考 『無形文化遺産研究報告』13 pp.70-86 19.3

(6 講演) 東京文化財研究所無形文化遺産部所蔵音声資料のデジタルアーカイブ化に向けて 東京文化財研究所総合研究会 東京文化財研究所 19.1.8

(6 発表) 無形文化財と防災(無形文化遺産部) 平成30年度第3回総合研究会 東京文化財研究所 18.11.6

(7 所属学会) 楽劇学会、歌舞伎学会、日本演劇学会、日本近世文学会

(7 委員会等) 文化庁文化審議会(文化財分科会)、文化庁次世代の文化を創造する新進芸術家育成事業協力者会議、国立劇場本館文楽公演専門委員会

石井 美恵 ISHII Mie (客員研究員)

(2 報告) 「Deterioration and damage of textiles and their causes」、「Identification of dyes 2」、「Dirt and cleaning」『ワークショップ「染織品の保存と修復」2018』pp.16-17、21-23、24-25 東京文化財研究所 19.2

(2 報告) Conservation report 1 (張元鳳、石井美恵)『ワークショップ「染織品の保存と修復」2018』p.26 東京文化財研究所 19.2

(6 講義) 「Method for Documentation and Analyzing Structures of Textile」、「Method for Analyzing Embroidery Techniques」、「Advanced Techniques of Stitch Reinforcement」、「Method for Storage of Archaeological Textile」、「Documentation and Analysis of Archaeological Textile」Workshop for the Conservation of Historic Textiles in the Republic of Armenia 2018 Scientific Research Center for the Historical and Cultural Heritage, Museum of Mother

See of Holy Echmiadzin, Republic of Armenia 18.6.25-7.14

(6 講義) 「Deterioration and damage of textiles and their causes」、「Identification of dyes 2」、「Dirt and cleaning」Workshops on Conservation of Japanese Textile 2018 國立臺灣師範大學文物保存維護研究發展中心 18.8.13-14

(6 講義) Conservation report 1 (張元鳳、石井美恵) Workshops on Conservation of Japanese Textile 2018 國立臺灣師範大學文物保存維護研究發展中心 18.8.15

(7 所属学会) ICOM、ICOM-CC、IIC、照明学会、文化財保存修復学会

(8 教育) 佐賀大学芸術地域デザイン学部准教授

石田 真弥 ISHIDA Shinya (アソシエイトフェロー)

(2 報告) 鉄構造物の保存と修復に関する事例集 『未来につなぐ人類の技18 鉄構造物の保存と修復』pp.73-112 独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所 18.8

(3 論文) 旧安田銀行担保倉庫の保存・活用に関する取り組み 煉瓦建造物の保存活用に関する研究ー16 2018年度(第89回) 『日本建築学会関東支部研究報告集II』pp.599-602 一般社団法人日本建築学会関東支部 19.3.1

(2 報告) A Collection of Case Studies of Preservation and Restoration of Brick Masonry Structures (Shinya Ishida, Daijiro Kitagawa) *Conservation and Restoration of Brick Masonry Structures* pp.81-131 Tokyo National Institute for Cultural Properties 19.3

(3 論文) 煉瓦寸法の変遷と組積技術の関連性に関する研究 群馬県内の煉瓦造建造物を対象として(石田真弥、関崇夫) 『前橋工科大学研究紀要』22 公立大学法人前橋工科大学 19.3

(5 学会発表) 旧安田銀行担保倉庫の保存・活用に関する取り組み 煉瓦建造物の保存活用に関する研究ー16 2018年度(第89回) 日本建築学会関東支部研究報告発表会 日本大学理工学部1号館 19.3.7

(6 司会) シルクロード・ネットワーク・鶴岡フォーラム2018 シルクロードでつなぐ街と人:サムライゆかりのシルクから、絹遺産の再生・継承を学ぶ 鶴岡市先端研究産業支援センター レクチャーホール 18.6.24

(6 司会) NPO法人 街・建築・文化再生集団 2018年度研究集会・シンポジウム「絹遺産を地域づくりに活かすー小川町からー」<絹物語・シルクロード・ネットワーク・小川フォーラム> 小川町立図書館2階視聴覚ホール 18.9.30

(7 所属学会) 産業考古学会、日本建築学会

(7 委員会等) 日本建築学会関東支部建築歴史意匠研究専門委員会委員

石村 智 ISHIMURA Tomo (無形文化遺産部)

(1 共著) (石村智、谷口榮、蒲生眞紗雄) 『海の日本史

一江戸湾』洋泉社 pp.3-76 18.8

(2 報告) The ICH situation during the aftermath of tropical cyclone Winston: Results of the preliminary field survey in Ra Province, Fiji (Tomo Ishimura, Yoko Nojima, Iaitia Senikuraciri Loloma, Elizabeth F. D. Edwards) *Preliminary Research on ICH Safeguarding and Disaster Risk Management in the Asia-Pacific Region* pp.115-131 International Research Centre for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (IRCI) 18.3

(2 報告) Intangible Cultural Heritage and natural hazards in the Philippine Cordilleras: Preliminary report of the field research in Abra and Ifgao (Yoko Nojima, Tomo Ishimura, Cecilia V. Picache, Norma A. Respicio) *Preliminary Research on ICH Safeguarding and Disaster Risk Management in the Asia-Pacific Region* pp.132-137 International Research Centre for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (IRCI) 18.3

(4 書評) 北條芳隆著『古墳の方位と太陽』『貝塚』74 pp.27-30 18.11

(5 学会発表) Ainu and safeguarding for intangible cultural heritage Twelfth International Conference on Hunting and Gathering Societies (CHAGS XII) Universiti Sains Malaysia 18.7.24

(5 学会発表) Safeguarding Cultural Heritage in the Pacific: Current Issues and Perspectives World Social Science Forum 2018 福岡国際会議場 18.10.26

(6 発表) 無形文化財と防災(無形文化遺産部) 平成30年度第3回総合研究会 東京文化財研究所 18.11.6

(6 発表) 東京文化財研究所が実施するネパールの無形文化遺産の調査(石村智、久保田裕道) 研究会「ネパールにおける無形文化遺産の現状と課題」 東京文化財研究所 18.12.10

(6 講義) 博物館収蔵品の記録法 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所現地研修「文化遺産ワークショップ2018(フィジー)」 Fiji Museum 18.10.22-24

(6 司会) 趣旨説明・司会(石村智、安芸早穂子) 多聞会アートと考古学シリーズII「無のかたち: Shape of the Shapeless」第1回「京友禅のわざー伝統と創造への挑戦」 建仁寺両足院 18.4.8

(6 司会) 趣旨説明・司会(石村智、安芸早穂子) 多聞会アートと考古学シリーズII「無のかたち: Shape of the Shapeless」第2回「能の「無」と「間」から学ぶ日本文化の思想」 建仁寺両足院 18.8.5

(6 司会) 趣旨説明・司会(石村智、安芸早穂子) 多聞会アートと考古学シリーズII「無のかたち: Shape of the Shapeless」第3回「危機に瀕する邦楽器」 建仁寺両足院 18.10.28

(6 司会) 趣旨説明・司会(石村智、安芸早穂子) アートと考古学国際交流研究会 県庁南再エネビル、じょーもぴあ宮畑 18.10.5-8

(6 司会) 司会(野嶋洋子、石村智) Asia-Pacific Regional Workshop on Intangible Cultural Heritage and Natural Disasters 仙台国際会議場 18.12.7-9

(6 司会) 趣旨説明・司会 文化遺産国際協力コンソーシアム第一回大洋州地域ワーキンググループ会議 東京文化財研究所 18.12.17

(6 司会) 趣旨説明・司会 第2回無形文化遺産映像記録作成研究会 東京文化財研究所 19.2.22

(6 パネリスト) コメンテーター IRCI's International Symposium for Multi-disciplinary Study on Intangible Cultural Heritage's Contribution to Sustainable Development: Focusing on Education 奈良教育大学 19.1.21-22

(6 パネリスト) コメンテーター 日本史研究会例会「在地首長制論の行方」 京都大学 18.12.23

(7 所属学会) 東南アジア考古学会、日本イコモス国内委員会、考古学研究会、日本オセアニア学会、史学研究会

(7 委員会等) 日本オセアニア学会評議員、文化庁「伝統工芸用具・原材料に関する調査事業」専門家委員

(8 教育) 金沢大学人間社会環境研究科招へい講師

犬塚 将英 INUZUKA Masahide (保存科学研究センター)

(2 報告) 結露が古墳壁画に及ぼす影響に関する基礎実験(犬塚将英、大迫美月、佐藤嘉則、稲田健一、谷口陽子、矢島國雄)『保存科学』58 pp.73-82 19.3

(2 報告) 桐箱、キリ材から放散する有機酸と鉛金属への影響(古田嶋智子、犬塚将英)『保存科学』58 pp.41-54 19.3

(5 学会発表) 結露が古墳壁画に及ぼす影響に関する基礎実験(犬塚将英、大迫美月) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぼーと 18.6.16

(5 学会発表) 石人山古墳装飾石棺表面の微生物制御方法の検討(小沼奈那美、佐藤嘉則、犬塚将英、森井順之、朽津信明、西澤智康) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぼーと 18.6.16

(5 学会発表) 湿度制御した温風処理による甲虫類の駆除(藤井義久、原田正彦、北原博幸、藤原裕子、木川りか、佐藤嘉則、小峰幸夫、犬塚将英、古田嶋智子、日高真吾、斉藤明子、福岡憲) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぼーと 18.6.16-17

(5 学会発表) 木造建築に施された漆層表面のひずみの経時変化(藤井義久、原田正彦、北原博幸、藤原裕子、木川りか、佐藤嘉則、小峰幸夫、犬塚将英、古田嶋智子、日高真吾、斉藤明子、福岡憲) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぼーと 18.6.16

(5 学会発表) テラヘルツイメージングによる高松塚古墳壁画のしっくい状態の調査(犬塚将英、高妻洋成、杉岡奈穂子、福永香、建石徹、小笠原具子、早川典子) 日本文化財科学会第35回大会 奈良女子大学

18.7.7-8

(5 学会発表) INAX ライブミュージアム「窯のある資料館」における保存環境と塩類析出に関する調査 (2) (佐々木淑美、犬塚将英) 日本文化財科学会第35回大会 奈良女子大学 18.7.8

(5 学会発表) Investigation of thermal environment inside the shelter for decorated tumulus in Japan (Masahide Inuzuka, Masayuki Morii) IIC 2018 Turin Congress Politecnico di Torino, Italy 18.9.10-14

(5 学会発表) History of Environmental Inspection of Museums When Borrowing Objects Designated as Important Cultural Properties of Japan (Naoto Yoshida, Kyoko Ishii, Tomoko Kotajima, Toshitami Ro, Masahide Inuzuka, Takeshi Ishizaki, Sadatoshi Miura, Chie Sano) IIC 2018 Turin Congress Politecnico di Torino, Italy 18.9.10-14

(6 講演) Investigation of Layer Structure of Wall Paintings by Terahertz Imaging Technique (Masahide Inuzuka) 文化遺産保護国際協力拠点交流事業「トルコ共和国における壁画の保存管理体制改善に向けた人材育成事業」第3回研修 聖テオドラ(タガール)教会 18.10.20

(7 所属学会) IIC、日本建築学会、日本物理学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会

(7 委員会等)「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」壁画ワーキング・グループ材料調査班専門委員、国宝中尊寺金色堂保存環境調査専門委員会調査員、ひたちなか市史跡保存対策委員、文化財の保存と公開における熱湿気環境WG委員

(8 教育) 東京藝術大学大学院文化財保存学専攻連携教授

今石 みぎわ IMAISHI Migiwa (無形文化遺産部)

(2 報告) 箕づくり技術の継承と変容を考える―「箕サミット―編み組み細工を語る」の試み『月刊文化財』655 pp.41-43 文化庁文化財部 18.4

(2 報告) 民俗技術の防災と動態記録の果たす役割『平成30年度文化財防災ネットワーク推進事業 文化財防災のための動態記録作成に関する調査研究事業―民俗技術の記録制作事業報告書』pp.2-17 東京文化財研究所 19.3

(3 論文) 本州の社寺に奉納された明治期のイナウー石川県の奉納イナウを中心にノ海上信仰における幣、削りかけ、イナウをめぐる『海を渡ったイナウーアイヌと和人の文化交渉史の研究』pp.2-27、pp.120-136 東京文化財研究所 19.3

(4 編集)『海を渡ったイナウーアイヌと和人の文化交渉史の研究』169p 東京文化財研究所 19.3

(4 編集) 民俗技術の防災と動態記録の果たす役割『平成30年度文化財防災ネットワーク推進事業 文化財防災のための動態記録作成に関する調査研究事業―民俗技術の記録制作事業報告書』20p 東京文化財

研究所 19.3

(7 所属学会) 東北民俗の会、日本民具学会、日本民俗学会

(7 委員会等) 岐阜市・関市長良川鵜飼総合調査専門委員会、阿波晩茶製造技術調査委員会、文化庁文化財部調査員

元 喜載 WON Heejae (アソシエイトフェロー)

(2 報告)『国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」2018』49p 東京文化財研究所 18.12

(2 報告) 1. 修復報告(小田桃子、元喜載、君嶋隆幸、白井啓太、加藤雅人)『在外日本古美術品保存修復協力事業 遊女と禿図 No.2015-1』pp.1-18 東京文化財研究所 19.3

(2 報告) 付録(小田桃子、元喜載、加藤雅人)『在外日本古美術品保存修復協力事業 遊女と禿図 No.2015-1』pp.23-30 東京文化財研究所 19.3

(2 報告) 1. 修復報告(小田桃子、元喜載、君嶋隆幸、白井啓太、加藤雅人)『在外日本古美術品保存修復協力事業 月下秋景図 No.2015-2』pp.1-18 東京文化財研究所 19.3

(2 報告) 付録(小田桃子、元喜載、増淵麻里耶、加藤雅人)『在外日本古美術品保存修復協力事業 月下秋景図 No.2015-2』pp.23-39 東京文化財研究所 19.3

(2 報告) 1. 修復報告(小田桃子、元喜載、君嶋隆幸、白井啓太、加藤雅人)『在外日本古美術品保存修復協力事業 瀑布溪流図 No.2015-3』pp.1-21 東京文化財研究所 19.3

(2 報告) 付録(小田桃子、元喜載、加藤雅人)『在外日本古美術品保存修復協力事業 瀑布溪流図 No.2015-3』pp.27-33 東京文化財研究所 19.3

(4 編集)『ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」2018』88p 東京文化財研究所 19.1

(4 編集)(加藤雅人、小田桃子、元喜載)『在外日本古美術品保存修復協力事業 瀑布溪流図 No.2015-3 修復報告』33p 東京文化財研究所 19.3

(5 学会発表) 日本絵画の裏彩色に対する剥落止めに用いる膠水溶液濃度の検討(元喜載、小田桃子、加藤雅人) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.17

(5 学会発表) クラクフ国立博物館所蔵 狩野董川中信筆『月下秋景図』(絹本着色 掛軸装) 修復事例報告(小田桃子、元喜載、君嶋隆幸、白井啓太、加藤雅人) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.17

(6 講義)「Adhesives for soko」「International Course on Conservation of Paper in Latin America2018」メキシコ文化省国立人類学歴史機構(INAH)・国立文化遺産保存修復調整機関 18.5.30

(6 講義) 国宝修理装演師連盟の資格制度及び実務内容について 東北芸術工科大学 18.12.19-20

(7 所属学会) 文化財保存修復学会

宇高 健太郎 UDAKA Kentaro (客員研究員)

(3 論文) 膠の性状と湿熱劣化処理の影響に関する研究—表面観察による検証—(宇高健太郎、早川典子、藤井佑果、柏谷明美)『保存科学』58 pp.107-117 19.3

(5 学会発表) 松煙煤に関する研究 文化財保存修復学会第40回大会 高知県文化プラザかるぽーと 18.6.17

(6 講演) 膠の性状と装潢における適性 膠文化研究会第11回公開研究会 東京藝術大学 18.10.14

(6 発表) 膠と修理—《序の舞》を守る—(宇高健太郎、半田昌規、宇和川史彦) 東京藝術大学大学院保存科学研究室、東京文化財研究所、膠文化研究会 主催 発表展示 東京藝術大学大学美術館陳列館 18.10.14-19

(7 所属学会) 文化財保存修復学会

(7 委員会等) 膠文化研究会運営委員会

(8 教育) 東京藝術大学大学院文化財保存学専攻保存修復日本画非常勤講師(集中講義)

江村 知子 EMURA Tomoko (文化財情報資料部)

(3 論文) Classicism in the Work of Ogata Kōrin *The Artist in Edo, Studies in the History of Art, Center for Advanced Study in the Visual Arts*, 80 pp.73-92 National Gallery of Art, Washington 18.6

(3 論文) 第5章 青花と日本絵画 『青花紙製作技術に関する共同調査報告書—染織技術を支える草津のわざ—』 pp.69-78 東京文化財研究所 18.10

(4 解説) 田中一松資料 「記録された日本美術史—相見香雨・田中一松・土居次義の調査ノート展」パンフレット 16p 実践女子大学香雪記念資料館・京都工芸繊維大学 18.5

(4 展評) 展覧会評 「没後400年 雲谷等顔」展 『美術研究』427 pp.79-84 東京文化財研究所 19.3

(4 エッセイ) 美術史研究の情報共有(リレー連載 先読み! 2030年の人文科学) 『鴨東通信』107 pp.16-17 思文閣出版 18.10

(4 解説) 作品解説 宮川長春筆「遊女と禿図」『在外日本古美術品保存修復協力事業 遊女と禿図 No.2015-1 修復報告』 pp.19-22 東京文化財研究所 19.3

(4 解説) 作品解説 狩野中信筆「月下秋景図」『在外日本古美術品保存修復協力事業 月下秋景図 No.2015-2 修復報告』 pp.19-21 東京文化財研究所 19.3

(6 発表) 田中一松資料について シンポジウム・記録された日本美術史 京都工芸繊維大学 18.7.7

(5 学会発表) The Contribution of the Tokyo National Research Institute for Cultural Properties: *Art Bibliography in Japan for OCLC Central Index* (Tomoko Emura, Hideki Kikkawa) 8th International Conference of Art Libraries Rijksmuseum 18.10.5

(6 発表) 田中一松の眼と手—田中一松資料、鶴岡在住

期の資料および絵画作品調書を中心に 第8回文化財情報資料部研究会 東京文化財研究所 19.1.29

(7 所属学会) アート・ドキュメンテーション学会、美術史学会

大河原 典子 OKAWARA Noriko (客員研究員)

(2 報告) 「Materials and technique -Painting on silk-」

「Painting on silk」『ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」2018』 pp.10-13 東京文化財研究所 19.1

(5 学会発表) 上村松園筆「焰」(東京国立博物館所蔵)の技法と表現(大河原典子、高林弘実、紀芝蓮) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.16

(6 講義) Materials and technique -Painting on silk- Workshops on the Conservation of Japanese Art Objects on Paper and Silk ベルリン国立博物館アジア美術館 18.7.4

(7 所属学会) 文化財保存修復学会

(8 教育) 鎌倉女子大学児童学部児童学科准教授

大場 詩野子 OBA Shinoko (客員研究員)

(5 学会発表) 明治期油彩画を修復するためのクラウドファンディング: 山形県山形市旧山寺ホテル所蔵・高橋源吉《最上川(本合海)》を事例として(宮本晶朗、大場詩野子、中右恵理子、長峯朱里、阿部麻衣子) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.16

(6 講演) 高橋源吉と山寺油絵展覧会 企画展「現代山形考」スペシャルトーク 東北芸術工科大学 18.9.22

(7 所属学会) 美術史学会、文化財保存修復学会、明治美術学会

岡田 健 OKADA Ken (客員研究員)

(2 報告) 原子力発電所爆発という特殊な事故への博物館の対応について—東日本大震災の経験(中国語) 第2回博物館文物防震技術国際学術研討会 中国・雲南省博物館 18.10.17

(6 発表) 日本の文化財防災ネットワーク推進事業 ICOM-ASPAC 日本会議2018 九州国立博物館 18.12.2

(6 講演) 東日本大震災後の被災文化財救援活動と文化財防災ネットワーク推進事業(中国語) 文化遺産リスクマネジメント国際学術論壇 中国・西南交通大学 18.4.28

(6 講演) 仏教彫刻における“模倣”複製”、そして“贋作”(中国語) 2018 “Cultural Heritage from a Global Perspective” International Forum 中国・上海交通大学 18.11.5

(6 講演) 文化財防災ネットワーク推進事業がめざすネットワーク—地域の文化遺産をまもるために—平成30年度文化財等救済ネットワーク会議(静岡県) 静岡県男女共同参画センター「あざれあ」 19.3.15

(6 講義) 2011 年東日本大震災被災文化財救援活動 (中国語) 2018 年中日共同文化遺産防災減災高級研修コース 中国文化遺産研究院 18.9.5

(6 講義) 文化遺産保護における“支援”と“受援”(中国語) 中国・復旦大学国土與文化資源学研究所センター 18.11.1

(6 講義) 日本の文化財保護制度 (中国語) 中国・西南交通大学 18.12.4

(6 講義) 唐代仏教芸術の宝庫—四川 (中国語) 中国・西南交通大学 18.12.6

(6 講習会) 自然災害と博物館の多様な役割—防災・救援・記録・啓発 日本博物館協会研究協議会「平成の大規模災害と博物館」 北海道博物館 19.3.8

(7 所属学会) 東アジア文化遺産保存学会、美術史学会、文化財保存修復学会

(8 教育) 東京大学文学部非常勤講師、帝京大学文化財研究所客員教授、中国・西南交通大学世界遺産国際研究中心客員研究員、中国・復旦大学国土與文化資源研究中心客員教授

小田 桃子 ODA Momoko (アソシエイトフェロー)

(2 報告) 1. 修復報告 (小田桃子、元喜載、君嶋隆幸、白井啓太、加藤雅人)『在外日本古美術品保存修復協力事業 遊女と禿図 No.2015-1 修復報告』 pp.1-18 東京文化財研究所 19.3

(2 報告) 付録 (小田桃子、元喜載、加藤雅人)『在外日本古美術品保存修復協力事業 遊女と禿図 No.2015-1 修復報告』 pp.23-30 東京文化財研究所 19.3

(2 報告) 1. 修復報告 (小田桃子、元喜載、君嶋隆幸、白井啓太、加藤雅人)『在外日本古美術品保存修復協力事業 月下秋景図 No.2015-2 修復報告』 pp.1-18 東京文化財研究所 19.3

(2 報告) 付録 (小田桃子、元喜載、増淵麻里耶、加藤雅人)『在外日本古美術品保存修復協力事業 月下秋景図 No.2015-2 修復報告』 pp.23-39 東京文化財研究所 19.3

(2 報告) 1. 修復報告 (小田桃子、元喜載、君嶋隆幸、白井啓太、加藤雅人)『在外日本古美術品保存修復協力事業 瀑布溪流図 No.2015-3 修復報告』 pp.1-21 東京文化財研究所 19.3

(2 報告) 付録 (小田桃子、元喜載、加藤雅人)『在外日本古美術品保存修復協力事業 瀑布溪流図 No.2015-3 修復報告』 pp.27-33 東京文化財研究所 19.3

(4 編集)『在外日本古美術品保存修復協力事業』 20p 東京文化財研究所 19.3

(4 編集)『在外日本古美術品保存修復協力事業 遊女と禿図 No.2015-1 修復報告』 30p 東京文化財研究所 19.3

(4 編集)『在外日本古美術品保存修復協力事業 月下秋景図 No.2015-2 修復報告』 39p 東京文化財研究所 19.3

(4 編集)『在外日本古美術品保存修復協力事業 瀑布溪流図 No.2015-3 修復報告』 33p 東京文化財研究所 19.3

(5 学会発表) クラクフ国立博物館所蔵 狩野堇川中信筆『月下秋景図』(絹本着色 掛軸装) 修復事例報告 (小田桃子、元喜載、君嶋隆幸、白井啓太、加藤雅人) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.17

(5 学会発表) 日本絵画の裏彩色に対する剥落止めに用いる膠水溶液濃度の検討 (元喜載、小田桃子、加藤雅人) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.17

(6 講義) 専門家育成講座 東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻保存修復日本画研究室 東京藝術大学 18.7.19

(7 所属学会) 文化財保存修復学会

小野 真由美 ONO Mayumi (文化財情報資料部)

(4 資料紹介) 研究資料『銅御蔵御掛物御歌書極代付之帳』の翻刻と解題 (小野真由美、恵美千鶴子)『美術研究』425 pp.21-34 18.8

(6 講演) 草花写生図から読み解く江戸の美意識 日本セカンドライフ協会 アストライアの会協賛 豊島区イケビズ 18.10.12

(6 発表) 土佐光起著『本朝画法大伝』考一「画具製法并染法極秘伝」を端緒として— 2018年度第3回文化財情報資料部研究会 東京文化財研究所 18.6.26

(7 所属学会) 美術史学会

小山田 智寛 OYAMADA Tomohiro (文化財情報資料部)

(2 報告) 持続可能な文化財情報データベースの構築と運用について (小山田智寛、二神葉子、三島大暉)『公開シンポジウム人文科学とデータベース発表論文集 第24回』 pp.59-66 19.3.2

(5 学会発表) 東文研の公開データ (橘川英規、小山田智寛) じんもんこんシンポジウム2018企画セッション「歴史研究と人文研究のためのデータを学ぶ」 東京大学 18.12.2

(5 学会発表) 文化財情報の総合データベースシステムの構築と運用 (小山田智寛、福永八朗、二神葉子、三島大暉、田所泰) デジタルアーカイブ学会第3回研究大会 京都大学吉田キャンパス 19.3.16

(5 学会発表) 持続可能な文化財情報データベースの構築と運用について (小山田智寛、二神葉子、三島大暉) 第24回公開シンポジウム「人文科学とデータベース」 静岡大学 浜松キャンパス 19.3.2

(6 発表) 文化財情報と APEX APEX UG Meetup 2018#2 ~ゼロ to APEX~ゼロからはじめる APEX 日本オラクル株式会社本社 18.4.24

(6 発表) WordPressで作る文化財情報データベース (小山田智寛、二神葉子、三島大暉) WordCamp Osaka

2018 関西大学梅田キャンパス KANDAI Me RISE 18.6.2
 (6 発表) 文化財情報のデータベース化：その公開と課題 東京文化財研究所 平成30年度 第一回 総合研究会 東京文化財研究所 18.6.5
 (6 発表) DataCoreを利用した 拡張可能なストレージ事例紹介 (二神葉子、三島大暉、小山田智寛) DataCore DCIE サミット データコア・ソフトウェア株式会社 18.7.12
 (6 講演) 文化財データベースの作成とその意義について 第52回オープンレクチャー かたちからの道、かたちへの道 東京文化財研究所 18.10.26
 (6 講義) 最近の情報セキュリティの状況について (三島大暉、小山田智寛) 平成30年度第1回情報システム部会研修会 東京文化財研究所 18.9.4
 (7 所属学会) デジタルアーカイブ学会、美学会

片山 まび KATAYAMA Mabi (客員研究員)

(7 所属学会) 漆工史学会、茶の湯文化学会、東洋陶磁学会、日本ガラス工芸学会、美術史学会
 (8 教育) 東京外国語大学外国語学部非常勤講師、信州大学教育学部非常勤講師

片山 葉子 KATAYAMA Yoko (客員研究員)

(3 論文) Reviews and syntheses: Carbonyl sulfide as a multi-scale tracer for carbon and water cycles (Mary E. Whelan, Sinikka T. Lennartz, Teresa E. Gimeno, Richard Wehr, Georg Wohlfahrt, Yuting Wang, Linda M. J. Kooijmans, Timothy W. Hilton, Sauveur Belviso, Philippe Peylin, Róisín Commane, Wu Sun, Huilin Chen, Le Kuai, Ivan Mammarella, Kadmiel Maseyk, Max Berkelhammer, King-Fai Li, Dan Yakir, Andrew Zumkehr, Yoko Katayama, Jérôme Ogée, Felix M. Spielmann, Florian Kitz, Bharat Rastogi, Jürgen Kesselmeier, Julia Marshall, Kukka-Maaria Erkkilä, Lisa Wingate, Laura K. Meredith, Wei He, Rüdiger Bunk, Thomas Launois, Timo Vesala, Johan A. Schmidt, Cédric G. Fichot, Ulli Seibt, Scott Saleska, Eric S. Saltzman, Stephen A. Montzka, Joseph A. Berry, J. Elliott Campbell) *Biogeosciences*, 15 pp.3625-3657 18.6
 (3 論文) Water is a critical factor in evaluating and assessing microbial colonization and destruction of Angkor sandstone monuments (Xiaobo Liu, Han Meng, Yali Wang, Yoko Katayama, Ji-Dong Gu) *International Biodeterioration and Biodegradation*, 133 pp.9-16 18.6
 (5 学会発表) 海洋由来津波堆積物内の無機硫黄形態及び硫黄酸化細菌の鉛直プロファイル (猪原英之、堀知行、青柳智、高崎みつる、片山葉子) 日本微生物生態学会第32回大会 沖縄コンベンションセンター 18.7.12-13
 (5 学会発表) 土壌真菌によるCOSの分解と同化 (小坂優介、正木啓二、片山葉子、吉田誠) 日本微生物生態学会第32回大会 沖縄コンベンションセンター

18.7.12-13

(5 学会発表) Sulfate production by facultative chemolithoautotrophic bacteria and fungi from elemental sulfur with relation to deterioration of sandstone in Angkor monuments, Cambodia (Ji-Dong Gu, Yoko Katayama) International Biodeterioration and Biodegradation Society 2018 Coimbra, Portugal 18.9.5-7

(5 学会発表) Active microbial population for N and S transformation colonized on Angkor sandstone monuments in Cambodia (Yoko Katayama, Ji-Dong Gu) International Biodeterioration and Biodegradation Society 2018 Coimbra, Portugal 18.9.5-7

(6 講義) 環境科学の中の微生物 環境科学 東京工業大学社会人アカデミー 18.5.19

(6 講義) Present summary and prospects of microbiology research for preservation of bas relief of inner gallery of Bayon (Yoko Katayama, Ji-Dong Gu) Bayon Symposium UNESCO/JASA Project Office, Siem Reap, Cambodia 18.12.6

(6 講演) 津波堆積物の酸化還元境界で見出された単体硫黄が鍵となる微生物硫黄循環 (猪原英之、堀知行、青柳智、片山葉子) 第10回E&Eフォーラム 産業技術総合研究所 18.12.21

(7 所属学会) 環境科学会、環境バイオテクノロジー学会、日本水環境学会、日本生化学会、日本農芸化学会、日本微生物資源学会、日本微生物生態学会、ASM、ISME

(7 委員会等) 経済産業省産業構造審議会臨時委員、公益財団法人日本水環境学会監事、公益財団法人環境科学会監事、公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団理事・選考委員、認定NPO法人富士山測候所を活用する会理事、日本微生物生態学会評議員

(8 教育) 日本女子大学理学部非常勤講師、法政大学生命科学部非常勤講師、早稲田大学先進理工学部非常勤講師

加藤 雅人 KATO Masato (文化遺産国際協力センター)

(2 報告) 第4章 青花紙用紙の分析 『青花紙製作技術に関する共同調査報告書—染織技術を支える草津のわざー』 pp.51-67 東京文化財研究所無形文化遺産部 18.10

(2 報告) Paper conservation in Japan 『国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」2018』 pp.2-5 東京文化財研究所 18.12

(2 報告) Report on the restoration of KARAKO 『国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」2018』 pp.6-11 東京文化財研究所 18.12

(2 報告) Paper basics 『国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」2018』 pp.20-23 東京文化財研究所 18.12

(2 報告) KARIBARI - Japanese traditional drying technique-

『国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」2018』 pp.30-33 東京文化財研究所 18.12
 (2 報告) Various types of Japanese paper and those properties 『国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」2018』 p.43 東京文化財研究所 18.12
 (2 報告) Fiber furnish analysis 『国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」2018』 p.44-46 東京文化財研究所 18.12
 (2 報告) Materials and technique -Paper- 『ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」2018』 pp.14-17 東京文化財研究所 19.1
 (2 報告) Report on the restoration of KARAKO (Masato KATO, Yoshiyuki SAMI, Keisuke SUGIYAMA) 『ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」2018』 pp.78-85 東京文化財研究所 19.1
 (2 報告) Systems for the protection of cultural properties in Japan 『ワークショップ「染織品の保存と修復」2018』 p.2 東京文化財研究所 19.2
 (2 報告) General Information for Experiments 『ワークショップ「染織品の保存と修復」2018』 p.18 東京文化財研究所 19.2
 (2 報告) 1. 修復報告 (小田桃子、元喜載、君嶋隆幸、白井啓太、加藤雅人) 『在外日本古美術品保存修復協力事業 遊女と禿図 No.2015-1 修復報告』 pp.1-18 東京文化財研究所 19.3
 (2 報告) 付録 (小田桃子、元喜載、加藤雅人) 『在外日本古美術品保存修復協力事業 遊女と禿図 No.2015-1 修復報告』 pp.23-30 東京文化財研究所 19.3
 (2 報告) 1. 修復報告 (小田桃子、元喜載、君嶋隆幸、白井啓太、加藤雅人) 『在外日本古美術品保存修復協力事業 月下秋景図 No.2015-2 修復報告』 pp.1-18 東京文化財研究所 19.3
 (2 報告) 付録 (小田桃子、元喜載、加藤雅人) 『在外日本古美術品保存修復協力事業 月下秋景図 No.2015-2 修復報告』 pp.23-39 東京文化財研究所 19.3
 (2 報告) 1. 修復報告 (小田桃子、元喜載、君嶋隆幸、白井啓太、加藤雅人) 『在外日本古美術品保存修復協力事業 瀑布溪流図 No.2015-3 修復報告』 pp.1-21 東京文化財研究所 19.3
 (2 報告) 付録 (小田桃子、元喜載、加藤雅人) 『在外日本古美術品保存修復協力事業 瀑布溪流図 No.2015-3 修復報告』 pp.27-33 東京文化財研究所 19.3
 (4 記事) 日本の紙文化財 ―保存と修復― 『百万塔』 pp.60-74 紙の博物館 18.10
 (4 編集) 『国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」2018』 49p 東京文化財研究所 18.12
 (4 編集) 『ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」2018』 88p 東京文化財研究所 19.1
 (4 編集) 『ワークショップ「染織品の保存と修復」2018』 37p 東京文化財研究所 19.2
 (4 編集) 『ワークショップ「漆工品の保存と修復」2018』

100p 東京文化財研究所 19.3
 (4 編集) 『在外日本古美術品保存修復協力事業』 20p 東京文化財研究所 19.3
 (4 編集) 『在外日本古美術品保存修復協力事業 遊女と禿図 No.2015-1 修復報告』 30p 東京文化財研究所 19.3
 (4 編集) 『在外日本古美術品保存修復協力事業 月下秋景図 No.2015-2 修復報告』 39p 東京文化財研究所 19.3
 (4 編集) 『在外日本古美術品保存修復協力事業 瀑布溪流図 No.2015-3 修復報告』 33p 東京文化財研究所 19.3
 (5 学会発表) 知覧特攻平和会館における昭和10年代の紙資料保存の取り組み (坂元恒太、八巻聡、本田光子、大林賢太郎、伊達仁美、有吉正明、殿山真央、加藤雅人) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.16
 (5 学会発表) 日本絵画の裏彩色に対する剥落止めに用いる膠水溶液濃度の検討 (元喜載、小田桃子、加藤雅人) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.17
 (5 学会発表) クラクフ国立博物館所蔵 狩野董川中信筆『月下秋景図』(絹本着色 掛軸装) 修復事例報告 (小田桃子、元喜載、君嶋隆幸、白井啓太、加藤雅人) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.17
 (6 講義) Paper conservation in Japan International Course on Paper Conservation in Latin America メキシコ国立人類学歴史機構国立文化遺産保存修復調整機関 18.5.29
 (6 講義) Report on the restoration of KARAKO International Course on Paper Conservation in Latin America メキシコ国立人類学歴史機構国立文化遺産保存修復調整機関 18.5.29
 (6 講義) Paper basics International Course on Paper Conservation in Latin America メキシコ国立人類学歴史機構国立文化遺産保存修復調整機関 18.5.30
 (6 講義) KARIBARI -Japanese traditional drying technique- International Course on Paper Conservation in Latin America メキシコ国立人類学歴史機構国立文化遺産保存修復調整機関 18.6.1
 (6 講義) Various types of Japanese paper and those properties International Course on Paper Conservation in Latin America メキシコ国立人類学歴史機構国立文化遺産保存修復調整機関 18.6.4
 (6 講義) Fiber furnish analysis International Course on Paper Conservation in Latin America メキシコ国立人類学歴史機構国立文化遺産保存修復調整機関 18.6.4
 (6 講義) Materials and technique -Paper- Workshops on the Conservation of Japanese Art Objects on Paper and Silk ベルリン国立博物館アジア美術館 18.7.5
 (6 講義) Conservation of cultural properties on paper and

silk in Japan Workshops on the Conservation of Japanese Art Objects on Paper and Silk ベルリン国立博物館アジア美術館 18.7.6

(6 講義) Report on the restoration of KARAKO (Masato KATO, Yoshiyuki SAMI, Keisuke SUGIYAMA) Workshops on the Conservation of Japanese Art Objects on Paper and Silk ベルリン国立博物館アジア美術館 18.7.12

(6 講義) Systems for the protection of cultural properties in Japan Workshops on Conservation of Japanese Textile 國立臺灣師範大學文物保存維護研究發展中心 18.8.8

(6 講義) General Information for Experiments Workshops on Conservation of Japanese Textile 國立臺灣師範大學文物保存維護研究發展中心 18.8.14

(6 講義) Paper conservation in Japan International Course on Conservation of Japanese Paper 東京文化財研究所 18.8.28

(6 講義) Paper basics International Course on Conservation of Japanese Paper 東京文化財研究所 18.8.30

(7 所属学会) 日本文化財科学会、日本木材学会、文化財保存修復学会

(8 教育) 東洋美術学校保存修復科非常勤講師、東北芸術工科大学特別講師

亀井 伸雄 KAMEI Nobuo (所長)

(7 所属学会) 土木学会、日本建築学会、建築史学会、文化財建造物保存修理研究会

(7 委員会等) 文化審議会文化財部会

川野邊 渉 KAWANOBE Wataru (特任研究員)

(2 報告) アオバナの生育環境とアオバナ液の保存性について(無形文化遺産部、草津街道交流館)『青花紙制作技術に関する共同調査報告書—染織技術を支える草津のわざ—』 pp.41-50 東京文化財研究所 18.10

(2 報告) 藍の生葉染めに関するいくつかの試み『保存科学』58 pp.133-138 19.3

(5 学会発表) 高松塚古墳壁画の修復報告—国宝絵画としての保存修復処置—(早川典子、川野邊渉、小笠原具子、山本記子、辻本与志一、宇田川滋正、建石徹)文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.16

(7 所属学会) 日本文化財科学会、文化財保存修復学会

(7 委員会等) 国宝白杵磨崖仏修理委員会委員長、史跡備前陶器窯跡整備委員会委員、ICCROM(文化財保存修復研究国際センター)理事、田川市世界記憶遺産保存事業等指導委員会委員

間舎 裕生 KANSHA Hiroo (アソシエイトフェロー)

(2 報告) Archaeological Investigation (Masashi Abe, Hiroo Kansha, An Sopheap, San Kosal, Sea Sophearun) Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor

-Progress Report of 2017 and 2018- pp.25-60 APSARA/TNRICP 19.3

(3 論文) ニ〇一七年度ベイティン遺跡(パレスチナ自治区)における考古学的発掘調査(杉本智俊、菊池実、渡部展也、稲野裕介、間舎裕生)『史学』87 pp.73-111 18.9

(3 論文) カトマンズ・ハヌマンドカ王宮内シヴァ寺院の歴史の変遷『日本建築学会2018年度大会(東北)学術講演梗概集 建築歴史・意匠』 pp.7-8 日本建築学会 18.7

(5 学会発表) カトマンズ・ハヌマンドカ王宮内シヴァ寺院の歴史の変遷 日本建築学会2018年度大会(東北) 東北大学 18.9.4

(6 発表) カトマンズ・ハヌマンドカ王宮内シヴァ寺院における考古学調査 ユーラシア考古学勉強会第10回例会 龍谷ミュージアム 18.12.8

(6 講義) Method for Treatment for Unearthed Textile Workshop for the Conservation of Historic Textiles in the Republic of Armenia Scientific Research Center for the Historical and Cultural Heritage, Republic of Armenia 18.6.25

(7 所属学会) 日本オリエント学会、日本建築学会、日本西アジア考古学会、三田史学会

菊田 重賀 KANDA Shigeyoshi (客員研究員)

(2 報告) 日本航空協会所有の三式戦闘機「飛燕」の修理について『TOBUNKEN NEWS』68 pp.38-41 18.7

(6 講演) ジェットエンジン部品の文化財としての活用 シンポジウム“ここ”の歴史へ—一幻のジェットエンジン、語る— 国際基督教大学 18.6.2

(6 講演) 文化財としての「飛燕」 飛燕と土井武夫展 岐阜県かがみはら航空宇宙博物館 19.3.9

(7 所属学会) 一般財団法人日本航空協会

菊池 理予 KIKUCHI Riyo (無形文化遺産部)

(2 報告) 青花紙製作技術のいま—平成28~29年度の実地調査を通じて—(無形文化遺産部、草津街道交流館)『青花紙制作技術に関する共同調査報告書—染織技術を支える草津のわざ—』 pp.19-40 東京文化財研究所 18.10

(2 報告) 青花紙の染織技術への利用(菊池理予、半戸文)『青花紙制作技術に関する共同調査報告書—染織技術を支える草津のわざ—』 pp.79-106 東京文化財研究所 18.10

(2 報告) Recording Textile Techniques at Tokyo National Research Institute for Cultural Properties The Conservation of Textile Cultural Properties in Japan Web公開 東京文化財研究所 19.3

(6 講演) 「Protection of textile techniques in Japan—present condition and transitions—」、「Thread Production in Japan」、「Structure of Kimono」 Workshops on Conservation of

Japanese Textile 國立臺灣師範大學文物保存維護研究發展中心 18.8.10

(6 講義) Protection of Craft Techniques in Japan: Present Condition and Transitions 国際研修「紙の保存と修復」2018 東京文化財研究所 18.9.10

(6 発表) 無形文化財と防災(無形文化遺産部) 平成30年度第3回総合研究会 東京文化財研究所 18.11.6

(6 講義) 現代に生きる江戸のファッション 江戸文化講座 太田記念美術館 18.12.1、8、15

(6 講義) Structure of Kimono 「北米欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業」国際シンポジウム関連ワークショップ 東京国立博物館 19.1.15

(6 講演) 無形文化財の視点から見る染織工芸技術 共立女子学園博物館企画展「染～人の手から創る美～」講演会 共立女子大学 19.1.26

(7 所属学会) 国際服飾学会、美術史学会、服飾文化学会、文化財保存修復学会

(7 委員会等) 工芸技術記録映画製作委員

貴田 啓子 KIDA Keiko (客員研究員)

(2 報告) Characterization of Asian Paper using Py-GC/MS: Application of the Method at Tokyo University of the Arts in "Development of a new analytical method using pyrolysis and comprehensive two-dimensional gas chromatograph mass spectroscopy (Py-GC×GC/MS) for the characterization of Japanese paper, washi" (Keiko Kida, Angela Han, Mari Kurashina, Masamitsu Inaba) *Report of Bilateral Joint Research (JSPS and CNRS (France))* pp.96-115 19.3

(5 学会発表) 群青顔料が紙の劣化に及ぼす影響(貴田啓子、柏谷明美、稲葉政満、早川典子) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぼーと 18.6.17

(5 学会発表) ドウサによる和紙の劣化抑制について(貴田啓子、柏谷明美、稲葉政満、早川典子) 第85回紙パルプ研究発表会 東京大学 18.6.20-21

(5 学会発表) Retardation effect in the Copper Corrosion damage to Japanese paper by Dosa (Keiko KIDA, Akemi Kashiwaya, Masamitsu Inaba, Noriko Hayakawa) IIC - Palace Museum 2018 Beijing Paper Conservation Symposium The Palace Museum, Beijing 18.11.1-3

(7 所属学会等) セルロース学会、東アジア文化遺産保存学会、文化財保存修復学会

(8 教育) 帝京大学宇都宮キャンパス非常勤講師、東京藝術大学美術研究科教育研究助手

北河 大次郎 KITAGAWA Daijiro (保存科学研究センター)

(1 共著) 世界の中の近代日本土木 土木学会土木史研究委員会 図説近代日本土木史 鹿島出版会 pp.11-26 18.7

(1 共著) 道路 土木学会土木史研究委員会 図説近代

日本土木史 鹿島出版会 pp.137-148 18.7

(1 共著) 歴史に見る土木設計競技 土木学会建設マネジメント委員会 土木設計競技ガイドライン 土木学会 pp.4-6 18.10

(1 共著) 土木史の概説 都市史学会 日本都市史・建築史事典 丸善出版 pp.507-513 18.11

(1 共著) 文化財行政と保存再生デザイン 建築と都市の保存再生学 鹿島出版会 pp.137-159 19.3

(2 報告) 研究の概要 『鉄構造物の保存と修復』 pp.5-11 東京文化財研究所 18.8

(2 報告) The Aim and Role of this Research Conservation and Restoration of Brick Masonry Structures pp.5-10 東京文化財研究所 19.3

(2 報告) A Collection of Case Studies of Preservation and Restoration of Brick Masonry Structures (Shinya ISHIDA, Daijiro KITAGAWA) *Conservation and Restoration of Brick Masonry Structures* pp.81-117 東京文化財研究所 18.3

(6 講演) 砂防施設と文化財について 砂防講演会 オークスカナルパークホテル富山 18.6.16

(6 講演) 日本における近代化遺産に関する文化財保護行政の展開について 近代化遺産保存策略 国際主題論壇会議 國立臺灣博物館 18.8.17

(6 講演) 防災遺産の系譜と立山砂防 富山県世界遺産登録推進事業実行委員会 富山国際会議場 18.9.30

(6 講演) 20世紀遺産と立山砂防 第4回土木史サロン 土木学会 18.10.12

(6 講演) ドボ博 いつものまちが博物館になる 土木の知られざる世界 社会インフラテック 東京ビッグサイト 18.12.8

(6 講演) 立山砂防と20世紀遺産20選 立山・黒部ゆめクラブ 富山県民会館 19.2.17

(6 講演) 近代化遺産の見方・調べ方 増田町並み研究会 横手市平鹿障害学習センター 19.3.1

(6 講演) 趣旨説明 台湾における近代化遺産活用の最前線 東京文化財研究所、大阪歴史博物館 18.3.13-14

(6 講義) 土木遺産の世界 東京藝術大学文化財保存学専攻特別講義 東京藝術大学 19.1.18

(6 講習会) 土木構造物特論 奈良文化財研究所近現代建築保存活用課程 奈良文化財研究所 18.7.12

(7 所属学会) ICOMOS、都市史学会、土木学会

(7 委員会等) 文化庁調査員、文化庁近代遺跡の調査等に関する検討会委員、全国近代化遺産活用連絡協議会協力者会議委員、横手市歴史的風致維持向上協議会委員、佐渡市建造物保存活用に関する専門家会議委員、横須賀市国指定史跡東京湾要塞跡整備委員会委員、萩市萩反射炉整備委員会委員、岩国市錦帯橋報告書編纂作業部会委員、JR西日本鉄道記念物評価選定委員、土木学会図書館委員会委員、日本航空協会航空遺産継承基金専門委員、日仏工業技術会常務理事

(8 教育) 東京大学工学部社会基盤学専攻非常勤講師

橘川 英規 KIKKAWA Hideki (文化財情報資料部)

- (1 共著) 佐藤玄々文献目録『佐藤玄々〈朝山〉近代彫刻の天才』求龍堂 pp.179-191 18.10
- (2 報告) 第29回日本資料専門家欧州協会(EAJRS)年次大会〈報告〉『カレントウェアネス-E』357 <http://current.hdl.go.jp/e2073> 国立国会図書館 18.11
- (2 報告) [報告] 閉架書庫内の吹き抜け構造の改善の試みと評価(佐野千絵、橘川英規)『保存科学』57 pp.29-39 19.3
- (4 記事)「物故者」南郷宏、井上洋介、桜井孝身『日本美術年鑑』平成29年版 pp.532-533、533、533-534 19.3
- (5 学会発表) 日本美術人名情報 アート・ドキュメンテーション学会年次大会関連企画／国立歴史民俗博物館メタ資料科学研究センター 国際研究集会国際シンポジウム「アート・歴史分野における国際的な標準語彙(ボキャブラリ)の活用—Getty Vocabulary Programの活動と日本」国立歴史民俗博物館 18.6.16
- (5 学会発表) 日本の展覧会カタログ論文の国際的な可視性を高めるための取り組み(橘川英規、川口雅子)アート・ドキュメンテーション学会第11回秋季研究集会 お茶の水女子大学 18.10.13
- (5 学会発表) 東文研の公開データ(橘川英規、小山田智寛) じんもんてんシンポジウム2018企画セッション「歴史研究と人文研究のためのデータを学ぶ」東京大学 18.12.2
- (6 発表) カリフォルニア大学ロサンゼルス校におけるアーカイブズの収受・保存・提供 平成30年度第2回文化財情報資料部研究会 東京文化財研究所 18.5.23
- (6 発表) 明治期～昭和期刊行博覧会・展覧会資料のオープン・アクセス化事業 EAJRS(日本資料専門家欧州協会)第29回年次大会 ヴィータウタス・マグヌス大学(リトアニア) 18.9.12
- (6 発表) 松澤宥アーカイブの芸術史研究への活用—1951年に諏訪市で開催されたふたつの前衛芸術イベントを例に 平成30年度文化庁地域と共同した美術館・歴史博物館創造活動支援事業シンポジウム「松澤宥アーカイブの現状と活用」下諏訪町立諏訪湖博物館・赤彦記念館 19.2.16
- (7 所属学会) アート・ドキュメンテーション学会
- (7 委員会等) 仕様策定委員(積層式書架の調達、国立アイヌ民族博物館)

朽津 信明 KUCHITSU Nobuaki (保存科学研究センター)

- (2 報告) Simple Evaluation of the Degradation State of Cultural Heritage Based on Multi-view Stereo (Nobuaki Kuchitsu, Masayuki Morii, Shuji Sakai, and Hiroki Unten) *Progress in Earth and Planetary Science*, 2019 6:12 pp.1-9 19.2
- (3 論文) 日本における石碑保存の歴史的事例とその考

え方『保存科学』58 pp.55-71 19.3

- (5 学会発表) ウトグチ瓦窯跡における着生生物繁茂を与える光環境(朽津信明、森井順之、柳沼由可子)文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.16
- (5 学会発表) 石人山古墳装飾石棺表面の微生物制御方法の検討(小沼奈那美、佐藤嘉則、犬塚将英、森井順之、朽津信明、西澤智康)文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.17
- (5 学会発表) 覆屋の藻類繁茂軽減効果に関する研究(朽津信明、森井順之、犬塚将英)日本文化財科学会第35回大会 奈良女子大学 18.7.8
- (5 学会発表) 過去に造られたレプリカを利用した露頭の風化速度の検証(朽津信明、森井順之、柳沼由可子、酒井修二、運天弘樹)日本応用地質学会平成30年度研究発表会 札幌市教育文化会館 18.10.16-17
- (6 講演) 色の不思議答えます 教材ボックス「色をめぐる7つのお話」大分県立美術館 18.1.26
- (7 所属学会) 日本応用地質学会、日本地形学連合、日本地質学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会
- (7 委員会等) 清戸迫横穴保存委員会委員、臼杵磨崖仏保存修理査委員、臼杵市内キリシタン遺跡調査指導委員会委員、大悲山石仏保存修理指導委員会委員、「通潤橋」保存活用検討委員会委員、大野窟古墳の復旧方法等に対する意見聴取委員会、屋形古墳群整備基本計画策定委員会委員、竹原古墳整備計画策定委員会委員、小豆島町「世界遺産化」運営委員会委員、史跡原城跡・日野江城跡専門委員会委員、歴史遺産の地盤工学研究に関する研究委員、嘉島町史跡保存整備検討委員会委員、大規模震災における古墳の石室及び横穴墓等の被災状況調査の方法に関する検討委員会委員、長崎市出島史跡整備審議会委員、高島炭鉱整備活用委員会委員、金沢市石製文化財保存検討委員会委員、熊野磨崖仏 附 本宮磨崖仏及び鍋山磨崖仏保存活用計画策定検討委員会委員、日本文化財科学会将来構想委員会委員
- (8 教育) 東京藝術大学大学院文化財保存学専攻連携教授、東京大学非常勤講師

久保田 裕道 KUBOTA Hiromichi (無形文化遺産部)

- (1 公刊図書)『日本の祭り解剖図鑑』159p エクスナレッジ 18.11
- (3 論文) 新湊の獅子舞—獅子絵田を中心に—『民俗芸能』98 pp.18-33 18.11
- (4 連載) 獅子の夏・鹿の夏『四季の味』93 pp.72-75 18.6
- (4 連載) 酒樽と伝統『四季の味』94 pp.72-75 18.9
- (4 連載) シシ年にシシのハナシ『四季の味』95 pp.72-75 18.12
- (4 解説) 箱根の湯立獅子舞『文部科学教育通信』455 pp.24-25 19.3

(4 編集)『祭ネットワーク報告シシマイ×シシマイ』44p 東京文化財研究所 19.3

(4 編集)『平成29年度「無形文化遺産の防災」連絡会議報告書』47p 東京文化財研究所 19.3

(4 編集)『第13回無形民俗文化財研究協議会報告書 いま危機にある無形文化遺産—無形民俗文化財の休止・廃絶・継承をめぐる一』96p 東京文化財研究所 19.3

(6 発表) 無形文化遺産のパブリック・メモリー 「文化遺産とパブリック・メモリー」ワークショップ 南方科技大学(中国) 18.6.9

(6 発表) ICH contributing to Japanese Post-disaster Rehabilitation 2018 WORLD FORUM FOR INTANGIBLE CULTURAL HERITAGE 無形遺産院(韓国) 18.10.26

(6 発表) 無形文化財と防災(無形文化遺産部) 平成30年度第3回総合研究会 東京文化財研究所 18.11.6

(6 発表) ICH contributing to Post-disaster Rehabilitation アジア太平洋の無形文化遺産と自然災害に関する地域ワークショップ 仙台国際センター 18.12.9

(6 発表) 東京文化財研究所が実施するネパールの無形文化遺産の調査(石村智、久保田裕道) 研究会「ネパールにおける無形文化遺産の現状と課題」 東京文化財研究所 18.12.10

(6 発表) 全国文化財等データベースおよび無形文化遺産総合データベースの構築について アソシエイトフェロー研究報告会 奈良文化財研究所 19.2.19

(6 発表) Rehabilitation of Intangible Cultural Heritage in Japan and festival of Khokana ~Urban planning and Intangible Cultural Heritage in Disaster Reconstruction ~ 歴史的集落保全に関する第2回市長会議 ラリトプル市(ネパール) 19.3.12

(6 講演) 無形文化遺産を残し伝えるために 平成30年度愛媛県文化財保護行政担当者会 愛媛県庁 18.4.25

(6 講演) 神楽がきた道〜太々神楽と里神楽を中心に〜 平成30年度多摩の歴史講座「多摩の民俗芸能にふれる」多摩信用金庫府中支店 18.9.21

(6 講演) 民俗文化財の保存継承そして活用をめぐる〜祭り・民俗芸能を中心に〜 滋賀県民俗文化財保護ネットワーク研修会 大津市立市民文化会館 19.1.31

(6 講義) 無形文化遺産の現在とこれから〜獅子舞を中心に〜 平成30年度文化遺産シンポジウム 香川県社会福祉センター 19.2.10

(6 講義) 民俗芸能の保存継承そして活用をめぐる〜獅子舞を中心に〜 平成30年度民俗芸能フォーラム「みんなに伝えたい! 地域の宝」鳥取市人権交流プラザ 19.2.23

(6 講義) 民俗芸能を記録する一映像記録の可能性—リレー講義「文化財の保存と活用これからを考える—民俗文化財の視点から」 京都造形芸術大学 18.7.4

(6 講義) The Role of Intangible Cultural Heritage on the Recovery 立命館大学ユネスコ・チェア「文化遺産と

危機管理」国際研修 立命館大学 18.9.17

(6 司会) 趣旨説明と討議 第13回無形民俗文化財研究協議会 東京文化財研究所 18.12.14

(6 コメンテーター) ユネスコ無形文化遺産に“ナマハゲ” AbemaPrime テレビ朝日 18.11.28

(6 パネリスト) (中江裕司、大友良英、久保田裕道) 映画『盆唄』試写会シンポジウム 市ヶ谷シネアーツ 19.2.12

(7 所属学会) 静岡県民俗学会、日本宗教民俗学会、日本民俗学会、民俗芸能学会、儀礼文化学会

(7 委員会等) 神奈川県民俗芸能記録保存調査企画調整委員会委員、公益社団法人全日本郷土芸能協会理事、「ぼくたちわたしたちのニッポンの祭り2018」出演団体選考委員会委員、独立行政法人日本芸術文化振興会民俗芸能公演及び琉球芸能公演専門委員、一般財団法人日本青年館第67回全国民俗芸能大会企画委員、箱根町箱根湯立獅子舞調査委員、文化審議会無形文化遺産部会臨時委員、文化庁非常勤調査員、民俗芸能学会理事、武蔵野市文化財保護委員、島根県古代文化センター客員研究員

倉島 玲央 KURASHIMA Reo (保存科学研究センター)

(3 論文) ミャンマー産漆と日本産漆の塗膜硬さに関する定量的評価(倉島玲央、早川典子) 『保存科学』58 pp.95-105 19.3

(5 学会発表) 現代技法で製作されたミャンマー漆器の材料調査(倉島玲央、山府木碧、早川典子) 日本文化財科学会第35回大会 奈良女子大学 18.7.7-8

(7 所属学会) 高分子学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会

五木田 まきは GOKITA Makiha (アソシエイトフェロー)

(3 論文) マヤ地域の博物館と地域コミュニティに関する研究 『月刊考古学ジャーナル』722 pp.30-32 ニューサイエンス社 19.2

(4 編集)『国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」2018』49p 東京文化財研究所 18.12

(4 編集)『ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」2018』88p 東京文化財研究所 19.1

(4 編集)『ワークショップ「染織品の保存と修復」2018』37p 東京文化財研究所 19.2

(4 翻訳) アンケート結果(日本班) 『国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」2018』pp.48-49 東京文化財研究所 18.12

(4 翻訳)『ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」2018』88p 東京文化財研究所 19.1

(5 学会発表) LOS MUSEOS Y LA COMUNIDAD LOCAL EN COPÁN RUINAS, HONDURAS I Simposio de Arqueología Pública en El Salvador エルサルバドル国立人類学博物館 18.10.25

(5 学会発表) マヤ地域における文化遺産の持続的活用

と地域コミュニティ 2018年度第2回日本ラテンアメリカ学会東日本研究部会 東京女子大学 19.3.23

(6 講義) 地域博物館における展示 博物館展示論 金沢大学 18.6.15

(6 講義) Cultural Resource Management in Copan Ruinas, Honduras Tangible Cultural Resource Studies III 金沢大学 18.6.15

(7 所属学会) 古代アメリカ学会、日本ラテンアメリカ学会、文化財保存修復学会

五嶋 千雪 GOSHIMA Chiyuki (アソシエイトフェロー)

(4 編集) 『第24回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「文化遺産とSDGs」報告書』 48p 文化遺産国際協力コンソーシアム 19.3

(7 所属学会) ICOM

古田嶋 智子 KOTAJIMA Tomoko (客員研究員)

(3 論文) 桐箱、キリ材から放散する有機酸と鉛金属への影響 (古田嶋智子、犬塚将英) 『保存科学』 58 pp.41-53 19.3

(5 学会発表) 被災資料の保存空間におけるナフタレン濃度の調査について (古田嶋智子、呂俊民、内田優花、森井順之、吉田直人、熊谷賢、浅川崇典、本多文人、佐野千絵) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.16

(5 学会発表) 美術館・博物館のための空気清浄化手引きの作成 (呂俊民、古田嶋智子、石井恭子、吉田直人、佐野千絵) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.16

(5 学会発表) 木造建築に施された漆層表面のひずみの経時変化 (藤井義久、原田正彦、北原博幸、藤原裕子、木川りか、佐藤嘉則、小峰幸夫、犬塚将英、古田嶋智子、日高真吾、斉藤明子、福岡憲) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.16

(5 学会発表) 湿度制御した温風処理による甲虫類の駆除—社寺建築における効果の検証— (藤井義久、原田正彦、北原博幸、藤原裕子、木川りか、佐藤嘉則、小峰幸夫、犬塚将英、古田嶋智子、日高真吾、斉藤明子、福岡憲) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.16

(5 学会発表) 博物館で用いる木質材料からの酢酸放散の低減に関する研究 合板構成材料—単板からの酢酸放散挙動 (古田嶋智子、呂俊民、佐野千絵) 2018年度日本建築学会大会学術講演会 東北大学 18.9.4-6

(5 学会発表) History of Environmental Inspection of Museums When Borrowing Objects Designated as Important Cultural Properties of Japan (Naoto Yoshida, Kyoko Ishii, Tomoko Kotajima, Toshitami Ro, Masahide Inuzuka, Takeshi Ishizaki, Sadatoshi Miura, Chie Sano) International Institute for Conservation of Historic and Artistic Works 27th Biennial Congress Politecnico di Torino 18.9.10-14

(7 所属学会) ICOM-CC、室内環境学会、日本建築学会、文化財保存修復学会

(8 教育) 和光大学表現学部芸術学科非常勤講師、武蔵野美術大学教養文化・学芸員課程非常勤講師、上智大学文学部史学科非常勤講師

後藤 里架 GOTO Rika (アソシエイトフェロー)

(2 報告) The exhibition at Museum für Ostasiatische Kunst, Museum Köln 『ワークショップ「漆工品の保存と修復」2018』 p.16 東京文化財研究所 19.3

(4 翻訳) 『ワークショップ「染織品の保存と修復」2018』 37p 東京文化財研究所 19.2

(4 翻訳) 『ワークショップ「漆工品の保存と修復」2018』 100p 東京文化財研究所 19.3

(4 編集) 『ワークショップ「染織品の保存と修復」2018』 37p 東京文化財研究所 19.2

(4 編集) 『ワークショップ「漆工品の保存と修復」2018』 100p 東京文化財研究所 19.3

(7 所属学会) 文化財保存修復学会

小林 公治 KOBAYASHI Koji (文化財情報資料部)

(2 報告) 南蛮文化館所蔵南蛮漆器類のX線CT調査 (鳥越俊行、小林公治、能城修一、北村繁、清水健、田澤梓、安藤真理子、矢野孝子) 『日本文化財科学会第35回大会研究発表要旨集』 pp.224-225 日本文化財科学会 18.7

(3 論文) 中国における漆地螺鈿の成立と発展—螺鈿史上の古代・中世とその画期— 『中国古代漆器国際学術研討会論文稿』 pp.138-155 上海博物館 18.11

(5 学会発表) 南蛮文化館所蔵南蛮漆器類のX線CT調査 (鳥越俊行、小林公治、能城修一、北村繁、清水健、田澤梓、安藤真理子、矢野孝子) 日本文化財科学会第35回大会 奈良女子大学 18.7.6

(5 学会発表) 中国における漆地螺鈿の成立と発展—螺鈿史上の古代・中世とその画期— 中国古代漆器国際学術研討会 上海博物館 18.11.16

(7 所属学会) 東南アジア考古学会、日本考古学協会

小林 達朗 KOBAYASHI Tatsuro (文化財情報資料部)

(1 共著) 一乗寺の天台高僧像—その魅力とメッセージ— (小林達朗、相田愛子、埴岡真弓、岩田茂樹、黒田龍二、問屋真一、吉田実盛、中元孝迪、田中康弘) 『播磨の国宝』 pp.101-124 播磨学研究所 18.9

(7 所属学会) 九州藝術学会、美術史学会

小堀 信幸 KOBORI Nobuyuki (客員研究員)

(7 所属学会) 日本海事史学会

(7 委員会等) 慶長使節船ミュージアムの今後のあり方検討委員会、宮城県慶長使節船ミュージアム企画運営委員会、明治丸シンポジウム実行委員会、江東区文化財保護推進協力員

小峰 幸夫 KOMINE Yukio (アソシエイトフェロー)

(3 論文) 歴史的木造建造物におけるチビケカツオブシムシの発生 『都市有害生物管理』8 (2) pp.45-50

都市有害生物管理学会 18.12

(3 論文) 湿度制御した温風処理における殺虫効果の検証 (小峰幸夫、佐藤嘉則、原田正彦、北原博幸、木川りか、藤井義久) 『保存科学』58 pp.21-28 19.3

(4 エッセイ) 文化財害虫のシバンムシ類について 『TOBUNKEN NEWS』69 pp.45-47 東京文化財研究所 19.3

(5 学会発表) 湿度制御した温風処理による甲虫類の駆除—社寺建築における効果の検証— (藤井義久、原田正彦、北原博幸、藤原裕子、木川りか、佐藤嘉則、小峰幸夫、犬塚将英、古田嶋智子、日高真吾、斉藤明子、福岡憲) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.16

(5 学会発表) 木造建築に施された漆層表面のひずみの経時変化 (藤井義久、原田正彦、北原博幸、藤原裕子、木川りか、佐藤嘉則、小峰幸夫、犬塚将英、古田嶋智子、日高真吾、斉藤明子、福岡憲) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.16

(5 学会発表) ヤマトシミの发育および食性に関する基礎的検討 (渡辺祐基、小峰幸夫、佐藤嘉則、富松志帆) 日本環境動物昆虫学会創立30周年記念大会 京都大学農学部総合館 18.11.17-18

(5 学会発表) チビケカツオブシムシ成虫の摂食と寿命 都市有害生物管理学会第40回大会 慶応義塾大学三田キャンパス 19.3.9

(6 講義) 文化財害虫の種類と特徴 文化財害虫の講座 関市文化財保護センター他 19.3.20

(7 所属学会) 都市有害生物管理学会、日本環境動物昆虫学会、文化財保存修復学会

齊藤 孝正 SAITO Takamasa (所長)

(7 所属学会) 東洋陶磁学会常任委員

(7 委員会等) 法隆寺金堂壁画保存活用委員会委員、芸術文化振興基金運営委員会運営委員、文化財虫菌害研究所評議員

齋藤 達也 SAITO Tatsuya (客員研究員)

(3 論文) 1968年5月のパリ国立美術学校—アトリエ・ポピュレールのポスターをめぐって 『人文学報』 pp.105-117 首都大学東京 19.3

(7 所属学会) 美術史学会、明治美術学会、ジャポニスム学会、日仏美術学会

(8 教育) 首都大学東京都市教養学部非常勤講師、日本女子大学人間社会学部非常勤講師

酒井 清文 SAKAI Kiyofumi (客員研究員)

(7 所属学会) 高分子学会、日本生物工学会、日本農芸化学会、文化財保存修復学会

(7 委員会等) バイオインダストリー協会、近畿化学協会

(8 教育) 園田学園女子大学人間健康学部非常勤講師

境野 飛鳥 SAKAINO Asuka (アソシエイトフェロー)

(2 報告) 第42回世界遺産委員会の報告 『世界遺産研究協議会「戦略的OUV選択論」』 pp.9-17 東京文化財研究所 19.3

(2 報告) 調査研究事業の概要 『世界文化遺産の遺産影響評価に関する調査研究事業報告書』 pp.9-24 東京文化財研究所 19.3

(4 編集) 『各国の文化財保護法令シリーズ[23] ポーランド【文化財の保護及び文化財の管理に関する2003年7月23日付の法律】』 210p 東京文化財研究所 19.3

(6 発表) 第42回世界遺産委員会の報告 世界遺産研究協議会「戦略的OUV選択論」 東京文化財研究所 18.9.28

(6 発表) アンケート結果報告 世界文化遺産の遺産影響評価に関する調査研究事業・専門家会合 黒田記念館 18.10.24

(6 講義) 文化遺産特殊研究B 東京学芸大学 18.4.13-8.3

(6 講義) Current Status and Issues of the World Heritage System 金沢大学 18.11.13

(7 所属学会) ICOMOS、日本建築学会、日本歴史学会

(8 教育) 金沢大学国際文化資源学研究センター客員研究員、東京学芸大学非常勤講師

佐藤 嘉則 SATO Yoshinori (保存科学研究センター)

(2 報告) Comparative Genomic Insights into Endofungal Lifestyles of Two Bacterial Endosymbionts, *Mycovoidus cysteinexigens* and *Burkholderia rhizoxinica* (Dilruba Sharmin, Yong Guo, Tomoyasu Nishizawa, Shoko Ohshima, Yoshinori Sato, Yusuke Takashima, Kazuhiko Narisawa, Hiroyuki Ohta) *Microbes and Environments*, 33(1) pp.66-76 18.4

(3 論文) 文化財の保存技術の概説とその事例—生物劣化とその対策— 『空気調和・衛生工学』92(5) pp.373-377 18.5

(3 論文) 湿度制御した温風処理における殺虫効果判定の検証 (小峰幸夫、佐藤嘉則、原田正彦、北原博幸、木川りか、藤井義久) 『保存科学』58 pp.21-28 19.3

(4 編集) 『国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策事業報告書2 特別史跡高松塚古墳生物調査報告』 600p 文化庁、東京文化財研究所 19.3

(5 学会発表) 石人山古墳装飾石棺表面の微生物制御方法の検討 (小沼奈那美、佐藤嘉則、犬塚将英、森井順之、朽津信明、西澤智康) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.17

(5 学会発表) 湿度制御した温風処理による甲虫類の駆除—社寺建築における効果の検証— (藤井義久、原

田正彦、北原博幸、藤原裕子、木川りか、佐藤嘉則、小峰幸夫、犬塚将英、古田嶋智子、日高真吾、斉藤明子、福岡憲) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.16

(5 学会発表) 油彩画に発生したカビの各種顔料における抗カビ性評価 (相馬静乃、佐藤嘉則、米村祥央) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.16

(5 学会発表) 木造建築に施された漆層表面のひずみの経時変化 (藤井義久、原田正彦、北原博幸、藤原裕子、木川りか、佐藤嘉則、小峰幸夫、犬塚将英、古田嶋智子、日高真吾、斉藤明子、福岡憲) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.16

(5 学会発表) Culture-based and molecular-based analysis of the fungal community on tsunami disaster-affected cultural properties (Yoshinori Sato, Rika Kigawa) The International Biodeterioration and Biodegradation Society 2018 meeting -New Trends in Cultural Heritage Biodeterioration- University of Coimbra, Portugal 18.9.5-7

(5 学会発表) 多湿環境から乾燥における生黴糊によるカビ被害の検証 (松本美奈子、高鳥美奈子、久米田裕子、佐藤嘉則、高鳥浩介) 日本防菌防黴学会第45回年次大会 タワーホール船堀 18.11.13

(5 学会発表) ヤマトシミの発育および食性に関する基礎的検討 (渡辺祐基、小峰幸夫、佐藤嘉則、富松志帆) 日本環境動物昆虫学会創立30周年記念大会 京都大学農学部 18.11.17

(6 講習会) 修理工房における文化財IPM—カビによる健康被害および防除方法について— 科学的な材料とその使用方法の講習会 東京文化財研究所 18.7.31

(6 講義) 環境制御 (虫菌害対策) 平成30年度アーカイブズ・カレッジ 史料管理学研修会 国文学研究資料館 18.9.4

(6 講義) 有害生物対策 平成30年度 アーカイブズ研修III/公文書管理研修III 国立公文書館 18.9.14

(6 講義) 博物館収蔵資料の生物被害と文化財IPM(総合的有害生物管理)について 平成30年度 北海道博物館協会学芸職員部会研修会 美幌町町民会館、美幌博物館 18.9.28-29

(6 講義) 水損紙資料の微生物被害と応急処置 平成30年度 文化財等防災ネットワーク研修 奈良文化財研究所 18.10.31

(6 講義) 水損紙資料の生物被害対策 平成30年度防災ネットワーク推進事業研修会 京都国立博物館 19.2.27

(7 所属学会) International Biodeterioration & Biodegradation Society、日本土壌微生物学会、日本微生物生態学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会

(7 委員会等) ひたちなか市史跡保存対策委員会、日本文化財科学会編集委員、国立民族学博物館共同研究員、日本土壌微生物学会事務局企画幹事

(8 教育) 東京藝術大学大学院文化財保存学専攻連携准

教授

佐野 千絵 SANO Chie (保存科学研究センター)

(1 共著)「7章 展示と保存/展示場の環境/展示ケースの環境」日本展示学会編『展示学事典』丸善 18.11

(2 報告) 閉架書庫内の吹き抜け構造の改善例と評価 (佐野千絵、橘川英規) 『保存科学』58 pp.29-39 19.3

(2 報告) 津波被災資料の汚れの成分分析とその由来 (佐野千絵、赤沼英男) 『保存科学』58 pp.139-148 19.3

(2 報告) History of Environmental Inspection of Museums When Borrowing Objects Designated as Important Cultural Properties of Japan (Nato Yoshida, Kyo Ishii, Tomoko Kotajima, Toshitami Ro, Masahide Inuzuka, Takeshi Ishizaki, Sadatoshi Miura, Chie Sano) *Preprints of IIC Turin Congress 2018* International Institute for Conservation of Historic and Artistic Works 18.9

(5 学会発表) 電動集密書架の定期的散開による閉架書庫の環境制御 (佐野千絵、橘川英規) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.16

(5 学会発表) 被災資料の保存空間におけるナフタレン濃度の調査について (古田嶋智子、呂俊民、内田優花、森井順之、吉田直人、熊谷賢、浅川崇典、本多文人、佐野千絵) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.16

(5 学会発表) ポリウレタンフォームとシリコンゴムを用いた作品の調査と保存の検討—1980年代に制作されたマネキンについて— (池田芳妃、早川典子、貴田啓子、佐野千絵) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.16

(5 学会発表) 美術館・博物館のための空気清浄化手引きの作成 (呂俊民、古田嶋智子、石井恭子、吉田直人、佐野千絵) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.16

(5 学会発表) 津波被災紙資料の安定化処置方法の改善のための課題 (佐野千絵、内田優花) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.16

(5 学会発表) 法隆寺金堂焼損部収蔵庫における壁画の保存・公開に関する研究—生物劣化のリスク評価を用いた数値解析による環境調整方法の検討— (小椋大輔、藤原良輔、佐野千絵、木川りか、和田浩、吉田直人、鉾井修一) 日本文化財科学会第35回大会 奈良女子大学 18.7.8

(5 学会発表) 博物館で用いる木質材料からの酢酸放散の低減に関する研究 合板構成材料—単板からの酢酸放散挙動 (古田嶋智子、呂俊民、佐野千絵) 2018年度日本建築学会大会学術講演会 東北大学 18.9.4-6

(5 学会発表) 陸前高田市立博物館津波被災文書類の安定化処置における微生物制御の課題 (内田優花、林美

木子、佐野千絵) 日本防菌防黴学会第45回年次大会
タワーホール船堀 18.11.13

(6 講演) 施設設備リノベーションと展示要件 全国美術館会議小規模館研究部会第48回研修会 刈谷市美術館 18.10.30

(6 講演) 歴史的建造物における新たな活用の模索と保存 美術史学会シンポジウム 根津美術館 19.3.10

(6 講演) 有機質文化財の保存について まほろん文化財研修 福島県文化財センター白河館 18.7.1

(6 講演) 有機溶剤等の安全講習 科学的な材料とその使用方法の講習会 東京文化財研究所 18.7.31

(6 講演) IPMから見た博物館等の施設管理 第8回文化財IPMコーディネータ資格取得のための講習会と試験 国立民族学博物館 18.12.11

(6 講義) 予防的保存と修理の最近の状況 文化財保存概論 武蔵大学 19.1.9

(6 講義) 地震対策一防災・減災の技術と被害への対応 山梨県MKNラーニング講習会 山梨県立美術館 19.1.17

(6 講義) 図書館の保存環境整備に関する基礎知識 平成30年度行政・司法各部門支部図書館特別研修 国立国会図書館 19.2.1

(6 講義) 博物館施設の空気汚染対策 スキルアップ研修会 熊本県博物館ネットワークセンター 19.2.15

(6 講義) 京都府内における水害リスク特に内水氾濫について 平成30年度防災ネットワーク推進事業研修会「水害に備える」 京都国立博物館 19.2.27

(7 所属学会) ICOM、ICOM-CC、IIC、IIC-Japan、高分子学会、室内環境学会、照明学会、繊維学会、大気環境学会、日本化学会、日本文化財科学会、日本防菌防黴学会、文化財保存修復学会、マテリアルライフ学会

(7 委員会等) 文化審議会専門委員重要文化財等の修理及び保存科学に関する研修事業協力者会議委員、国立歴史民俗博物館運営委員、国立民族学博物館運営委員、京都国立博物館文化財保存修理所運営委員会委員、奈良国立博物館文化財保存修理所運営委員会委員、九州国立博物館文化財保存修復施設運営委員会委員、公益財団法人文化財虫菌害研究所総合調整委員会委員・文化財虫菌害防除薬剤等認定委員会委員、千葉県文化財保護審議会委員、群馬県文化財保護審議会委員、群馬県保存活用大綱策定委員、石川県文化財保存修復工房運営委員会委員、長野県信濃美術館整備委員会委員、鳴門市「板東俘虜収容所」関係資料保存管理調査検討会委員長、宗像市史跡保存整備審議会委員、郡山市公文書・歴史情報館基本構想に係る懇談会委員、「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」保存環境ワーキング・グループ専門委員、重要文化財鎌倉芳太郎撮影ガラス乾板修理検討委員会委員、一般社団法人文化財保存修復学会理事、照明学会技術指針作成委員会委員長

(8 教育) 国際基督教大学非常勤講師

佐野 真規 SANO Masaki (アソシエイトフェロー)

(4 映像編集) 長板中形—松原伸生の技 企画展「ゆかた 浴衣 YUKATA」 島根県立石見美術館 18.7

(4 映像編集) 文化財防災ネットワーク 文化財防災マニュアル「民具資料のクリーニング処置例」 19.3

(4 映像編集) 『Manual for Cultural Heritage Disaster Risk Mitigation-Examples of Cleaning Procedures for Cultural Materials-』 CH-DRM Network, Japan 19.3

(6 発表) 無形文化財と防災(無形文化遺産部) 平成30年度第3回総合研究会 東京文化財研究所 18.11.6

(6 発表) 無形文化遺産の映像記録 AF研究成果発表会 奈良文化財研究所 19.2.19

(6 発表) 無形文化遺産の映像記録—現状と課題— 無形文化遺産の防災連絡会議 東京文化財研究所 19.3.1

(8 教育) 映画美学校 映画制作ワークショップ【SKIPシティ国際Dシネマ映画祭連携】、アシスタント、18.7.18

塩谷 純 SHIOYA Jun (文化財情報資料部)

(1 公刊図書) 『黒田清輝 黒田記念館所蔵品より』 印象社 40p 19.1

(4 解説) 黒田清輝 その信念と諦念 『日本藝術の創跡』23 pp.84-93 18.11

(4 解説) 『特集 ラファエル・コランと黒田清輝』(リーフレット) 東京国立博物館 19.1

(6 パネリスト) 第1回日韓文化財研究フォーラム 東京藝術大学 18.7.15

(6 発表) 院体花鳥画と大正期の日本画 Ishibashi Foundation International Symposium “Modern Japanese Art and China” University of California, San Diego 18.11.3

(6 講演) 帝室技芸員 その成立と役割 「華ひらく 皇室文化 明治宮廷を彩る技と美」展連続講演会 京都文化博物館 18.11.17

(6 パネリスト) 「特別企画展「新章ジャパンビューティ」関連シンポジウム 栗原玉葉をめぐる物語」 長崎歴史文化博物館 19.1.13

(7 所属学会) 美術史学会、明治美術学会

(8 教育) 明治学院大学大学院非常勤講師、金沢美術工芸大学芸術学専攻非常勤講師

鳴原 由美 SHIGIHARA Yumi (アソシエイトフェロー)

(2 報告) ミャンマーにおける壁画調査 『ミャンマー・バガン遺跡における煉瓦造寺院外壁の保存修復および壁画調査 平成30年度成果報告書』 pp.34-127 東京文化財研究所 19.3

(4 編集) 『ミャンマー・バガン遺跡における煉瓦造寺院外壁の保存修復および壁画調査 平成30年度成果報告書』 127p 東京文化財研究所 19.3

(5 学会発表) ミャンマー・バガン考古遺跡群における壁画保存修復に向けた調査研究—美術史的・技法的視点による壁画調査— (鳴原由美、前川佳文) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.17

(5 学会発表) ミャンマー・パガン考古遺跡群における壁画の保存管理に関する調査 (嶋原由美、前川佳文) 日本文化財科学会第35回大会 奈良女子大学 18.7.7-8

(7 所属学会) 日本文化財科学会、文化財保存修復学会

城野 誠治 SHIRONO Seiji (文化財情報資料部)

(1 共著) 早川泰弘、城野誠治 『Color & Material—日本絵画の色と材料—』 ライブアートブックス 360p 18.4

(2 報告) 国宝信貴山縁起絵巻の彩色材料調査結果 (早川泰弘、城野誠治) 『国宝信貴山縁起絵巻 蛍光エックス線分析結果』 pp.48-61 東京文化財研究所 18.7

(2 報告) 春日権現験記絵の彩色材料調査 (巻十九・巻二十) (早川泰弘、城野誠治、皿井舞) 『宮内庁 三の丸尚蔵館所蔵 春日権現験記絵 巻十九・二十 光学調査報告書』 pp.XRF28-30 東京文化財研究所 18.12

(2 報告) 無原罪の聖母図 (聖母マリアの御絵) の光学調査結果 (早川泰弘、城野誠治) 『カトリック長崎大司教区所蔵 無原罪の聖母図 (聖母マリアの御絵) 光学調査報告書』 pp.74-79 東京文化財研究所 19.1

(3 論文) 国宝日月四季山水図の蛍光X線分析—日本絵画における白色顔料の特殊な利用例— (早川泰弘、城野誠治) 『保存科学』58 pp.83-93 19.3

(3 論文) 写真からわかること 『東京国立博物館所蔵 国宝平安仏画光学調査報告書』 pp.186-239 東京国立博物館、東京文化財研究所 19.3

(4 解説) 10.科学写真 10-1文化財 『日本写真学会誌』81(3) pp.224-22 日本写真学会 18.9

(4 写真編集) 『宮内庁 三の丸尚蔵館所蔵 春日権現験記絵 巻十九・二十 光学調査報告書』 pp.20-143、pp.XRF31-95 東京文化財研究所 18.12

(4 写真編集) 『カトリック長崎大司教区所蔵 無原罪の聖母図 (聖母マリアの御絵) 光学調査報告書』 pp.6-73 東京文化財研究所 19.1.15

(4 写真編集) 『東京国立博物館所蔵 国宝平安仏画光学調査報告書』 pp.12-239、pp.260-263 東京国立博物館、東京文化財研究所 19.3

(5 学会発表) 国宝信貴山縁起絵巻の彩色材料調査 (早川泰弘、城野誠治) 日本文化財科学会第35回大会 奈良女子大学 18.7.7-8

(6 発表) ワット・ラーチャプラディットの扉部材の撮影 ワット・ラーチャプラディットの日本製扉部材と伏彩色螺鈿に関する研究会 東京文化財研究所 18.7.30

(6 講演) 光学的調査の方法と成果—科学写真からわかること 那智参詣曼荼羅巻子本の仕立てを探る 國學院大學 18.12.15

(7 所属学会) 日本光学会、日本写真家協会、日本写真学会、日本法科学技術学会

杉山 恵助 SUGIYAMA Keisuke (客員研究員)

(2 報告) Advanced – Restoration of Japanese Hanging

Scrolls (佐味義之、杉山恵助) 『ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」2018』 pp.32-85 東京文化財研究所 19.1

(6 講義) Advanced - Restoration of Japanese Hanging Scrolls (佐味義之、杉山恵助) Workshops on the Conservation of Japanese Art Objects on Paper and Silk 2018 ベルリン国立博物館アジア美術館 18.7.9-13

(7 所属学会) 文化財保存修復学会

(7 所属学会等) 英国保存修復学会 (ICON)、米国保存修復学会 (AIC)

(8 教育) 東北芸術工科大学文化財保存修復学科准教授 (文化財保存修復研究センター研究員兼務)

高桑 いづみ TAKAKUWA Izumi (特任研究員)

(3 論文) 能の囃子の成立過程 『国立能楽堂開場35周年記念企画展「囃子方と楽器」カタログ』 pp.18-24 国立能楽堂 19.1

(4 エッセイ) 批評と感想・謡に耳を傾ける 『能楽タイムズ』797 pp.2-5 能楽書林 18.8

(4 エッセイ) 批評と感想 さまざまな〈翁〉、祝言のかたちと声 『能楽タイムズ』804 pp.2-3 能楽書林 19.3

(4 ラジオ出演) FM能楽堂 故人をしのんで NHK FM 放送 NHK 18.8.5、12、19

(4 ラジオ出演) FM能楽堂 井筒・実盛等解説 NHK FM 放送 NHK 18.12.2、9、16、23、30

(4 解説) 太鼓の魅力 『TTR能プロジェクト企画公演パンフレット』 pp.4-5 TTR 18.9

(4 解説) 龍田「移神楽」の演出 『第45回能と狂言鑑賞会パンフレット』 真双会 18.10

(4 解説) 夕顔 前シテの登場と後場の舞 『鍬仙』368 pp.4-6 鍬仙会 18.11

(4 連載) 宮城能鳳の居グセ 『花もよ』37 pp.14-15 ぶんがく社 18.5

(4 連載) 過渡期の鼓胴 三たび四たび 『花もよ』38 pp.10-11 ぶんがく社 18.7

(4 連載) 世阿弥自筆能本が見せる「盛久」とは? 『花もよ』39 pp.10-11 ぶんがく社 18.9

(4 連載) 藤田六郎兵衛さんと藤田流 『花もよ』40 pp.10-11 ぶんがく社 18.11

(4 連載) 光琳と能 『花もよ』41 pp.10-11 ぶんがく社 19.1

(4 連載) 終句アラカルト 『花もよ』42 pp.10-11 ぶんがく社 19.3

(5 学会発表) 長唄の「クルイ」再考 楽劇学会第26回大会 国立能楽堂大講義室 18.7.8

(6 講演) 能と狂言の世界 囃子 京都造形大学「日本芸能史」 京都造形大学 18.11.19

(6 講演) 囃子と楽器 国立能楽堂 公開講座 国立能楽堂大講義室 19.2.22

(6 司会) 長唄における獅子物 その二 (坂本清恵、配川美加、星野厚子) 日本女子大学文学部・文学科学

術交流企画 日本女子大学新泉山館 19.3.13

(7 所属学会) 楽劇学会、能楽学会

田所 泰 TADOKORO Tai (アソシエイトフェロー)

(12月1日より客員研究員)

(3 論文) 栗原玉葉の《朝妻桜》に関する一考察—その制作意図を中心に— 『美術史』185 pp.117-137 18.10

(3 論文) 武村耕靄と明治期の女性日本画家に関する研究 『美術研究』427 pp.15-78 19.3

(4 記事) 「色彩からみる玉葉作品」「作品解説」「栗原玉葉の口絵作品」「栗原玉葉の落款・印章について」「栗原玉葉の印章」「栗原玉葉年譜」「栗原玉葉参考文献」「栗原玉葉筆《お夏の思ひ》考—その色彩表現に注目して—」(五味俊晶、田所泰、太田昌子、児島薫、北川久、伊藤たまき) 『栗原玉葉』長崎文献社 pp.23-31、44-46、50-51、68-71、82-87、90-91、109、118-119、132-135、160-161、170-177、184-201、204-220
(4 記事) 「物故者」松尾敏男、後藤純男、郷倉和子、合田佐和子、朝倉響子、小嶋悠司 『日本美術年鑑』平成29年度 pp.540、544-547、549-550、557-558 19.3
(5 学会発表) 文化財情報の総合データベースシステムの構築と運用(小山田智寛、福永八朗、二神葉子、三島大暉、田所泰) デジタルアーカイブ学会第3回研究大会 京都大学吉田キャンパス 19.3.16

(6 講演) 「栗原玉葉と女性画家」「特別企画展「新章ジャパンビューティ」関連シンポジウム 栗原玉葉をめぐる物語」長崎歴史文化博物館 19.1.13

(6 発表) 「武村耕靄と明治期の女性日本画家」文化財情報資料部研究会 東京文化財研究所 18.4.24

田中 淳 TANAKA Atsushi (客員研究員)

(6 発表) 基調講演：明治末期から大正期にかけての美術と文学 井伏鱒二生誕120年記念シンポジウム「井伏鱒二未公刊書簡の基礎的研究—『同学コミュニティ』解明に向けて 福山大学人間文化部 18.11.25

(7 所属学会) 美術史学会、明治美術学会

簡 佑丞 CHIEN Yuchen (客員研究員)

(2 報告) 日據初期的臺灣河川治水事業與土木技師十川嘉太郎的貢獻 『土木水利』46 (1) pp.1-7 中国土木水利学会 19.2

(3 論文) 日據初期的臺灣河川治水事業與土木技師十川嘉太郎的貢獻 『第22回海峽兩岸水利科技交流研討會論文集』pp.168-176 中国水利水电科学研究院 18.10

(4 解説) 向世界取經為保存珍貴歷史記憶盡心力 『臺電月刊』671 p.8 臺灣電力會社 18.11

(6 講演) 移行期的港灣都市史研究：日治初期台灣近代港灣都市的成立過程 中原大学建築学研究科文化財保存講座 中原大学 18.6.5

(6 講演) 從土木(技術)史觀點探討台灣電力文化資產保存 臺灣電力會社文化資產保存特展深度講座 松煙文化創意園區 18.9.29

(6 講演) 臺灣的近代土木歷史及土木文化資產 中原大学土木工学研究科専門講座 中原大学 18.10.15

(7 所属学会) 産業考古学会、土木学会、都市史学会、中国土木水利学会(台湾)

(7 委員会等) 中国土木水利学会(台湾) 土木歷史與文化委員会専門委員

(8 教育) 中国文化大学景觀デザイン学科(台北) 非常勤講師

津田 徹英 TSUDA Tetsuei (客員研究員)

(3 論文) 滋賀・浄厳院 木造釈迦如来立像—佐々木氏頼(1326~70) 発願の旧慈恩寺本尊— 『美術研究』426 pp.93-110 18.12

(3 論文) 神奈川県立歴史博物館蔵 一遍上人像の画讀をめぐる 『パラゴネ』6 pp.45-48 19.3

(4 資料紹介) 東寺観智院金剛藏本(建武二年写)『諸説不同記』巻第九(上) 解題・翻刻・影印(伊藤瑛子、石井千紘) 『パラゴネ』6 pp.1-35 19.3

(4 解説) 円成庵秘仏本尊 六字明王像 『高松市指定文化財 円成庵 六字尊像 修理報告書』 楽浪文化財修理所 19.3

(4 記事) 「物故者」河原由雄 『日本美術年鑑』平成29年版 pp.537-538 19.3

(6 講演) 日本における文化財の保存と情報公開をめぐる二、三の問題 龍谷史学会 龍谷大学大宮学舎 18.10.26

(6 講演) 「現図」の金胎両部の曼荼羅構造をめぐるシンポジウム・曼荼羅と悟り 武蔵野大学仏教文化研究所 19.3.9

(6 講演) 櫻間家ゆかりの能「奥の細道」(高浜虚子作)について 第15回櫻間右陣之會 GINZA SIX 観世能楽堂 19.3.21

(7 所属学会) 美術史学会、密教図像学会

(8 教育) 青山学院大学文学部教授

堤 一郎 TSUTSUMI Ichiro (客員研究員)

(2 コメント) 「鉄道遺産」久々お墨付き 『朝日新聞関西版』第1面 朝日新聞社 18.10.5

(2 報告) 日鉱記念館—日立鉱山の遺産を今に伝える— 『日本技術史教育学会誌』20(1) p.43 日本技術史教育学会 18.11

(2 報告) 産業革命推進の原動力～蒸気機関と工作機械～ 『工業技術博物館ニュース』101 pp.13-28 日本工業大学工業技術博物館 19.2.20

(3 論文) エネルギー変換の技術を可視化するための教材開発 『茨城大学教育学部紀要(教育科学)』68 pp.687-700 茨城大学教育学部 19.3

(3 論文) 基盤教育における「地域産業技術史」の講義—2017年度における授業実践結果から—(堤一郎、

玉川里子)『茨城大学全学教育機構論集』2 pp.9-22
 茨城大学全学教育機構 19.3
 (4 解説) 機械遺産が語る日本の機械技術史 第2回 機械遺産の分類と時代区分 『日本機械学会誌』121(1193) pp.45-47 日本機械学会 18.4
 (4 解説) 時代を紡ぐ機械遺産①—近代化の主役を追う— 『交通新聞』第4面 交通新聞社 18.7.26
 (4 解説) 時代を紡ぐ機械遺産②—技術者による国産化の足跡— 『交通新聞』第4面 交通新聞社 18.8.31
 (4 解説) 機械遺産が語る日本の機械技術史 第12回 今後の展望 『日本機械学会誌』121(1201) pp.48-49 日本機械学会 18.12
 (4 解説) 時代を紡ぐ機械遺産⑨—機械工学史料— 『交通新聞』第4面 交通新聞社 19.3.29
 (5 学会発表) 戦前期における地方私鉄へのディーゼル動車導入の経過と変遷 (堤一郎、池森寛、緒方正則) 日本機械学会九州支部第72期総会講演会 九州工業大学 19.3.14
 (6 講演) 産業革命の原動力、蒸気機関と工作機械 日本工業大学工業技術博物館講演会 日本工業大学学友会館 18.6.8
 (6 講演) 機械遺産が語る日本の機械技術史 東京理科大学森戸記念館第1ホール 東京理科大学 18.9.27
 (7 所属学会) 日本機械学会、日本技術史教育学会、日本技術史教育学会
 (7 委員会等) 日本機械学会機械遺産委員会 (アドバイザー)
 (8 教育) 茨城大学特任教授、中央大学理工学部兼任講師、神奈川工科大学工学部非常勤講師、武蔵野美術大学非常勤講師、サレジオ工業高等専門学校非常勤講師

友田 正彦 TOMODA Masahiko (文化遺産国際協力センター)
 (2 報告) 1. Technical Features of Brick Masonry Construction of Historic Buildings at Bagan Archaeological Zone, Conclusion Report of the Survey on Historic Brick Buildings at Bagan Archaeological Zone pp.5-31, 65-69 TNRICP 19.2
 (2 報告) 「1. Introduction」、「3. Conservation」 Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor-Progress Report of 2017 and 2018- pp.1-4, 15-23 APSARA/TNRICP 19.3
 (2 報告) 「1. Outline of the project」、「2.1.1 Investigation of the traces of the buildings」、「2.2 Damage assessment」、「3. Guidelines of the restoration」 Rehabilitation Plan for the Southwest Corner of the Mohan Chok, Hanumandhoka Durbar Square, Kathmandu, pp.1-4, 5-8, 11-12, 15-16 TNRICP 19.3
 (2 報告) 「1. 事業概要」、「2.1 ハヌマンドカ王宮略史」、「2.2. 対象建物の構成」、「2.3.1. 絵画・古写真資料」、「3.1. 調査の概要」、「3.2. 痕跡調査」 『ハヌマンドカ王宮内アガン

チェン寺周辺建造物調査中間報告書』 pp.1-8、9-35、69-92 東京文化財研究所 19.3
 (2 報告) 1. バガン遺跡群における歴史的建造物の煉瓦積みの特徴、まとめ 『平成30年度文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業 ミャンマーにおける考古・建築遺産の調査・保護に関する技術移転を目的とした拠点交流事業—建築分野—』 pp.5-27、83-86 東京文化財研究所 19.3
 (3 論文) Architectural features of traditional houses in Bhutan (Masahiko TOMODA, Tsuguto EZURA, Satoshi UNNO, Ayumi MAEKAWA, Katsura SATO, Alejandro MARTINEZ, Hirohito FUKUSHIMA, Masami FUKUMOTO, Yeshi SAMDRUP, Pema WANGCHUK, Nobuo KAMEI) PROCEEDINGS ISAIA 2018 The 12th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia pp.29-33 大韓建築学会、中国建築学会、日本建築学会 18.10
 (4 編集) (Masahiko TOMODA, Ly Vanna) Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor - Progress Report of 2017 and 2018 - 70p APSARA/TNRICP 19.3
 (4 編集) (友田正彦、マルティネス・アレハンドロ) 『東南アジア古代都市・建築研究会』 183p 東京文化財研究所 19.3
 (4 編集) (友田正彦、安倍雅史) 『アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成30年度成果報告書』 72p 東京文化財研究所 19.3
 (4 編集) (Masahiko TOMODA, Hiroki YAMADA, Hiroo KANSHA, Natsumi ASADA) Rehabilitation Plan for the Southwest Corner of the Mohan Chok, Hanumandhoka Durbar Square, Kathmandu 24p TNRICP 19.3
 (4 編集) (友田正彦、山田大樹、浅田なつみ、間舎裕生) 『ハヌマンドカ王宮内アガンチェン寺周辺建造物調査中間報告書』 152p 東京文化財研究所 19.3
 (4 編集) (友田正彦、マルティネス・アレハンドロ) 『平成30年度文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業ミャンマーにおける考古・建築遺産の調査・保護に関する技術移転を目的とした拠点交流事業—建築分野—』 86p 東京文化財研究所 19.3
 (4 編集) (Masahiko TOMODA, Alejandro MARTINEZ) Report of the Survey on Historic Brick Buildings at Bagan Archaeological Zone 119p TNRICP 19.2
 (4 編集) (Bijaya K. Shrestha, Masahiko TOMODA, Hiroki YAMADA, Natsumi ASADA) The First Mayors' Forum on Conservation of Historic Settlements in Kathmandu and Kavre Valley on 26 Dec. 2017 at Panauti Municipality Proceedings 73p Panauti Municipality/TNRICP 19.3
 (4 記事) East ICOMOS Workshop 参加報告 『ICOMOS JAPAN INFORMATION』10 (13) pp.29-30 日本イコモス国内委員会 19.3
 (5 学会発表) Architectural features of traditional houses

in Bhutan (Masahiko TOMODA, Tsuguto EZURA, Satoshi UNNO, Ayumi MAEKAWA, Katsura SATO, Alejandro MARTINEZ, Hirohito FUKUSHIMA, Masami FUKUMOTO, Yeshi SAMDRUP, Pema WANGCHUK, Nobuo KAMEI) ISAIA 2018 The 12th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia Pyeong Chang Alpencia Resort Convention Center, Korea 18.10.24

(6 発表) Conservation and Sustainable Development Plan of Ta Nei and Progress of the Archaeological Investigation (Ly Vanna, Masahiko Tomoda, An Sopheap, Masashi Abe) The 30th Technical Session of ICC Angkor APSARA Conference Hall, Siem Reap, Cambodia 18.6.5

(6 発表) カンボジアの考古建築遺産をめぐる近況 文化遺産国際協力コンソーシアム第33回東南アジア・南アジア分科会 東京文化財研究所 18.7.4

(6 発表) Brick masonry construction in Bagan - Technical features and some considerations for their restoration - Seminar on the Conservation of Brick Buildings in Bagan Myanmar Engineering Society, Yangon, Myanmar 18.11.13

(6 発表) Brick masonry construction in Bagan - Technical features and some considerations for their restoration - Seminar on the Conservation of Brick Buildings in Bagan Bagan Archaeology Museum, Bagan, Myanmar 18.11.14

(6 発表) Report of International Cooperation for Safeguarding Bagan - Japan (Masahiko TOMODA, Alejandro MARTINEZ) 1st International Coordinating Committee Bagan Archaeology Museum, Bagan, Myanmar 18.11.18

(6 発表) Recent activities of ICOMOS Japan (Masahiko TOMODA, Yuga KARIYA) 2018 East Asia ICOMOS Workshop National Palace Museum, Seoul, Korea 18.12.21

(6 発表) Recent issues concerning the historic buildings reconstruction in Japan 2018 East Asia ICOMOS Workshop National Palace Museum, Seoul, Korea 18.12.21

(6 パネリスト) 趣旨説明、パネルディスカッションモデレーター 研究会「大陸部東南アジアにおける木造建築技術の発達と相互関係」 東京文化財研究所 18.12.16

(7 所属学会) ICOMOS、日本建築学会

(7 委員会等) 日本イコモス国内委員会理事

中山 俊介 NAKAYAMA Shunsuke (文化遺産国際協力センター)

(2 報告) Modern Textiles and International Cooperation in Conservation at the Tokyo National Institute for Cultural Properties The Conservation of Textile Cultural Properties in Japan pp.45-52 東京文化財研究所、Web公開 19.3

(6 講演) 近代文化遺産としての船舶の保存と活用 日本郵船歴史博物館「明治150周年特別講演会」 日本郵船歴史博物館 18.9.29

(6 講演) 産業遺産(足尾銅山跡を含む)の保存と活用 日光市世界遺産登録推進講演会 日光市足尾公民館

19.3.16

(7 所属学会) 日本船舶海洋工学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会

(7 委員会等) 高島炭鉱整備活用委員会、帆船日本丸保存活用計画懇談会、氷川丸保存活用計画有識者会議、第五福竜丸船体等保存検討委員会、伊豆の国市史跡等整備調査委員会 葦山反射炉部会、佐渡市建造物保存活用に関する専門家会議、史跡原爆ドーム保存技術指導委員会、国立科学博物館重要科学技術史資料登録委員会

(8 教育) 公立大学法人長岡造形大学非常勤講師

西和彦 NISHI Kazuhiko (文化遺産国際協力センター)

(2 報告) 2018年国際イコモス年次総会等に参加して『ICOMOS JAPAN INFORMATION』10(13) pp.27-28 日本イコモス国内委員会 19.3

(2 報告) 『世界文化遺産の遺産影響評価に関する調査研究事業報告書』 pp.26-43 東京文化財研究所 19.3

(4 編集) 『各国の文化財保護法令シリーズ[23] ポーランド【文化財の保護及び文化財の管理に関する2003年7月23日付の法律】』 210p 東京文化財研究所 19.3

(4 編集) 『世界遺産研究協議会「戦略的OUV選択論」』 95p 東京文化財研究所 19.3

(6 講義) 近代建築のみかた 金沢職人大学校修復専攻科 石川県立歴史博物館 18.5.25

(6 講義) 近現代建築保護における諸制度 奈良文化財研究所平成30年度文化財担当者専門研修「近現代建築保存活用課程」 奈良文化財研究所 18.7.9

(6 講演) 世界遺産委員会における資産の保全状況の審議結果と傾向について 「明治日本の産業革命遺産」の管理保全に係る研修会 福岡県福岡東総合庁舎 18.9.5

(6 パネリスト) 全体討議 世界遺産研究協議会「戦略的OUV選択論」 東京文化財研究所 18.9.28

(6 講演) 文化財保護法改正をどう考えるか 東京文化財研究所総合研究会 東京文化財研究所 18.10.2

(6 講演) 長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産登録までの道のりとこれから 五島市世界遺産登録記念式典 五島市奈留支所 18.11.24

(6 講演) 世界文化遺産 国内における取り組み 世界遺産解説セミナー 大分県立歴史博物館 19.2.12

(7 所属学会) ICOMOS、日本建築学会、建築史学会

(7 委員会等) 彦根城世界遺産登録にかかる学術検討委員会、平泉の文化遺産世界遺産拡張登録検討委員会、(公財)ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所文化遺産保護協力事業委員会、国立西洋美術館活用・公開方針検討委員会、東京国立博物館本館保存活用計画検討WG、日本建築学会日本建築和室の世界遺産の価値特別調査委員会

(8 教育) 東京理科大学理工学部非常勤講師

早川 典子 HAYAKAWA Noriko (保存科学研究センター)

- (3 論文) 絵画修復の化学 (国内における最新の事例) 『オレオサイエンス』18 (10) pp.483-490 18.10
- (3 論文) 画絹の物性に及ぼす断面形状・殺蟬方法の影響—大和文華館所蔵作品調査データを含めて— (早川典子、岡部迪子、濱田翠、山府木碧、菊池理予、古川攝一、秋本賀子、志村明) 『保存科学』58 pp.1-20 19.3
- (3 論文) 「ミャンマー漆と日本漆の塗膜硬さに関する定量的評価」 (倉島玲央、早川典子) 『保存科学』58 pp.95-105 19.3
- (3 論文) 膠の性状と湿熱劣化処理の影響に関する研究 (宇高健太郎、早川典子、藤井佑果、柏谷明美) 『保存科学』58 pp.107-118 19.3
- (3 論文) 2) 文化財への適用を目的とした有機溶媒を含むゲルクリーニングの方法の検討 (藤井佑果、山本記子、早川典子) 『保存科学』58 pp.119-132 19.3
- (5 学会発表) 高松塚古墳壁画の修復報告—国宝絵画としての保存修復処置— (早川典子、川野邊渉、小笠原具子、山本記子、辻本与志一、宇田川滋正、建石徹) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.16
- (5 学会発表) 現代技法で製作されたミャンマー漆器の科学調査 (倉島玲央、山府木碧、早川典子) 日本文化財科学会第35回大会 奈良女子大学 18.7.7-8
- (5 学会発表) ポリウレタンフォームとシリコンゴムを用いた作品の調査と保存の検討—1980年代に制作されたマネキンについて— (池田芳妃、早川典子、佐野千絵、貴田啓子) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.16
- (5 学会発表) Pemulen® TR-2ゲルを利用した液体汚損付着物のクリーニング—油除去作業を例にして— (藤井佑果、山本記子、早川典子) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.17
- (5 学会発表) 「豆粕」の分析 糊に含まれる脂質成分について (大橋有佳、稲葉政満、塚田全彦、早川典子) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.17
- (5 学会発表) 接着剤およびアーカイバルテープの劣化 (内田優花、早川典子) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.17
- (5 学会発表) 在来技法で製作された画絹の科学的調査 (濱田翠、早川典子、菊池理予、志村明、秋本賀子、柏谷明美) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.17
- (5 学会発表) 群青顔料が紙の劣化に及ぼす影響 (貴田啓子、柏谷明美、稲葉政満) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.17
- (5 学会発表) Retardation Effect in the Copper Corrosion Damage to Japanese Paper by Dōsa (Keiko Kida, Noriko Hayakawa, Masamitsu Inaba) IIC -paper conservation-,

Beijing Beijing Palace Museum 18.10.30

- (6 講演) 高松塚古墳壁画をまもり・伝える：保存修理現場の今 龍谷大学文学部文化遺産学シンポジウム〈高松塚古墳壁画保存の過去・現在そして未来〉 龍谷大学 18.12.22
- (6 講演) 日本における漆喰古墳壁画の保存修復 アジア壁画の保存と彩色技術交流に関する国際コロキウム 東京国立西洋美術館 19.3.2
- (6 講義) 修理技術者に必要な科学 国宝修理演師連盟 新任者研修 京都国立博物館 18.4.19
- (6 講義) 修理技術者に必要な科学 (中・上級) 国宝修理 装演師連盟中級上級者研修 京都国立博物館 18.7.27
- (6 講義) 保存科学 文化財建造物修理主任技術者講習会 普通コース 東京国立博物館 18.8.30
- (6 講義) 接着の科学 美術工芸品修理技術者講習会 文化庁 18.9.4
- (6 講義) 修復のための合成樹脂 美術工芸品修理技術者講習会 文化庁 18.9.4
- (6 講義) On Adhesives Used in the Restoration of Japanese Paintings 国際研修「紙の保存と修復」2018 東京文化財研究所 18.8.29
- (6 講習会) 実習 科学的な材料とその使用方法の講習会 東京文化財研究所 18.8.1
- (6 講習会) 総論 (付着物—接着剤や汚れ等—の除去) 科学的な材料とその使用方法の講習会 東京文化財研究所 18.8.1
- (7 所属学会) IIC、高分子学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会、マテリアルライフ学会
- (7 委員会等) 「法隆寺金堂壁画 保存活用委員会」壁画ワーキング・グループ 材料調査班専門委員、国宝修理装演師連盟修理技術者資格制度委員会委員、鎌倉芳太郎撮影ガラス乾板修理検討委員会委員、重要文化財等の修理及び保存科学に関する研修事業協力者会議委員
- (8 教育) 東京藝術大学大学院連携准教授

早川 泰弘 HAYAKAWA Yasuhiro (保存科学研究センター)

- (1 共著) 早川泰弘、城野誠治 『Color & Material—日本絵画の色と材料—』 ライブアートブックス 360p 18.4
- (1 共著) 早川泰弘、高妻洋成 『文化財分析』 共立出版 100p 18.8
- (2 報告) 国宝信貴山縁起絵巻の彩色材料調査結果 (早川泰弘、城野誠治) 『国宝信貴山縁起絵巻 蛍光エックス線分析結果』 pp.48-61 東京文化財研究所 18.7
- (2 報告) 春日権現験記絵の彩色材料調査 (巻十九・巻二十) (早川泰弘、城野誠治、皿井舞) 『春日権現験記絵 巻十九・巻二十 光学調査報告書』 pp.XRF28-30 東京文化財研究所 18.12
- (2 報告) 無原罪の聖母図 (聖母マリアの御絵) の光学調査結果 (早川泰弘、城野誠治) 『カトリック長崎大

司教区所蔵 無原罪の聖母図（聖母マリアの御絵）光学調査報告書』 pp.74-79 東京文化財研究所 19.1

(2 報告) 東京国立博物館所蔵 国宝平安仏画の蛍光X線分析 『東京国立博物館所蔵 国宝平安仏画 光学調査報告書』 pp.242-259 東京国立博物館、東京文化財研究所 19.3

(3 論文) 国宝日月四季山水図の蛍光X線分析—日本絵画における白色顔料の特殊な利用例—（早川泰弘、城野誠治）『保存科学』58 pp.83-93 19.3

(5 学会発表) 国宝信貴山縁起絵巻の彩色材料調査（早川泰弘、城野誠治）日本文化財科学会第35回大会 奈良女子大学 18.7.7-8

(5 学会発表) キトラ古墳天井・星宿図の蛍光X線元素分析調査（降幡順子、辻本与志一、金旻貞、高妻洋成、早川泰弘、建石徹、宇田川滋正）日本文化財科学会第35回大会 奈良女子大学 18.7.7

(6 発表) ワット・ラーチャプラディットの漆絵・螺鈿扉の蛍光X線分析 ワット・ラーチャプラディットの日本製扉部材と伏彩色螺鈿に関する研究会 東京文化財研究所 18.7.30

(6 講演) 日本絵画の顔料分析とその手法 第31回タンデム加速器及びその周辺技術の研究会 東京都市大学二子玉川キャンパス 18.7.13

(6 講演) 若冲を科学 絵具と描写 日経カルチャー「はじめて学ぶ、伊藤若冲」日本経済新聞社東京本社 18.8.10

(6 講演) 日本絵画の非破壊分析 絵画典蔵保存修復研究会 國立臺灣美術館 18.8.16

(6 講演) 日本絵画に用いられる彩色材料の多様性と変遷 第67回東京・スガウエザリング学術講演会 アルカディア市ヶ谷 18.10.25

(6 講演) 日本絵画に用いられる彩色材料の多様性と変遷 第68回大阪・スガウエザリング学術講演会 大阪国際会議場 18.10.30

(6 講演) X線分析による彩色材料調査 那智参詣曼荼羅巻子本の仕立てを探る 國學院大學 18.12.15

(6 講習会) 文化財修理と科学 第9回文化財（美術工芸品）修理技術者講習会 文化庁 18.9.4

(7 所属学会) 日本文化財科学会、日本分析化学会、仏教芸術学会、文化財保存修復学会

(7 委員会等) 琉球王国文化遺産集積・再興事業実施計画に係る監修委員、「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」壁画ワーキンググループ材料調査班専門委員

(8 教育) 東京藝術大学大学院美術研究科連携教授、金沢美術工芸大学非常勤講師、愛知県立芸術大学非常勤講師

林 美木子 HAYASHI Mikiko（アソシエイトフェロー）

(3 論文) Pressures from long term environmental change at the shrines and temples of Nikkō (Peter Brimblecombe, Mikiko Hayashi) *Heritage Science*, Vol.6, 27 18.5

(4 解説)（巻頭言）自然災害から文化財を守る 『建築仕上技術』p.15 工文社 19.3

(5 学会発表) 陸前高田市立博物館津波被災文書類の安定化処置における微生物制御の課題（内田優花、林美木子、佐野千絵）日本防菌防黴学会第45回年次大会 タワーホール船堀 18.11.13

(6 講習会) 世界遺産とアイデンティティー —中国山西省応県木塔などを例に語る 認定NPO法人 かわさき市民アカデミー 主催公開講座『世界遺産との対話—語りかける世界遺産 第2部』川崎市生涯学習プラザ 18.11.5

(6 講義) ICCROM First aid to Cultural Heritage in Times of Crisis の紹介 平成30年度防災ネットワーク推進事業 研修会「水害に備える」京都国立博物館 19.2.27

(7 所属学会) 日本建築学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会、空気調和・衛生工学会

藤井 佑果 FUJII Yuka（アソシエイトフェロー）

(3 論文) 膠の性状と湿熱劣化処理の影響に関する研究—表面観察による検証—（宇高健太郎、早川典子、藤井佑果、柏谷明美）『保存科学』58 pp.107-118 19.3

(3 論文) 有機溶媒を含んだゲルの文化財への適用を目的としたクリーニング方法の検討（藤井佑果、早川典子、山本記子）『保存科学』58 pp.119-132 19.3

(5 学会発表) Pemulen® TR-2 ゲルを利用した液体汚損付着物のクリーニング—油除去作業を例にして—（藤井佑果、早川典子、山本記子）文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぼーと 18.6.17

(7 所属学会) 文化財保存修復学会

藤井 義久 FUJII Yoshihisa（客員研究員）

(3 論文) Continuous nondestructive monitoring of larval feeding activity and development of the bamboo powderpost beetle *Dinoderus minutus* using acoustic emission (Watanabe H, Yanase Y, Fujii Y.) *Journal of Wood Science*, 64 pp.138-148 18.4

(3 論文) Relationship between crack propagation and the stress intensity factor in cutting parallel to the grain of hinoki (*Chamaecyparis obtusa*) (Masumi Minagawa, Yosuke Matsuda, Yuko Fujiwara, Yoshihisa Fujii) *Journal of Wood Science*, 64 pp.758-766 18.9

(5 学会発表) 腐朽後乾燥による木材細胞の配列乱れを示すCT画像の特徴量の抽出 —抽出方法の信頼性向上の試み—（篠崎美帆、藤原裕子、築瀬佳之、澤田豊、藤井義久、吉村剛）日本木材保存協会第34回年次大会 メルパルク東京 18.5.23

(5 学会発表) How can we introduce modern Japanese wooden housing technologies to the South-east Asian countries? (Yoshihisa Fujii, Katsunori Gokan, Sulaeman Yusuf, Nikhom Laemsak) 日米木質科学国際会議2018、

SWST 名古屋大学 18.11.6

(5 学会発表) 湿度制御した温風処理による甲虫類の駆除 湿度制御した温風処理による甲虫類の駆除—社寺建築における効果の検証— (藤井義久、原田正彦、北原博幸、藤原裕子、木川りか、佐藤嘉則、小峰幸夫、犬塚将英、古田嶋智子、日高真吾、斉藤明子、福岡憲) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.16

(5 学会発表) 木造建築に施された漆層表面のひずみの経時変化 (藤井義久、原田正彦、北原博幸、藤原裕子、木川りか、佐藤嘉則、小峰幸夫、犬塚将英、古田嶋智子、日高真吾、斉藤明子、福岡憲) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.16

(5 学会発表) ハンドヘルド型蛍光X線分析装置を用いたこけら葺き屋根の銅元素の現場測定 (中野ひとみ、駒谷慎太郎、藤原裕子、藤井義久) 日本文化財科学会第35回大会 奈良女子大学 18.7.7

(5 学会発表) 伝統木造にみられる蟻害・甲虫害の特徴 日本環境動物昆虫学会創立30周年記念大会 京都大学 18.11.18

(5 学会発表) 木殺し・水分付与が仕口接合部の引き抜き強度に与える影響 (坪田篤憲、藤原裕子、築瀬佳之、澤田豊、藤井義久) 日本木材加工技術協会第36回年次大会 東京大学 18.10.18

(5 学会発表) 仕口接合の強度試験時におけるアコースティック・エミッション(AE)の検出—低荷重域におけるAEの検出性能改善の試み— (越村梓穂、築瀬佳之、藤原裕子、澤田豊、藤井義久) 日本木材加工技術協会第36回年次大会 東京大学 18.10.18

(5 学会発表) 竹材の油抜処理が乾燥特性におよぼす影響 (今泉早貴、築瀬佳之、藤井義久) 日本木材加工技術協会第36回年次大会 東京大学 18.10.18

(5 学会発表) 竹材の油抜処理が乾燥割れに与える影響 (今泉早貴、築瀬佳之、藤井義久) 第69回日本木材学会大会 函館アリーナ 19.3.14

(5 学会発表) 木殺しが仕口接合の押し抜き強度に与える影響 (坪田篤憲、藤原裕子、築瀬佳之、澤田豊、藤井義久) 第69回日本木材学会大会 函館アリーナ 19.3.14

(5 学会発表) 仕口接合試験体の養生中および強度試験中に発生するアコースティック・エミッションによる接合強度の推定 (越村梓穂、築瀬佳之、藤原裕子、澤田豊、藤井義久) 第69回日本木材学会大会 函館アリーナ 19.3.14

(5 学会発表) 小規模製材工場における作業分析による技術的課題の抽出 (嶋崎雄介、澤田豊、築瀬佳之、藤原裕子、藤井義久) 第69回日本木材学会大会 函館アリーナ 19.3.14

(5 学会発表) 塩化ビニル材および木材の切削における切れ刃近傍のひずみ分布の比較 (松田陽介、藤原裕子、藤井義久) 第69回日本木材学会大会 函館アリーナ

19.3.14

(5 学会発表) パターン認識による腐朽後乾燥したスギ辺材の腐朽程度の推定 (篠崎美帆、藤原裕子、築瀬佳之、澤田豊、藤井義久、吉村剛) 第69回日本木材学会大会 函館アリーナ 19.3.14

(5 学会発表) 硫酸銅処理木材における腐朽菌による銅の移動 (栗崎宏、藤井義久) 第69回日本木材学会大会 函館アリーナ 19.3.14

(6 講習会) 木材の劣化診断技術 木材劣化診断士講習会 東京 18.8.28

(6 講習会) 木造の劣化診断技術 住宅メンテナンス診断士講習会 大阪 18.8.8

(6 講習会) 木造の劣化診断技術 住宅メンテナンス診断士講習会 東京 18.11.6

(6 講習会) 木材・木造の劣化と耐久性 日本伝統建築棟梁研修 彦根市 18.11.15

(7 所属学会) International Research Group on Wood Protection、精密工学会、日本環境動物昆虫学会、日本建築学会、日本材料学会、日本文化財科学会、日本木材加工技術協会、日本木材学会、日本木材保存協会、文化財保存修復学会

(8 教育) 京都大学農学部森林科学科、京都大学大学院農学研究科、静岡大学農学部非常勤講師、京都府立大学農学部非常勤講師

二神 葉子 FUTAGAMI Yoko (文化財情報資料部)

(2 報告) OUV にまつわる課題—世界遺産委員会での議論を中心に— 『世界遺産研究協議会報告書「戦略的OUV選択論」』 pp.23-32 東京文化財研究所 19.3

(3 論文) 持続可能な文化財情報データベースの構築と運用について (小山田智寛、二神葉子、三島大暉) 『公開シンポジウム人文科学とデータベース発表論文集 第24回』 pp.59-66 人文系データベース協議会 19.3

(3 論文) 無形文化遺産の保護に関する第13回政府間委員会の概要と課題 『無形文化遺産研究報告』13 pp.1-21 19.3

(5 学会発表) 持続可能な文化財情報データベースの構築と運用について (小山田智寛、二神葉子、三島大暉) 第24回公開シンポジウム「人文科学とデータベース」 静岡大学 浜松キャンパス 19.3.2

(5 学会発表) 文化財情報の総合データベースシステムの構築と運用 (小山田智寛、福永八朗、二神葉子、三島大暉、田所泰) デジタルアーカイブ学会第3回研究大会 京都大学吉田キャンパス 19.3.16

(6 発表) WordPressで作る文化財情報データベース (小山田智寛、二神葉子、三島大暉) WordCamp Osaka 2018 関西大学梅田キャンパス KANDAI Me RISE 18.6.2

(6 発表) DataCoreを利用した拡張可能なストレージ事例紹介 (二神葉子、三島大暉、小山田智寛) DataCore DCIEサミット データコア・ソフトウェア株式会社

18.7.12

(6 発表) ワット・ラーチャプラディットの日本製扉部材と伏彩色螺鈿に関する調査研究の概要 ワット・ラーチャプラディットの日本製扉部材と伏彩色螺鈿に関する研究会 東京文化財研究所 18.7.30

(6 発表) Japan's Sacred World Heritage Sites - Their OUV and Issues of Their Protection and Management "World Heritage-Great Burkhan Khaldun Mountain and Its Surrounding Sacred Landscape: Research, Preservation and Protection" International Conference National Library of Mongolia 18.9.22

(6 発表) OUVにまつわる課題—世界遺産委員会での議論を中心に— 世界遺産研究協議会「戦略的OUV選択論」 東京文化財研究所 18.9.28

(6 講演) Activities of the Tokyo National Research Institute for Cultural Properties for a good implementation of the World Heritage Convention 2018 East Asia ICOMOS Workshop "Towards a New Exchange and Cooperation: The Recent Practices of East Asia ICOMOS in the Protection and Management of Cultural Heritages" National Palace Museum, Seoul, Republic of Korea 18.12.21

(6 講演) 世界遺産一覧表への記載—評価の過程と観点— 世界遺産解説セミナー 大分県立歴史博物館 19.2.12

(7 所属学会) ICOMOS、地理情報システム学会、日本第四紀学会、日本文化財科学会、文化財保存修復学会

(7 委員会等) 文化審議会世界文化遺産部会臨時委員

方向分析 (五十嵐佑磨、本多貴之) 日本文化財科学会第35回大会 奈良女子大学 18.7.7-8

(5 学会発表) 染料と含量の組み合わせによる緑色漆の作成 (増田隆之介、本多貴之) 日本文化財科学会第35回大会 奈良女子大学 18.7.7-8

(5 学会発表) 文化財保存修復に用いられる合成樹脂のMALDI-TOFMSによる分析およびKMDプロットによる解析 (岡本駿、本多貴之) 第23回高分子分析討論会 名古屋国際会議場白鳥ホール 18.10.11-12

(5 学会発表) MALDI-MSを用いた熱硬化漆および自然硬化漆の構造解析 (菊地隆雅、本多貴之) 第23回高分子分析討論会 名古屋国際会議場白鳥ホール 18.10.11-12

(5 学会発表) 4-アルキルカテコール熱硬化膜の物性およびPy-GC/MSによる構造解析 (浅沼啓太、本多貴之) 第23回高分子分析討論会 名古屋国際会議場白鳥ホール 18.10.11-12

(6 講演) 科学分析で紐解く縄文時代の漆利用 漆サミット2018in 岩手 いわて県民情報交流センター「アイーナ」 18.11.24

(6 講演) 文化財における漆塗膜の分析化学 石川県次世代産業育成講座 輪島塗会館 2018.9.5

(6 講演) 百按司墓木棺の漆塗膜分析 琉球の漆文化と科学2018 浦添市美術館講堂 18.11.3

(7 所属学会) 高分子学会、日本化学会、日本文化財科学会、高分子分析研究懇談会

(7 委員会等) 高分子分析研究懇談会運営委員副委員長

本多 貴之 HONDA Takayuki (客員研究員)

(3 論文) Application of pyrolysis-comprehensive gas chromatography/mass spectrometry for identification of Asian lacquers (Okamoto Shun, Honda Takayuki, Miyakoshi Tetsuo, Han Bin, Sablier Michel) *Talanta*, 189 pp.315-323 18.6

(3 論文) Analysis of Japanese Jomon period red lacquer-ware by pyrolysis gas chromatography/mass spectrometry (Shinichi Takahashi, Meesook Sung, Takayuki Honda, Rong Lu, Jaekook Jung, Tetsuo Miyakoshi) *Journal of Archaeological Science: Reports*, 18 pp.85-89 18.4

(3 論文) 炭素同素体が高分子材料の熱分解に与える影響 (永井義隆、神谷嘉美、本多貴之) 『高分子論文集』75(3) pp.280-289 18.11

(5 学会発表) 科学分析を用いた琉球漆器の構造と材質の特定 (佐々木美保、本多貴之、宮里正子) 日本文化財科学会第35回大会 奈良女子大学 18.7.7-8

(5 学会発表) Sr同位体比と科学的手法による百按司墓内の木棺に使用された材料とその産地の推定 (中川理夢、玉城靖、宮里正子、仲宗根久里子、中井俊一、本多貴之) 日本文化財科学会第35回大会 奈良女子大学 18.7.7-8

(5 学会発表) 多層漆膜を対象とした紫外線劣化の深さ

米沢 玲 MAIZAWA Rei (文化財情報資料部)

(3 論文) 大徳寺伝来五百羅漢図について—一僧院生活の描写と『禅苑清規』— 『仏教芸術』1 p.65-82 18.10

(4 記事) 「物故者」小川光三 『日本美術年鑑』平成29年版 p.545 19.3

(6 発表) 二幅の不動明王画像—禅林寺本と高貴寺本— 2018年度第9回文化財情報資料部研究会 東京文化財研究所 19.2.28

(6 講演) 仏教儀礼と茶—茶の湯前史— 青山グリーンアカデミー《茶の湯概論》講座 公益財団法人国際茶道文化協会 18.4.18

(7 所属学会) 美学会、美術史学会、仏教芸術学会、三田芸術学会

前川 佳文 MAEKAWA Yoshifumi (文化遺産国際協力センター)

(1 共著) (Daniela Murphy, Guido Botticelli, Fabrizio Bandini, Alberto Felici, Stefania Franceschini, Yoshifumi Maekawa) *Conservation of Turkish Wall Paintings; a guideline for emergency treatments 2017-2019* 112p 東京文化財研究所 18.10

(2 報告) (Yoshifumi Maekawa, Daniele Angellotto, Denis Zanetti Maria Letizia Amadori) *Capacity Building; a Conservation Project for the Repair, Strengthening and*

Recovery of Temple 1205a 68p 東京文化財研究所 19.1

(2 報告) (Daniela Murphy, Stefania Franceschini, Yoshifumi Maekawa, Maria Letizia Amadori) *Report on the study, assessment, conservation and restoration of the wall paintings decorating the southern wall of: Loka-hteik-pan 'adorning the world from above' Pagoda 1580* 116p 東京文化財研究所 19.1

(2 報告) (Yoshifumi Maekawa, Daniela Murphy, Stefania Franceschini, Asmaa Saeed) *Conservation Treatments at Khonsuemheb Tomb, Wall Paintings* 28p 早稲田大学エジプト学研究所 19.2

(2 報告) 『平成30年度文化遺産国際協力拠点交流事業「トルコ共和国における壁画の保存管理体制改善に向けた人材育成事業」報告書』 132p 東京文化財研究所 19.3

(2 報告) 『ミャンマー・バガン遺跡における煉瓦造寺院外壁の保存修復および壁画調査 平成30年度成果報告書』 127p 東京文化財研究所 19.3

(3 論文) Integrated scientific investigations on the constitutive materials from Me-taw-ya Temple, Pagán Valley, Burma (Myanmar) (Maria Letizia Amadori, Paolo Fermo, Valentina Raspugli, Valeria Comite, Francesco Maria Mini, Yoshifumi Maekawa, Mauro La Russa) *Measurement*, 131 pp.737-750 19.1

(5 学会発表) ミャンマー・バガン考古遺跡群における壁画保存修復に向けた調査研究—美術史的・技法視点による壁画調査—(鳴原由美、前川佳文) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.17

(5 学会発表) Loka-Hteik-Pan 寺院祠堂 (バガン、ミャンマー) の壁画保存修復に向けた調査研究 (前川佳文、ダニエラ・マーフィー、ステファニア・フランチェスキーニ、チー・リン) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.17

(5 学会発表) ポンペイ遺跡「アポロの家」における壁画の保存状況調査 (前川佳文、モニカ・マルテッリ・カスターディ、ガイド・ボッティチェリ、ステファニア・フランチェスキーニ) 日本文化財科学会第35回大会 奈良女子大学 18.7.7-8

(5 学会発表) ミャンマー・バガン考古遺跡群における壁画の保存管理に関する調査 (鳴原由美、前川佳文) 日本文化財科学会第35回大会 奈良女子大学 18.7.7-8

(6 発表) コンスウエムヘブ墓壁画の保存修復—2015～現在まで エジプト、ルクソール西岸岩窟墓調査報告会2018 早稲田大学戸山キャンパス 18.12.15

(6 発表) 文化遺産国際協力拠点交流事業「トルコ共和国における壁画の保存管理体制改善に向けた人材育成事業」文化遺産国際協力コンソーシアム第11回欧州分科会 東京国立博物館 19.1.10

(6 講演) Il progetto in corso di Tokyo National Research

Institute for Cultural Properties SUPSI International Exchange Meeting The University of Applied Sciences and Arts of Southern Switzerland 18.4.26

(7 所属学会) 日本文化財科学会、文化財保存修復学会、Associazione Bastioni、Associazione Amici dell'Opificio

(7 委員会等) 金沢市石製文化財保存検討委員会委員

前原 恵美 MAEHARA Megumi (無形文化遺産部)

(2 報告) 『共催事業「伝統の音を支える技」報告書—第24回東京三味線・東京琴展示・製作実演会 第12回東京文化財研究所 無形文化遺産部 公開学術講座』 pp.1-57 東京文化財研究所 19.3

(2 報告) 楽器を中心とした文化財保存技術調査報告1 (前原恵美、橋本かおる) 『無形文化遺産研究報告』 13 pp.23-46 東京文化財研究所 19.3

(3 論文) 江島弁財天信仰と常磐津節演奏家—浮世絵〈相州江之嶋弁才天開帳参詣群集之図〉を起点に—『桐朋学園大学研究紀要』 44 pp.81-102 桐朋学園大学音楽学部 18.10

(4 連載) 浮世絵を聴く第9回 江戸のガーデニングに秋の訪れを聴く「百種接分菊」『宮城會々報』230 巻頭カラー 2p 箏曲宮城会 18.7

(4 連載) 浮世絵を聴く第10回 船上の宴に春爛漫を聴く「屋形船 花見の図」『宮城會々報』231 巻頭カラー 2p 箏曲宮城会 19.1

(4 解説) 日本の芸能を支える技Ⅰ 琵琶 石田克佳 (前原恵美、橋本かおる) pp.1-8 東京文化財研究所 18.7

(4 解説) 日本の芸能を支える技Ⅱ 三味線象牙駒 大河内正信 (前原恵美、橋本かおる) pp.1-8 東京文化財研究所 18.7

(4 解説) 日本の芸能を支える技Ⅲ 太棹三味線 井坂重男 (前原恵美、橋本かおる) pp.1-8 東京文化財研究所 19.3

(4 解説) 日本の芸能を支える技Ⅳ 雅楽管楽器 山田全一 (前原恵美、橋本かおる) pp.1-8 東京文化財研究所 19.3

(6 講演) 古典芸能における御祝儀物 儀礼文化講座第四回 儀礼文化学会研修室 18.10.14

(6 講演) 常磐津と危機に瀕する邦楽器 多聞会アートと考古学 シリーズⅡ無のかたち—Shape of the Shapeless—第三回 建仁寺両足院 18.10.28

(6 講演) 楽器製作・修理技術の調査から見えてくること 伝統の音を支える技—第12回東京文化財研究所 無形文化遺産部 公開学術講座・第24回東京三味線・東京琴展示・製作実演会 東京文化財研究所 18.8.3

(6 パネリスト) 伝統の音を支える技の今とこれから (谷垣内和子、田村民子、橋本英宗) 伝統の音を支える技—第12回東京文化財研究所 無形文化遺産部 公開学術講座・第24回東京三味線・東京琴展示・製作実演会 東京文化財研究所 18.8.3

(7 所属学会等) 楽劇学会、東洋音楽学会、文化財保存修復学会
(7 委員会等) 文化庁文化財部伝統文化課芸能部門非常勤調査員
(8 教育) 桐朋学園大学非常勤講師

牧野 真理子 MAKINO Mariko (アソシエイトフェロー)

(2 報告) 『文化遺産国際協力コンソーシアム平成30年度協力相手国調査 モンゴル国調査報告書』 pp.1-12, 31-64 文化遺産国際協力コンソーシアム 19.3
(4 編集) 『シンポジウム「文化遺産国際協力のかたち—世界遺産を未来に伝える日本の貢献—」報告書』 58p 文化遺産国際協力コンソーシアム 19.3
(4 編集) 『文化遺産国際協力コンソーシアム平成30年度協力相手国調査 モンゴル国調査報告書』 64p 文化遺産国際協力コンソーシアム 19.3

増淵 麻里耶 MASUBUCHI Mariya (アソシエイトフェロー)

(2 報告) 2-4 壁画を中心とした文化財保存教育に関する調査 『平成30年度文化遺産国際協力拠点交流事業「トルコ共和国における壁画の保存管理体制改善に向けた人材育成事業」報告書』 pp.70-82 東京文化財研究所 19.3
(2 報告) 付録2. 蛍光X線分析 『在外日本古美術品保存修復協力事業 月下秋景図No.2015-2 修復報告』 pp.32-36 東京文化財研究所 19.3
(2 報告) 高エネルギー放射光蛍光X線分析を用いた中央アナトリア出土古代鉄製品の生産地推定(増淵麻里耶、辻成希) 『SPRING-8利用課題実験報告書』 2018A (Webデータベース) JASRI/SPRING-8 18.6
(2 報告) 高エネルギー放射光蛍光X線分析を用いた中央アナトリア出土古代鉄製品の生産地推定(増淵麻里耶、辻成希) 『SPRING-8利用課題実験報告書』 2018B (Webデータベース) JASRI/SPRING-8 19.2
(3 論文) 放射光を用いた西アジアの古代鉄製品に対する考古冶金学研究 『考古学ジャーナル』 717 pp.36-38 18.9
(4 連載) ヒッタイトの鉄をめぐって①ヒッタイトの登場—伝説から史実へ— 『文化遺産の世界』 <https://www.isan-no-sekai.jp/column/20180418> NPO法人文化遺産の世界 18.4
(4 編集) 『平成30年度文化遺産国際協力拠点交流事業「トルコ共和国における壁画の保存管理体制改善に向けた人材育成事業」報告書』 132p 東京文化財研究所 19.3
(5 学会発表) 放射光高エネルギー蛍光X線分析を用いた鉄製埋蔵文化財の製作地推定のための新手法の開発(増淵麻里耶、辻成希) 日本分析化学会第67年会 東北大学川内北キャンパス 18.9.12-14
(6 発表) ワット・ナンチー及びワット・ラーチャプラディットの漆絵・螺鈿扉の蛍光X線分析結果 第4

回文化財情報資料部研究会「ワット・ラーチャプラディットの日本製扉部材と伏彩色螺鈿に関する研究会」東京文化財研究所 18.7.30

(6 発表) 鉄器の製作技術にみるヒッタイトの精神文化「若手研究者による古代中近東研究会」CISMOR 2nd Workshop in 2018 by Young Scholars: Ancient Near Eastern Studies 同志社大学—神教学際研究センター(CISMOR) 18.12.1

(6 発表) 中央アナトリアにおける製鉄文化解明の試み(10) —ヒッタイトの鉄とはなにか— 第29回トルコ調査研究会 学習院大学 19.3.26

(6 講演) 中央アナトリアの青銅器時代におけるヒッタイトの鉄生産にまつわる諸問題—その観念性と実在性を考える— 第254回アナトリア学勉強会 武蔵野プレイス 19.3.3

(6 講義) Conservation Science for Protecting Cultural Properties (1) - Archaeological Conservation - 金沢大学 18.10.23

(6 講義) Conservation Science for Protecting Cultural Properties (2) - Conservation of Museum Objects, Art Works, and Complex Cultural Assets- 金沢大学 18.10.23

(7 所属学会) IIC、日本西アジア考古学会、日本分析化学会

(7 委員会等) メソポタミア考古学教育研究所企画委員

(8 教育) 金沢大学大学院人間社会環境研究科招へい講師、金沢大学人間社会研究域附属国際文化資源学研究センター客員研究員

松保 小夜子 MATSUHO Sayoko (アソシエイトフェロー)

(4 編集) 『文化遺産国際協力コンソーシアム第23回研究会(ワークショップ)「諸外国における文化遺産保護の支援と協力を知る・語る」報告書』 15p 文化遺産国際協力コンソーシアム 19.3

間瀬 創 MABUCHI Hajime (客員研究員)

(7 所属学会) 室内環境学会、文化財保存修復学会
(8 教育) 皇學館大学文学部非常勤講師

丸川 雄三 MARUKAWA Yuzo (客員研究員)

(4 資料紹介) 国立民族学博物館の収蔵品(46): 麦わら帽子(かんかん帽) 『文部科学教育通信』 440 表紙裏 18.7

(4 記事) 特集/デジタルライブラリ DiPLAS: 写真のデジタル化とデータベースの構築 『月刊みんぱく』 491 p.4 18.8

(4 記事) 新世紀ミュージアム: 台東区立下町風俗資料館 『月刊みんぱく』 494 pp.16-17 18.11

(5 学会発表) 文化遺産オンラインにおける動画配信機能の拡充と活用 アート・ドキュメンテーション学会年次大会 国立歴史民俗博物館 18.6.17

(6 発表) デジタルアーカイブズの構築支援とライブラ

- リへの展開 シンポジウム『デジタル写真データベースが拓く学術活動の未来—蓄積された画像資料をいかに活用するか—』一橋講堂中会議場 18.5.19
- (6 発表) 地域研究画像デジタルライブラリにおける情報化と編集環境の構築(丸川雄三、飯田卓) 国際シンポジウム『デジタル時代における人文学の学術基盤をめぐる』一橋講堂中会議場 18.7.6
- (6 発表) 地域研究デジタルライブラリのデータベースと統制語彙 科学研究費研究成果公開促進費(データベース)研究会 国立民族学博物館 18.8.28
- (6 講演) 地域研究画像デジタルライブラリにおけるデータベース協働構築の実例(丸川雄三、石山俊) 第1回 SPARC Japan セミナー 2018『データ利活用ポリシーと研究者・ライブラリアンの役割』国立情報学研究所 18.9.19
- (6 発表) 映像・画像資料とデータベース：その実際と可能性 2018年みんぱく若手奨励セミナー『時空間を超える知識の共有—タテにつながる、ヨコにつながる—』国立民族学博物館 18.11.8
- (6 講演) 美術館における所蔵作品情報の発信と活用「美術作品情報発信のシステムと運用」アート・ドキュメンテーション学会第96回研究会 東京富士美術館見学会 18.12.22
- (6 講演) 写真原板情報のデジタル化：利活用の範囲を広げる page2019オープンイベント「日本写真保存センター」セミナー『写真フィルムのデジタルアーカイブ：デジタル化による利用・検索の可能性』池袋サンシャインシティ文化会館 19.2.6
- (7 所属学会) アート・ドキュメンテーション学会
- (8 教育) 総合研究大学院大学比較文化学専攻担当教員

マルティネス・アレハンドロ MARTINEZ Alejandro
(アソシエイトフェロー)

- (1 公刊図書)『木造建築遺産保存論』中央公論美術出版 398p 19.2
- (2 報告) Outline of the Conservation and Sustainable Development Plan for Ta Nei Temple, Angkor; Conservation; Sustainable Development (Masahiko Tomoda, Masashi Abe, Alejandro Martinez, Hiroo Kansha, Ly Vanna, Tann Sophal, An Sopheap, San Kosal, Sea Sophearun, Hiroshi Sugiyama) *Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor -Progress Report of 2017 and 2018-* pp.5-11, 15-23, 61-65 APSARA/TNRICP 19.3
- (3 論文) Seismic Damage and Vibration Properties of Cultural Heritage Buildings in Bagan Archaeological Zone, Myanmar (Noriko Takiyama, Sunwook Kim, Hiromi Sato, Alejandro Martinez) *Proceeding of 6th International Conference on Heritage and Sustainable Development* pp.1575-1582 18.6
- (3 論文) 日本建成遺産保護方法の発展 (The Development

- of the Japanese Approach to the Conservation of Built Heritage) *建築師 (The Architect)*, 194 pp.34-44 18.8
- (3 論文) 2016年ミャンマー・チャウ地震で被災したバガン遺跡群の地震被害状況及び構造的特徴(その1) バガン遺跡群の文化遺産建造物における地震被害の概要(金善旭、佐藤弘美、マルティネス・アレハンドロ)『日本建築学会大会学術講演梗概集 構造Ⅳ』pp.897-898 日本建築学会 18.9
- (3 論文) 2016年ミャンマー・チャウ地震で被災したバガン遺跡群の地震被害状況及び構造的特徴(その2) 常時微動計測に基づく振動特性の把握(川島康生、金善旭、佐藤弘美、マルティネス・アレハンドロ、多幾山法子)『日本建築学会大会学術講演梗概集 構造Ⅳ』pp.897-898 日本建築学会 18.9
- (3 論文) Architectural features of traditional houses in Bhutan (Masahiko TOMODA, Tsuguto EZURA, Satoshi UNNO, Ayumi MAEKAWA, Katsura SATO, Alejandro MARTINEZ, Hirohito FUKUSHIMA, Masami FUKUMOTO, Yeshi SAMDRUP, Pema WANGCHUK, Nobuo KAMEI) *PROCEEDINGS ISAIA 2018 The 12th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia*, pp.29-33 大韓建築学会、中国建築学会、日本建築学会 18.10
- (4 編集) (Masahiko TOMODA, Alejandro MARTINEZ) *Report of the Survey on Historic Brick Buildings at Bagan Archaeological Zone* 119p TNRICP 19.2
- (4 編集) (友田正彦、マルティネス・アレハンドロ)『平成30年度文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業 ミャンマーにおける考古・建築遺産の調査・保護に関する技術移転を目的とした拠点交流事業—建築分野—』86p 東京文化財研究所 19.3
- (4 編集) (友田正彦、マルティネス・アレハンドロ)『東南アジア古代都市・建築研究会』183p 東京文化財研究所 19.3
- (4 記事) 講演会「スペインの木造建築遺産—その保存と修理」の開催『ICOMOS JAPAN INFORMATION』10 (12) pp.25-26 日本イコモス国内委員会 18.12
- (4 記事)「物故者」小嶋一浩『日本美術年鑑』平成29年版 pp.555-556 東京文化財研究所 19.3
- (5 学会発表) 2016年ミャンマー・チャウ地震で被災したバガン遺跡群の地震被害状況及び構造的特徴(その1) バガン遺跡群の文化遺産建造物における地震被害の概要(金善旭、佐藤弘美、マルティネス・アレハンドロ) 日本建築学会2018年度大会(東北) 東北大学 18.9.6
- (5 学会発表) 2016年ミャンマー・チャウ地震で被災したバガン遺跡群の地震被害状況及び構造的特徴(その2) 常時微動計測に基づく振動特性の把握(川島康生、金善旭、佐藤弘美、マルティネス・アレハンドロ、多幾山法子) 日本建築学会2018年度大会(東北) 東北大学 18.9.6

(5 学会発表) The Handing Down of Traditional Carpentry Techniques in Japan 21st IWC Symposium St Anthony's Hall, York, UK 18.9.14

(5 学会発表) Conservation and Archaeological Investigation at Ta Nei Temple, Angkor (Alejandro Martinez, Masashi Abe) 第262回東南アジア考古学会例会「カンボジア考古学の最新調査」奈良文化財研究所 18.10.15
(5 学会発表) Architectural features of traditional houses in Bhutan (Masahiko TOMODA, Tsuguto EZURA, Satoshi UNNO, Ayumi MAEKAWA, Katsura SATO, Alejandro MARTINEZ, Hirohito FUKUSHIMA, Masami FUKUMOTO, Yeshi SAMDRUP, Pema WANGCHUK, Nobuo KAMEI) ISAIA 2018 The 12th International Symposium on Architectural Interchanges in Asia Pyeong Chang Alpencia Resort Convention Center, Korea 18.10.24

(6 発表) Report of International Cooperation for Safeguarding Bagan - Japan (Masahiko TOMODA, Alejandro MARTINEZ) 1st International Coordinating Committee Bagan Archaeology Museum, Bagan, Myanmar 18.11.18

(6 発表) 建築遺産保存における「オリジナル」の意義 日本建築学会・建築におけるオリジナルの価値に関する[若手奨励]特別研究委員会 建築会館 18.3.10

(6 講義) 文化遺産建造物保存における日欧の比較および日本の特質 建築都市保存再生学コース特別講義 京都工芸繊維大学 18.6.26

(6 講義) 木造建築遺産保存の考え方と技法 ヨーロッパと日本の比較から 修復専攻科7期 金沢職人大学校 18.10.26

(6 司会) スペインの木造建築遺産—その保存と修理 駐日スペイン大使館 18.10.19

(7 所属学会) ICOMOS、建築史学会、日本イコモス国内委員会、日本建築学会、文化財建造物保存修理研究会

三上 豊 MIKAMI Yutaka (客員研究員)

(1 共著)『秋山画廊 1985-2018』和光大学三上研究室 92p 19.1

(1 共著)「The Collectors」、「Koga」、「Art Magazines until 1945」、「Warphytime Photography and Design」、「Graphism from the 1920s to 1940s」、「The Opening of Modern Art Museums」、「The Rise of Avant-Garde Calligraphy Morita Shiryu and Inoue Yuichi」、「A Brief History of Manga」、「A Brief History of Animation」 The 20th Century Art in Japan p.124, 136, 164, 208, 304, 340 19.1

(4 映像) 西田明史アトリエ 6分 豊島区 18.4

(6 講演) 美術家のアトリエから 映像とくらし 和光大学連続市民講座 18.10.23

(6 講演) ひとはなぜ絵を描くのか? 市民提案型事業 講座づくり★まちチャレ 概論 19.1.19、まとめ 19.3.16

(7 委員会等) 町田市立国際版画美術館運営協議会委員、独立行政法人国立美術館の評価等に関する有識者会議委員

(8 教育) 和光大学表現学部芸術学科教授

三島 大暉 MISHIMA Taiki (文化財情報資料部)

(3 論文) 持続可能な文化財情報データベースの構築と運用について (小山田智寛、二神葉子、三島大暉) 『公開シンポジウム人文科学とデータベース発表論文集 第24回』 pp.59-66 人文系データベース協議会 19.3.2

(5 学会発表) 文化財情報の総合データベースシステムの構築と運用 (小山田智寛、福永八朗、二神葉子、三島大暉、田所泰) デジタルアーカイブ学会第3回研究大会 京都大学吉田キャンパス 19.3.16

(5 学会発表) 持続可能な文化財情報データベースの構築と運用について (小山田智寛、二神葉子、三島大暉) 第24回公開シンポジウム「人文科学とデータベース」静岡大学 浜松キャンパス 19.3.2

(6 発表) WordPressで作る文化財情報データベース (小山田智寛、二神葉子、三島大暉) WordCamp Osaka 2018 関西大学梅田キャンパス KANDAI Me RISE 18.6.2

(6 発表) DataCoreを利用した拡張可能なストレージ事例紹介 (二神葉子、三島大暉、小山田智寛) DataCore DCIE サミット データコア・ソフトウェア株式会社 18.7.12

(6 講習会) DOXについて 平成30年度第1回情報システム部会研修会 東京文化財研究所 18.9.4

(6 講習会) 最近の情報セキュリティの状況について (三島大暉、小山田智寛) 平成30年度第1回情報システム部会研修会 東京文化財研究所 18.9.4

(6 講習会) 最近の情報セキュリティの状況について 平成30年度第2回情報システム部会研修会 東京文化財研究所 19.3.12

(7 所属学会) デジタルアーカイブ学会、情報処理学会

安永 拓世 YASUNAGA Takuyo (文化財情報資料部)

(2 報告) 作品解説 『在外日本古美術品保存修復協力事業 瀑布溪流図 クラクフ国立博物館 (ポーランド共和国) 所蔵 中林竹洞筆 絹本墨画 掛軸装 1幅 No.2015-3 修復報告』 pp.23-26 東京文化財研究所 19.3

(4 記事) 「物故者」中部義隆 『日本美術年鑑』平成29年版 pp.539-540 東京文化財研究所 19.3

(6 講義) 博物館で扱う資料について—美術工芸品とアーカイブ— 東京大学「博物館資料論」講義 東京大学 18.4.11

(6 講演) 花月菴鶴翁と煎茶道のはじまり 台東区民会館 18.6.24

(6 講演) 与謝蕪村筆「鳶・鴉図」に見るトリプルイメージ A pair of scroll paintings: The triple images of Yosa

Buson's "Kite and Crows" セインズベリー日本藝術研究所 18.11.15

(7 所属学会) 美術史学会、和歌山地方史研究会

(8 教育) 慶應義塾大学文学部非常勤講師

山田 大樹 YAMADA Hiroki (アソシエイトフェロー)
(10月15日より客員研究員)

(2 報告) 2.1.2 Investigation of the finishing layers on the wall surface *Rehabilitation Plan for the Southwest Corner of the Mohan Chok, Hanumandhoka Durbar Square, Kathmandu*, pp.9-10 TNRICP 19.3

(2 報告) 3.3 仕上げ調査 『ハヌマンドカ王宮内アガンチェン寺周辺建造物調査中間報告書』 pp.93-110 東京文化財研究所 19.3

(3 論文) アティーク広場 (エスファハーン) 再興計画の評価～地区内店舗店主へのインタビュー調査に立脚して～ 『日本建築学会2018年度大会学術講演梗概集 都市計画』 pp.241-242 日本建築学会 18.8

(4 編集) (Bijaya K. Shrestha, Masahiko TOMODA, Hiroki YAMADA, Natsumi ASADA) The First Mayors' Forum on Conservation of Historic Settlements in Kathmandu and Kavre Valley on 26 Dec. 2017 at Panauti Municipality *Proceedings* 81p Panauti Municipality/TNRICP 19.3

(4 記事) 日本イコモス国内委員会研究会報告 (6/16) ネパール・ゴルカ地震被災文化遺産の復旧状況—リコンストラクションに係る議論の観点から 『ICOMOS JAPAN INFORMATION』 10 (11) pp.8-9 日本イコモス国内委員会 18.6

(4 記事) 日本イコモス国内委員会研究会報告 (9/15) 研究会『ICOMOSを知る、参加する：ISC/国内小委員会の活動』(山田大樹、小堀貴子、宮崎彩、横内基、白木ひかる、桑原佐知子) 『ICOMOS JAPAN INFORMATION』 10 (12) pp.8-12 日本イコモス国内委員会 18.12

(5 学会発表) アティーク広場 (エスファハーン) 再興計画の評価～地区内店舗店主へのインタビュー調査に立脚して～ 2018年度日本建築学会大会 (東北) 学術講演会 東北大学 18.9.6

(6 発表) Meaning and Purpose of Engineers' workshop (技術職員ワークショップの意味と目的) Engineers' workshop on the Conservation of Historic Settlements in the Kathmandu Valley (The third workshop) Shankarapur municipality city hall 18.5.7

(6 発表) ネパール・ゴルカ地震被災文化遺産の復旧状況—リコンストラクションに係る議論の観点から 日本イコモス国内委員会研究会 岩波書店一ツ橋ビル 18.6.16

(6 講演) Adaptive Reuse of Japanese Built Heritage (日本建築遺産の再活用) INTERNATIONAL CONFERENCE ON CULTURAL STATISTICS AND CREATIVE ECONOMY Diamond Hotel, Manila 18.10.3

(6 講義) Adaptive Reuse of Japanese Built Heritage (日本建築遺産の再活用) Maupa University, Manila 18.10.5

(6 講義) Situation of Recovery Process of Built Heritage Damaged by the Gorkha Earthquake in Nepal (ネパール・ゴルカ地震で被災した建造物遺産の再生プロセスの現状) 金沢大学 18.11.13

(6 発表) イランの広場～エスファハーンのナクシェ・ジャハーンとアティーク広場を例として～ 中東の公共空間に関する研究会 上智大学 19.2.28

(7 所属学会) ICOMOS、日本イコモス国内委員会、日本建築学会、日本都市計画学会

(7 委員会等) イコモス若手専門家作業部会日本代表幹事

(8 教育) 金沢大学招へい講師

山梨 絵美子 YAMANASHI Emiko (副所長)

(1 共著) 山梨絵美子、越川倫明『美術の国の自由市民—矢代幸雄とバーナード・ベレンソンの往復書簡』玉川大学出版部 408p 19.3

(2 報告) 日本絵画における光学的調査—美術研究所から引き継がれた調査の歴史を中心に 『東京国立博物館所蔵 国宝平安仏画光学調査報告書』 pp.5-7 東京国立博物館、東京文化財研究所 19.3

(2 報告) Optical research on Japanese Paintings-Focusing on the history originated in the Institute of Art Research 『東京国立博物館所蔵 国宝平安仏画光学調査報告書』 pp.8-9 東京国立博物館、東京文化財研究所 19.3

(2 報告) 美術に関するアーカイブについて思うこと 『国立新美術館研究紀要』 5 pp.313-314 国立新美術館 18.12

(4 記事) 「物故者」米坂ヒデノリ、吉井長三、塗師祥一郎、島田章三、金守世士夫 『日本美術年鑑』平成29年版 pp.538、552、554、563-564、564 東京文化財研究所 19.3

(6 講演) 裸婦に表された地域性—フジタ・常玉・陳澄波を例に 東京文化財研究所第52回オープンレクチャー 東京文化財研究所セミナー室 18.10.27

(6 講演) 分断されたモノたちを結びつける試み 日本学術会議哲学委員会シンポジウム「物質と文化—文化財の保存と活用を巡る諸問題」 東京文化財研究所セミナー室 19.3.5

(7 委員会等) 秋田市千秋美術館協議会美術作品等評価審査委員会委員、江戸東京博物館資料収蔵委員会委員、大分市美術館美術品収集委員会委員、迎賓館の改修に関する懇談会委員、東京都美術館運営委員会委員、千葉県文化財保護審議会委員日光市美術作品等収集審査会委員、文化庁文化審議会美術品補償制度部会委員、静岡県立美術館専門委員、横須賀市美術館美術品選定評議委員

山本 記子 YAMAMOTO Noriko (客員研究員)

(3 論文) 有機溶媒を含んだゲルの文化財への適用を目的としたクリーニング方法の検討 (藤井佑果、早川典子、山本記子) 『保存科学』58 pp.119-132 19.3

(5 学会発表) 高松塚古墳壁画の修復報告—国宝絵画としての保存修復処置— (早川典子、川野邊渉、小笠原具子、山本記子、辻本与志一、宇田川滋正、建石徹) 文化財保存修復学会40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.18

(5 学会発表) Pemulen® TR-2ゲルを利用した液体汚損付着物のクリーニング—油除去作業を例にして— (藤井佑果、早川典子、山本記子) 文化財保存修復学会40回大会 ポスター発表 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.17

(6 講演) 文化財を受け継ぎ未来に繋ぐ—絵と書の修理シンポジウム「文化財を守り伝える1 文化財の保存と修理」 けいはんなオープンイノベーションセンター 18.10.27

(6 講演) 文化財修理の過去と現在 総合展示 京の至宝と文化「古社寺保存法の時代」連続講座第2回 京都文化博物館 19.2.17

(6 講義) 技術の歴史と技法：表具の仕上げ法 文化庁文化財部美術学芸課第9回文化財(美術工芸品)修理技術者講習会 文化庁 18.8.15

(7 所属学会) ICOM

(8 教育) 嵯峨美術大学造形学科日本画非常勤講師

吉田 直人 YOSHIDA Naoto (保存科学研究センター)

(4 解説) History of Environmental Inspection of Museums When Borrowing Objects Designated as Important Cultural Properties of Japan (Naoto Yoshida, Kyoko Ishii, Tomoko Kotajima, Toshitami Ro, Masahide Inuzuka, Takeshi Ishizaki, Sadatoshi Miura, Chie Sano) *Studies in Conservation*, 63 (supplement 1) pp.451-453 18.11

(4 解説) 光による資料への影響の抑制と白色LED展示照明の現状について 『文化財の虫菌害』76 pp.22-27 公益財団法人文化財虫菌害研究所 18.12

(5 学会発表) 白色LEDの発光特性と彩色絵画の色彩との関係について (吉田直人、石井恭子) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.16

(5 学会発表) 美術館・博物館のための空気清浄化手引きの作成 (呂俊民、古田嶋智子、石井恭子、吉田直人、佐野千絵) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.16

(5 学会発表) 被災資料の保存空間におけるナフタレン濃度の調査について (古田嶋智子、呂俊民、内田優花、森井順之、熊谷賢、浅川崇典、本多文人、佐野千絵) 文化財保存修復学会第40回大会 高知市文化プラザかるぽーと 18.6.16

(5 学会発表) 法隆寺金堂壁画焼損部収蔵庫における壁

画の保存・公開に関する研究—生物被害のリスク評価を用いた数値解析による環境調整方法の検討— (小椋大輔、藤原良輔、佐野千絵、木川りか、和田浩、吉田直人、鉾井修一) 日本文化財科学会第35回大会 奈良女子大学 18.7.8

(5 学会発表) History of Environmental Inspection of Museums when Objects Designated as an Important Cultural Property of Japan (Naoto Yoshida, Kyoko Ishii, Tomoko Kotajima, Toshitami Ro, Masahide Inuzuka, Takeshi Ishizaki, Sadatoshi Miura, Chie Sano) IIC 2018 Turin Congress - Preventive Conservation: The State of the Art Politecnico di Torino, Italy 18.9.10-14

(6 講義) 資料への光の影響と展示照明技術の動向について 文化財虫菌害研究所 第40回文化財の虫菌害・保存対策研修会 国立オリンピック記念青少年総合センター 18.7.5

(6 講義) 保存科学—環境制御(保存環境管理) 国文学研究資料館 平成30年度アーカイブズ・カレッジ 国文学研究資料館 18.9.4

(6 講義) 美術館・博物館における照明、温湿度管理 第51回全国美術館会議保存研究部会会合 金沢21世紀美術館 18.11.28

(7 所属学会) 日本文化財科学会、文化財保存修復学会

(7 委員会等) 日本文化財科学会会誌編集委員、文化財保存修復学会理事、文化財保存修復学会第41回大会実行委員会委員、「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」保存環境ワーキング・グループ専門委員

(8 教育) 東京藝術大学大学院文化財保存学専攻システム保存学連携教授、大妻女子大学非常勤講師

5. 研究交流

1. 職員の海外渡航	167
2. 招へい研究員等	171
3. 海外研究者等の来訪	174
4. 主要来訪者、施設見学	175

1. 職員の海外渡航

氏 名	渡 航 先	期 間	目 的	経 費
増淵麻里耶	ドイツ	30.4.2～4.8	ICAANE2018への参加	先方負担 (立教大学)
中山俊介	ネパール	30.4.10～4.14	ハヌマンドカ王宮内における調査及び打合せ	受託 (文化庁 ネパール)
友田正彦		30.4.10～4.19		
前川佳文	イタリア、 スイス	30.4.19～4.29	ミャンマー及びトルコ事業に関する打合せ	コ 03
石村智	韓国	30.4.23～5.7	韓国国立無形遺産院との研究交流	ム 05
マルティネス アレハンドロ	イギリス	30.4.23～5.4	Weald and Downland Living Museumにおける大工研修の調査及び南イギリスの歴史的木造建築に関する調査	科研費
山田大樹	ネパール	30.4.25～5.11	ハヌマンドカ王宮内における調査及び歴史的集落サンクーにおけるエンジニアWSの開催	受託 (文化庁 ネパール)
小林公治	韓国	30.5.10～5.12	国立中央博物館での会議出席	先方負担 (国立中央博物館)
山田大樹	イラン	30.5.16～5.25	歴史的地区における開発に関する調査	科研費
友田正彦	ミャンマー	30.5.23～5.29	バガン遺跡群における歴史的煉瓦造建造物の建築構法・技術に関する調査及び技術的助言	受託 (文化庁 ミャンマー)
マルティネス アレハンドロ				
加藤雅人	メキシコ	30.5.26～6.7	国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」の開催	コ 05
元喜載				
五木田まきは		30.5.27～6.1	国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」の視察	一般管理費
中山俊介				
日高信二				
安倍雅史	イラン	30.5.31～6.14	カレ・クブ遺跡の発掘調査	科研費
友田正彦	カンボジア	30.6.3～6.9	国際調整委員会ICC技術会合への参加及びタネイ寺院における調査	コ 02
マルティネス アレハンドロ				
久保田裕道	中国	30.6.8～6.11	ワークショップへの参加	ム 01
間舎裕生	アルメニア、 ジョージア	30.6.19～7.12	染織文化遺産保存修復研修ワークショップの開催	コ 02
前川佳文	トルコ	30.6.20～7.1	壁画関連調査及び研修における講義	受託 (文化庁 トルコ)
西和彦	バーレーン	30.6.23～7.5	第42回世界遺産委員会への出席	コ 01
二神葉子				
境野飛鳥				
中山俊介	バーレーン、 ドイツ、 アルメニア、 ジョージア	30.6.27～7.12	第42回世界遺産委員会への出席、研修の視察及び情報収集	
加藤雅人	ドイツ	30.7.1～7.14	ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」の開催	コ 05
元喜載		30.7.1～7.15		
五木田まきは				

氏 名	渡 航 先	期 間	目 的	経 費
友田正彦	ネパール	30.7.9～7.14	ハヌマンドカ王宮内における調査	受託 (文化庁 ネパール)
山田大樹		30.7.7～7.18		
山梨絵美子	イギリス	30.7.11～7.15	セインズベリー日本藝術研究所表敬訪問及び共同研究に係る協定書の署名式	一般管理費
安川政和				
前川佳文	ミャンマー	30.7.11～8.5	バガン寺院壁画の保存に関する調査	コ 03
嶋原由美		30.7.11～7.25		
友田正彦	ブータン	30.7.15～7.25	歴史的版築造建造物に関する調査	科研費
マルティネス アレハンドロ				
石村智	マレーシア	30.7.23～7.28	国際狩猟採集社会研究会議に参加	ム 05
加藤雅人	台湾	30.8.6～8.17	ワークショップ「染織品の保存と修復」の開催	コ 05
後藤里架				
五木田まきは		30.8.12～8.17	ワークショップ「染織品の保存と修復」の講師	一般管理費
菊池理予		30.8.7～8.10	ワークショップ「染織品の保存と修復」の視察	
中山俊介				
小田切真梨				
小林公治	シンガポール、 インドネシア、 フィリピン	30.8.7～8.18	漆器等の調査及び研究協議	科研費
石村智	ミクロネシア 連邦	30.8.11～8.19	ミクロネシアにおけるスカイスケープ考古学の実 践に関する現地調査	先方負担 (南山大学)
北河大次郎	台湾	30.8.12～8.20	近代化遺産関連保存と推動研究の国際シンポジウ ム参加と近代文化遺産の実査	ホ 06
中山俊介		30.8.12～8.18	台湾の近代文化遺産の実査	
石田真弥				
早川泰弘	台湾	30.8.15～8.19	国立台湾美術館での国際シンポジウムへの出席	先方負担 (国立台湾美術館)
安倍雅史	カンボジア	30.8.18～9.15	タネイ寺院における発掘調査	コ 02
前川佳文	イタリア	30.8.19～8.31	壁画保存修復新技法開発に向けた現地調査	科研費
友田正彦	ミャンマー	30.8.21～8.26	バガン遺跡群における歴史的煉瓦造建造物の建築 構法・技術に関する調査及び技術的助言	受託 (文化庁 ミャンマー)
マルティネス アレハンドロ				
石村智	ネパール	30.8.21～8.30	カトマンズ盆地の無形文化遺産に関する調査	受託 (文化庁 ネパール)
久保田裕道				
北河大次郎	スイス、 イタリア	30.8.23～8.31	スイス、イタリアにおけるコンクリート構造物事 例調査	ホ 06
江村知子	マレーシア	30.8.26～8.29	I F L A 世界大会参加	シ 01
安永拓世	スイス	30.8.28～9.8	長澤蘆雪「18世紀日本のアバンギャルド」展開催 に伴う作品輸送等	先方負担 (文化庁)
佐藤嘉則	ポルトガル	30.9.4～9.9	IBBS18国際会議への参加	科研費
前川佳文	イタリア	30.9.6～9.19	ポンペイ遺跡壁画保存修復新技法開発に向けた実 験調査	科研費
マルティネス アレハンドロ	イギリス	30.9.7～9.20	ICOMOS木の委員会国際シンポジウムへの参加及 び発表、イギリス木造建築調査	科研費
犬塚将英	イタリア	30.9.10～9.15	IIC2018での成果発表及び情報交換	ホ 02

氏 名	渡 航 先	期 間	目 的	経 費
橘川英規	リトアニア	30.9.11～9.18	2018EAJRS conference in Kaunasでの発表	シ 06
佐野千絵	韓国	30.9.11～9.14	LMLCS2018への参加と招待講演	先方負担（チョルウォンプラズマ研究所）
間舎裕生	カンボジア	30.9.12～10.8	タネイ寺院における発掘調査及び打合せ	コ 02
友田正彦		30.9.24～9.29		
山田大樹	ネパール	30.9.16～9.28	ハヌマンドカ王宮内における調査、歴史的集落保全に関するカトマンズ盆地内行政職員との打合せ	受託 （文化庁　ネパール）
浅田なつみ				
西和彦	スイス	30.9.17～9.21	第４回ル・コルビジェ国際常設会議への出席	先方負担（文化庁）
二神葉子	モンゴル	30.9.19～9.23	「モンゴルの世界遺産「大ブルカン・カルドゥン山」に関する学融合的研究」シンポジウムでの発表	科研費
山田大樹	フィリピン	30.10.1～10.5	NCCA（国家文化芸術委員会）主催「文化統計及び創造的経済に係る国際会議」での発表	コ 02
江村知子	オランダ、 スイス、 フランス	30.10.3～10.11	国際美術図書館会議参加及び情報収集	シ 01
前川佳文	トルコ	30.10.10～10.26	壁画保全管理状況調査と壁画保存管理に関する研修の実施	受託 （文化庁　トルコ）
犬塚将英		30.10.18～10.23	壁画保存管理に関する研修での講義	
中山俊介		30.10.18～10.26	カッパドキアにおける壁画保存管理に関する研修 現地視察他	一般管理費
大島大輔				
佐野千絵	イラン	30.10.18～10.26	博物館の保存環境に関するワークショップの開催	コ 02
安倍雅史				
小峰幸夫				
石村智	フィジー	30.10.19～10.26	ACCUの研修にて講義	先方負担 （ユネスコ）
友田正彦	韓国	30.10.23～10.26	ISAIA2018（アジアの建築交流国際シンポジウム）での発表	所長裁量経費
五木田まきは	エルサルバドル、 ホンジュラス	30.10.23～11.12	エルサルバドルパブリック考古学シンポジウムにおける研究発表、ホンジュラスにおける文化遺産保全活用に関する調査	①科研費 ②助成金
久保田裕道	韓国	30.10.25～10.27	国際無形文化遺産会議2018への参加	先方負担（無形文化研究センター）
早川典子	中国	30.10.27～11.1	壁画古墳の保存修復方法に関する調査及び研究交流会での発表	受託 （キトラ）
塩谷純	アメリカ	30.11.1～11.6	石橋財団国際シンポジウム「近代日本美術と中国」での研究発表	先方負担 （石橋財団）
増渕麻里耶	トルコ	30.11.4～11.9	壁画保存に関する教育機関調査	受託 （文化庁　トルコ）
小林公治	イギリス	30.11.4～11.8	作品調査及び研究協議	科研費
中山俊介	イタリア	30.11.11～11.20	南イタリアにおける壁画の保存管理に関する調査	コ 03
嶋原由美		30.11.12～11.20		
前川佳文				科研費
友田正彦	ミャンマー	30.11.12～11.19	バガン遺跡群における歴史的煉瓦造建造物の建築構法・技術に関する調査及び技術的助言	受託 （文化庁　ミャンマー）
マルティネス アレハンドロ				

氏 名	渡 航 先	期 間	目 的	経 費
江村知子 安永拓世	イギリス	30.11.13～11.21	講演、研究協議及び調査	シ 01
川野邊渉 西和彦	イタリア	30.11.13～11.17	ICCROM理事会出席	先方負担（文化庁） 所長裁量経費
小林公治	中国	30.11.14～11.23	中国での国際学会発表及び調査、打ち合わせ	①科研 ②シ 07 ③先方負担 （上海博物館）
中山俊介	ドイツ	30.11.24～12.5	①ワークショップ「漆工品の保存と修復」の開催 ②漆工芸品の調査	①コ 05 ②先方負担
後藤里架		30.11.24～12.3	ワークショップ「漆工品の保存と修復」の開催	コ 05
早川典子		30.11.25～12.1	ワークショップ「漆工品の保存と修復」の講師	
外間尹隆		30.11.24～11.29	ワークショップ「漆工品の保存と修復」の視察	一般管理費
二神葉子 石村智	モーリシャス	30.11.24～12.2	第13回無形文化遺産保護条約政府間会議に出席	ム 05
加藤雅人 江村知子 米沢玲 元喜載	カナダ	30.11.25～11.28	モントリオール美術館所蔵日本絵画作品の調査	コ 04
		30.11.25～11.30		
西和彦	アルゼンチン	30.12.2～12.9	ICOMOS総会への出席	先方負担（文化庁）
前川佳文	エジプト	30.12.17～31.1.1	新王国時代岩窟墓内に描かれた壁画の保存修復事前調査及び壁画損傷個所の応急処置	科研費
二神葉子 友田正彦	韓国	30.12.20～12.22	東アジアイコモスワークショップでの講演	先方負担 （韓国イコモス）
安倍雅史	バーレーン	31.1.5～2.1	ワーディー・アッ＝サイル古墳群の発掘調査	科研費
友田正彦	ブータン	31.1.13～1.20	歴史的版築造建造物に関する調査及び打合せ	所長裁量経費
マルティネス アレハンドロ	ブータン、 カンボジア	31.1.13～1.26	歴史的版築造建造物に関する調査及び打合せ、タネイ寺院東門仮補強作業の実施監理	コ 02
浅田なつみ	カンボジア	31.1.19～1.26	タネイ寺院東門仮補強作業の実施監理	
前川佳文 嶋原由美	ミャンマー	31.1.14～2.3	バガン寺院壁画の保存に関する調査	コ 03
		31.1.14～1.25		
二神葉子 城野誠治	タイ	31.1.27～2.2	タイ所在日本製伏彩色螺鈿に関する調査	シ 02
江村知子	アメリカ	31.2.7～2.10	作品調査及び研究情報収集	科研費
安倍雅史	バーレーン	31.2.9～2.14	ワーディー・アッ＝サイル古墳群の発掘調査	科研費
増渕麻里耶 浅田なつみ	ネパール	31.2.22～2.28	ハヌマンドカ王宮内建造物内壁仕上げ材料に関する蛍光X線分析調査	受託 （文化庁 ネパール）
友田正彦		31.2.22～3.14		
早川典子 倉島玲央 山府木碧	ミャンマー	31.2.24～3.2	ハヌマンドカ王宮修復事業に関する調査及び打合せ	科研費 ホ 05
西和彦 境野飛鳥	イギリス、 フランス	31.3.4～3.8	文化財の英語表記にかかる聞き取り調査	受託（文化庁 英語 表記）
小林公治	中国	31.3.8～3.17	中国国内各地での調査、意見交換及び研究協議	科研費

氏 名	渡 航 先	期 間	目 的	経 費
間舎裕生	カンボジア	31.3.7～3.18	タネイ寺院における 3Dドキュメンテーション等調査	コ 02
久保田裕道	ネパール	31.3.10～3.14	カトマンズ盆地内の歴史的集落保全に関する市長会議への参加	受託 (文化庁 ネパール)
友田正彦	ネパール、 カンボジア	31.3.10～3.18	カトマンズ盆地内の歴史的集落保全に関する市長会議への参加、タネイ寺院における調査及び打合せ	受託 (文化庁 ネパール)、 コ 02
加藤雅人	ドイツ	31.3.11～3.14	ワークショップに係る資機材の梱包・発送(ドイツ技術博物館・ベルリン⇒日本美術技術博物館 Manggha・クラクフ)	コ 05
元喜載				
五木田まきは				
江村知子	アメリカ	31.3.20～3.28	屏風絵作品の調査及び会議出席	科研費、シ 01
友田正彦	ネパール	31.3.22～3.26	ハヌマンドカ王宮修復事業に関する調査及び打合せ	受託 (文化庁 ネパール)
小野真由美	アメリカ	31.3.25～3.29	ホノルル美術館での作品調査	科研費

2. 招へい研究員等

平成30年度における海外からの招へいは、下記のとおりである。

派遣期間	氏 名	国 籍	所 属	経 費
------	-----	-----	-----	-----

招へい理由：「シルクロードが結ぶ友情プロジェクト」シリア人研修(紙資料)への参加

30.5.15～5.30	Razan al-Jundi	シリア	シリア古物博物館総局 国立歴史文書センター 保存修復部長	受託(シルクロード シリア人研修)
	Fatat Kamel Jadid		シリア古物博物館総局 ダマスカス国立博物館 近代美術部長	

招へい理由：国際研修「紙の保存と修復」への参加

30.8.25～9.16	Judith Namutowe Kalikeka	ザンビア	ザンビア国立公文書館 上級保存修復技術者	コ 05
30.8.26～9.15	Sanne Capion Hansen	デンマーク	コペンハーゲン市博物館 保存修復技術者	
	Mariano Sebastian Krawiecki	アルゼンチン	アルゼンチン文書保管部局 保存修復専門補佐員	
	Jennifer Loubser	オーストラリア	クイーンズランド州立図書館 紙保存修復技術者	
	Crystal Leigh Maitland	カナダ	カナダ保存研究所 紙保存修復技術者	
	Audrey Mcginley	フランス	オワーズ県文書館 紙保存修復技術者	
	Amelia Rampton	イギリス	AR コンサベーション 上級紙保存修復技術者／代表	
	Makelesi Tinaibici Rokoleka	フィジー	フィジー国立公文書館 保存修復技術者補佐	
30.8.26～9.16	Marta Weronika Winiarczyk	ポーランド	クラクフ国立博物館 紙保存修復技術者	
	Bumpa Dorji	ブータン	内務文化省文化局 国立図書館公文書館 保存修復技術者	

派 遣 期 間	氏 名	国 籍	所 属	経 費
招へい理由：国際研修「紙の保存と修復」開校式への参加、研修視察				
30.8.26～8.31	José Luiz Pedersoli Júnior	ブラジル	文化財保存修復研究国際センター コレクション部プロジェクトマネージャー	支払いなし
招へい理由：国際学会 World Social Science Forum への参加				
30.9.24～10.1	Hilary L Raigetal	ミクロネシア連邦	Waa'Gey 代表	所長裁量経費
招へい理由：世界文化遺産の遺産影響評価に関する調査研究事業				
30.10.21～10.27	Richard Mackay	オーストラリア	株式会社 マッケイ・ストラテジック コンサルタント	受託 (文化庁 HIA)
30.10.23～10.26	Birgitta Gertrud Ringbeck	ドイツ	ドイツ連邦共和国外務省 世界遺産コーディネーター	
招へい理由：在外日本古美術品保存修復協力事業、修復作品の中間視察				
30.10.22～11.4	John Tadao Teramoto	アメリカ	インディアナポリス美術館 東洋課 学芸員	コ04
招へい理由：ネパールにおける無形文化遺産の保護状況に関する研究会への参加及び意見交換				
30.12.5～12.12	Jaya Ram Shrestha	ネパール	ネパール国立博物館 館長	受託 (文化庁 ネパール)
	Yamuna Maharjan		ネパール国立博物館 学芸員	
招へい理由：研究会「大陸部東南アジアにおける木造建築技術の発達と相互関係」への参加				
30.12.14～12.19	Pongthorn Hiengkaew	タイ	タイ王国文化省芸術局 記念物保存部 建造物課 主任建築家	コ02
30.12.14～12.26	François Tainturier	ミャンマー (フランス国籍)	インヤー・ミャンマー学研究所 常任理事	
招へい理由：在外日本古美術品保存修復協力事業、修復作品の中間視察				
31.2.20～2.23	Ruth Diana Shervington	オーストラリア	ナショナル・ギャラリー・オブ・ビクトリア 上級修復技師 紙本作品担当	コ04
招へい理由：シンポジウム「台湾における近代化遺産活用の最前線」への参加				
31.3.12～3.17	陳正哲	台湾	南華大学 准教授	ホ06
招へい理由：文化遺産国際協力コンソーシアム主催講演会「文化遺産と SDGs を考える」への参加				
31.3.17～3.21	Ruth Redden	オーストラリア	RR Conservation & Design 代表 (修復建築家、ヘリテージコンサルタント)	受託 (文化庁 コンソーシアム)

平成30年度における国外から国外への派遣申請については下記のとおりである。

派遣期間	氏名	所属	用務地	経費
派遣理由：壁画関連研修における指導助言				
30.6.21～6.30	Guido Botticelli	フィレンツェ国立修復研究所	ネヴシェヒル・ハジュ・ベクタシュ・ヴェリ大学他	受託（文化庁 トルコ）
	Fabrizio Bandini			
	Daniela Maria Murphy	Associazione Bastioni		
	Stefania Franceshini	Restauro S.F		
30.6.24～6.30	Deniz Hepdinç Hasgüler	ガーズィ大学		
30.6.25～6.30	Yaşar Selçuk Şener			
	Bekir Eskici			

派遣期間	氏名	所属	用務地	経費
派遣理由：国際研修事業における“Workshops on the Conservation of Japanese Art Objects on Paper and Silk”の講師				
30.7.3～7.6	楠京子	The British Museum	ベルリン国立博物館 アジア美術館	コ05
派遣理由：ミャンマー・バガン寺院壁画の保護に係る現地調査				
30.7.13～8.5	Daniele Angellotto	フィレンツェ国立修復研究所	バガン考古遺跡群	コ03 助成金 (前川：バガン遺跡群)
	Chiara Piani	パラッツォ・スピネッリ術修復学院		
	Daniela Maria Murphy	Associazione Bastioni		
	Stefania Franceshini	Restauro S.F		
派遣理由：アンコール遺跡の石造建造物の微生物劣化に関する調査				
30.8.23～8.30	Ji-Dong Gu	The University of Hong Kong	アンコール遺跡	科研費
派遣理由：壁画関連調査と研修での講義				
30.10.11～10.26	Guido Botticelli	フィレンツェ国立修復研究所	ネヴシェヒル保存 修復センター、タ ガール教会ほか	受託（文化 庁 トルコ）
	Fabrizio Bandini			
	Daniela Maria Murphy	Associazione Bastioni		
	Stefania Franceschini	Restauro S.F		
30.10.14～10.26	Alberto Felici	フィレンツェ国立修復研究所		
派遣理由：壁画関連研修における指導助言				
30.10.14～10.20	Yaşar Selçuk Şener	ガーズィ大学	ネヴシェヒル保存 修復センター、タ ガール教会	受託（文化 庁 トルコ）
	Bekir Eskici	ガーズィ大学		
派遣理由：壁画保存に関する教育機関調査の通訳				
30.11.7～11.8	Serap Özdemir	Ankara Hacı Bayram Veli University	イスタンブール大 学	受託（文化 庁 トルコ）
派遣理由：ワークショップ「漆工品の保存と修復」の運営補助				
30.11.24～12.2	Magdalena Kozar	Dresden Porcelain Collection	ケルン東洋美術館	コ05
派遣理由：Loka-Hteik-Pan 寺院壁画の保存修復事業に係る現地調査				
31.1.16～2.3	Daniela Maria Murphy	Associazione Bastioni	バガン考古遺跡群	助成金 (前川：バガン遺跡群)
	Stefania Franceschini	Restauro S.F		
派遣理由：ミャンマー・バガン寺院壁画の保存に係る現地調査				
31.1.16～2.3	Daniele Angellotto	フィレンツェ国立修復研究所	バガン考古遺跡群	コ03
31.1.23～2.3	Denis ZANETTI	有限会社メッザドリンジエニエリア		
派遣理由：文化遺産関係機関・施設聞き取り調査、通訳ほか				
31.1.21～1.26	Ishtseren LOCHIN	モンゴル科学アカデミー歴史・考古学研究 所	カラコルム博物館 他	受託（文化 庁 コンソーシアム）

3. 海外研究者等の来訪

(1) 来訪研究員

来訪期間	氏 名	国 籍	所 属	備 考
30.10.15～11.2	尹秀京	韓国	韓国無形遺産院 学芸研究士	日本の民俗技術（特に製茶・製塩）に関する調査

(2) 表敬訪問ほか

日 程	来 訪 者	国籍	所 属 等	目 的
30.5.9	孫恵園	韓国	国会議員、韓国螺鈿漆器博物館長	表敬訪問、 施設見学
	張貞淑		国会議員	
	崔鐘徳		韓国国立文化財研究所長	
	宋知愛		韓国国立文化財研究所 学芸員	
	李瀾姫		韓国国立民俗博物館 学芸員	
	韓国国立民俗博物館 スタッフ4名		韓国国立民俗博物館	
30.7.10	レーン・R・エスカランテ	フィリピン	フィリピン国家歴史委員会委員長	表敬訪問、 施設見学
	レイナルド・S・リタ		フィリピン国家歴史委員会 歴史保存課 修復建築家	
30.9.20	Tarvi Sits	エストニア	エストニア文化副大臣	表敬訪問
	Mirjam Rääbis		エストニア文化局世界遺産部門 顧問(美術館)	
	Kristel Üksvärav		エストニア文化局外務部門 顧問	
	Peeter Mauer		エストニア歴史博物館長	
	Merike Lang		エストニア野外博物館長	
30.10.16	楊子葆	台湾	台湾文化部政務次長（文部省副大臣）	表敬訪問、 施設見学
	朱文清		駐日台北経済文化代表事務所台湾文化センター長	
	薛銀樹		駐日台北経済文化代表事務所台湾文化センター 秘書	
30.12.11	デビッド・リチャードソン	イギリス	イーストアングリア大学 学長	表敬訪問
	アンドレア・ブランチフラワー		イーストアングリア大学 教授	
	渡邊俊夫	日本	イーストアングリア大学 教授	
31.1.29	ヴィルジリオ・S・アルマリオ	フィリピン	フィリピン国家文化芸術委員会 会長	表敬訪問、 講談記録会 観覧、無形 文化遺産部 アーカイブ 視察

4. 主要来訪者、施設見学

日 程	来訪者及び視察者等	備 考
30.6.8	独立行政法人国立公文書館 25 名	施設見学
30.5.29	シリア古物博物館総局 9 名	視察
30.6.22	関西大学 2 名	視察
30.6.26	韓国伝統文化大学 8 名	施設見学
30.6.28	シリア古物博物館総局、奈良県立橿原考古学研究所 5 名	視察
30.7.2	情報保存研究会 23 名	施設見学
30.8.31	JPC 紙の研修 16 名	研修・施設見学
30.9.6	文化庁文化財部美術学芸課 29 名	施設見学
30.9.10	青山学院大学文学部 24 名	施設見学
30.9.18	東北芸術工科大学 23 名	施設見学
30.11.5	名古屋大学大学院 3 名	施設見学
30.11.19	東京藝術大学大学院 6 名	施設見学
30.11.26	立正大学 10 名	施設見学
30.12.17	公益社団法人日本図書館協会資料保存委員会 10 名	施設見学
30.12.25	中部大学 4 名	視察
31.1.25	中国戯曲学院、中国大使館 3 名	施設見学
31.2.18	公益財団法人文化財建造物保存技術協会 11 名	施設見学
31.2.18	タイ国立公文書館 15 名	施設見学
31.2.19	文化庁政策課 4 名	施設見学
31.2.28	国立国会図書館 5 名	視察
31.3.5	学習院大学 17 名	施設見学
31.3.7	武蔵野市教育委員会、武蔵野ふるさと歴史館 15 名	施設見学

6. 資料

1. 主な所蔵資料	179
1. 図書資料	179
2. その他	180
2. 研究所関係資料	181
1. 設立の経緯	181
2. 年代別重要事項	181
3. 歴代所長（昭和5年～平成30年度）	184
4. 名誉研究員	185
5. 平成30年度予算等	186
3. 東京文化財研究所関係事業索引	191

1. 主な所蔵資料

1. 図書資料

(1) 美術関係図書

日本・東洋・欧米の美術に関するものを中心に、各地方公共団体刊行の文化財関係調査報告書、展覧会の図録・目録類、売立目録など欧文あわせて約 166,413 冊の図書に加え、和文 5,471 種、韓文 51 種、中文 152 種、欧文 507 種に及ぶ美術関係雑誌約 164,256 冊を所蔵している。

その他江戸期の写本版本をはじめ、明治大正期刊行の大型美術図録や美術雑誌、また明治から昭和初期に開催された各種博覧会展覧会資料など、多くの貴重書を所蔵している。

(2) 無形文化遺産関係図書

古典芸能・民俗芸能・寺事・伝統的な技術、その他我が国の無形文化遺産の研究に必要な図書 18,051 冊を所蔵している。そのなかには、雅楽画報・演芸画報・歌舞伎新報・歌舞伎（第 1 次）・テアトロ（第 1 次）・新劇・上方・民俗芸能・日本民俗・芸能復興・郷土研究・旅と伝説など現在では入手しにくい雑誌、国立劇場ほかで行われる芸能公演の上演資料や声明本・謡本・囃子手付本・丸本などの台本・譜本など、多くの貴重書を含んでいる。本年度は 430 冊を登録し、現在進行中である。

(3) 保存科学・修復技術関係図書

伝統的生産及び工芸技術書、技術史またはそれらの科学的究明を試みたもの、修理工事報告書及び化学・物理学・生物学部門の保存科学の関連和洋書、あわせて約 9,800 冊を所蔵している。

(4) 日本国外の文化遺産関係図書

外国の文化財や文化財保存、文化財保存国際協力や文化財保護制度に関する国内外の図書資料を約 14,000 点所蔵している。また、文化財保護関連機関のパンフレットなど図書以外の文献資料の収集、さらに国内外の文化財保護関連法令資料の収集を実施している。2016（平成 28）年 1 月の施設改修に伴い、従来の国際資料室蔵書は資料閲覧室書庫に移動した。

平成30年度における収集数（韓文・中文図書は、和漢書として計上）

区 分	美術関係	無形文化遺産 関係	保存修復関係	日本国外の 文化遺産関係	計
和漢書	3,833 冊	412 冊	315 冊	73 冊	4,633 冊
洋 書	70 冊	18 冊	15 冊	26 冊	129 冊
合 計	3,903 冊	430 冊	330 冊	99 冊	4,762 冊

2. その他

(1) 美術関係資料

文化財情報資料部が管理している写真資料は、絵画・彫刻・工芸・建築等の台紙貼写真、売立目録カードなど総数約 26 万点である。写真原板は、モノクロ 4×5 フィルム約 49,740 点、カラー 4×5 フィルム約 8,980 点、半切ほかガラス乾板約 21,000 点をはじめとして、各種サイズのモノクロフィルム約 3,450 点、X線フィルム・赤外線フィルム約 3,300 点などを所蔵している。また、当研究所旧職員梅津次郎、秋山光和、田中一松、久野健各氏寄贈研究資料の公開に向けた整理のほか、鈴木敬氏旧蔵写真資料の整理を行っている。このほか、拓本類、作家伝記資料、落款印章資料、近現代作家・団体・画廊・作品資料、資料スクラップ等と図版カード、各種索引類などを管理している。

(2) 無形文化遺産関係資料

無形文化遺産部では、雅楽・能・歌舞伎・邦楽・寺院行事・民俗芸能その他の伝統芸能の技法を、録音・録画、写真撮影等の形で記録することを重要な業務としてきた。これまでに、現地での実況や所内舞台での演奏を記録したオープンリールテープ約 2,300 点、ビデオ 1,191 点、スチール写真は関連する文書の記録写真等も含め約 19 万点、CD はオープンリールテープをデジタル化した物を中心に 1,976 点、DVD3,834 点、BD745 点を作成してきた。本年度は、DVD5 点、BD7 点を登録した。また、市販された伝統芸能関係の資料の収集も進めている。ことに、1960（昭和35）年度文部省機関研究費によって購入した安原コレクションは、明治・大正・昭和3代にわたって発売された各種邦楽の SP レコードを網羅した約 6,000 枚の一大コレクションで、近代における邦楽の実態と変遷を知る上で貴重な資料である。レコードの収集枚数は現在約 7,300 枚に及んでいる。その他これまでに、市販のビデオ 530 点、CD1,875 点、DVD1,420 点を収集してきた。うち本年度は、市販の CD9 点、DVD66 点を登録した。なお SP レコードコレクションの詳細は『音盤目録Ⅰ～Ⅴ』（東京国立文化財研究所刊 1966～1996）で公表している。

(3) 保存科学・修復技術関係資料

保存科学・修復技術関係資料：保存科学研究センターでは、考古遺物や美術工芸品など、諸部門の文化財を撮影した X 線フィルムを多数所蔵する。X 線透過撮影は昭和 20 年代から力を注いで行っており、近年それらのデータをデジタル化し、整理する作業を進めている。

(4) 国際関係資料

文化遺産国際協力センターでは、日本の文化財保護に関する国際協力の分野で活躍した専門家の資料を受け入れている。関野克氏旧所蔵資料には、国際機関での会議や個別の文化遺産保存に関わる記録が含まれている。特に UNESCO の条約や勧告に関わる資料には、草案や日本政府の意見書なども含まれ、その成立の経緯や日本政府の関与なども知ることができる。また、千原大五郎氏旧蔵資料には、ボロブドゥール修復事業関連の会議録、書簡類、修復案、図面、オランダ統治時代の研究書や、その他の東南アジア諸国の遺跡に関する文献や図面、写真も数多く含まれる。さらに、野口英雄氏が収集した、文化財の危機管理やユネスコ日本信託基金による保存修復事業などに関する資料を受け入れている。

2. 研究所関係資料

1. 設立の経緯

東京文化財研究所は、2001（平成13）年4月1日に東京国立文化財研究所が独立行政法人化され独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所となり、2007（平成19）年4月1日に独立行政法人文化財研究所と独立行政法人国立博物館との統合により、独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所となった。その前身である東京国立文化財研究所は、1952（昭和27）年4月1日に発足し、その母体となったものは、1930（昭和5）年に創設された政府機関の帝国美術院附属美術研究所である。

この美術研究所は、1924（大正13）年7月、帝国美術院長子爵故黒田清輝の遺言により美術奨励事業のために寄附出捐した資金で遺言執行人が選択決定した事業である。すなわち遺言執行人代表伯爵樺山愛輔は、故子爵の遺志にしたがってこの資金で行うべき事業の選択を伯爵牧野伸顕に一任した。牧野伯爵は帝国美術院長福原鐸二郎及び東京美術学校長正木直彦とはかつて諸方面の意見を徴し、またわが国美術研究の必要に照らして次の事業を行うこととした。

- (1) 美術に関する基礎的調査研究機関として美術研究所を設けること。
- (2) 黒田子爵の作品を陳列して同子爵の功績を記念すること。
- (3) 前二項の目的を達するために適当な建物を造営すること。
- (4) 事業成立の上は一切これを政府に寄附すること。

2. 年代別重要事項

期 日	事 項
昭和元年12月25日	前記の事業を遂行するため委員会が組織され、東京美術学校長正木直彦が委員長に就任し、美術研究所事業については東京美術学校教授矢代幸雄、黒田子爵作品陳列については東京美術学校教授久米桂一郎・同岡田三郎助・同和田英作・同藤島武二及び大給近清、建物造営については東京美術学校教授岡田信一郎、会計事務については遺言執行人打田伝吉を各委員として事務を分掌進行させた。
昭和2年 2月 1日 同年10月28日	美術研究所準備事業を開始した。 東京市上野公園内に鉄筋コンクリート造、半地階2階建、延面積1,192㎡の建物1棟を起工した（本館）。
昭和3年 9月	前記の建物が竣工したので、黒田記念館と名付け、美術研究所開設のため必要な備品・図書・写真等の研究資料を設備し、また館内に黒田子爵記念室を設け、黒田清輝の作品を陳列した。
昭和4年 5月29日	遺言執行人代表者樺山愛輔は、建物・設備・研究資料等一切の外に金15万円をそえて帝国美術院長に寄附を願い出た。
昭和5年 6月28日 同年10月17日	勅令第125号により帝国美術院に附属美術研究所が置かれ、東京美術学校長正木直彦が同研究所の主事に補せられた。 美術研究所開所式を挙行了た。
昭和7年 1月 1日 同年 4月18日 同年 5月26日	美術研究所の研究成果発表機関誌として、定期刊行物『美術研究』を創刊した。 株式会社朝日新聞社より明治大正美術史編纂費として本年から向う5か年間毎年5千円、合計2万5千円を帝国美術院に寄附したいとの申出があった。 帝国美術院はこの申出を受理した。 明治大正美術史編纂委員会規程を設け、美術研究所は明治大正美術史の編纂に関する事務を行うことになった。
昭和9年10月18日 昭和10年 1月28日	毎年10月18日を開所記念日と定めた。 鉄筋コンクリート造、2階建、延面積129㎡の書庫が竣工した。

期 日	事 項
昭和10年 4月 同年 6月 1日	『日本美術年鑑』の編纂事務を開始した。 勅令第148号により美術研究所官制が公布された。 研究資料閲覧規程を制定し、閲覧事務を開始した。
昭和12年 6月24日 同年11月29日	勅令第281号により美術研究所官制中改正の件が公布され、従来、帝国美術院に附置されていたのを文部大臣の直轄に改められた。 美術研究所長職務規程、美術研究所事務分掌規程が制定された。
昭和13年 2月12日	木造、平屋建、延面積97㎡の写真室1棟が竣工した。
昭和19年 8月10日	黒田清輝の作品、並びに写真原版を東京都西多摩郡小宮村谷間家倉庫に疎開した。
昭和20年 5月28日 同年 7～8月	美術研究所の図書・諸資料全部を山形県酒田市本町1丁目本間家倉庫3棟に疎開した。 酒田市本間家倉庫に疎開した図書資料を爆撃の危険を避けるため、さらに酒田市内牧曾根村松沢世喜雄家倉庫・観音寺村村上家倉庫・大沢村後藤作之丞家倉庫にそれぞれ分散疎開した。
昭和21年 3月29日 同年 4月 4日 同年 4月16日	酒田市疎開中の図書・諸資料等の東京向け発送を終了した。 酒田市疎開中の図書・諸資料等が東京に到着し、引揚げを完了した。 東京都西多摩郡に疎開中の黒田清輝作品並びに写真原版の引揚げを完了した。
昭和22年 5月 3日	美術研究所官制が廃止され、国立博物館官制が制定された。美術研究所は同館の附属美術研究所となった。 国立博物館に保存修理課発足。同課内に保存技術研究室を置いた（保存科学部の前身）。昭和23年度より専任の職員を配置し、研究を開始した。研究室は国立博物館本館地下の修理室の一室（66㎡）に設けた。
昭和25年 8月29日	文化財保護法の制定にともない、美術研究所は文化財保護委員会の附属機関となった。 文化財保護委員会事務局設置にともない、保存科学研究室は国立博物館保存修理課から文化財保護委員会事務局保存部建造物課に所属換えとなった。
昭和26年 1月31日	美術研究所組織規程が定められ、第一研究部・第二研究部・資料部・庶務室が置かれた。
昭和27年 4月 1日 同年 7月 1日	文化財保護法の一部が改正、東京文化財研究所組織規程が定められ、美術部・芸能部・保存科学部・庶務室の3部1室が置かれ、美術研究所組織規程が廃止された。 また文化財保護委員会事務局保存部建造物課保存科学研究室も廃止された。 芸能部研究室として東京藝術大学音楽学部邦楽科教室2室を同大学から借用し、研究を開始した。
昭和28年 4月26日	保存科学部研究室として、東京国立博物館構内の倉庫132㎡を改造のうえ移転した。
昭和29年 7月 1日	東京文化財研究所組織規程の一部が改正され、東京国立文化財研究所となった。
昭和32年 3月22日 同年11月30日	東京国立博物館構内に木造、外部鉄網モルタル塗、平屋建、8㎡の保存科学部の薬品庫が竣工した。 従来の2階建書庫の上にさらに1階を増築3階建とし、増築分延面積71㎡が竣工した。
昭和34年 4月30日	東京国立文化財研究所研究受託規程が定められ、この年度から受託研究が開始された。
昭和36年 9月16日	東京国立文化財研究所組織規程の一部が改正され、従来の庶務室は庶務課となった。
昭和37年 3月31日 同年 7月 1日 同年 7月20日	東京国立博物館内に保存科学部庁舎（保存科学部実験室）として、鉄筋コンクリート造、2階建、延面積663㎡の建物1棟が竣工した。 東京国立文化財研究所組織規程の一部が改正され、新たに保存科学部に修理技術研究室が置かれた。 芸能部研究室は、保存科学部庁舎の竣工にともない、旧保存科学部庁舎に移転した。
昭和43年 6月15日	文部省設置法の一部が改正され、本研究所は文化庁附属機関となった。
昭和44年 8月23日	保存科学部庁舎に隣接して新営される別館庁舎（延1,950.41㎡）の起工式が行われた。
昭和45年 3月25日 同年 5月 8日 同年 6月29日 同年11月 2日	前記の別館が竣工したので、同年5月26日竣工式が行われた。芸能部は、別館3階に移転した。 保存科学部は別館の地階～2階に実験用機械類の移転据付を完了した。 保存科学部庁舎の1階の模様替工事に着手し、同年10月15日工事が完了した。 所長及び庶務課は、本館から保存科学部庁舎の1階に移転した（本館は、美術部庁舎となる）。これにより研究所の所在地表示は「12番53号」から「13番27号」に変更された。

期 日	事 項
昭和46年 4月 1日	保存科学部庁舎及び別館の敷地 2,658㎡を東京国立博物館から所管換えされた。
昭和48年 4月12日	文部省設置法施行規則の一部が改正され、新たに修復技術部が設けられ4部1課となり、修復技術部に第一修復技術研究室及び第二修復技術研究室が置かれ、保存科学部修理技術研究室は廃止された。
昭和52年 4月18日	文部省設置法施行規則の一部が改正され、情報資料部の新設により5部1課となり、情報資料部に文献資料研究室及び写真資料研究室が置かれ、美術部資料室は廃止された。
昭和53年 3月20日	本館構内の写場等（木造、平屋建、延面積 144㎡）を取りこわし、情報資料部研究棟として、鉄筋コンクリート造、地下1階、地上3階、延面積 569.95㎡の建物が竣工した。
同年 4月 5日	文部省設置法施行規則の一部が改正され、新たに修復技術部に第三修復技術研究室が置かれた。
昭和59年 6月28日	文部省組織令が改正され、本研究所は文化庁施設等機関となった。
平成 2年10月 1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、新たにアジア文化財保存研究室が置かれ、5部1室1課となった。
平成 5年 4月 1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、アジア文化財保存研究室は、国際文化財保存修復協力室となった。
平成 7年 4月 1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、国際文化財保存修復協力室が廃止され、新たに国際文化財保存修復協力センターが設置された。同センターには、企画室及び環境解析研究指導室が置かれ、1センター5部1課となった。 東京藝術大学と「東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻の教育研究に対する連携・協力に関する協定書」が交わされ、連携併任分野として独立専攻大学院文化財保存学専攻（システム保存学）が設置された。
平成 9年10月 1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、国際文化財保存修復協力センターに保存計画研究指導室が置かれた。
平成12年 2月 4日	新宮庁舎として、鉄筋コンクリート造、地上4階地下1階、延面積 10,557.99㎡（建築面積 2,258.48㎡）が竣工した。
同年 2月21日	新宮庁舎の竣工にともない、別館（庶務課・芸能部・保存科学部・修復技術部・国際文化財保存修復協力センター）部分の移転が開始された。
同年 3月 6日	新宮庁舎の竣工にともない、本館（美術部・情報資料部）の移転が開始された。
同年 3月22日	建設省関東地方建設局営繕部より、新宮庁舎の外構工事、植栽等の引き渡しを受け、新宮庁舎関係の工事が完了した。
同年 5月11日	新宮庁舎の竣工を記念し、開所記念式典を挙行了した。 この式典の挙行に際し、毎年5月11日を開所記念日と定めた。
平成13年 3月29日	黒田記念館改修工事が竣工し、展示スペースが黒田記念室及び展示室の2室になった。
同年 4月 1日	東京国立文化財研究所は、奈良国立文化財研究所と統合され、独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所となった。 この独立行政法人化にともない、東京文化財研究所は、管理部、協力調整官—情報調整室、美術部、芸能部、保存科学部、修復技術部、国際文化財保存修復協力センターの1センター5部1協力調整官—情報調整室となった。
平成15年 9月19日	黒田記念館にエレベーターを設置し、門扉、外構の改修工事を行った。
平成18年 4月 1日	文化財研究所組織規程の一部が改正されて、協力調整官—情報調整室は企画情報部に、芸能部は無形文化遺産部に、国際文化財保存修復協力センターは文化遺産国際協力センターとなった。
平成19年 4月 1日	独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所は、独立行政法人文化財研究所と独立行政法人国立博物館との統合により、独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所となり、黒田記念館は、東京国立博物館に移管された。 この統合にともない、東京文化財研究所は、美術部を企画情報部に、保存科学部と修復技術部は保存修復科学センターに統合し、3部2センターとなった。
平成22年 4月 1日	国立文化財機構組織規程等の一部が改正されて、管理部は研究支援推進部となった。
平成28年 4月 1日	国立文化財機構組織規程等の一部が改正されて、企画情報部は文化財情報資料部に、保存修復科学センターは保存科学研究センターとなった。

3. 歴代所長（昭和5年～平成30年度）

役 職	氏 名	期 間
主 事	正木直彦	昭和 5. 6.28～昭和 6.11.24
主 事	矢代幸雄	昭和 6.11.25～昭和 10. 5.31
所長事務取扱	和田英作	昭和 10. 6. 1～昭和 11. 6.21
所 長	矢代幸雄	昭和 11. 6.22～昭和 17. 6.28
所長事務取扱	田中豊蔵	昭和 17. 6.29～昭和 22. 8.15
所 長	田中豊蔵	昭和 22. 8.16～昭和 23. 5.10
所 長 代 理	福山敏男	昭和 23. 5.11～昭和 24. 8.30
所 長	松本栄一	昭和 24. 8.31～昭和 27. 3.31
所長事務代理	矢代幸雄	昭和 27. 4. 1～昭和 28.10.31
所 長	田中一松	昭和 28.11. 1～昭和 40. 3.31
所 長	関野 克	昭和 40. 4. 1～昭和 53. 3.31
所 長	伊藤延男	昭和 53. 4. 1～昭和 62. 3.31
所 長	濱田 隆	昭和 62. 4. 1～平成 3. 3.31
所 長	西川杏太郎	平成 3. 4. 1～平成 8. 3.31
所 長	渡邊明義	平成 8. 4. 1～平成 13. 3.31
(独立行政法人文化財研究所 東京文化財研究所に移行)		
所 長	渡邊明義	平成 13. 4. 1～平成 16. 3.31
所 長	鈴木規夫	平成 16. 4. 1～平成 19. 3.31
(独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所に移行)		
所 長	鈴木規夫	平成 19. 4. 1～平成 22. 3.31
所 長	亀井伸雄	平成 22. 4. 1～平成 30. 7.17
所長事務代理	山梨絵美子	平成 30. 7.18～平成 30.12.31
所 長	齊藤孝正	平成 31. 1. 1～現在

4. 名誉研究員

氏 名	退 職 時 官 職 名	在 所 期 間	名誉研究員 発令年月日
江上 綏	情報資料部主任研究官	昭和 38. 5. 18～昭和 59. 3. 31	昭和 59.10.18
猪川和子	情報資料部文献資料研究室長	昭和 22. 6. 27～昭和 60. 3. 31	昭和 60.10.18
三隅治雄	芸能部長	昭和 27.10. 1～昭和 63. 3. 31	昭和 63.10.18
濱田 隆	所長	昭和 62. 4. 1～平成 3. 3. 31	平成 3.10.18
関口正之	美術部長	昭和 42. 2. 1～平成 3. 3. 31	平成 3.10.18
佐藤道子	芸能部長	昭和 34. 4. 1～平成 4. 3. 31	平成 4.10.18
馬淵久夫	保存科学部長	昭和 50.10. 1～平成 4. 3. 31	平成 4.10.18
新井英夫	保存科学部長	昭和 45. 9. 1～平成 5. 3. 31	平成 5. 4. 1
西川杏太郎	所長	平成 3. 4. 1～平成 8. 3. 31	平成 8. 4. 1
三輪英夫	美術部第二研究室長	昭和 53. 8. 1～平成 8. 3. 31	平成 8. 4. 1
蒲生郷昭	芸能部長	昭和 56. 4. 1～平成 10. 3. 31	平成 10. 4. 1
中里壽克	修復技術部第一修復技術研究室長	昭和 39. 4. 1～平成 10. 3. 31	平成 10. 4. 1
宮本長二郎	国際文化財保存修復協力センター長	平成 6. 4. 1～平成 11. 3. 31	平成 11. 4. 1
羽田 昶	芸能部音楽舞踊研究室長	昭和 51. 4. 1～平成 12. 3. 31	平成 12. 4. 1
中村茂子	芸能部民俗芸能研究室長	昭和 39. 7. 1～平成 13. 3. 31	平成 13. 4. 1
増田勝彦	修復技術部長	昭和 48. 8. 1～平成 13. 3. 31	平成 13. 4. 1
米倉迪夫	情報資料部長	昭和 50. 9. 1～平成 13. 3. 31	平成 13. 4. 1
星野 紘	芸能部長	平成 10. 4. 1～平成 14. 3. 31	平成 14. 4. 1
平尾良光	保存科学部化学研究室長	昭和 62. 4. 1～平成 15. 3. 31	平成 15. 4. 1
井手誠之輔	協力調整官一情報調整室長	昭和 62. 7. 1～平成 16. 3. 29	平成 16. 3. 30
斎藤英俊	国際文化財保存修復協力センター長	平成 11. 4. 1～平成 16. 3. 30	平成 16. 3. 31
西浦忠輝	保存科学部長	昭和 50. 7. 1～平成 16. 3. 31	平成 16. 4. 1
鈴木廣之	美術部日本東洋美術研究室長	昭和 54. 9. 1～平成 17.11.30	平成 17.12. 1
青木繁夫	文化遺産国際協力センター長	昭和 49. 7. 1～平成 19. 3. 31	平成 19. 3. 31
三浦定俊	副所長	昭和 48. 8. 1～平成 20. 3. 31	平成 20. 4. 1
鎌倉恵子	無形文化遺産部無形文化財研究室長	昭和 63. 4. 1～平成 20. 3. 31	平成 20. 4. 1
鈴木規夫	所長	平成 16. 4. 1～平成 22. 3. 31	平成 22. 4. 1
中野照男	副所長	平成 4. 4. 1～平成 23. 3. 31	平成 23. 4. 1
清水真一	文化遺産国際協力センター長	平成 19. 4. 1～平成 23. 3. 31	平成 23. 4. 1
石崎武志	副所長	平成 8.12. 1～平成 26. 9. 30	平成 26.10. 1
田中 淳	副所長	平成 6.11. 1～平成 28. 3. 31	平成 28. 4. 1
川野邊涉	文化遺産国際協力センター長	昭和 63.10. 1～平成 28. 3. 31	平成 28. 4. 1
岡田 健	保存科学研究センター長	平成 4. 4. 1～平成 29. 3. 31	平成 29. 4. 1
津田徹英	文化財情報資料部長	平成 11. 1. 1～平成 30. 3. 31	平成 30. 4. 1
飯島 満	無形文化遺産部長	平成 16. 4.16～平成 31. 3. 31	平成 31. 4. 1
中山俊介	文化遺産国際協力センター長	平成 18. 2. 1～平成 31. 3. 31	平成 31. 4. 1

5. 平成30年度予算等

(単位：千円)

(1) 予算

事	項	予算額
一般管理費		90,837
基礎研究事業費		59,771
応用研究事業費		64,998
国際遺産保護事業費		96,781
情報公開事業費		82,538
研修協力事業費		3,113
合	計	398,038

予算とプロジェクトとの対応

文化財情報資料部

略番	分類項目	プロジェクト名	事業区分
シ 01	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	情報公開事業費
シ 02	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	日本東洋美術史の資料学的研究	基礎研究事業費
シ 03	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	基礎研究事業費
シ 04	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	基礎研究事業費
シ 05	④情報収集・成果公開に関する事業	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	情報公開事業費
シ 06	④情報収集・成果公開に関する事業	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	情報公開事業費
シ 07	⑤刊行物に関する事業	平成29年版『日本美術年鑑』刊行事業・出版事業『美術研究』	情報公開事業費
シ 08	④情報収集・成果公開に関する事業	平成30年度オープンレクチャー(調査・研究成果の公開)	情報公開事業費

無形文化遺産部

略番	分類項目	プロジェクト名	事業区分
ム 01	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	無形文化財の保存・継承に関する調査研究	基礎研究事業費
ム 02	①有形・無形の文化財に関する調査研究事業	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	基礎研究事業費
ム 03	③国際協力・交流等に関する事業	無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	情報公開事業費
ム 04	⑤刊行物に関する事業	無形文化遺産部出版関係事業	情報公開事業費
ム 05	③国際協力・交流等に関する事業	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	国際遺産保護事業費

保存科学研究センター

略番	分類項目	プロジェクト名	事業区分
ホ 01	②保存修復に関する調査研究事業	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	応用研究事業費
ホ 02	②保存修復に関する調査研究事業	保存と活用のための展示環境の研究	応用研究事業費
ホ 03	②保存修復に関する調査研究事業	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	応用研究事業費
ホ 04	②保存修復に関する調査研究事業	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	応用研究事業費
ホ 05	②保存修復に関する調査研究事業	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	応用研究事業費
ホ 06	②保存修復に関する調査研究事業	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	応用研究事業費
ホ 07	⑤刊行物に関する事業	『保存科学』第58号の出版	情報公開事業費
ホ 08	⑥指導助言・研修等に関する事業	博物館・美術館等保存担当学芸員研修	研修協力事業費

略番	分類項目	プロジェクト名	事業区分
コ01	④情報収集・成果公開に関する事業	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	情報公開事業費
コ02	③国際協力・交流等に関する事業	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	国際遺産保護事業費
コ03	③国際協力・交流等に関する事業	保存修復技術の国際的応用に関する研究	国際遺産保護事業費
コ04	③国際協力・交流等に関する事業	在外日本古美術品保存修復協力事業	国際遺産保護事業費
コ05	③国際協力・交流等に関する事業	国際研修	国際遺産保護事業費

(2) 科学研究費助成事業交付一覧

(単位：千円)

研究課題	研究代表者	交付額
基盤研究（B）		
対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究—大航海時代を中心に—	小林公治	2,730
酵素を利用した文化財の新規クリーニング方法の開発—旧修理材料や微生物痕の除去—	早川典子	1,170
基盤研究（B）海外		
ポンペイ及びエルコラーノ遺跡壁画保存修復新技法開発と遺跡保存管理体制の確立	前川佳文	4,810
ブータンの版築造建造物の類型と編年に関する研究	亀井伸雄	3,770
基盤研究（C）		
虎塚古墳壁画の材質と保存環境に関する研究	犬塚将英	1,040
黒髪白肌の系譜—上村松園の技法と表現—	大河原典子	650
徳川将軍家の御物形成と御用絵師の役割に関する研究	小野真由美	1,950
ザグロス地域における農耕・牧畜の起源に関する考古学的研究	安倍雅史	1,560
常磐津節の音楽分析のための基盤研究	前原恵美	1,690
江戸時代の絵画における基底材に関する基礎的研究	安永拓世	1,820
ポスト1968年表現共同体の研究：松澤宥アーカイブズを基軸として	橘川英規	2,080
DNA塩基配列情報に基づく文化財害虫の新規データベース構築	佐藤嘉則	1,560
博物館IPMへのATP拭き取り検査活用に向けた基礎的な研究	間渕創	1,950
白色LED光照射に伴う蛍光性有機染料の変退色挙動とその抑制	吉田直人	1,560
挑戦的萌芽研究		
紙本屏風の規格と表現・技法の研究	江村知子	2,080
若手研究（A）		
染織技術の伝承に関する研究—材料・道具に焦点をあてて—	菊池理予	3,770
墨、煤、膠の製法と性状の体系化—伝統的製法の再現—	宇高健太郎	(2,686)
若手研究（B）		
紙質文化財にみられる緑青焼けに対する修復処置方法の開発	貴田啓子	910
アイヌと和人の文化交渉史に関する研究—明治期の和人によるイナウ奉納習俗を中心に—	今石みぎわ	1,040
イラン歴史的都市景観保護のための計画指標に関する研究	山田大樹	1,040
若手研究		
マヤ地域の博物館における文化遺産保全と地域発展に向けた文化資源マネジメントの研究	五木田まきは	1,040
伝統的木造建築技術の保存継承に関する日欧比較研究	マルティネス アレハンドロ	910
研究活動スタート支援		
伝統木造建築技術の保存継承に関する日英比較研究	マルティネス アレハンドロ	(442)

研 究 課 題	研究代表者	交付額
研究成果公開促進費		
SAT 大正新脩大藏經 画像データベース	津田徹英	4,500
木造建築遺産保存論 ―日本とヨーロッパの比較から―	マルティネス アレハンドロ	1,500

※複数年度にまたがる事業については括弧内に予算総額を記載

(3) 受託調査研究一覧

(単位：千円)

研 究 課 題	依 頼 元	研究担当者	契約総額
国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務	文化庁	佐野千絵	37,364
特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務	文化庁	佐野千絵	19,677
文化遺産国際協力コンソーシアム事業	文化庁	中山俊介	44,435
文化遺産国際協力拠点交流事業 「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」	文化庁	友田正彦	20,406
文化遺産国際協力拠点交流事業「トルコ共和国における壁画の 保存管理体制改善に向けた人材育成事業」	文化庁	中山俊介	10,557
文化遺産国際協力拠点交流事業 「ミャンマーにおける考古・建築遺産の調査・保護に関する技 術移転を目的とした拠点交流事業・建築分野」	奈良文化財研究所	友田正彦	4,752
世界文化遺産の遺産影響評価に関する調査研究事業	文化庁	西和彦	5,148
美術工芸品保存修理用具・原材料調査事業	文化庁	早川典子	979
文化財の英語表記に関する調査研究事業	文化庁	西和彦	993
シルクロードが結ぶ友情プロジェクト「シリア人専門家研修」	奈良県立 橿原考古学研究所	友田正彦	3,000
被災資料有害物質発生状況調査業務	陸前高田市立博物館	佐野千絵	3,546

(4) 共同研究等一覧

(単位：千円)

研 究 課 題	相 手 先	研究担当者	金 額
文化財修理に使用する膠の製造に関する技術開発、研究	一般社団法人国宝修理装飾師連盟	早川典子	150
航空資料保存の研究	一般財団法人日本航空協会	北河大次郎	400
ゲッティ・リサーチポータルへの明治期～昭和期(戦前) の展覧会資料(デジタル)の提供・公開について	ゲッティ研究所	山梨絵美子	1,710 (5,178)

※複数年度にまたがる事業については括弧内に予算総額を記載

(5) 助成金一覧

(単位：千円)

研 究 課 題	助 成 元	研究代表者	助成額
二国間交流事業共同研究・セミナー 「浮世絵版画の染料同定と摺り技術解明」	独立行政法人 日本学術振興会	貴田啓子	980
バガン遺跡群(ミャンマー) 寺院祠堂壁画の保存修復	公益財団法人住友財団	前川佳文	3,500
第24回東京三味線・東京琴展示・製作実演会 + 公開シンポジウム 「芸能の継承を支える技術―楽器製作・修理技術と材料・道具―」	公益財団法人文化財保 護・芸術研究助成財団	前原恵美	400
中米、ホンジュラス共和国コパン遺跡における文化遺産の地域社 会還元に関するパブリック考古学的研究	公益財団法人高梨学術 奨励基金	五木田まきは	350
放射光を利用した古代鉄製品の製作地推定法開発のための研究	公益信託吉田学記念文 化財科学研究助成基金	増淵麻里耶	450

(6) 寄付金一覧

(単位：千円)

研 究 課 題	寄 付 者	担当部局	受入額
東京文化財研究所における研究事業の助成	株式会社東京美術倶楽部	文化財情報資料部	1,000
東京文化財研究所における研究成果の公表(出版事業)	東京美術商協同組合	文化財情報資料部	1,000

年度内主要事業一覧

期 日	事 業 名
30年4月14日	第2回祭ネットワーク
30年5月16日	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会研究所・センター調査研究等部会
30年5月16日～30日	シリア人専門家を対象とする紙文化財保存修復研修
30年5月28日 ～6月13日	国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」(メキシコ・CNCPC-INAH)
30年5月29日	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会総会(東京国立博物館)
30年6月2日	シンポジウム「"ここ"の歴史へー幻のジェットエンジン、語るー」(ICU ディップフェンドルファー記念館東館オーディトリウム)
30年6月21日	加湿温風殺虫処理に関する専門家研究集会
30年6月25日～28日	研修「壁画保存に向けた応急処置方法の検討と実施」(トルコ・聖テオドラ(タガール)教会)
30年6月25日 ～7月6日	染織文化遺産に関する保存修復研修(アルメニア・エチミアジン大聖堂、同国歴史文化遺産科学研究センター)
30年7月4日～6日 7月9日～13日	ワークショップ「紙本・絹本文化財の保存と修復」(ドイツ・ベルリン博物館群アジア美術館)
30年7月9日～20日	博物館・美術館等保存担当学芸員研修
30年7月16日～31日	ワークショップ「壁画を有する煉瓦造寺院外壁の保存修復」「壁画保存修復」(ミャンマー宗教文化省考古・国立博物館局バガン支局)
30年7月24日	文化遺産国際協力コンソーシアム第23回研究会「諸外国における文化遺産保護の支援を知る・語る」(赤坂インターシティコンファレンス)
30年7月31日 ～8月1日	科学的な材料とその使用方法の講習会
30年8月3日	伝統の音を支える技ー第24回東京三味線・東京琴 展示・製作実演会／第12回無形文化遺産部公開学術講座「伝統の音を支える技」
30年8月8日～10日 8月13日～17日	ワークショップ「染織品の保存と修復」(国立臺灣師範大學文物保存維護研究発展中心)
30年8月27日 ～9月14日	国際研修「紙の保存と修復」
30年9月28日	世界遺産研究協議会「戦略的 OUV 選択論」
30年10月8日	文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム「文化遺産国際協力のかたちー世界遺産を未来に伝える日本の貢献」(日経ホール)
30年10月14日～19日	膠と修理ー《序の舞》を守るー展(東京藝術大学)
30年10月15日～20日	研修「壁画保存に向けた応急処置方法の検討と実施」(トルコ・聖テオドラ(タガール)教会)
30年10月21日～22日	博物館の環境管理に関するイラン人専門家研修(イラン国立博物館)
30年10月23日～25日	世界文化遺産の遺産影響評価に関する専門家会合(東京国立博物館黒田記念館)
30年10月26日～27日	第52回オープンレクチャー「かたちからの道、かたちへの道」
30年11月13日	バガンの歴史的煉瓦造建造物の保存修復に関する現地ワークショップ(ミャンマー技術者協会)

期 日	事 業 名
30 年11月 14 日	バガンの歴史的煉瓦造建造物の保存修復に関する現地ワークショップ（ミャンマー宗教文化省考古・国立博物館局バガン支局）
30 年11月 22 日	文化財修復の現状と諸問題に関する研究会
30 年11月 26 日	ワークショップ「漆工芸品の保存と修復」
30 年12月 7 日 ~9 日	アジア太平洋の無形文化遺産と自然災害に関する地域ワークショップ（仙台国際センター、宮城県女川町）
30 年12月 10 日	研究会「ネパールにおける無形文化遺産の現状と課題」
30 年12月 14 日	第13回無形民俗文化財研究協議会「いま危機にある無形文化遺産－無形民俗文化財の休止・廃絶・継承をめぐる」
30 年12月 16 日	研究会「大陸部東南アジアにおける木造建築技術の発達と相互関係」
31 年 1 月 11 日	文化遺産国際協力コンソーシアム第24回研究会「文化遺産と SDGs」
31 年 1 月 18 日 ~20 日	ワークショップ「壁画を有する煉瓦造寺院外壁の応急処置」「地震被災箇所の応急処置」「壁画保存修復」（ミャンマー宗教文化省考古・国立博物館局バガン支局）
31 年 2 月 6 日	「無形文化遺産の防災」連絡会議（関西地区）（京都芸術センター）
31 年 2 月 22 日	第 2 回無形文化遺産映像記録作成研究会
31 年 3 月 1 日	「無形文化遺産の防災」連絡会議
31 年 3 月 12 日	カトマンズ及びカブレ盆地の歴史的集落保全に関する第2回市長フォーラム（ネパール・ラリトプル市）
31 年 3 月 13 日	国際シンポジウム「台湾における近代化遺産活用の最前線」【東京】
31 年 3 月 14 日	国際シンポジウム「台湾における近代化遺産活用の最前線」【大阪】（大阪歴史博物館）
31 年 3 月 19 日	文化遺産国際協力コンソーシアム特別講演会「文化遺産と SDGs を考える」

3. 東京文化財研究所関係事業索引

凡 例

- (1) この索引は、平成30年度に東京文化財研究所が実施したすべての事業を、財源の種類を問わず網羅している。
(2) 事業は五十音順に配列し、各事業名称の末尾に次の略号を付すとともに、掲載頁を示した。

運営費交付金によるプロジェクト	【交付】
科学研究費助成事業	【科研】
受託調査研究	【受託】
共同研究	【共同】
助成金	【助成】
その他の調査研究	【その他】

あ	アイヌと和人の文化交渉史に関する研究—明治期の和人によるイナウ奉納習俗を中心に—	【科研】	94
	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	【交付】	49
	イラン歴史的都市景観保護のための計画指標に関する研究	【科研】	95
	江戸時代の絵画における基底材に関する基礎的研究	【科研】	86
	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	【交付】	44
か	外部資金等による研究活動の成果公開	【科研・受託・共同・助成・その他】	49
	共催事業「伝統の音を支える技—第24回東京三味線・東京琴展示・製作実演会／ 第12回東京文化財研究所無形文化遺産部公開学術講座—	【助成】	119
	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	【交付】	37
	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	【交付】	46
	黒髪白肌の系譜—上村松園の技法と表現—	【科研】	82
	Getty・リサーチポータルへの明治期～昭和期（戦前）の展覧会資料（デジタル）の提供・公開	【共同】	116
	航空資料保存の研究	【共同】	117
	酵素を利用した文化財の新規クリーニング方法の開発—旧修理材料や微生物痕の除去—	【科研】	78
	国際研修	【交付】	52
	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務	【受託】	105
さ	SAT大正新脩大藏經 画像データベース	【科研】	99
	在外日本古美術品保存修復協力事業	【交付】	51
	ザグロス地域における農耕・牧畜の起源に関する考古学的研究	【科研】	84
	紙質文化財にみられる緑青焼けに対する修復処置方法の開発	【科研】	93
	紙本屏風の規格と表現・技法の研究	【科研】	98
	シルクロードが結ぶ友情プロジェクト「シリア人専門家研修」	【受託】	110
	墨、煤、膠の製法と性状の体系化—伝統的製法の再現—	【科研】	92
	世界文化遺産の遺産影響評価に関する調査研究事業	【受託】	113
	染織技術の伝承に関する研究—材料・道具に焦点をあてて—	【科研】	91
	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	【交付】	55
た	対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究—大航海時代を中心に—	【科研】	77
	中米、ホンジュラス共和国コパン遺跡における文化遺産の地域社会還元に関するパブリック考古学的研究	【助成】	122
	DNA塩基配列情報に基づく文化財害虫の新規データベース構築	【科研】	88
	伝統木造建築技術の保存継承に関する日英比較研究	【科研】	101
	伝統的木造建築技術の保存継承に関する日欧比較研究	【科研】	97
	東京藝術大学との間での連携大学院教育の推進	【交付】	72
	『東京文化財研究所概要』、『TOBUNKENNEWS』	【交付】	64

常磐津節の音楽分析のための基盤研究	【科研】	85
徳川將軍家の御物形成と御用絵師の役割に関する研究	【科研】	83
特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務	【受託】	106
虎塚古墳壁画の材質と保存環境に関する研究	【科研】	81

な 日本東洋美術史の資料学的研究	【交付】	36
------------------	------	----

は バガン遺跡群（ミャンマー）寺院祠堂壁画の保存修復	【助成】	120
白色LED光照射に伴う蛍光性有機染料の変退色挙動とその抑制	【科研】	90
博物館IPMへのATP拭き取り検査活用に向けた基礎的な研究	【科研】	89
博物館・美術館等保存担当学芸員研修	【交付】	68
被災資料有害物質発生状況調査業務	【受託】	111
美術館・博物館等の環境調査と援助・助言	【交付】	71
美術工芸品保存修理用具・原材料調査事業	【受託】	114
美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	【交付】	38
ブータンの版築建造物の類型と編年に関する研究	【科研】	80
プロジェクトの一環として刊行された刊行物	【交付】	65
プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等	【交付】	59
文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」	【受託】	108
文化遺産国際協力拠点交流事業「トルコ共和国における壁画の保存管理体制改善に向けた人材育成事業」	【受託】	109
文化遺産国際協力拠点交流事業 「ミャンマーの考古・建築遺産の調査・保護に関する技術移転を目的とした拠点交流事業・建築分野」	【受託】	112
文化遺産国際協力コンソーシアム事業	【受託】	107
文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	【交付】	58
文化財修理に使用する膠の製造に関する技術開発、研究	【共同】	118
文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	【交付】	45
文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	【交付】	53
文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	【交付】	35
文化財の英語表記に関する調査研究事業	【受託】	115
文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	【交付】	43
文化財の材質・構造に関する調査・助言	【交付】	71
文化財の収集・保管に関する指導助言	【交付】	68
文化財の修復及び整備に関する調査・助言	【交付】	70
文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	【交付】	41
文化財の虫菌害に関する調査・助言	【交付】	69
文化財防災ネットワーク推進事業	【その他】	124
文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	【交付】	47
平成30年度オープンレクチャー（調査・研究成果の公開）	【交付】	56
平成30年度二国間交流事業共同研究・セミナー「浮世絵版画の染料同定と摺り技術解明」	【助成】	119
平成29年版『日本美術年鑑』刊行事業・出版事業『美術研究』	【交付】	63
放射光を利用した古代鉄製品の製作地推定法開発のための研究	【助成】	123
ポスト1968年表現共同体の研究：松澤有アーカイブズを基軸として	【科研】	87
『保存科学』第58号の出版	【交付】	64
保存修復技術の国際的応用に関する研究	【交付】	50
保存と活用のための展示環境の研究	【交付】	42
ポンペイ及びエルコラーノ遺跡壁画保存修復新技法開発と遺跡保存管理体制の確立	【科研】	79

ま マヤ地域の博物館における文化遺産保全と地域発展に向けた文化資源マネジメントの研究	【科研】	96
無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	【交付】	57
無形文化遺産に関する助言	【交付】	69
無形文化遺産部出版関係事業	【交付】	64
無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	【交付】	48
無形文化財の保存・継承に関する調査研究	【交付】	39
無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	【交付】	40
木造建築遺産保存論	【科研】	100

独立行政法人国立文化財機構
東京文化財研究所年報 2018

発行日：2019年6月30日

発行所：独立行政法人国立文化財機構
東京文化財研究所

〒110-8713
東京都台東区上野公園13-43

TEL 03-3823-2241 (番号案内)
FAX 03-3828-2434
<https://www.tobunken.go.jp/>
info@tobunken.go.jp

編集：文化財情報資料部

制作：CURIO EDITORS STUDIO (柴田 卓)

印刷：よしみ工産株式会社

Independent Administrative Institution National Institutes for Cultural Heritage
Tokyo National Research Institute for Cultural Properties

ANNUAL REPORT 2018

Issued on 30 June, 2019

Published by Tokyo National Research Institute for Cultural Properties
13-43, Uenokoen, Taito-ku, Tokyo 110-8713, JAPAN

Edited by Department of Art Research, Archives and Information Systems

Designed and DTP by Curio Editors Studio (SHIBATA Takashi)

Printed by Yoshimi Kohsan Corporation

© Tokyo National Research Institute for Cultural Properties, 2019